京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告　二〇一六－一七

円勝寺跡・成勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡

公益財団法人　京都市埋蔵文化財研究所

円勝寺跡・成勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡

2017年

公益財団法人　京都市埋蔵文化財研究所

円勝寺跡・成勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡

2017年

公益財団法人　京都市埋蔵文化財研究所

２区　溝2220・2230B補修後（南西から）

1　２区　溝2220・2230B補修前（南西から）

2　２区　溝2220・2230B補修前（北北西から）

1　２区　溝2220B補修前　石積み状況（南西から）

2　２区　溝2220B補修後　石積み状況（北西から）

1　２区　溝2230B北護岸（南東から）

2　２区　溝2230B南護岸（東から）

１　２区　溝2230B南護岸　赤色顔料付着状況（西から）

２　２区　溝2230B南護岸　瓦質土製塔出土状況（北東から）

序　　文

京都市内には、いにしえの都平安京をはじめとして、数多くの埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が点在しています。平安京以前にさかのぼる遺跡及び平安京建都以来、今日に至るまで営々と生活が営まれ、各時代の生活跡が連綿と重なりあっています。このように地中に埋もれた埋蔵文化財（遺跡）は、過去の京都の姿をうかびあがらせてくれます。

公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、遺跡の発掘調査をとおして京都の歴史の解明に取り組んでいます。その調査成果を市民の皆様に広く公開し、活用していただけるよう努めていくことが責務と考えています。現地説明会の開催、写真展や遺跡めぐり、京都市考古資料館での展示公開、小中学校での出前授業、ホームページでの情報公開などを積極的に進めているところです。

このたび、京都市美術館再整備事業に伴う円勝寺跡・成勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡の発掘調査について調査成果を報告いたします。本報告の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示賜りますようお願い申し上げます。

末尾になりましたが、当調査に際しまして多くのご協力とご支援を賜りました多くの関係各位に厚く感謝し、御礼を申し上げます。

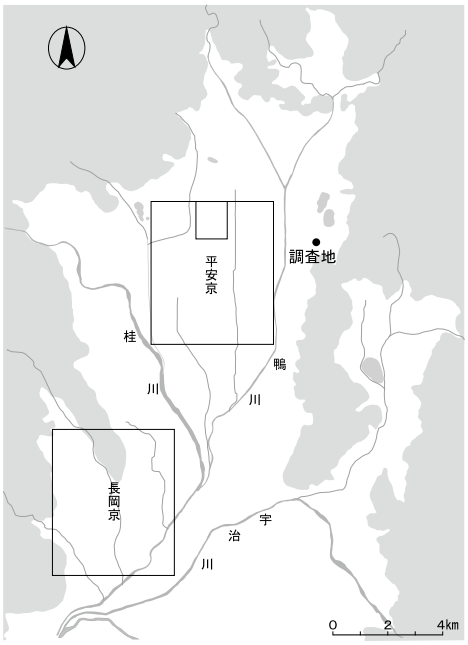
平成29年12月

公益財団法人　京都市埋蔵文化財研究所

所　長　　井　上　満　郎

例　　言

1	遺　跡　名	円勝寺跡・成勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡　（京都市番号　13 R 450）
2	調査所在地	京都市左京区岡崎円勝寺町124（京都市美術館敷地内）
3	委　託　者	京都市　代表者　京都市長　門川大作
4	調 査 期 間	2016年10月24日～2017年３月31日
5	調 査 面 積	809.5㎡
6	調査担当者	柏田有香・李　銀眞・辻　裕司
7	使 用 地 図	京都市発行の都市計画基本図（縮尺１：2,500）「御所」・「吉田」・「三条大橋」・「岡崎」を参考にし、作成した。
8	使用測地系	世界測地系　平面直角座標系Ⅵ（ただし、単位（m）を省略した）
9	使 用 標 高	T.P.：東京湾平均海面高度
10	使用土色名	農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版　標準土色帖』に準じた。
11	遺 構 番 号	通し番号を付し、遺構の種類を前に付けた。
12	遺 物 番 号	通し番号を付し、写真番号も同一とした。
13	本 書 作 成	柏田有香・李　銀眞・上村和直 付章１：パリノ・サーヴェイ株式会社 付章２：北野信彦
14	備　　考	上記以外に調査・整理ならびに本書作成には、調査業務職員及び資料業務職員があたった。



（調査地点図）

目　　次

１．調査の概要 …… 1
（１）調査経過 …… 1
２．遺　　構 …… 3
（１）基本層序 …… 3
（２）１区の遺構 …… 4
（３）２区の遺構 …… 6
（４）３区の遺構 …… 13
（５）下層確認トレンチの調査 …… 13
３．遺　　物 …… 16
（１）出土遺物の概要 …… 16
（２）土器類 …… 16
（３）瓦　類 …… 24
（４）土製品 …… 30
（５）木製品 …… 33
（６）石製品 …… 34
（７）金属製品 …… 35
（８）その他の遺物 …… 35
４．ま と め …… 37
付章１　放射性炭素年代測定 …… 45
付章２　出土赤色顔料の分析調査 …… 51

図　版　目　次

巻頭図版１　遺構　２区　溝2220・2230B補修後（南西から）
巻頭図版２　遺構　１　２区　溝2220・2230B補修前（南西から）
　　２　２区　溝2220・2230B補修前（北北西から）
巻頭図版３　遺構　１　２区　溝2220B補修前　石積み状況（南西から）
　　２　２区　溝2220B補修後　石積み状況（北西から）
巻頭図版４　遺構　１　２区　溝2230B北護岸（南東から）
　　２　２区　溝2230B南護岸（東から）
巻頭図版５　遺構　１　２区　溝2230B南護岸　赤色顔料付着状況（西から）
　　２　２区　溝2230B南護岸　瓦質土製塔出土状況（北東から）

図版１　遺構　調査区配置図（１：800）
図版２　遺構　１区　Ⅰ期・Ⅱ－１期平面図（１：100）
図版３　遺構　１区　Ⅱ－２期・Ⅲ期平面図（１：100）
図版４　遺構　１区　東壁・西壁・南壁断面図（１：100）
図版５　遺構　２区　Ⅰ期平面図（１：200）
図版６　遺構　２区　Ⅱ－１期平面図（１：200）
図版７　遺構　２区　Ⅱ－２期平面図（１：200）
図版８　遺構　２区　Ⅲ期平面図（１：200）
図版９　遺構　２区　北壁断面図（１：50）
図版10　遺構　２区　西壁断面図（１：50）
図版11　遺構　２区　東壁断面図（１：50）
図版12　遺構　２区　溝2220・2230断面図（１：50）
図版13　遺構　２区　溝2240断面図（１：50）
図版14　遺構　２区　Ⅰ期　溝2250実測図（１：100、１：50）
図版15　遺構　２区　Ⅱ－１期　建物１、柱2195・2342実測図（１：50）
図版16　遺構　２区　Ⅱ－１期　北東部柱穴群実測図（１：80）
図版17　遺構　２区　Ⅱ－１期　土坑2233・2231実測図（１：40）
図版18　遺構　２区　Ⅱ－２期　溝2220・2230B実測図（１：80）
図版19　遺構　２区　Ⅱ－２期　溝2220・2230B補修後実測図（１：80）
図版20　遺構　２区　Ⅱ－２期　溝2220・2230A実測図（１：80）
図版21　遺構　２区　溝2220・2230B石材（１：100）
図版22　遺構　２区　溝2220・2230B杭位置平面図（１：100）

図版23　遺構　２区　溝2220・2230B杭列立面図（１：50）
図版24　遺構　２区　溝2230B南護岸実測図（１：50）
図版25　遺構　２区　溝2240南護岸、瓦溜2313実測図（１：80、１：40）
図版26　遺構　３区　Ⅱ期・Ⅲ期平面図（１：200）
図版27　遺構　３区　東壁断面図、溝3004・3005実測図（１：100）
図版28　遺物　土器実測図１（１：４）
図版29　遺物　土器実測図２（１：３、１：４）
図版30　遺物　土器実測図３（１：４）
図版31　遺物　土器実測図４（１：４）
図版32　遺物　土器実測図５（１：４）
図版33　遺物　土器実測図６（１：４）
図版34　遺物　土器実測図７（１：４）
図版35　遺物　土器実測図８（１：４）
図版36　遺物　土器実測図９（１：４）
図版37　遺物　軒丸瓦拓影及び実測図１（１：４）
図版38　遺物　軒丸瓦拓影及び実測図２（１：４）
図版39　遺物　軒丸瓦拓影及び実測図３（１：４）
図版40　遺物　軒丸瓦拓影及び実測図４（１：４）
図版41　遺物　軒丸瓦拓影及び実測図５（１：４）
図版42　遺物　軒丸瓦拓影及び実測図６（１：４）
図版43　遺物　軒丸瓦拓影及び実測図７（１：４）
図版44　遺物　軒丸瓦拓影及び実測図８（１：４）
図版45　遺物　軒丸瓦拓影及び実測図９（１：４）
図版46　遺物　軒丸瓦拓影及び実測図10（１：４）
図版47　遺物　軒丸瓦拓影及び実測図11（１：４）
図版48　遺物　軒平瓦拓影及び実測図１（１：４）
図版49　遺物　軒平瓦拓影及び実測図２（１：４）
図版50　遺物　軒平瓦拓影及び実測図３（１：４）
図版51　遺物　軒平瓦拓影及び実測図４（１：４）
図版52　遺物　軒平瓦拓影及び実測図５（１：４）
図版53　遺物　軒平瓦拓影及び実測図６（１：４）
図版54　遺物　軒平瓦拓影及び実測図７（１：４）
図版55　遺物　軒平瓦拓影及び実測図８（１：４）
図版56　遺物　軒平瓦拓影及び実測図９（１：４）
図版57　遺物　軒平瓦拓影及び実測図10（１：４）

図版58　遺物　軒平瓦拓影及び実測図11（１：４）
図版59　遺物　軒平瓦拓影及び実測図12（１：４）
図版60　遺物　鬼瓦、道具瓦拓影及び実測図（１：４）
図版61　遺物　刻印押捺瓦拓影、ヘラ記号瓦拓影１（１：４）
図版62　遺物　ヘラ記号瓦拓影２（１：４）
図版63　遺物　ヘラ記号瓦拓影３（１：４）
図版64　遺物　塼拓影及び実測図（１：４）
図版65　遺物　木製品実測図１（１：４、木46のみ１：８）
図版66　遺物　石製品実測図（１：４）
図版67　遺構　１　１区　Ⅰ期全景（南西から）
２　１区　Ⅱ期全景（東から）
３　１区　Ⅱ－２期東半（南西から）
４　１区　Ⅱ－２期　土坑1109（東から）
図版68　遺構　１　２区　Ⅰ期全景（東から）
２　２区　Ⅰ期　溝2250土器出土状況（西から）
図版69　遺構　１　２区　Ⅱ－１期全景（南東から）
１　２区　Ⅱ－１期北半全景（東南東から）
図版70　遺構　１　２区　Ⅱ－１期　溝2230C南浸食状況（西から）
２　２区　Ⅱ－１期　土坑2233（東から）
３　土坑2233東張り出し分（北西から）
４　土坑2233掘り下げ状況（西から）
図版71　遺構　１　２区　Ⅱ－２期全景（南東から）
２　２区　Ⅱ－２期　溝2230B南護岸土器出土状況（北から）
３　２区　Ⅱ－２期　溝2306、瓦溜2313（東から）
図版72　遺構　１　２区　Ⅱ－２期　溝2240南護岸（西北西から）
２　溝2240南護岸下層（西から）
３　溝2240南護岸最下層（西から）
図版73　遺構　１　２区　Ⅱ－２期　溝2220A（北西から）
２　２区　溝2220断面（南から）
図版74　遺構　１　２区　Ⅲ期全景（南東から）
２　２区　Ⅲ期　畔2185、礫敷2088（南から）
図版75　遺構　１　２区　Ⅲ期　井戸2084（東から）
２　２区　Ⅲ期　井戸2085（東から）
３　２区　下層確認トレンチ②（南から）
４　２区　下層確認トレンチ③（西から）

図版76　遺構　１　３区　Ⅲ期全景（北西から）

２　３区　Ⅲ期　溝3004・3005（西から）

３　３区　Ⅱ期全景（北西から）

図版77　遺物　溝2250、流路1126出土土器

図版78　遺物　土坑2231、土坑2314出土土器

図版79　遺物　土坑2316出土土器

図版80　遺物　瓦溜2313、溝2230B北護岸、溝2220B西護岸、溝2220B東護岸出土土器

図版81　遺物　溝2230B南護岸、溝2220B東護岸補修、溝2240南護岸、土坑1109出土土器

図版82　遺物　溝2220・2230B出土土器１

図版83　遺物　溝2220・2230B出土土器２、溝2220・2230A出土土器

図版84　遺物　軒丸瓦１

図版85　遺物　軒丸瓦２

図版86　遺物　軒丸瓦３

図版87　遺物　軒平瓦１

図版88　遺物　軒平瓦２、鬼瓦

図版89　遺物　土製品１

図版90　遺物　土製品２、木製品１

図版91　遺物　木製品２、石製品、金属製品

図版92　遺物　１　本試料群である赤色顔料の検出状況

２　試料１の赤色顔料

３　試料１の拡大観察

４　試料２の拡大観察

５　試料３の拡大観察

６　試料４の拡大観察

７　法勝寺塔跡出土軒平瓦に付着した赤色顔料

８　同試料の拡大観察

挿　図　目　次

図１　調査位置図（１：5,000）　…… 1
図２　調査前全景（南東から）　…… 2
図３　現地説明会（南から）　…… 2
図４　基本層序（１：50）　…… 3
図５　土坑1109・1036実測図（１：20）　…… 5
図６　井戸2084・2085実測図（１：40）　…… 12
図７　下層確認トレンチ断面図（１：50）　…… 14
図８　土製品実測図１（１：４）　…… 31
図９　土製品実測図２（１：４、１：１）　…… 32
図10　金属製品実測図・銭貨拓影（１：２）　…… 35
図11　遺構変遷図１（１：800）　…… 38
図12　遺構変遷図２（１：800）　…… 40
図13　遺構変遷図３（１：800）　…… 41
図14　遺構変遷図４（１：800）　…… 43
図15　調査地点の層序および年代測定実施層準　…… 46
図16　較正年代の確率密度分布　…… 48
図17　木材　…… 49
図18　試料１の蛍光Ｘ線分析結果　…… 53
図19　試料２の蛍光Ｘ線分析結果　…… 53
図20　試料３の蛍光Ｘ線分析結果　…… 53
図21　試料４の蛍光Ｘ線分析結果　…… 53
図22　試料１のＸ線回折分析結果　…… 53
図23　試料１のベンガラ粒子の電子顕微鏡観察　…… 53
図24　試料２のベンガラ粒子の電子顕微鏡観察　…… 53
図25　法勝寺塔跡出土軒平瓦に付着した赤色顔料の蛍光Ｘ線分析結果　…… 54
図26　同試料の電子顕微鏡観察　…… 54
図27　同試料のＸ線回折分析結果　…… 55

表　目　次

表１　遺構概要表 …… 4
表２　遺物概要表 …… 16
表３　土坑2231出土土器の構成（破片数） …… 18
表４　土坑2316出土土器の構成（破片数） …… 18
表５　溝2220・2230C出土土器の構成（破片数） …… 19
表６　瓦溜2313出土土器の構成（破片数） …… 20
表７　溝2220・2230B出土土器の構成（破片数） …… 22
表８　溝2220・2230A出土土器の構成（破片数） …… 23
表９　軒瓦遺構別出土数量表 …… 25
表10　軒瓦文様・産地別出土数量表 …… 26
表11　放射性炭素年代測定および暦年較正結果 …… 48

付　表　目　次

付表１　土器一覧表 …… 57
付表２　軒丸瓦観察表 …… 71
付表３　軒平瓦観察表 …… 77
付表４　鬼瓦・道具瓦・刻印瓦・ヘラ記号瓦観察表 …… 85
付表５　塼観察表 …… 86
付表６　土製品一覧表 …… 90
付表７　木製品一覧表 …… 91
付表８　石製品一覧表 …… 92
付表９　金属製品一覧表 …… 92

円勝寺跡・成勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡

１．調査の概要

（１）調査経過（図１～３、図版１）

この調査は、京都市美術館の再整備事業に伴うものである。京都市美術館は、左京区岡崎円勝寺町に所在し、敷地は、平安時代後期に建立された「勝」の字をもつ６つの御願寺、通称六勝寺のうちの円勝寺と成勝寺の推定地にあたる。円勝寺は天治二年（1125）に造営がはじまった待賢門院藤原璋子の御願寺、成勝寺は保延五年（1139）に金堂などの供養が行われた崇徳天皇の御願寺である。また、弥生時代から古墳時代の集落跡である岡崎遺跡の範囲にも含まれる。

京都市美術館の再整備に先立ち、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課（以下「文化財保護課」という）が試掘調査を実施し、平安時代の遺構面が良好に遺存していることが確認されたため、発掘調査の指導が行われ、公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所が委託を受けて調査を実施することとなった。調査は、2014年度から2017年度の４箇年度にわたって実施することが計画され、今回はその第３期目にあたる。

今回の調査地は、京都市美術館本館の西側で、第１期・第２期の調査区の南側に位置する。調査

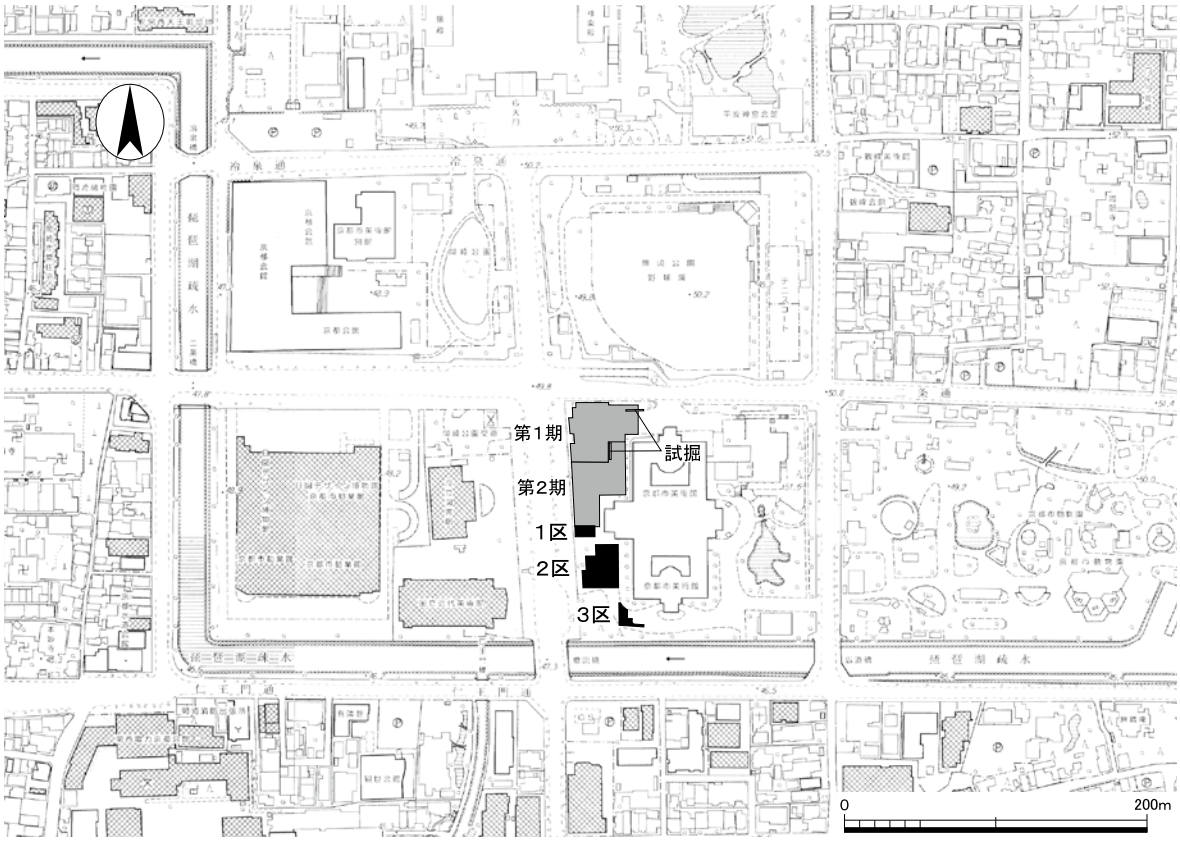


図１　調査位置図（１：5,000）

図２　調査前全景（南東から）

図３　現地説明会（南から）

区は３箇所に分かれ、北から１区・２区・３区とした。調査面積は、合計809.5㎡である。2016年10月24日に調査を開始した。調査の進展に伴い、適宜、文化財保護課の検査指導を受け、検証委員である龍谷大学の國下多美樹教授、立命館大学の木立雅朗教授の視察を受けた。

調査は、遺構面と遺構群の性格を鑑み、２面３時期に分けて行った。Ⅰ期が弥生時代から古墳時代、Ⅱ期が六勝寺存続期とされる平安時代から室町時代前期、Ⅲ期が六勝寺廃絶後の室町時代後期から近世である。Ⅱ期は１・２区では、平安時代をⅡ－１期、鎌倉時代から室町時代前期をⅡ－２期に細分して調査を行った。それぞれの遺構面において記録作業を行い、2017年３月31日に調査を終了した。調査中、2017年1月12日に調査成果の広報発表を行い、１月14日には現地説明会を開催して調査成果の公表に努めた。

なお、調査地の地理的環境、歴史的環境、周辺調査の概要については、第１期・第２期調査の報告書[1)]において詳述されていること、また最終年度の第４期調査の報告書において総括を行う予定であることから今回は割愛する。

調査および報告書作成にあたり、以下の方々から御教示を得ました。記して感謝申し上げます。（五十音順、敬称略）

青山 均、網 伸也、伊藤淳史、上原真人、梶川敏夫、國下多美樹、鈴木久男、竹本 晃、千葉 豊、冨井 眞、西山良平、橋本清一、平尾政幸、藤井 整、吉野秋二、若林邦彦

註

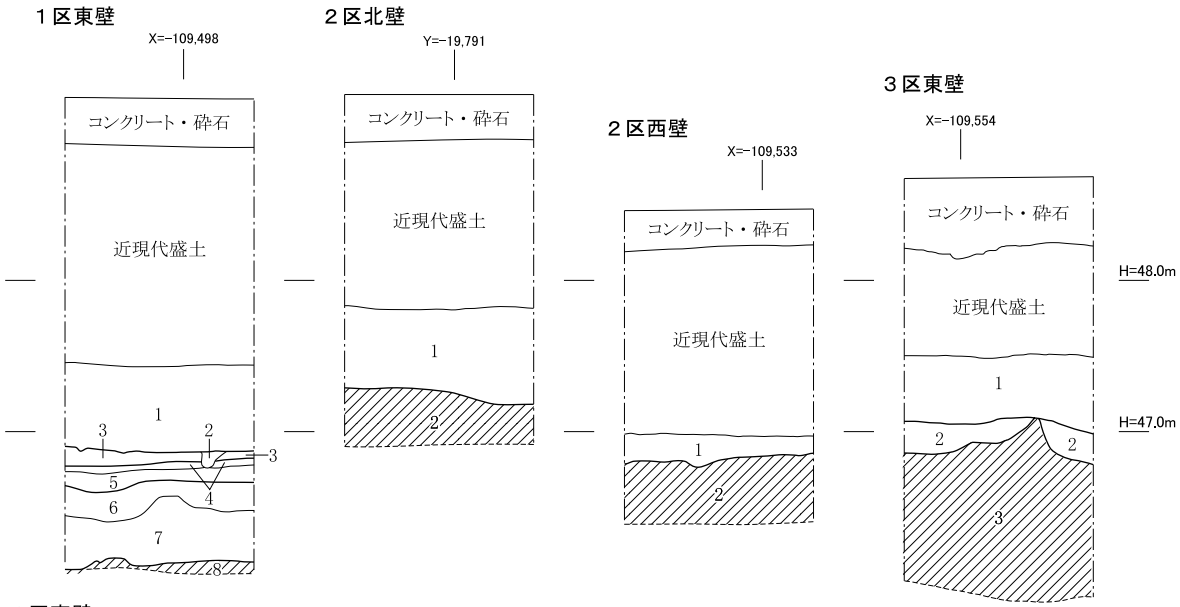
１）　小檜山一良ほか『円勝寺跡・成勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2014－13　公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所　2015年、近藤奈央ほか『円勝寺跡・成勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2015－17　公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所　2016年

2．遺　　構

（1）基本層序（図4）

1区の地表面の標高は48.8～49.2ｍである。東から西へ低くなる。地表面から約0.3ｍがコンクリートと砕石で、その下1.4～1.5ｍまでが近現代盛土である。その下に中近世の耕作土が約0.6ｍ堆積する。その下に室町時代後期の遺物包含層が0.05～0.3ｍの厚さで堆積し（3層）、調査区東半では、さらにその下に0.15～0.25ｍの厚さの鎌倉時代の整地層が堆積する（4・5層）。鎌倉時代整地層は2層に分かれるが、遺構の成立状況や出土遺物の検討から同時期の整地と考えられる。調査区東半ではその下、調査区西半では室町時代後期の遺物包含層の下が流路1126の堆積層となる（6・7層）。流路堆積は0.1～0.5ｍの厚さがあり、それらを除去すると基盤層となる。基盤層上面の標高は46.1～46.6ｍで、北東が最も低い。調査は、室町時代後期の遺物包含層上面でⅢ期（室町時代後期から近世）、鎌倉時代の整地層上面でⅡ－2期（鎌倉時代から室町時代前期）、流路1126堆積層上面でⅡ－1期（平安時代）とⅠ期（弥生時代から古墳時代）の調査を行った。

2区の地表面の標高は48.4～49.4ｍである。東から西へ低くなる。地表面から約0.3ｍがコンクリートと砕石で、その下1.0～1.9ｍまでが近現代盛土である。その下に中近世の耕作土が0.1～0.6



1区東壁

1　中近世耕作土
2　2.5Y3/2黒褐色シルト～細砂(耕作溝)
3　10YR2/1黒色シルト～細砂　φ0.2㎝白色粒・土器片・炭多量(室町後期遺物包含層)
4　10YR1.7/1黒色粗砂　炭多量、φ0.2～0.3㎝白色粒と土器片少量(鎌倉整地層)
5　10YR2/2黒褐色細砂～粗砂　炭と白色粒多量、土器片少量(鎌倉整地層)
6　10YR1.7/1黒色シルト～細砂　φ0.1～0.2㎝白色粒少量(流路1126上層)
7　10YR1.7/1黒色シルト(流路1126下層)
8　10Y7/1灰白色粗砂　礫多量(基盤層)

2区北壁

1　中近世耕作土
2　2.5Y8/4淡黄色極粗砂(基盤層)

2区西壁

1　10YR4/2灰黄褐色細砂～中砂
2　2.5Y7/4浅黄色細砂～粗砂の互層(基盤層)

3区東壁

1　中近世耕作土
2　10YR3/1黒褐色細砂～粗砂に10YR6/6明黄褐色粘質シルトブロック多量(土坑)
3　10YR8/3浅黄橙色粗砂～極粗砂(基盤層)

0　2m

図4　基本層序（1：50）

表１　遺構概要表

時　代	当報告書での時期区分		遺　　構		
			１ 区	２ 区	３ 区
弥生時代	Ⅰ期	弥生時代	流路1126	溝2250	
平安時代	Ⅱ－1期	平安時代中期		土坑2231・2343	
		平安時代後期	柱穴群、 土坑1099・1100	建物1、北西部柱穴群、柱穴2195・2342、 土坑2233・2314・2316・2341・2357、 溝2220C・2230C	土坑3007
鎌倉時代	Ⅱ－2期	鎌倉時代	土坑1036・1109	溝2220B・2230B・2240・2306、瓦溜2313	
室町時代		室町時代前期	土坑1080	溝2220A・2230A	
	Ⅲ期	室町時代後期	耕作溝	畔2185、礫敷2088、 溝2108・2209・2212・2218・2297、 土坑2045・2110、耕作溝群古	
江戸時代		江戸時代	耕作溝	井戸2084・2085、土坑2100、耕作溝群新、 南北大溝群	柱列3001、 溝3004・3005、耕作溝

m堆積する。調査区北西部と南東部では、その下に室町時代後期の遺物包含層が堆積する。層厚は北西部で0.3～0.6ｍ、南東部で約0.1ｍである。北西部の遺物包含層は、室町時代前期までの溝上部の凹みを埋めたものと考えられる。調査区北西部と南東部以外では、中近世耕作土直下が基盤層となる。基盤層上面の標高は北東部で約47.2ｍ、南西部では約46.8ｍで、北東から南西に低くなる。調査は、室町時代後期の遺物包含層上面でⅢ期、基盤層上面でⅡ－２期・Ⅱ－１期・Ⅰ期の調査を行った。

３区の地表面の標高は48.6～48.7ｍである。地表面から約0.5ｍがコンクリートと砕石で、その下0.7～1.0ｍまでが近現代盛土である。その下に中世から近世の耕作土が0.4～0.5ｍ堆積する。その耕作土直下が基盤層となる。基盤層上面の標高は46.9～47.1ｍである。調査は、基盤層上面でⅢ期とⅡ－１期の調査を行った。Ⅱ－２期とⅠ期に該当する遺構は確認できなかった。

以下に、調査区ごとに各時期の遺構の概要を述べる。

（２）１区の遺構（図版２～４・67）

１）Ⅰ期の遺構

流路1126　南東部を除く調査区ほぼ全域で検出した自然流路で、第２期調査の流路1100の南側延長部分にあたる。今回検出したのは、北東から南西に流れる流路の南肩口の入り組んだ部分と考えられ、底面の凹凸が激しく、調査区北東部と南西部が深くなる。北東部の深さは約0.5ｍで底面の標高は約46.1ｍ、南西部の深さは約0.25ｍで底面の標高は約46.3ｍである。埋土は大きく２層に分かれ、上層（図版４－13～19層）からは古墳時代初頭の土器片や流木が出土した。流木の樹種は、スギとアカガシ亜属であった。下層からは遺物は出土しなかった。

２）Ⅱ－１期の遺構

柱穴群　調査区全域で12世紀後半代の遺物を含む複数の柱穴を検出した。掘形の平面形は不整

形で、径0.2～0.3ｍ、深さは0.1～0.3ｍある。礎石を据えるものもある（柱1021・1097）。その他、不整形なピットも複数検出したが、建物としてのまとまりは捉えられなかった。

土坑1003　調査区北西部で検出した。不整形な土坑で、東西約0.7ｍ、南北約1.0ｍ、深さは約0.05ｍある。瓦片などが少量出土した。

３）Ⅱ－２期の遺構

土坑1109（図５、図版67）　調査区北東部で検出した。平面形は不整形で、東側は耕作溝に削平される。残存規模は東西約1.1ｍ、南北約0.95ｍ、深さは約0.3ｍある。底面は凹凸があり、鋤状の掘削道具で掘り下げた痕跡と考えられる。埋土から、完形に近い土師器皿や、幅５㎜、厚さ１㎜程度の細長い板状のスギの木片が多量に出土したほか、瓦、漆器、炭、モモの種、クルミ、魚の骨などが出土した。時期は13世紀後半。

土坑1036（図５）　調査区北東部で検出した。平面形は楕円形で、残存規模は東西約0.6ｍ、南北約0.55ｍ、深さは約0.2ｍある。多量の土器類と少量の瓦類が出土した。時期は14世紀前葉。

土坑1080　調査区北東部で検出した。平面形は不整形で、東側は耕作溝に削平される。残存規模は東西約1.15ｍ、南北約1.2ｍ、深さは約0.08ｍある。14世紀代の土器や瓦が少量出土した。

土坑1066　調査区北東部で検出した。平面形は不整形で、東西約0.45ｍ、南北約1.0ｍ、深さは約0.1ｍある。14世紀代の遺物が出土した。

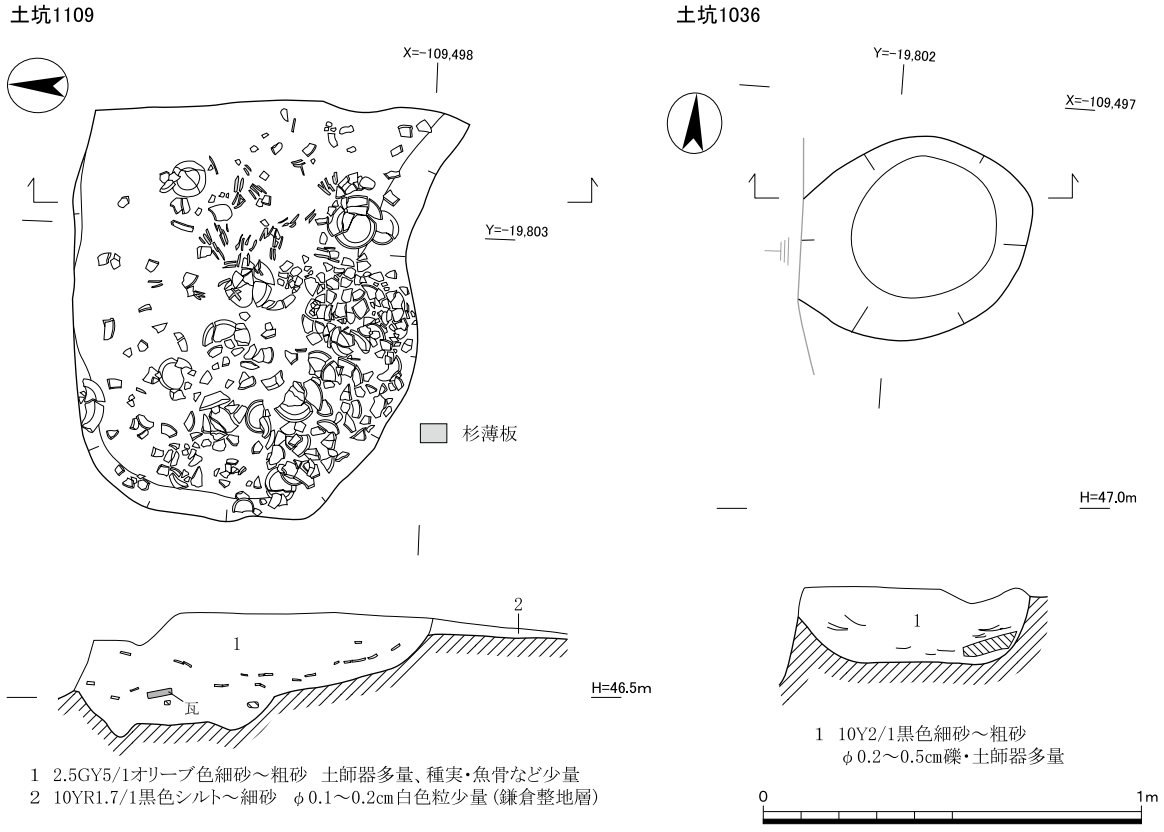


図５　土坑1109・1036実測図（１：20）

4）Ⅲ期の遺構

耕作溝群　調査区全域で、耕作に伴う溝を検出した。東西方向のものと南北方向のものがあり、東西方向の溝は調査区全域で、南北方向の溝は調査区東半で多く検出した。南北方向の溝が新しい傾向にある。検出面での幅は0.1～0.35ｍ、深さは0.1～0.25ｍある。埋土はオリーブ黒色粗砂が主体で、礫や土器・瓦の小片をふくむ。

土坑1098　調査区中央北で検出した。平面形は不整形で、北端は調査区外へ延びる。検出規模は、東西約1.5ｍ、南北約2.1ｍ、深さは約0.05ｍある。15世紀代の遺物が出土した。

（3）２区の遺構

1）Ⅰ期の遺構（図版５・68）

溝2250（図版14・68）　調査区南半で検出した。東から西に湾曲しながら走る溝である。東、西ともに調査区外に延びる。検出長は約22.5ｍ。断面形は逆台形状を呈し、幅0.4～1.9ｍ、深さは0.45～0.7ｍある。底面の標高は、東端で46.65ｍ、西端で46.35ｍであり、東から西に低くなる。埋土最下層は流水堆積で、部分的に埋土中位にも流水堆積が確認できる部分がある（断面Ａ・Ｃライン）。上層埋土はブロック土の混じる人為的に埋め戻された土で、この層から弥生時代後期の土器片が出土した。

2）Ⅱ－１期の遺構（図版６・69・70）

建物１（図版15）　調査区北東隅で検出した掘立柱建物である。南北１間×東西２間分を検出した。南北柱間は約3.4ｍあり、間が撹乱を受けるため、本来は南北２間の可能性がある。東西柱間は1.8～1.9ｍある。柱掘形の平面形は不整円形で、径0.35～0.5ｍ、深さは0.1～0.4ｍある。柱痕跡から推測される柱径は0.1～0.2ｍである。柱2017・2074・2192は地下式礎石を据える。掘形埋土から12世紀代の遺物が出土した。

柱2195・2342（図版15）調査区北部で検出した南北に並ぶ柱列である。柱間は約2.3ｍある。柱掘形の平面形は隅丸方形と円形で、径約0.5ｍと0.35ｍ、深さは約0.55ｍと0.2ｍである。柱痕跡は確認できなかった。埋土から12世紀代の遺物が出土した。

北西部柱穴群（図版16）調査区北西部で多数の柱穴を検出したが、建物としてのまとまりは捉えられなかった。柱掘形の平面形は不整形で、径0.3～0.6ｍ、深さは0.1～0.4ｍある。柱痕跡があるものとないものがある。また、柱2323・2329（断面Ｃライン）は埋土上層に瓦と礫が詰まり、礎石据付穴の可能性がある。各柱の掘形埋土から12世紀代の遺物が出土した。

土坑2314・2317・2316・2327・2341・2357（図版69）　調査区北東部で検出した土坑群である。東西約8.0ｍ、南北約4.0ｍの範囲に連続して掘削された土坑群で、検出面での切り合い関係は不明瞭であった。東は調査区外へ延びる。各土坑ともに平面形は不整形で、深さは0.6～1.2ｍある。埋土は水平堆積に近く、土坑壁面は大きく抉られている。これら土坑は、連続して掘削されていること、出土遺物の帰属時期が同じであることなどから、基盤層の白川砂を採取するための土

取り穴の可能性がある。12世紀後半代の遺物が出土した。

土坑2233（図版17・70） 調査区南東部で検出した。掘形の平面形は隅丸長方形で、東西約2.0ｍ、南北約1.0ｍ、深さは約0.9ｍある。掘形内では東西約1.2ｍ、南北約0.5ｍ、深さ約0.4ｍの木槨の痕跡を確認した。木質は遺存しなかったが、槨内の北壁に鉄釘が残存していた。釘の頭が上を向くことから、蓋板が存在した可能性がある。槨内の西端で箱状木製品を検出した。箱状木製品は平面長方形で0.25ｍ×0.15ｍ、高さは約0.1ｍある。蓋板の痕跡は確認できなかった。また、槨の東端はＬ字状に張り出し、この部分も木槨状に板で囲った痕跡があり、底板の木質が遺存していた。掘形の底には、東端と西端に石が据えられていた。石材はチャートで、大きさは長径0.45ｍと0.5ｍある。東端の石の上にＬ字状張り出し部、西端の石の上に箱状木製品が乗る位置関係となる。掘形埋土や木槨内埋土から12世紀代の遺物が出土した。

土坑2231（図版17） 調査区南東隅で検出した。平面形は不整円形で、長径約0.9ｍ、短径約0.75ｍ、深さは約0.6ｍある。埋土から11世紀後半代の土師器皿が多量に出土した。

土坑2343 調査区北東部で検出した。平面形は不整形で、東西約0.6ｍ、南北約0.6ｍ、深さは約0.35ｍある。埋土から11世紀後半代の遺物が出土した。

溝2220・2230C（図版９・10・12・69・70） 調査区北西部で検出した南北方向の溝（溝2220C）とそれに接続する東西方向の溝（溝2230C）である。溝2220と溝2230は大きく３時期の変遷が捉えられ、この溝2220・2230Cは後述する溝2220・2230Bに先行する溝である。

溝2220Cは、調査区北端では幅約3.5ｍ、深さは約1.0ｍあり、底面の標高は45.9ｍである。溝2230Cは、北肩が調査区外にあり正確な規模は不明であるが、調査区西端で幅5.2ｍ以上、深さは約1.0ｍあり、底面の標高は45.3ｍである。溝2220Cと溝2230Cの接続部付近での底面の標高は45.4ｍであり、このことから水は北から南、東から西へと流れたことがわかる。溝2220・2230C段階では素掘り溝であったと考えられ、北から南へ流れる水の攻撃面となる溝2220Cと溝2230Cの接続部南側は、水流による浸食が激しく、ポットホールと呼ばれる、流れてきた礫が渦流で回転することによってできる円形の穴が複数検出された（図版70－１）。流水堆積層からは12世紀後半代の遺物が出土した。

３）Ⅱ－２期の遺構（巻頭図版１～５、図版７・71～73）

溝2220・2230B（巻頭図版１～５、図版９・10・12・18・19・21～24・71） 調査区北西部で検出した南北方向の溝（溝2220B）とそれに接続する東西方向の溝（溝2230B）である。前述した素掘りの溝2220・2230Cを改修し、石や土で護岸を施している。

溝2220Bは左右両岸を石で護岸する。西護岸は、溝2220Cの西肩を版築状に埋め固め、護岸石を据える。さらに護岸石を覆うように整地する（図版18－Ｃライン）。西護岸石は１段で、長径0.25～0.45ｍの石を横にして据え、間に小礫を詰める。石材については後述する。東護岸は、溝2220Cの東肩を埋めて護岸石を据える。東護岸石は１段ないしは２段積みで、長径0.3～0.7ｍの石を横にして積み上げ、間に小礫を詰める。東護岸は補修が行われている。当初の石積みの前面に0.1～0.4

mの間隔で杭を打ち込み（図版22－Eライン）、杭と当初の石積みとの間に石や土、瓦を詰め込む。杭列は当初の石積みの背面でも確認された（図版22－Bライン）。溝2220C段階に打ち込まれたもの、もしくは溝2220Bの裏込め土の押さえとして打ち込まれたものの可能性がある。この溝2220Bの規模は、補修前は護岸の内法で幅0.6～0.7m、深さは約0.5mあり、調査区北端での底面の標高は45.75mである。補修後は護岸の内法で約0.4mと狭くなるが、深さは変わらず、堆積土を浚う等して維持されていたと推測される。

溝2220Bと溝2230Bの接続部は、屈曲して水流を直接受けるため、より強固な護岸が施されている。南護岸は、溝2220・2230C段階でできた浸食部を瓦・土器片を混ぜた土を用いて埋め固め（図版24）、長辺0.3～0.95mの石をアーチ状に並べ、その前に長径0.3～0.45mの石を直線的に並べて２重に護岸する（図版18－Bライン）。さらに２重の石列の間には杭が打ち込まれる。北護岸も２重に護岸される。長径0.3～0.6mの石を縦にして並べ、X＝－109,516付近では石列を重複させ、背面の石は埋め殺しにする。

溝2230Bは、南肩を礫と瓦、杭で護岸する。溝2230Cの南肩を埋め、杭を打ち込み（図版22－Dライン）、上部を礫と瓦で固める。杭の前面には木片が散乱する。護岸材として用いられたもの、あるいは上流から流れてきたもののいずれかと考えられる。南護岸付近では、木製品も多量に出土した。祭祀具と思われる羽子板状木製品のほか、多量の火付け木や箸、籌木などがある。

北肩は溝2230Cの北肩を土と礫・瓦で埋めて護岸する。長径0.3～0.5mの石が肩部に点在することから、溝2220Bと同様に石で護岸されていた可能性がある。溝2230Cは、調査区西壁では幅約4.0m、深さは約0.9mあり、底面の標高は45.4mである。

溝2220・2230Bの埋土からは、多量の土器、瓦、木製品の他、赤色顔料や鞴羽口などが出土した。また、溝2220・2230Bの各護岸から出土した遺物の時期は13世紀中葉、溝2220Bの東護岸補修に伴う遺物の時期は13世紀後葉、埋土から出土した遺物の時期は13世紀後葉から14世紀代である。このことから、溝2220・2230Bは、素掘りの溝2220・2230Cを13世紀中葉に大規模に改修して護岸し、その後、13世紀後葉に一度補修、14世紀末に埋没したと考えられる。

溝2220・2230B石材・杭材（図版21～23）　溝2220・2230Bの護岸に使用された石材については、鑑定を橋本清一氏に依頼した。鑑定は溝2220Bの東西護岸、溝2220・2230B接続部の石材について実施し、概ね長径0.2m以上の石材を対象にした。石材の岩石の種類別数量は図版21掲載の表に示した。以下、橋本氏からの御教示をもとに、溝2220・2230Bの護岸に用いられた石材の特性を述べる。

岩石の種類としては、堆積岩類の丹波層群のチャート・砂岩・頁岩～粘板岩、熱変性岩類のホルンフェルス・珪岩、深成岩・半深成岩類の黒雲母花崗岩・花崗閃緑岩・石英閃緑岩、花崗岩質アプライトがある。その他、１石のみであるが、二上層群ドンズルボー層中の凝灰岩の切石がある。比率としては、ホルンフェルスが最も多く、全体の約41％を占める。

石材の大きさは、長径0.2～0.95mのものがあり、最大のものは溝2220・2230B接続部南側に用いられた長径0.95m、中径0.6m、短径0.5mの黒雲母花崗岩である。これは大文字山付近の花崗岩

体のもので、白川の土石流の砂層中に混じって堆積したものを利用したと考えられる。美術館第１・２期調査でも、基盤層の砂層中で同規模の黒雲母花崗岩が確認されている。また、数量的に最も高い割合をみせるホルンフェルスも白川により運搬堆積したものとみられ、大きいものでは長径0.7ｍ程度のものがある。一方、長径0.2～0.4ｍ程度の花崗閃緑岩や石英閃緑岩は、鴨川の河川礫を運搬して使用したと考えられる。

次に、溝2220・2230Bの護岸材として打ち込まれた木杭について概要を述べる。木杭は、直径0.05～0.15ｍの丸太材で、残存長は0.1～1.2ｍある。先端はすべて先削りされる。地中への打ち込み深は0.05～1.0ｍで、特に溝2220B東護岸補修に伴う杭列の杭は、直径が大きく、地中深く打ち込まれる傾向にある。杭の材質は、クリが最も多く、次にサクラが多い（図版22中の表参照）。溝2220B東護岸補修に伴う杭は、ブナ科のクリとブナ科のクリもしくはスダジイのいずれかである。

溝2220・2230A（図版20・73） 調査区北西部で検出した南北方向の溝（溝2220A）とそれに接続する東西方向の溝（溝2230A）である。前述した溝2220・2230Bを踏襲する溝である。

溝2220Aは、調査区北端では幅約3.4ｍ、深さは約0.6ｍある。底面の標高は46.2ｍである。東肩部は、長径0.1～0.3ｍの石と瓦・土器を２～３段積み上げて護岸する。

溝2230Aは、調査区西端では幅約3.6ｍ、深さは約0.5ｍあり、底面の標高は45.65ｍである。

溝2220・2230Aから出土した遺物の時期は、15世紀前葉である。

溝2240A・B（図版11・13・25・72） 調査区中央東半で検出した東西方向の溝である。検出長は東西約10ｍある。東は調査区外に延び、西は溝2220・2230と接続する。平面検出時には認識できず、一つの溝として調査したが、調査区東壁断面（図版11）とＹ＝－19,790ライン断面（図版13）の観察により、２時期の変遷があることが確認できたため、先に掘削された溝を溝2240B、後に掘削された溝を溝2240Aとした。

溝2240Bは、北肩を溝2240Aに削平されるため、本来の幅は不明であるが、調査区東壁での残存幅は約4.5ｍ、深さは約0.5ｍあり、底面の標高は46.6ｍである。西端での底面の標高は46.15ｍであり、水は東から西に流れ、溝2220・2230に流れ込んでいたと推測される。南肩部は護岸される（図版25）。南肩に沿って、幅約0.8ｍ、深さ約0.4ｍの溝状に掘り込み、礫・土器・瓦片を混ぜた土を用いて版築状に埋め固め、さらにその上を、礫を多量に混ぜた土で叩き締める。上面は土間状になる。掘り込み底部から風招が出土した。

溝2240Aは、調査区東端では、幅約3.1ｍ、深さは約0.6ｍあり、底面の標高は46.6ｍである。北肩の一部では、土と礫・瓦により固められた護岸を確認した（図版13－25層）。

溝2240Bの南護岸から出土した遺物の時期は13世紀後半、溝2240A・B埋土から出土した遺物の時期は13世紀後半から14世紀代である。

溝2306（図版11・13・71） 調査区北東部、溝2240の北で検出した東西方向の溝である。東は調査区外に延び、西端は溝2220Bの護岸と瓦溜2313に削平される。南肩の一部を溝2240Aに削平される。検出長は東西約7.5ｍある。幅は0.7～1.1ｍ、深さは約0.6～0.7ｍある。底面の標高は46.35～46.4ｍで、東に対して西がわずかに低い。最下層は流水堆積である（図版11－44層）。

瓦溜2313（図版25・71） 調査区北東部で検出した。溝2306を削平する。平面形は不整形で、東西約2.1ｍ、南北約1.5ｍ、深さは約0.8ｍある。埋土から瓦が多量に出土し、特に中位より上部には瓦と礫が詰まる。瓦は被熱したものが多い。13世紀前葉の遺物が出土した。

土坑2304 調査区南端西寄りで検出した。平面形は円形で、径約1.1ｍ、深さは約0.7ｍある。13世紀代の遺物が出土した。

土坑2271 調査区中央南寄りで検出した。東西に長い土坑で、東西約2.4ｍ、南北約0.75ｍ、深さは約0.1ｍある。埋土から14世紀代の土器類や椀型滓が出土した。

土坑2303 調査区中央南寄りで検出した。土坑2271に削平される。平面形は楕円形で、東西約0.6ｍ、南北約0.45ｍ、深さは約0.2ｍある。軒丸瓦が出土した。

土坑2232・2347・2351 調査区南半で検出した不整形な土坑群である。埋土は類似し、暗褐色細～粗砂に黄褐色の粗砂ブロックが混じる土を主体とする。いずれも14世紀代の遺物が少量出土した。白川砂を採取するための土取り穴の可能性がある。

土坑2232は、東西約2.1ｍ、南北約2.7ｍ、深さは約0.15ｍある。土坑2347は、東西約2.8ｍ、南北約6.4ｍ、深さは約0.5ｍある。土坑2351は、東西約0.8ｍ、南北約1.4ｍ、深さは約0.05ｍある。

土坑2293 調査区南端西寄りで検出した。平面形は不整形で、南は調査区外へ延びる。検出規模は、東西約2.1ｍ、南北約2.1ｍ、深さは約0.5ｍある。14世紀代の遺物が出土した。

溝2255 調査区中央南寄りで検出した。東西方向の溝である。検出長は約6.5ｍ、幅約0.65ｍ、深さは約0.1ｍある。14世紀代の遺物が出土した。

土坑2225 調査区南東部で検出した。平面形は不整形で、東西約2.5ｍ、南北約3.2ｍ、深さは約0.3ｍある。底部に径0.1～0.35ｍ、深さ0.05～0.1ｍの多数の窪みがある。軒平瓦や15世紀前半代の遺物が出土した。

4）Ⅲ期の遺構（図版８・74・75）

溝2212 調査区北西部で検出した南北方向の溝である。北は調査区外に延び、南は削平されるが、X＝－109,516ラインの断面（図版12）では確認できた。平面での検出長は約5.4ｍである。調査区北壁で幅約1.3ｍ、深さは約0.35ｍ、底面の標高は46.65ｍである。X＝－109,516ライン断面で確認した幅は約2.4ｍ、深さは約0.5ｍ、底面の標高は46.3ｍである。後述する溝2209または溝2218と接続し、調査区南に延びる可能性がある。出土遺物の時期は15世紀後半である。

溝2218 調査区南半で検出した南北方向の溝である。後述する溝2209に西肩を削平される。北端は撹乱を受け、南は調査区外に延びる。検出長は約9.5ｍ、残存幅は0.5～1.0ｍ、深さは0.4～0.6ｍあり、底面の標高は北から南に低くなる。埋土下部では流水堆積を確認した。北半の溝2212と接続し、南流する溝の可能性がある。出土遺物の時期は15世紀後半である。

溝2209 調査区南半で検出した南北方向の溝である。並走する溝2218を削平する。北端は撹乱を受け、南は調査区外に延びる。検出長は約10.0ｍある。幅は0.8～1.1ｍ、深さは0.3～0.5ｍあり、底面の標高は北から南に低くなる。下層では流水堆積を確認した。溝2218を掘り直したものと考

えられる。出土遺物の時期は15世紀後半である。

溝2297　調査区南半で検出した南北方向の溝である。南は調査区外に延びる。検出長は約12.5m、幅0.8～1.5m、深さは0.05～0.15mある。底面の標高は北から南に低くなる。出土遺物の時期は15世紀後半である。

畔2185・礫敷2088（図版74）　調査区南半で検出した。南北方向の畔とその上面に敷かれた礫敷である。前述した溝2209・2297を埋めた後、盛土を行い、畔を構築する。畔2185を境に東と西で遺構面に高低差があり、西が東より約0.35m低い。畔の幅は2.2～2.7m、高さは西側から見て約0.45mある。検出長は約16.5mで、南は調査区外に延び、北は削平を受ける。調査区北壁断面でも畔状の高まりを確認しており（図版９－８～12・18・19層）、本来は北端まで延び、東西の敷地境となっていたと考えられる。畔の構築土には礫や瓦・土器が多量に混じる。畔2185南半上面では、礫敷2088を検出した。幅約0.7mの範囲に径0.05～0.1mの礫が敷かれ、上面は固く締まり、路面状になる。畔2185構築土から出土した遺物の時期は15世紀後半代である。

溝2108・耕作溝群古　調査区南東部で、Ｌ字に曲がる溝2108と東西方向の耕作溝群を検出した。この耕作溝群は、重複関係や出土遺物の年代から、後述する耕作溝群新に対して掘削時期が古いと考えられることから耕作溝群古とした。

溝2108は、幅0.2～0.3m、深さは0.1～0.3mある。東と南は調査区外に延びる。Ｌ字に屈曲すること、耕作溝より深く掘削されていることから、区画溝と考えられる。15世紀から16世紀前半の遺物が出土した。

耕作溝群古は、溝2108に囲われた位置にあり、密集して掘削され、重複関係が激しい。幅は0.1～0.3m、深さは0.05～0.1mある。15世紀～16世紀前半の遺物が出土した。

土坑2045　調査区北東部で検出した。平面形は不整円形で、径約1.9m、深さは約0.1mある。底は平坦で、壁は垂直に近い角度で立ち上がる。15世紀から16世紀前半の遺物が出土した。

土坑2110　調査区中央南寄りで検出した。平面形は不整円形で、東西径約2.2m、南北径約1.85m、深さは約0.4mある。掘形の中央に曲物が据わる。径約1.2m、深さは約0.3mある。底面は平坦である。底面では木質の痕跡は確認できなかった。肥溜の可能性がある。15世紀から16世紀前半の遺物が出土した。

土坑2219　調査区中央で検出した。平面形は円形で、径約1.25m、深さは約0.35mある。底面は平坦で、壁は垂直に近い角度で立ち上がる。14世紀後半から15世紀の遺物が出土した。

耕作溝群新　調査区全域で、耕作に伴う溝を検出した。東西方向のものと南北方向のものがあり、重複関係からみて東西方向の溝が新しい傾向にある。検出面での幅は0.1～0.6m、深さは0.1～0.35mある。18～19世紀の遺物が出土した。

土坑2100　調査区中央東端で検出した。平面形は円形で、西半は削平を受ける。径約1.4m、深さは約0.05mある。掘形の中央で曲物を据えた痕跡を確認した。径約1.1m、深さは約0.02mある。底面は平坦で、底板が遺存する。肥溜の可能性がある。18～19世紀の遺物が出土した。

南北大溝群　調査区南半を中心に検出した。検出長は4.0～12.0m、検出面での幅は0.5～1.5m、

深さは0.1～0.25ｍある。底面は平坦で、壁は垂直に近い角度で立ち上がり、断面形は方形である。埋土は暗灰黄色細砂に炭が少量混じる。19世紀の遺物が出土した。

井戸2084（図６、図版76） 調査区北東部で検出した。下段が桶、上段が石組の円形井戸である。掘形はいびつな円形で、長径約1.1ｍ、深さは約1.05ｍある。底面の標高は約46.05ｍである。下段の桶は、径約0.5ｍ、高さは約0.65ｍある。上段の石組は、高さ約0.4ｍ分が遺存する。石組の内径は上端で約0.6ｍ、下端で約0.5ｍある。石材は長径0.08～0.15ｍの花崗岩系と砂岩系が主体で、チャートが少量混じる。埋土には竹筒が立てられ、上層は径0.1～0.2ｍの石が充填されていた。19世紀の遺物が出土した。

井戸2085（図６、図版76） 調査区南半中央部で検出した。下段が桶、上段が石組の円形井戸である。掘形はいびつな円形で、長径約1.2ｍ、深さは約1.2ｍある。底面の標高は約45.8ｍである。下段の桶は、径約0.5ｍ、高さは約0.55ｍある。上段の石組は高さ約0.7ｍ分が遺存する。石組の内径は、上端で約0.6ｍ、下端で約0.5ｍある。石材は長径0.05～0.15ｍのチャートが主体で、花崗岩系と砂岩系が少量混じる。埋土上層には径0.1～0.25ｍの石が充填されていた。19世紀の遺物が出土した。

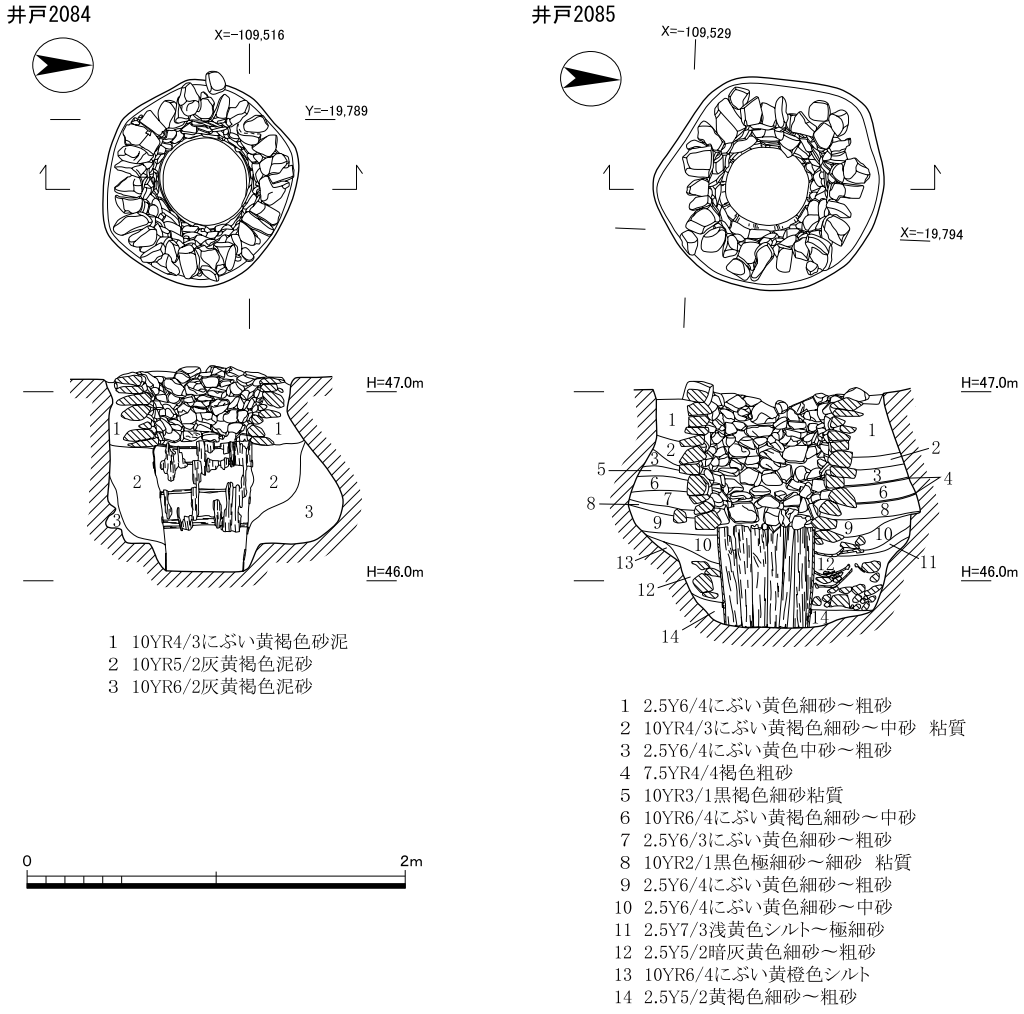


図６　井戸2084・2085実測図（１：40）

（4）３区の遺構

１）Ⅱ期の遺構（図版26・76）

土坑3007　調査区中央部で検出した。不整形な土坑で東と西は調査区外に広がり、南は溝3005に削平される。検出規模は、南北約6.0ｍ、東西約7.0ｍ、深さは0.3～0.65ｍある。土坑底面、壁面ともに凹凸が著しい。基盤層上部の粘質シルト～極細砂を採取するための土取り穴の可能性がある。12世紀の遺物が出土した。

２）Ⅲ期の遺構（図版26・27・76）

耕作溝　調査区北半で検出した。東西方向のものと南北方向のものがある。幅0.3～0.6ｍ、深さは0.15～0.4ｍある。

柱列3001　調査区南半で検出した。東西方向の柱列である。東西５間分を検出した。柱間は約1.0ｍの等間。掘形の平面形は楕円形ないしは隅丸長方形で、長径0.4～0.5ｍ、深さは0.2～0.25ｍある。柱痕跡は確認できなかった。後述する溝3004・3005と平行し、一連の区画施設の可能性がある。19世紀の遺物が出土した。

溝3004・3005（図版27・76）　調査区南端で検出した。東西方向の溝である。溝3005が溝3004に先行する。溝3005は、検出長は約4.4ｍある。南肩を石で護岸する。石は１段で、長辺0.3～0.5ｍの花崗岩の自然石を一部加工し、平坦面を溝の内側に向けて並べる。石の内法での溝幅は約0.4ｍ、掘形を含めた幅は約0.9ｍ、深さは約0.3ｍある。底面の標高は東端で約46.25ｍ、西端で46.2ｍあり、東から西に低くなる。下層は流水堆積で埋まる。

溝3004は、溝3005の上層を埋めた後、構築される。検出長は約6.3ｍある。北肩を石で護岸する。石は１段で、長辺0.35～1.1ｍの花崗岩の切石を隙間なく並べる。北肩部では２箇所で杭の痕跡も確認した。南肩は調査区外にあると考えられ、石の内法での溝幅は1.7ｍ以上ある。深さは石の天端からで約0.35ｍあり、底面の標高は東端で約46.45ｍ、西端で約46.4ｍあり、東から西に低くなる。下層は流水堆積で埋まり、上層は明治期の琵琶湖疏水掘削土と推測される砂で埋まる。溝3004・3005ともに、19世紀代の遺物が出土した。

（5）下層確認トレンチの調査（図７、図版２・５・75）

調査地は、比叡山と如意ヶ岳の間に端を発する白川により形成された扇状地上に位置する。これまで調査地周辺の複数の箇所において、花崗岩由来の白川の氾濫堆積物の下層で、約３万年前に堆積したとされる姶良Ｔｎ（ＡＴ）火山灰層が確認されている[1)]。京都市動物園内の調査では、この火山灰層上面で偶蹄目の足跡が確認されている[2)]。こうした経緯から、当遺跡に確実に集落が形成される弥生時代より前の古環境や旧地形の復元と、現地形の形成過程を明らかにするための情報を得ることを目的とし、１区と２区において下層確認トレンチを３箇所設定し（図版２・５）、断面観察を行った。

全てのトレンチで、黒色シルトの腐植土層（①23層、②11層、③16層）の上で火山灰の堆積を確認した。黒色シルト層と火山灰層との層境の標高は、①で約44.8ｍ、②で約43.9ｍ、③で約44.0ｍである。なお、美術館第１期調査の調査区北東部の下層確認トレンチでの同様の標高は約45.8ｍ[3)]、美術館第２期調査の下層確認トレンチでの標高は約45.15ｍ[4)]であった。そのことから、美術館敷地内では、火山灰堆積以前の地形は北から南に下がり、第１期調査北東部トレンチから今調査のトレンチ③までの距離約110ｍの間に、約1.8ｍの高低差があったことがわかる。また、火山灰層の層厚は、第１・２期調査では0.01～0.05ｍであったが、今回調査では0.08～0.15ｍあり、特にトレンチ②では二次堆積と考えられる火山灰を多量含む層を入れると約0.4ｍとなる。火山灰層上面の様相も、第１・２期調査では乾燥などの環境変化の影響によるとみられる乱れが確認されたが、今

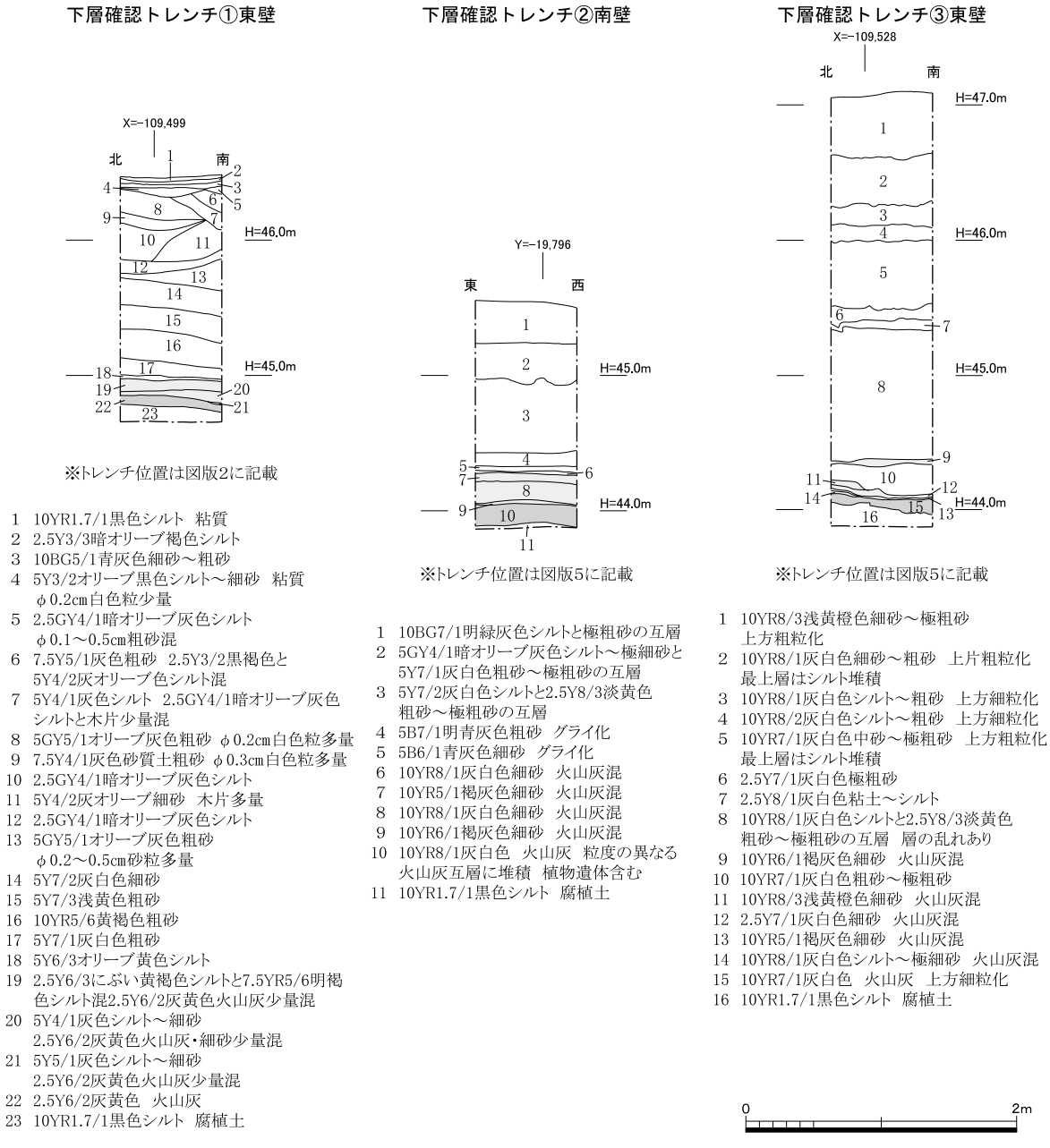


図７　下層確認トレンチ断面図（１：50）

調査では乱れは確認できず、②・③トレンチでは火山灰層にラミナが確認できたことからも、今調査２区の火山灰堆積時の地表は、水中下にあったと見られる。②・③トレンチでは火山灰層上面で遺構検出を行ったが、生物の痕跡は確認できなかった。

①～③トレンチともに、火山灰と火山灰の二次堆積層の上位には花崗岩由来の氾濫堆積物が堆積する。上方粗粒化する土石流堆積と上方細粒化する洪水性堆積が混在し、複数回の氾濫により地形が形成されたことがわかる。今回の調査では、この氾濫堆積物中から遺物は出土しなかったが、堆積物中に含まれる炭化物について年代測定を行った。詳細は付章１に記載する。

註

１）　近藤奈央ほか『円勝寺跡・成勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2015－17　公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所　2016年の「３．周辺の調査」を参照。

２）　内田好昭「法勝寺跡・岡崎遺跡」『平成元年度　京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所　1994年

３）　小野映介・河角龍典「付章　姶良Ｔｎ火山灰と土石流堆積」『円勝寺跡・成勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2014－13　公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所　2015年

４）　前掲註１文献に同じ

3．遺　　物

（1）出土遺物の概要（表2）

調査では、整理コンテナにして211箱の遺物が出土した。出土遺物には、土器・陶磁器類、瓦類、土製品、木製品、石製品、金属製品、植物遺存体などがある。瓦類が約６割を占める。遺物の帰属時期は、弥生時代から江戸時代までの各時期のものがある。平安時代から鎌倉時代のものが約８割を占める。次いで室町時代の遺物が多く、弥生時代の遺物と江戸時代の遺物は少量である。

以下では、遺物種別に概要を述べる。各遺物の個別の詳細については、巻末の付表１～９にまとめた。なお、出土遺構のうち、溝2220と溝2230は基本的には同じ溝の南北方向部分と東西方向部分を便宜的に呼び分けたものであり、同時に機能した溝であることから、護岸出土の遺物を除き、溝2220・2230出土として扱う。

（2）土器類

1）弥生時代から古墳時代の土器

溝2250出土土器（図版28・77）　弥生土器の壷・甕・鉢・器台・高杯が出土した。時期は、弥生時代後期後葉である[1)]。

表2　遺物概要表

時　代	内　　容	コンテナ箱数	Aランク点数	Bランク箱数	Cランク箱数
弥生時代～古墳時代	弥生土器、古式土師器、須恵器		弥生土器32点、古式土師器３点、石製品１点：計36点		
平安時代	土師器、須恵器、山茶椀、白色土器、瓦器、輸入陶磁器、瓦類、土製品、木製品、石製品、金属製品		土師器89点、須恵器２点、灰釉陶器１点、山茶椀４点、白色土器２点、瓦器11点、輸入陶磁器７点、瓦類316点、土製品９点、石製品２点、銭貨９点：計452点		
鎌倉時代	土師器、須恵器、山茶椀、瓦器、白色土器、焼締陶器、施釉陶器、輸入陶磁器、瓦類、土製品、木製品、石製品、金属製品		土師器185点、須恵器５点、山茶椀12点、白色土器８点、瓦器35点、焼締陶器４点、施釉陶器２点、輸入陶磁器36点、瓦類39点、土製品13点、木製品47点、石製品27点、金属製品２点：計415点		
室町時代	土師器、須恵器、瓦器、焼締陶器、施釉陶器、輸入陶磁器		土師器４点、瓦器２点、焼締陶器４点、施釉陶器１点、輸入陶磁器２点、瓦類２点：計15点		
江戸時代	土師器、瓦器、焼締陶器、施釉陶器、磁器、輸入陶磁器、瓦類、土製品、金属製品、石製品				
合　計		279箱	918点（59箱）	20箱	200箱

※　コンテナ箱数の合計は、整理後、遺物を抽出したため、出土時より68箱多くなっている。

１～５は壷である。１は直口壷で、口縁端部はわずかに外反する。２は短頸壷で、外面縦ハケ、内面はナデで指頭圧痕が明瞭に残る。３・４は長頸壷である。内外面ともにハケで仕上げる。５は広口壷である。６～８は壷の底部、９は壷もしくは甕の底部と考えられる。

10～12は鉢である。10は内外面ともに丁寧に縦ヘラミガキする。11・12は有孔鉢である。いずれも焼成前に穿孔する。

13～22は甕である。13～18は受け口状口縁甕で、13は口縁端部下端に櫛描波状文を施す。14は口縁端部下端に刺突列点文、体部肩に櫛描直線文、波状文に重ねて刺突列点文を施す。体部下半には煤が付着する。15は口縁端部下端に刺突文、体部肩に櫛描直線文と波状文を施す。直線文は原体を短い単位で止める。16は口縁部下端に列点文、体部肩に直線文を施す。17は口縁部下端に刺突文、体部肩に櫛描直線文と波状文を施す。直線文は原体を短い単位で止める。18は無文。19～22は「く」の字状口縁甕である。19は内外面ともハケで仕上げる。外面には煤が付着する。20は体部内外面ともに板ナデ、口縁部はユビオサエで仕上げる。21は体部内外面ハケ、口縁部は横ナデで仕上げる。22は体部調整不明、口縁部は横ナデする。口縁端部は上方に摘み上げる。

23～25は器台である。23は直線的な筒部から口縁部が屈曲して大きく開き、口縁端部は下端に粘土紐を貼り付けて垂下させる。24は筒部から口縁部がゆるやかに開くもので、口縁端部は擬口縁に粘土紐を貼り付け、下方に摘み出し垂下させる。25は器台脚部である。

26～32は高杯である。26・27は強く外反する深い皿型の杯部をもつ。杯屈曲部に断面方形の粘土紐を付加する。28はゆるく外反する浅い皿型の杯部をもつ。杯部の屈曲点は明瞭でない。29～32は高杯脚部である。29～31は中空で、29は脚柱から脚裾にかけてゆるやかに開くもの、30・31は脚裾が明瞭な屈曲点をもって開くものである。32は「ハ」の字状に開くものである。

流路1126出土土器（図版28・77） 古式土師器の壷・高杯・器台などが出土した。時期は古墳時代初頭である。

33は壷である。肩部に上から順に刺突文、櫛描直線文、刺突文、櫛描波状文を施す。34は高杯である。口縁部が大きく外反する皿型高杯で、口縁部中位と杯屈曲部に粘土紐を貼り付け刺突文を施す。35は器台である。筒部から口縁部がゆるやかに開くものである。

２）墨書土器（図版29）

墨書土器は５点出土した。

36は土師器皿Ｎである[2)]。内外面に墨書があるが文字ではない。37は土師器皿Ｓである。内外面に墨書がある。内面は「□□〔局ヵ〕」、外面は３文字あるが判読できない[3)]。

38は山茶椀の椀である。底部外面に墨書がある。１文字で判読不明。底部内面は平滑で、赤色顔料が付着する。

39は輸入陶器の褐釉壷底部である。底部外面に墨書がある。「□〔三ヵ〕□」の２文字か。

40は輸入陶磁器の白磁壷底部である。底部外面に「□〔向ヵ〕三」の墨書がある。

3）平安時代から鎌倉時代の土器

土坑2231出土土器（図版29・78、表３） 土師器椀・皿、須恵器鉢、輸入磁器の白磁壷など総破片数1,238点の土器類が出土した。４Ｃ段階に属する土器群である。土師器皿の比率が99.4％と極めて高い。墨書土器の36も土坑2231出土である。

41～76は土師器皿である。41～51は皿Ａで、口径は9.3～10.9㎝にまとまる。52～61は皿Ｎ小、62～76は皿Ｎ大である。77は土師器椀である。外面に煤が付着する。78は須恵器鉢、79は輸入磁器の白磁壷である。

土坑2343出土土器（図版29） 土師器椀皿・鉢が少量出土した。４Ｃ～５Ａ段階に属する土器群である。

80～83は土師器皿である。80は皿Ac、81は皿Ａ、82・83は皿Ｎである。

土坑2314出土土器（図版30・78） 土師器椀・皿・鍋、須恵器鉢・甕、瓦器椀・皿・羽釜、輸入磁器白磁椀・皿・壷などが出土した。６Ａ段階に属する土器群である。

84～89は土師器皿で、84・85は皿Ｎ小、86～89は皿Ｎ大である。90は土師器椀で、体部下半には指頭圧痕が明瞭に残り、胎土にはクサリレキを含む。他地域産か。91・92は土師器鍋である。外面には煤が付着する。93～95は瓦器椀である。93は口縁端部のみ炭素吸着する。94は折縁の小椀で内面底部にはジグザグの暗文を施す。96は輸入磁器の白磁皿である。底部は平底である。

表３　土坑2231出土土器の構成（破片数）

器種	器形	破片数	比率(%)	
土師器	椀・皿	1231	99.6	
	鍋・釜	0	0.0	
	炉・火鉢	0	0.0	
	他・不明	5	0.4	
	小計	1236	100.0	99.8
瓦器	椀・皿	0	－	
	鍋・釜	0	－	
	壷・瓶	0	－	
	火舎・火鉢	0	－	
	他・不明	0	－	
	小計	0	－	
須恵器・山茶椀	杯・椀・皿	0	0.0	
	鉢	1	100.0	
	壷・瓶	0	0.0	
	甕	0	0.0	
	他・不明	0	0.0	
	小計	1	100.0	0.1
白色土器	杯・椀・皿	0	－	
	高坏	0	－	
	盤	0	－	
	壷・瓶	0	－	
	他・不明	0	－	
	小計	0	－	
瀬戸・美濃	椀・皿	0	－	
	鉢	0	－	
	壷・瓶	0	－	
	他・不明	0	－	
	小計	0	－	
焼締陶器	甕	0	－	
	壷	0	－	
	擂鉢	0	－	
	盤・大皿	0	－	
	他・不明	0	－	
	小計	0	－	
輸入陶磁器	椀・皿	0	0.0	
	壷・瓶	1	100.0	
	他・不明	0	0.0	
	小計	1	100.0	0.1
	総数	1238		100.0

表４　土坑2316出土土器の構成（破片数）

器種	器形	破片数	比率(%)	
土師器	椀・皿	318	98.8	
	鍋・釜	0	0.0	
	炉・火鉢	0	0.0	
	他・不明	4	1.2	
	小計	322	100.0	83.8
瓦器	椀・皿	8	40.0	
	鍋・釜	4	20.0	
	壷・瓶	7	35.0	
	火舎・火鉢	1	5.0	
	他・不明	0	0.0	
	小計	20	100.0	5.2
須恵器・山茶椀	杯・椀・皿	3	11.6	
	鉢	4	15.4	
	壷・瓶	1	3.8	
	甕	18	69.2	
	他・不明	0	0.0	
	小計	26	100.0	6.8
白色土器	杯・椀・皿	0	－	
	高坏	0	－	
	盤	0	－	
	壷・瓶	0	－	
	他・不明	0	－	
	小計	0	－	
瀬戸・美濃	椀・皿	0	－	
	鉢	0	－	
	壷・瓶	0	－	
	他・不明	0	－	
	小計	0	－	
焼締陶器	甕	4	80.0	
	壷	1	20.0	
	擂鉢	0	0.0	
	盤・大皿	0	0.0	
	他・不明	0	0.0	
	小計	5	100.0	1.3
輸入陶磁器	椀・皿	9	81.8	
	壷・瓶	1	9.1	
	他・不明	1	9.1	
	小計	11	100.0	2.9
	総数	384		100.0

土坑2316出土土器（図版30・79、表４） 土師器椀・皿、瓦器椀・皿・鉢・鍋・羽釜・盤、須恵器鉢・甕、山茶椀椀・皿、焼締陶器甕、輸入磁器白磁椀・皿、輸入陶器壷・瓶など総破片数384点の土器類が出土した。６Ａ段階に属する土器群である。墨書土器の39も土坑2316出土である。

97は土師器皿Acである。98～107は土師器皿で、98～102は皿Ｎ小、103～107は皿Ｎ大である。108は土師器の鉢である。粘土紐接合痕が明瞭に残る。109・110は山茶椀である。109は糸切り平底の皿、110は大型の椀で、内面が平滑で墨痕が付く。111～113は瓦器椀である。内面底部の暗文は、111が放射状、112が連続長楕円、113が平行線である。114は瓦器の盤である。内面のみミガキを施す。内面底部の暗文は平行線である。外面底部には籾殻圧痕が付く。115～117は輸入磁器の白磁椀である。116は内面底部と体部の境に明瞭な段が付く。

土坑2326出土土器（図版30） 土師器皿、須恵器甕などが出土した。６Ａ段階に属する土器群である。

118～124は土師器皿である。118は皿Ac、119～121は皿Ｎ小、122は皿Ｎ中、123・124は皿Ｎ大である。123は口縁部に煤が付着し、灯明皿として使用されている。

土坑2341出土土器（図版30） 土師器皿、須恵器壷、瓦器皿などが出土した。６Ａ段階に属する土器群である。

125～129は土師器皿である。125～127は皿Ｎ小、128・129は皿Ｎ大である。125・126は口縁部に煤が付着する。130は瓦器皿である。内面底部には連続長楕円の暗文を施す。

土坑2317出土土器（図版30） 土師器皿・鉢、須恵器甕、瓦器椀、輸入磁器白磁椀などが出土した。６Ａ段階に属する土器群である。

131～136は土師器皿である。131～133は皿Ｎ小、134～136は皿Nd大である。137は瓦器椀である。ミガキは内外面ともに密度が低い。138は輸入磁器の白磁椀である。底部内面の釉薬を環状に掻き取る。

溝2220・2230C出土土器（図版31、表５） 土師器皿、瓦器椀・羽釜・鍋・鉢、須恵器椀、山茶椀椀・皿、白色土器椀・皿・高杯、焼締陶器甕・壷、輸入磁器白磁椀・皿・壷、輸入陶器緑釉壷など総破片数314点の土器類が出土した。６Ａ段階に属する土器群である。

139～146は土師器皿である。139～142は皿Ｎ小、143・144は皿Ｎ中、145・146は皿Ndである。147は山茶椀の小椀で底部は糸切りのままの平底、底部内面は平滑になり赤色顔料が付着する。148は須恵器の

表５ 溝2220・2230C出土土器の構成（破片数）

器種	器形	破片数	比率(%)	
土師器	椀・皿	254	98.4	
	鍋・釜	2	0.8	
	炉・火鉢	0	0.0	
	他・不明	2	0.8	
	小計	258	100.0	82.2
瓦器	椀・皿	1	4.3	
	鍋・釜	18	78.3	
	壷・瓶	0	0.0	
	火舎・火鉢	3	13	
	他・不明	1	4.4	
	小計	23	100.0	7.3
須恵器・山茶椀	杯・椀・皿	4	25	
	鉢	5	31.2	
	壷・瓶	0	0.0	
	甕	6	37.5	
	他・不明	1	6.3	
	小計	16	100.0	5.1
白色土器	杯・椀・皿	0	0.0	
	高坏	1	100.0	
	盤	0	0.0	
	壷・瓶	0	0.0	
	他・不明	0	0.0	
	小計	1	100.0	0.3
瀬戸・美濃	椀・皿	0	－	
	鉢	0	－	
	壷・瓶	0	－	
	他・不明	0	－	
	小計	0	－	0.0
焼締陶器	甕	1	33.3	
	壷	2	66.7	
	擂鉢	0	0.0	
	盤・大皿	0	0.0	
	他・不明	0	0.0	
	小計	3	100.0	1.0
輸入陶磁器	椀・皿	11	84.6	
	壷・瓶	2	15.4	
	他・不明	0	0.0	
	小計	13	100.0	4.1
	総数	314		100.0

表６　瓦溜2313出土土器の構成（破片数）

器種	器形	破片数	比率(%)	
土師器	椀・皿	785	100.0	
	鍋・釜	0	0.0	
	炉・火鉢	0	0.0	
	他・不明	0	0.0	
	小計	785	100.0	95.5
瓦器	椀・皿	9	60.0	
	鍋・釜	4	26.7	
	壷・瓶	0	0.0	
	火舎・火鉢	0	0.0	
	他・不明	2	13.3	
	小計	15	100.0	1.8
須恵器・山茶椀	杯・椀・皿	0	0.0	
	鉢	0	0.0	
	壷・瓶	0	0.0	
	甕	2	66.7	
	他・不明	1	33.3	
	小計	3	100.0	0.4
白色土器	杯・椀・皿	2	100.0	
	高坏	0	0.0	
	盤	0	0.0	
	壷・瓶	0	0.0	
	他・不明	0	0.0	
	小計	2	100.0	0.3
瀬戸・美濃	椀・皿	1	100.0	
	鉢	0	0.0	
	壷・瓶	0	0.0	
	他・不明	0	0.0	
	小計	0	100.0	0.1
焼締陶器	甕	6	100.0	
	壷	0	0.0	
	擂鉢	0	0.0	
	盤・大皿	0	0.0	
	他・不明	0	0.0	
	小計	6	100.0	0.7
輸入陶磁器	椀・皿	9	90.0	
	壷・瓶	1	10.0	
	他・不明	0	0.0	
	小計	10	100.0	1.2
	総数	822		100.0

椀、149は山茶椀の椀である。150・151は白色土器の皿と高杯である。152は瓦器椀で、内面底部に渦巻状暗文を施す。153は瓦器鉢である。内面のみに粗いミガキを施す。

瓦溜2313出土土器（図版31・80、表６）　土師器皿、瓦器椀・皿・羽釜・鉢、須恵器甕、白色土器椀・皿、施釉陶器皿、焼締陶器甕、輸入磁器白磁椀・皿・壷、青磁皿など、総破片数822点の土器類が出土した。６Ｂ段階に属する土器群である。

154～172は土師器皿である。154～163は皿Ｎ小、164・165は皿Ｎ中、166～172は皿Ｎ大である。166は胎土にクサリレキを多量に含み、口縁部のヨコナデが緩く、底部と体部の境も不明瞭であり、他地域産と考えられる。173は白色土器の皿である。174は瓦器の皿で、内面底部に斜格子状暗文を施す。175・176は瓦器椀である。175は内面底部に平行線と長楕円の暗文を施す。177は施釉陶器の小椀である。口縁部内面のみ灰釉がかかる。底部は糸切りする。178は輸入磁器白磁皿、179・180は白磁椀である。

溝2230B北護岸出土土器（図版31・80）　土師器皿、白色土器高杯、瓦器椀・鍋・羽釜・盤、須恵器鉢・壷・甕、山茶椀鉢、焼締陶器甕・擂鉢、輸入磁器白磁椀・皿・壷、青磁椀・皿、青白磁椀・皿・合子・壷などが出土した。６Ｂ～６Ｃ段階に属する土器群である。

181～186は土師器皿である。181は皿Ss、182・183は皿Ｎ小、184は皿Ｎ中、185・186は皿Ｓである。187は白色土器の高杯、188は山茶椀の鉢である。188の鉢の内面底部は使用による磨滅が著しい。

溝2220B西護岸出土土器（図版31・80）　土師器皿、白色土器皿・高杯、瓦器椀・蓋・鍋・羽釜・盤、須恵器鉢・甕、山茶椀鉢、焼締陶器甕、輸入磁器白磁椀・皿、青磁椀・皿・壷などが出土した。６Ｃ段階に属する土器群である。

189・190は土師器皿である。189は皿Sc、190は皿Ｎ小であるが、190は胎土にクサリレキを多量含み、口縁部の歪みも著しいことから他地域産と考えられる。191は白色土器の皿、192は東播系須恵器鉢である。193は摘みの付く瓦器の蓋である。内外面ともに丁寧にミガキを施す。

溝2220B東護岸出土土器（図版32・80）　土師器皿、瓦器椀・皿・鍋・羽釜・盤、須恵器鉢・甕、山茶椀椀・皿、焼締陶器擂鉢・甕、輸入磁器白磁椀・皿、青磁皿、輸入陶器褐釉壷などが出土した。６Ｃ段階に属する土器群である。

194～207は土師器皿である。194～196は皿Ｎ小、197～201は皿Ｎ大、202・203は皿Sc、204

～205は皿Ｓである。207は体部は粗いナデで粘土紐接合痕が明瞭に残り、他地域産土師器皿と考えられる。208は白色土器の皿である。209は瓦器の皿、210は瓦器の椀である。210の椀は口縁端部のみ炭素吸着する。211は瓦器の盤である。底部外面に籾殻圧痕が付く。212は焼締陶器の備前産擂鉢である。体部は内湾する。7条1単位の擂り目を持つ。溝2230B北護岸出土の破片と接合した。213～216は輸入磁器である。213は白磁皿で、口縁端部の釉薬を掻き取る。214は白磁椀である。215は龍泉窯系青磁皿、216は同安窯系青磁皿である。

溝2230B南護岸出土土器（図版32・81） 土師器皿、白色土器椀・皿・高杯、瓦器椀・皿・鍋・羽釜・鉢・盤、須恵器鉢・甕、山茶椀椀・皿・鉢、焼締陶器甕、施釉陶器壷、輸入磁器白磁椀・皿・壷、青白磁椀、青磁椀・皿、輸入陶器施釉壷・盤などが出土した。６Ｃ段階に属する土器群である。

217～236は土師器皿である。217～222は皿Ｎ小、223～233は皿Ｎ大である。234は皿Sc、235・236は皿Ｓである。237は白色土器の皿、238は白色土器の高杯である。239は山茶椀の鉢、240は山茶椀の小皿である。241は瓦器の皿、242は体部外面に縦筋を入れる瓦器の輪花椀である。243～245は瓦器椀である。245は内外面に赤色顔料が少量付着する。246は瓦器の鉢で、内外面ともに黒漆が塗付されている。247は瓦器鍋、248・249は瓦器羽釜である。250は輸入磁器の白磁椀、251は白磁水注の注口である。252は輸入施釉陶器の盤である。口縁内外面と体部外面は明赤褐色の釉、体部内面は灰釉がかかる。胎土はやや粗い。破断面に黒漆が付着する。

溝2220B東護岸補修出土土器（図版33・81） 土師器皿、瓦器鍋・羽釜、須恵器鉢・甕、山茶椀鉢、焼締陶器甕、輸入磁器白磁椀、青磁皿・壷が出土した。７Ａ段階に属する土器群である。

253～257は土師器皿である。253は皿Sc、254は皿Ss、255・256は皿Ｓ、257は皿Ｎである。258は東播系須恵器鉢、259は瓦器羽釜、260は瓦器鍋である。261は輸入磁器の青磁耳付壷である。

溝2240南護岸出土土器（図版33・81） 土師器皿、須恵器鉢、山茶椀椀、輸入磁器白磁椀・青磁椀などが出土した。７Ａ～７Ｂ段階に属する土器群である。

262～267は土師器皿である。262は皿Ｎ小、263～265は皿Ｎ大、266・267は皿Ｓである。

１区整地層出土土器（図版33） 土師器皿、瓦器鍋などが出土した。６Ｃ段階に属する土器群である。

268～271は土師器皿である。268・269は皿Ｎ大、270・271は皿Ｓである。

土坑1109出土土器（図版33・81）土師器皿、須恵器鉢、瓦器盤などが出土した。７Ａ段階に属する土器群である。

272～291は土師器皿である。272～279は皿Ｎ小、280～285は皿Ｎ大、286は皿Sc、287～291は皿Ｓである。292は東播系須恵器の鉢、293・294は瓦器の盤である。

土坑1036出土土器（図版33） 土師器皿、須恵器甕、瓦器椀などが出土した。７Ａ～７Ｂ段階に属する土器群である。

295～309は土師器皿である。295～298は皿Ｎ小、299～307は皿Ｎ大、308・309は皿Ｓである。

溝2220・2230B出土土器（図版34～36・82・83、表７） 土師器皿・鉢・蓋、白色土器椀・皿・高杯、須恵器鉢・壷・甕・瓶、山茶椀椀・皿、瓦器椀・皿・鍋・羽釜・盤・火鉢・壷、焼締陶

器擂鉢・甕、施釉陶器椀・皿・壷、輸入磁器白磁椀・皿・壷、青磁椀・皿・鉢、青白磁椀・皿・合子、輸入陶器緑釉壷、褐釉盤など、総破片数9,245点の土器類が出土した。７Ａ～８Ａ段階に属する土器群である。機種別で見ると、瓦器の比率が10％を占め、他遺構と比較して高い。その中でも鍋・釜などの煮沸具の割合が高くなっている。また、輸入陶磁器類も2.5％を占め、器形のバリエーションが豊富である。

310～371は土師器皿である。310～328は皿Ｎ小で、口縁部に煤が付着するものが多い。329～340は皿Ｎ大、341～346は皿Sc、347～350は皿Ss、351～355は皿Sh、356～371は皿Ｓである。372は回転台整形で、底部糸切りの他地域産土師器皿である。373は土師器皿Acに高台を付けたもの。高台部は指頭圧痕が明瞭に残る。374は土師器の片口鍋である。胎土は非常に精良で、体部外面には煤が付着する。375～377はミニチュア土師器である。375は片口鍋、376は鍋、377は羽釜で、いずれも胎土は非常に精良である。378・379は土師器の羽釜である。379の胎土はやや粗い。380～382は土師器の鉢である。いずれも粘土紐接合痕が明瞭に残る。382は焼成前に底部穿孔する。383は灰釉陶器の椀である。体部外面に窪みがあり、輪花椀の可能性がある。混入品か。384は須恵器の片口鉢である。底部外面はヘラケズリ。底部内面は摩擦により平滑になる。体部内外面に赤色顔料が付着する。385は東播系須恵器鉢である。内面に部分的に赤色顔料が付着する。386は白色土器の皿である。387～389は山茶椀の小皿で、387・388は無高台である。390～393は山茶椀の椀である。394は山茶椀の鉢である。内面は摩擦により平滑になる。395は白色土器の皿である。396は施釉陶器の小椀である。口縁部に灰釉がかかる。397は焼締陶器の常滑産甕である。398・399は焼締陶器の常滑産片口鉢である。398は外面底部付近をヘラケズリする。400～403は瓦器椀である。400は内外面とも一部のみ炭素吸着する。401は無高台の椀で、口縁端部のみ炭素吸着する。402は外面の２/３と口縁端部内面のみ炭素吸着する。404は瓦器の鉢、405は瓦器の甕である。406は瓦器鍋、407・408は瓦器羽釜である。409・410は瓦器火鉢である。409は平面円形で低い脚が付く。410は平面隅欠き方形で、脚は付かない。411・412は瓦器風炉か。411は透かしが３箇所残る。３個１単位の菊花文スタンプを押す。412は透かしが３箇所残る。菊花文２個と梅文１個で１単位のスタンプを押す。413は瓦器火鉢の深いもので、平面形は輪花状になる。414は用途不明の瓦器である。砲弾型を呈し、中実で、外面は丁寧にヘラミガキする。底面は未調整で植物圧痕がつく。上端部がわ

表７　溝2220・2230B出土土器の構成（破片数）

器種	器形	破片数	比率(%)	
土師器	椀・皿	7580	99.1	
	鍋・釜	10	0.1	
	炉・火鉢	0	0.0	
	他・不明	61	0.8	
	小計	7651	100.0	82.7
瓦器	椀・皿	39	4.2	
	鍋・釜	821	89.0	
	壷・瓶	2	0.2	
	火舎・火鉢	15	1.6	
	他・不明	45	5.0	
	小計	922	100.0	10.0
須恵器・山茶椀	杯・椀・皿	42	13.1	
	鉢	114	35.5	
	壷・瓶	26	8.1	
	甕	83	25.9	
	他・不明	56	17.4	
	小計	321	100.0	3.5
白色土器	杯・椀・皿	4	67.0	
	高坏	2	33.0	
	盤	0	0.0	
	壷・瓶	0	0.0	
	他・不明	0	0.0	
	小計	6	100.0	0.1
瀬戸・美濃	椀・皿	5	62.5	
	鉢	0	0.0	
	壷・瓶	1	12.5	
	他・不明	2	25.0	
	小計	8	100.0	0.1
焼締陶器	甕	90	86.5	
	壷	8	7.7	
	擂鉢	2	1.9	
	盤・大皿	0	0.0	
	他・不明	4	3.9	
	小計	104	100.0	1.1
輸入陶磁器	椀・皿	170	73.0	
	壷・瓶	42	18.0	
	他・不明	21	9.0	
	小計	233	100.0	2.5
	総数	9245		100.0

ずかに立ち上がる。415～420は輸入施釉陶器である。415は壷などの破片と考えられ、内面は無釉、外面は灰釉に鉄絵を描く。416も壷の破片か。外面は白泥を塗り、線刻で花文を描き、緑釉をかける。内面にも緑釉がかかる。胎土は非常に精良である。417は緑釉壷の口縁部、418は鉄釉のいわゆる禾目天目椀である。419・420は盤である。いずれも外面は無釉、内面は薄緑色の釉がかかり、420は底部内面に鉄絵が描かれる。421～438は輸入磁器である。421～424は白磁皿、425～427は白磁椀である。428は白磁壷、429は白磁水注の注口部分である。430は青白磁の皿で、内面に草花文を陽刻する。431は青白磁の輪花皿である。432は龍泉窯系の青磁皿である。433は青磁椀である。内面底部の釉薬を輪状に掻き取る。掻き取った部分と、外面底部に漆が付着する。434は青磁杯である。内面はケズリで花弁を表現する。435も口縁端部の短く屈曲する形状から青磁杯と考えられる。436・437は青磁椀である。436は内面に片彫と櫛目で文様を描く。437は外面に片彫で蓮弁を描く。438は高麗青磁の鉄絵瓶である。肩部と底部に蓮弁文、体部に唐草文が描かれる。

4）室町時代の土器

溝2220・2230A出土土器（図版36・83、表８） 土師器皿・鍋、瓦器椀・皿・鍋・羽釜・火鉢、須恵器鉢・壷・甕、山茶椀椀・皿・鉢、白色土器皿・高杯、施釉陶器椀、焼締陶器甕・壷・擂鉢、輸入磁器白磁椀・皿、青磁椀・皿・壷など、総破片数1,805点の土器類が出土した。７Ｃ～８Ｂ段階に属する土器群である。溝2220・2230Bと同様に、瓦器の占める比率が高く、その中でも煮沸具の割合が高い傾向にある。

表８ 溝2220・2230A出土土器の構成（破片数）

器種	器形	破片数	比率(%)	
土師器	椀・皿	1519	98.9	
	鍋・釜	9	0.6	
	炉・火鉢	0	0.0	
	他・不明	8	0.5	
	小計	1536	100.0	85.1
瓦器	椀・皿	14	9.6	
	鍋・釜	103	70.5	
	壷・瓶	0	0.0	
	火舎・火鉢	2	1.4	
	他・不明	27	18.5	
	小計	146	100.0	8.1
須恵器・山茶椀	杯・椀・皿	2	3.1	
	鉢	13	20.0	
	壷・瓶	10	15.4	
	甕	16	24.6	
	他・不明	24	36.9	
	小計	65	100.0	3.6
白色土器	杯・椀・皿	1	50.0	
	高坏	1	50.0	
	盤	0	0.0	
	壷・瓶	0	0.0	
	他・不明	0	0.0	
	小計	2	100.0	0.1
瀬戸・美濃	椀・皿	1	20.0	
	鉢	0	0.0	
	壷・瓶	0	0.0	
	他・不明	4	80.0	
	小計	5	100.0	0.3
焼締陶器	甕	18	72.0	
	壷	2	8.0	
	擂鉢	0	0.0	
	盤・大皿	0	0.0	
	他・不明	5	20.0	
	小計	25	100.0	1.4
輸入陶磁器	椀・皿	24	92.4	
	壷・瓶	1	3.8	
	他・不明	1	3.8	
	小計	26	100.0	1.4
	総数	1805		100.0

畔2185出土土器（図版36） 土師器皿、瓦器羽釜・火鉢、須恵器鉢・甕、焼締陶器擂鉢・甕、施釉陶器椀・皿・壷、輸入陶磁器白磁皿、青磁椀・皿などが出土した。９Ｂ～９Ｃ段階に属する土器群である。

447は焼締陶器の鉢である。常滑産か。底部内面は摩擦により平滑になる。448・449は焼締陶器の備前産擂鉢である。448は８条１単位、449は10条１単位の擂り目が入る。450は美濃産施釉陶器のいわゆる天目椀である。451は輸入磁器の青磁椀である。

（3）瓦　類

今回の調査では、遺物整理箱約120箱分の瓦類が出土した。 瓦の種類は、軒丸瓦・軒平瓦・鬼瓦・道具瓦・丸瓦・平瓦と、刻印やヘラ記号を施した丸瓦・平瓦、塼などである。軒瓦の内訳は、軒丸瓦が297点、軒平瓦が308点、総数605点である。鬼瓦の出土点数は５点、道具瓦の出土点数は３点、刻印押捺の丸瓦１点・平瓦６点、ヘラ描きの丸瓦10点・平瓦20点、塼６点である。

なお、個々の瓦類の詳細については、付表２～５に掲載した。

１）軒瓦（図版37～59）

ⅰ．軒瓦の出土遺構（表９）

軒丸瓦・軒平瓦の遺構別の出土数は、表９の通りである。

溝2220・2230関連の遺構から、軒丸瓦193点、軒平瓦202点、計395点が出土した。軒瓦全体の出土量の約65％を占める。時期毎の内訳は表９に示した。

溝2220・2230以外の遺構では、瓦溜2313が軒丸瓦18点、軒平瓦26点の計44点、土坑2314が軒丸瓦10点、軒平瓦８点の計18点、土坑2316が軒丸瓦20点、軒平瓦が16点の計36点が出土しているが、他の遺構は10点以下である。

ⅱ．瓦当文様の分類（表10）

軒丸瓦　軒丸瓦は、瓦当文様により分類すると130種248点、小片または文様が不明瞭なため型式が認定できないものが49点ある。瓦当文様は、蓮華文・蓮華巴文・巴文に大別できる。

蓮華文は100種174点出土し、複弁蓮華文43種78点・単弁蓮華文50種79点・単復混合蓮華文４種４点、その他の蓮華文13点に分類できる。さらに、中房・蓮弁・間弁の形状及び外区の有無などにより細分できる。

蓮華巴文は３種３点出土し、内区の巴文の形状、外区の文様により分類できる。

巴文は27種71点出土し、巴文の巻き込み方向により右巻き巴文と左巻き巴文に分けられ、巴文の単位数、頭部・尾部の接続方法、及び外区の有無などにより分類できる。さらに笵の違いにより細分できる。

種類ごとの点数は、瓦30が６点、瓦37・59・61が５点、瓦39・43・70・84・117が４点で、他は１種３点以下と少ない。型式としては、山城産複弁蓮華文（瓦30・31、尊勝寺23型式）が８点、山城産単弁蓮華文（瓦43・44、円勝寺ER44型式）が５点、播磨産複弁蓮華文（瓦58～65、尊勝寺44・45型式）が20点、丹波産単弁蓮華文（瓦83～85、円勝寺ER29型式）が７点とやや多い。

軒平瓦　軒平瓦は、瓦当文様により分類すると176種274点、小片または文様が不明瞭なため型式が認定できないものが34点ある。瓦当文様は、唐草文・宝相華文・半裁花文・剣頭文・剣巴文・連巴文・幾何学文・文字文に分類できる。

唐草文は132種213点出土し、外行唐草文・内行唐草文・偏行唐草文などに分類できる。さらに、中心文の形・有無、唐草の形状及び外区の有無・形状などにより細分できる。

表９　軒瓦遺構別出土数量表

遺構の時期	遺構名	11世紀中葉		11世紀後葉～12世紀		12世紀代		13世紀代		時期不明		計
		軒丸瓦	軒平瓦	軒丸瓦	軒平瓦	軒丸瓦	軒平瓦	軒丸瓦	軒平瓦	軒丸瓦	軒平瓦	
Ⅱ-1期	ピット1101			1								1
Ⅱ-2期	土坑1066									1		1
Ⅲ期	1区 耕作溝群						1					1
	土坑1098					1					1	2
その他	1区 検出中				1							1
	1区 重機掘削中					2	1					3
Ⅱ-1期	溝2220・2230C			2	1	17	21		1	3	4	49
	土坑2233					1	1					2
	土坑2314			1		8	8			1		18
	土坑2316			4	1	11	14			5	1	36
	土坑2317					4	1			2		7
	土坑2327					1	2					3
	土坑2341					4	1					5
	土坑2343			1								1
	土坑2357					1						1
	ピット2329				1							1
	ピット2361					1						1
Ⅱ-2期	溝2220・2230			1		2	4	2	2			11
	溝2220・2230B			2	9	27	42	7	7	4	10	108
	溝2230B南護岸			1	3	21	20	9	2	10	3	69
	溝2230B北護岸				1	3	4		1		1	10
	溝2220B西護岸				1					1		2
	溝2220B東護岸			4	5	34	31	1	1	8	6	90
	溝2220東護岸修復					1	1					2
	溝2220・2230A	2		1	2	7	2		2	1	2	19
	溝2240		1			3	6	1	2	4		17
	溝2240南護岸						2					2
	溝2255							1				1
	溝2306					3	1					4
	土坑2232						1					1
	土坑2268				1							1
	土坑2271						1					1
	土坑2293									1		1
	土坑2303					1						1
	土坑2304		1				2					3
	土坑2326						1					1
	土坑2344						1					1
	土坑2346						1				1	2
	土坑2347					1			1			2
	土坑2351					1						1
	土坑2365						1					1
	瓦溜2313				2	16	17			2	7	44
Ⅲ期	2区 耕作溝群新		1			1	1		1			4
	2区 南北大溝群			1		1						2
	溝2137					1						1
	溝2209					1				1		2
	溝2212					1	1					2
	土坑2045					1						1
	畔2185		1			2	4		1	1	1	10
その他	断割(溝2220・2230関係)	1		2	1	14	10	1	1	4	1	35
	2区 耕作土					1						1
	2区 室町後期遺物包含層	1					2					3
	2区 写真清掃中			1								1
	2区 重機掘削中					4	2			1	1	8
	2区 あげ土					1	6					7
計		4	4	22	29	199	214	22	22	50	39	605

表10　軒瓦文様・産地別出土数量表

時期	種類	文様	山城	播磨	丹波	大和	讃岐	和泉	産地不明	計	
11世紀中葉	軒丸瓦	単弁蓮華文	3							3	4
		蓮華文	1							1	
	軒平瓦	偏行唐草文	1							1	4
		宝相華文	3							3	
11世紀後葉～12世紀	軒丸瓦	複弁蓮華文		6	1	4			1	12	22
		単弁蓮華文		4		3			3	10	
	軒平瓦	外行唐草文		10	4	3	1		3	21	29
		内行唐草文	1						1	2	
		偏行唐草文				1			1	2	
		唐草文							1	1	
		文字文				3				3	
12世紀代	軒丸瓦	複弁蓮華文	16	38	1				1	56	199
		単弁蓮華文	31	17	9				4	61	
		単複混合弁	3					1		4	
		蓮華文	9							9	
		蓮華巴文	3							3	
		巴文	54	7					1	62	
		文様不明	3	1						4	
	軒平瓦	外行唐草文	23	64	31				1	119	214
		内行唐草文	5							5	
		偏行唐草文	16	5					2	23	
		唐草文	12	2					1	15	
		宝相華文		3			1			4	
		半裁花文	1				1			2	
		剣頭文	30						1	31	
		剣巴文	5							5	
		連巴文	2	1						3	
		幾何学文	1	2						3	
		文様不明	4							4	
13世紀代	軒丸瓦	複弁蓮華文	5						5	10	22
		単弁蓮華文							2	2	
		蓮華文							1	1	
		巴文	7						2	9	
	軒平瓦	外行唐草文	3						10	13	22
		唐草文							2	2	
		剣頭文	3							3	
		剣巴文	1							1	
		幾何学文							1	1	
		文字文						1	1	2	
時期不明	軒丸瓦	単弁蓮華文							3	3	50
		蓮華文							2	2	
		文様不明							45	45	
	軒平瓦	外行唐草文							2	2	39
		唐草文							7	7	
		文様不明							30	30	
計			246	160	46	14	3	2	134	605	

外行唐草文は93種155点・内行唐草文は６種７点・偏行唐草文は17種26点、その他の唐草文は13種25点出土した。

宝相華文は４種７点出土し、華文の形状により細分できる。半裁花文は２種２点出土し、花文の形状により二つに分類できる。

剣頭文は23種34点出土し、陽刻のものと陰刻のものに分かれ形状により細分できる。連巴文は３種３点出土し、形状により細分できる。剣巴文は５種６点出土し、形状により細分できる。

幾何学文は４種４点出土した。文字文は漢字と梵字を配したもので３種５点出土した。

種類ごとの点数は、瓦156が９点、瓦242が８点、瓦219が５点、瓦170・195・210が４点とやや多いが、他は１種３点以下と少ない。型式としては、播磨産外行唐草文（瓦134～136）が５点、播磨産外行唐草文（瓦195～203、林崎三本松窯NH44型式）が18点、播磨産外行唐草文（瓦210～212、尊勝寺253型式）が６点、播磨産外行唐草文（瓦219～221、林崎三本松窯NH31型式）が７点、播磨産外行唐草文（瓦223～225、林崎三本松窯NH35～37型式）が５点、丹波産外行唐草文瓦235～239（円勝寺ER117型式）が８点とやや多い。

ⅲ．軒瓦の時期（表９）

軒瓦の時期は、瓦当文様や成形手法、及び同笵・同文瓦の出土した遺跡の年代などから判断できる。時期は、①平安時代中期後葉（11世紀中葉）、②平安時代後期初葉（11世紀後葉から12世紀）、③平安時代後期前葉から後葉（12世紀代）、④鎌倉時代（13世紀代）に分けられるが、時期が不明なものも少なくない。

①平安時代中期後葉（11世紀中葉）

平安時代中期後葉（11世紀中葉）と推定した軒瓦は、軒丸瓦４点・軒平瓦４点、計８点出土した。溝2220・2230A、溝2240、土坑2304などから出土した。

同笵・同文瓦は、高陽院池ＳＧ１－Ａ・法勝寺金堂回廊下層・平安宮などで確認した。

②平安時代後期初葉（11世紀後葉から12世紀）

平安時代後期初葉（11世紀後葉から12世紀）と推定した軒瓦の内、11世紀後葉とした軒瓦は、軒丸瓦18点・軒平瓦16点、計34点、11世紀後葉から12世紀とした軒瓦は、軒丸瓦４点・軒平瓦13点、計17点出土した。溝2220・2230関連遺構や瓦溜2313、土坑2316などから出土した。

同笵・同文瓦は、法勝寺金堂・法勝寺園池・法勝寺塔・円勝寺１次調査・平安宮真言院・最勝寺推定地・法成寺・薬師寺・興福寺などで確認した。

③平安時代後期前葉から後葉（12世紀代）

平安時代後期前葉から後葉（12世紀代）と推定した軒瓦は、軒丸瓦199点・軒平瓦214点、計413点出土した。溝2220・2230関連遺構などから多量に出土した。

当該期の軒瓦は、尊勝寺・鳥羽殿金剛心院・法金剛院・栢ノ杜遺跡円堂・法住寺殿などの出土瓦と比較し、時期を12世紀前葉・中葉・後葉に特定できるものもあるが、現段階では詳細な時期区分は難しい。

④鎌倉時代（13世紀代）

鎌倉時代（13世紀代）と推定した軒瓦は、軒丸瓦22点・軒平瓦22点、計44点出土した。溝2220・2230関連遺構、溝2240、土坑2347などから出土した。

同笵・同文瓦は、法勝寺・亀山殿・大覚寺・常盤仲之町遺跡・醍醐寺大智院・栢ノ杜遺跡円堂・水無瀬殿・東大寺・興福寺などで確認した。

ⅳ．軒瓦の産地（表10）

出土瓦類の生産地は、同笵瓦・同文瓦の出土した生産遺跡・周辺遺跡、及び瓦当文様系譜や成形技法の特徴などから判断した。産地は、山城・播磨・丹波・大和・讃岐・和泉などと推定できるが、産地が不明なものも少なくない。

山城国　山城産と推定できる軒瓦は、軒丸瓦135点・軒平瓦111点、計246点出土した。

瓦３・132は安井西裏窯で同笵瓦を確認した。瓦131は小野窯で同文瓦を確認した。瓦26・27・33・152・156は栗栖野窯で同笵瓦を確認した。瓦170・276は栗栖野窯で同文瓦を確認した。瓦24・32・94は南ノ庄田窯で同笵瓦を確認した。瓦168は南ノ庄田窯で同文瓦を確認した。

この他、瓦当文様系譜・成形技法などから、軒丸瓦２・22・23・25・28～31・34～50・91～93・95～111・117・118・124～126、軒平瓦133・153・167・169・171～186・256～275・277～281・285～291は、山城産と推定した。

播磨国　播磨産と推定できる軒瓦は、軒丸瓦73点・軒平瓦87点、計160点出土した。

瓦５・８・76・187・205は神出堂ノ前窯で同文瓦を確認した。瓦72・73は神出窯で類似瓦を確認した。瓦53・57・59・60・66・67・69・70・74・75・77～80・113・192・193・195～203・216・217・220・221・223～225・233・234は林崎三本松窯で同文瓦を確認した。瓦51・191・228は久留美窯で同文瓦を確認した。

この他、瓦当文様系譜・成形技法などから、軒丸瓦４・６・７・９～11・52・55・56・58・61～65・68・71・112・114～116、軒平瓦134～139・188～190・194・204・206～215・218・222・226・227・231・232・282～284は、播磨産と推定した。

丹波国　丹波産と推定できる軒瓦は、軒丸瓦11点・軒平瓦35点、計46点出土した。

瓦141・142は篠三軒家南窯で同文瓦を確認した。瓦238・240は、篠窯で同文瓦を確認した。瓦12は篠窯で類似瓦を確認した。

この他、瓦当文様系譜・成形技法などから、軒丸瓦81～85、軒平瓦140・235～237・239・241～248は丹波産と推定した。

大和国　大和産と推定できる軒瓦は、軒丸瓦７点・軒平瓦７点、計14点出土した。

大和産と推定できる軒瓦は、生産窯の確認はできないが、軒丸瓦13～17、軒平瓦143～145・147は、瓦当文様系譜・成形技法などから大和産と推定した。

讃岐国　讃岐産と推定できる軒瓦は、軒平瓦３点出土した。

軒平瓦148は西村１号窯で同文瓦を確認した。

この他、瓦当文様系譜・成形技法などから、軒平瓦252・253は讃岐産と推定した。

和泉国　和泉産と推定できる軒瓦は、軒丸瓦１点、軒平瓦１点、計２点出土した。

和泉産と推定できる軒瓦は、生産窯の確認はできないが、軒丸瓦86・軒平瓦306は、瓦当文様系譜・成形技法などから和泉産と推定した。

ｖ．軒瓦の分析

①平安時代中期後葉（11世紀中葉）

平安時代中期後葉（11世紀中葉）と推定した軒瓦は、軒丸瓦４点・軒平瓦４点で、全出土軒瓦の１％を占める。瓦は、すべて山城産で、安井西裏窯・小野窯などで生産された。

当該期の軒瓦は、白河地域では、円勝寺２次調査〔CB１〕で軒平瓦１点（瓦133）、法勝寺回廊下層〔上村ほか1987〕で軒丸瓦12点・軒平瓦12点、最勝寺推定地〔内田ほか1995〕で軒丸瓦１点が出土した[4)]。

当該瓦は、法勝寺回廊下層などでまとまって出土したことから、法勝寺造営前の藤原氏別業（白河院）の建物所用瓦と推定した〔上村1999〕。白河地域内では他の地域で確認されておらず、当地域で使用されたもの、または白河院所用瓦が隣接地に投棄されたと推定できる。

②平安時代後期初葉（11世紀後葉から12世紀）

平安時代後期初葉（11世紀後葉から12世紀）と推定した軒瓦は、軒丸瓦22点・軒平瓦29点で、全出土軒瓦の８％を占める。産地別の割合は、山城１点（２％）、播磨20点（39％）、丹波５点（10％）、讃岐１点（２％）、大和14点（27％）、不明10点である。

当該期の軒瓦は、白河地域内の法勝寺域内及び隣接地で確認し、同笵・同文瓦が円勝寺（１次～３次調査）、法勝寺金堂・園池、最勝寺推定地などで出土した。特に、播磨産軒丸瓦４～６と軒平瓦134～136のグループは、法勝寺金堂地域でまとまって出土した。

当該期の軒瓦は、円勝寺１次調査〔円勝団1972〕では軒丸瓦202点・軒平瓦140点中、軒丸瓦42点・軒平瓦９点で15％を占める。２次調査〔CB１〕では軒丸瓦363点・軒平瓦278点中、軒丸瓦19点・軒平瓦10点で５％を占める。３次調査〔CB２〕では軒丸瓦225点・軒平瓦181点中、軒丸瓦20点・軒平瓦10点で７％を占める。今回調査の出土比率は、２・３次調査と同様で、１次調査に比べると低い。

当該瓦は、白河地域内では法勝寺と近接地でしか確認されておらず、文献史料と考え合わせ、法勝寺創建時の所用瓦が、隣接地に投棄された結果と推定される〔上原1987〕。

③平安時代後期前葉から後葉（12世紀代）

平安時代後期前葉から後葉（12世紀代）と推定した軒瓦は、軒丸瓦199点・軒平瓦214点で、全出土軒瓦の68％を占める。

産地別の割合は、山城218点（53％）、播磨140点（34％）、丹波41点（10％）、讃岐２点（0.5％）、和泉１点（0.2％）、不明11点である。山城産と播磨産の比率は、軒丸瓦では119点：63点、軒平瓦では99点：77点と、山城産の占める割合がいずれも播磨産よりやや多い。他の丹波産・讃岐産は少なく、和泉産は極少量である。

播磨産軒瓦では、複弁蓮華文（瓦58～65、尊勝寺44・45型式）と、外行唐草文（瓦195～203、

林崎三本松窯NH44型式）が比較的まとまる。山城産軒瓦では、複弁蓮華文（瓦30・31、尊勝寺23型式）と、外行唐草文（瓦152・153・156）のグループがまとまり、巴文（瓦94～111）・剣頭文系（瓦256～277）のグループが比較的まとまる。

④鎌倉時代（13世紀代）

鎌倉時代（13世紀代）と推定した軒瓦は、軒丸瓦22点・軒平瓦22点で、全出土軒瓦の７％を占める。

産地別の割合は、山城19点（43%）、和泉１点（２%）、不明24点である。

当該期の軒瓦は、白河地域内では法勝寺・尊勝寺域などで出土した。白河地域以外では、亀山殿・大覚寺・水無瀬殿などで出土した。文献史料と考え合わせ、法勝寺建暦年間（1211～1213）再建の所用瓦が、隣接地に投棄された可能性が高い。

２）鬼瓦・道具瓦（図版60）

鬼瓦は５点出土した。文様は、いずれも鬼面文で、瓦311が手捏ね、他は笵型を使用して成形する。時期は、瓦309が平安時代前期から中期、他は平安時代後期（12世紀代）と推定できる。産地は、瓦307・308が播磨産と推定でき、瓦307は玉津田中遺跡で類似瓦を確認した。他は産地不明である。

道具瓦は３点出土した。瓦312は用途不明、瓦313・314は雁振瓦である。

３）刻印押捺瓦・ヘラ記号瓦（図版61・62）

刻印押捺瓦は、丸瓦１点、平瓦６点出土した。時期は平安時代後期（12世紀代）と推定でき、山城産のものが多い。

ヘラ記号瓦は、丸瓦10点、平瓦20点出土した。軒瓦の中にもヘラ記号を施した瓦が多数認められる。時期は平安時代後期（12世紀代）と推定でき、山城産と播磨産のものが見られる。

４）塼（図版63）

塼は６点出土した。塼１～３は敷塼で、塼３は側面に文様を押捺する。塼４・５は心材用の塼で４は中央に孔を設ける。塼６は上面が平坦で両側が垂下する。用途不明。上面にヘラで記号を描く。時期は平安時代後期（12世紀代）から中世と推定できる。

（４）土製品（図８・９、図版89・90、付表６）

土製品には、鞴羽口や土製円塔、硯、土製塔などがある。鞴羽口は４点、土製円塔は11点出土した。出土遺構や詳細は付表５にまとめた。

土１～４は鞴羽口である。すべて心棒作りで、外面はナデで仕上げ、土３は外面にユビオサエ痕が明瞭に残る。土１と土２は基部に溶解した鉄分が厚く付着する[5)]。土３と土４は基部を欠損する。

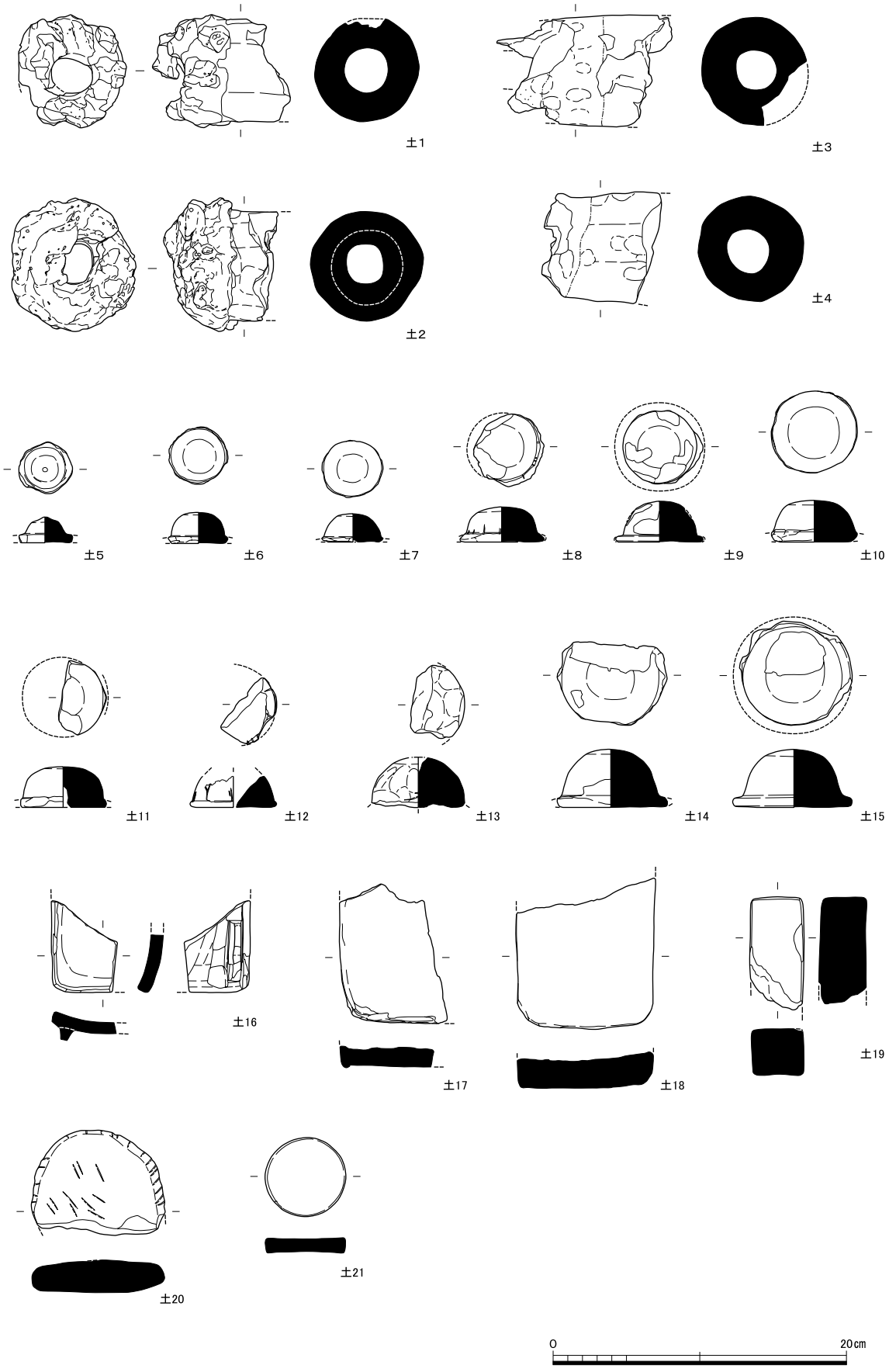


図８　土製品実測図１（１：４）

土５～15は土製円塔である。小型のもの（土５～７）、中型のもの（土８～13）、大型のもの（土14・15）がある。土５は他の土製円塔と異なる特徴をもつ。円塔頂部を尖らせ、円塔部が小型であるのに対し、鍔部分が厚い。また、土６～12・14・15は表面に釉薬がかかる、もしくはかかっていた痕跡があるが、土５・13は釉薬がかかっていた痕跡が認められない。土13は胎土が粗く、円塔部は強いナデの痕跡がある。土８・12・14・15は裏面にも釉薬がかかる。

土16は風字硯の陸部である。裏面と脚部はケズリで整形する。陸部は使用により平滑になる。陸部、側面、裏面すべてに墨が付着する。焼成は非常に堅致である。

土17・18は瓦質製品で、形状から硯の可能性がある。土17は表面が剥離するが、側縁が上下に拡張する。側面と裏面はナデ、端面は未調整である。土18も表面は剥離するが、側縁が上方に拡張する。裏面端部付近には粘土剥離痕があり、脚が取り付いていた可能性がある。裏面はナデ、側面はナデのちヘラミガキか。

土19は角柱状土製品である。型作りで表面は全面ナデで仕上げる。胎土は砂粒を多く含み、粗い。

土20・21は円盤状土製品である。土20は手捏ね整形で、表面と側面にヘラ状工具による刻み目が付く。土21は型作りで、表裏面、側面ともにナデにより平滑に仕上げる。

土22は瓦質の土製塔である。屋蓋部の破片で、上面中央に方形平坦面があることから、塔形の最上層部にあたる。上面方形平坦面（一辺８cm）は露盤用で、中心に穴（径0.4cm・深さ４cm）があ

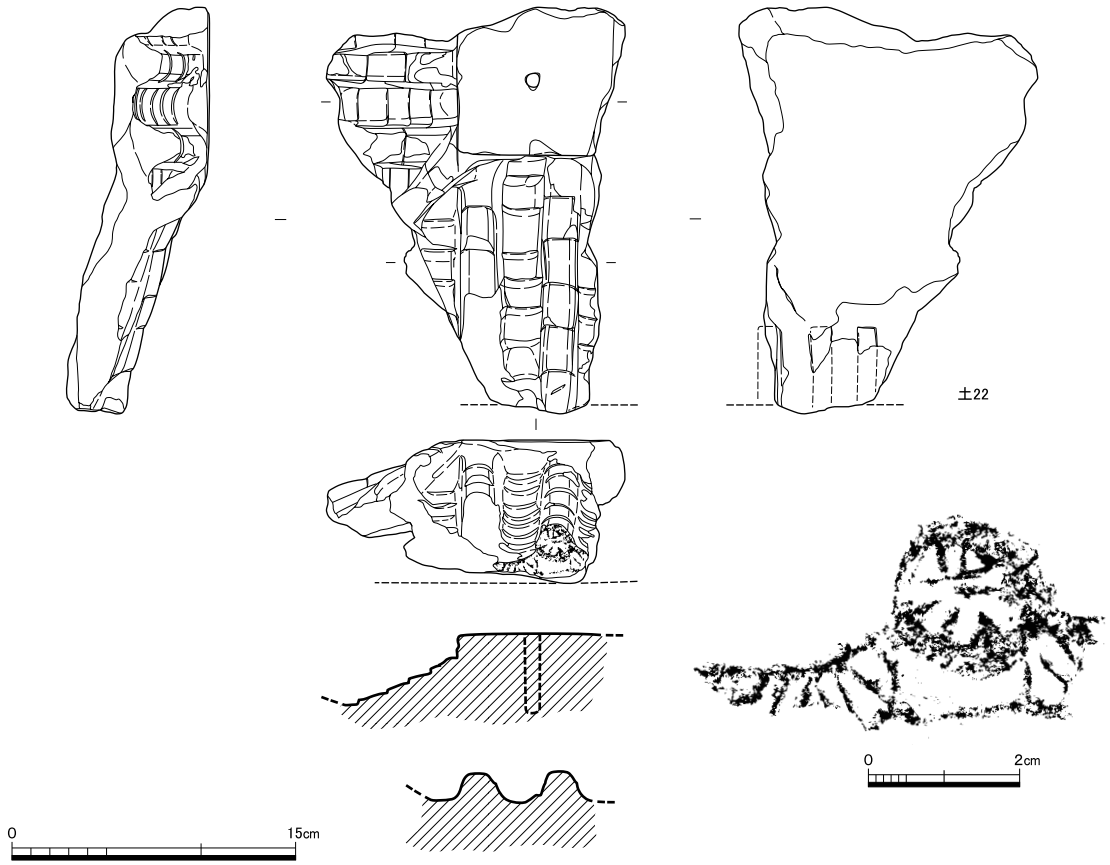


図９　土製品実測図２（１：４、１：１）

るが貫通はしていない。屋蓋部平面は方形（一辺36㎝）と推定でき、上面四方に隅降棟（幅1.8㎝）がある。丸瓦筋（幅２㎝）が２＋２本、平瓦筋（幅1.5～２㎝）が３＋１本残存する。復元すると、瓦筋は平行で、一辺に丸瓦筋７本、平瓦筋８本である。瓦枚数は、丸瓦筋で丸瓦５＋軒丸瓦１、平瓦筋で平瓦７＋軒平瓦１である。裏面平坦で、周辺部に平行地垂木（幅１㎝）を表す。裏面中央部は剥離し、軸部（箱形壁体）のあたりは確認していないが、地垂木の残存状況から軒の出は約４㎝と推定でき、軸部は方形（一辺約28㎝）と考えられる。

全体の成形は、粘土塊の手捏ねで傘形とする。傘形の上面に棒状粘土を貼り付け、隅棟・丸瓦筋とし、上面を逆Ｕ字形で押し引きし、段を付け行基丸瓦継目（約２㎝間隔）を表す。丸瓦間の平坦部は半月形で押し引きし、平瓦継目（約1.5㎝間隔）を表す。軒瓦の瓦当面はヘラで押さえて瓦当文様を表す。瓦当文様は、軒丸瓦が蓮華文（径1.6㎝）、軒平瓦が剣頭文と考えられる。裏面はヘラの押引きで垂木を表す。

土製塔はこれまで全国で約240以上の遺跡で確認されている[6)]。瓦の表現方法は、棒状粘土を貼り付け丸瓦・平瓦を表すものと、半裁竹管押し引きにより丸瓦のみを表すものに分類される。前者は近畿・東海・長野地域で多く見られ、後者は関東・北陸などで多く見られる。丸瓦・平瓦共に瓦一枚一枚を表現した例には、埼玉県勝呂廃寺、愛知県音楽寺遺跡、岡山県鬼ノ城遺跡があり、勝呂廃寺例に類似する。軒瓦に文様を付ける例は、岡山県神力寺廃寺・備中国分寺、京都府瀬後谷瓦窯に見られる。本資料は、斗束が無いため詳細な時期は不明であるが、瓦表現方法や成形技法から奈良時代から平安時代の例に相当する。屋蓋部の大きさは瀬後谷１例と同様である。生産地は不明である。

（５）木製品（図版65・90・91、付表７）

木製品には、部材や漆器、刀の鞘、箸、火付け木、籌木、羽子板状木製品などがある。主に溝2220・2230から出土した。特に、溝2220Bと溝2230Bが接続する屈曲部からの出土が多い。箸や火付け木、籌木と考えられる棒状の木製品は大量に出土したが、そのうち遺存状態の良好なものを図化した。

木１・２は建物内部の須弥壇などの装飾部材と考えられる。木１は雲形透かしを連続して入れる。木２は、薄板を「レ」字状に加工し、表裏面ともに縦横に線刻する。

木３は横櫛である。背が丸みをもち、歯の間隔は密で57枚が残る。

木４は漆器鉢である。内外面とも黒漆塗りの地に朱漆で梅鉢文を描く。

木５・６は小刀の鞘である。木５の刃の差し込み部には錆が付着する。木６は組み合わせ式の鞘で、目釘穴に目釘が刺さった状態で残る。

木７は火箸の柄である。先端を加工し、木の芯部分に径4.5㎜の孔を貫通させる。孔には錆が付着する。

木８～10は毬杖の毬である。木８は両端を細かく削り加工し、木９は全面を細かく削り加工して球形にする。木10は全面削り加工するが、削りの単位はやや粗い。

木11・12は一木作りの下駄である。木11は四周を欠損するが、前孔がのこる。木12は前孔と右後孔がのこる。

木13・14は刀形木製品である。木13は刃の一部、木14は刃と茎がのこる。

木15・16は折敷の底板、木17は曲物の底板か。

木18は杓子形木製品である。

木19・20は楔形木製品である。断面方形に加工し、先端を削り細くする。側面には２箇所の貫通しない穴があく。穴の平面形は隅丸方形で、断面形が先細りする形状であることから釘穴の可能性がある。

木21・22は箆状木製品である。薄板状に加工し、先端を尖らせる。

木23～29は火付け木で、先端に焦げ跡が残る。棒状のものと板状のものがある。木26は下端に３条の刻みがある。木27は箸の転用か。

木30～37は箸である。いずれも丁寧に面取りし、両端を尖らせる。

木38～45は籌木である。

木46は大型の羽子板状木製品である。ほぼ完形で、板部表裏面ともに焦げ痕がつき、板部表面には刃傷状のものがつく。柄部分側面には左右に互い違いに刻みが入れられる。

木47は建築部材か。２箇所に孔が貫通する。

（６）石製品（図版66・91、付表８）

石製品には、滑石製石鍋とその転用品、砥石、硯、石斧などがある。石鍋は転用品も含めると、破片数で31点出土し、そのうち23点が溝2220・2230関連の遺構からの出土である。砥石は破片数で30点出土し、そのうち13点が溝2220・2230関連の遺構からの出土である。石鍋と砥石は遺存状態の良好なものを図化した。

石１～10は滑石製の石鍋とその転用品である。石２は片方の側面と下端を切って二次加工する。二次加工面も含め、全面に煤が付着する。石７～石10も転用品である。石７は二次加工された片側面と上端が残り、穿孔が１箇所ある。石８は二次加工面が両側面と上端の３箇所残る。内面が浅く窪み、硯に転用された可能性がある。石９は両側面、上下端を切って二次加工した小型品である。石10は二次加工面が残存しないが、穿孔が２箇所ある。

石11～27は砥石である。石11～18は小型の砥石で、そのうち石11～16は白色頁岩系の仕上げ砥石、石17は砂岩の荒砥石、石18は凝灰岩系の中砥石である。石19～26は中～大型の砥石である。石21・22が白色頁岩系の仕上げ砥石、石19・20・25が凝灰岩系の中砥石、石24が青黒色系粘板岩の中砥石、石26は砂岩の荒砥石である。石23は滑石製で、上端を斜めに切り落とす。中砥石か。石27は凝灰岩系砥石の転用品と考えられ、表裏面ともに、１箇所の貫通しない穿孔がある。

石28は青黒色系粘板岩の硯もしくは砥石と考えられる。石29は黒青色系粘板岩の硯である。陸部の一部が残る。

石30は太型蛤刃石斧と考えられる。刃部を欠損する。基部には叩打痕が認められる。

（7）金属製品（図10、図版91、付表９）

金属製品には、風招、椀形滓、銭貨、鉄釘、煙管がある。鉄釘と煙管は江戸時代の遺構から出土した。それ以外の金属製品は平安時代後期から鎌倉時代の遺構から出土した。銭貨は９枚出土し、１区から出土した金７を除く８枚は溝2220・2230関連遺構から出土した。

金１は、風鐸に吊るす飾り板の風招である。板部分は鉄製で、銅製の縁が付く[7)]。縁は銅板を折り曲げてはさみ、上下を鋲で止める。金２は、椀型滓である。これ以外に、溝2230Cからも椀型滓の破片状のものが１点出土している。

金３～11は銭貨である。金３の開元通寶以外は北宋銭である。

（8）その他の遺物

溝2220・2230関連遺構から、赤色顔料が出土した。分析の結果は付章２参照[8)]。

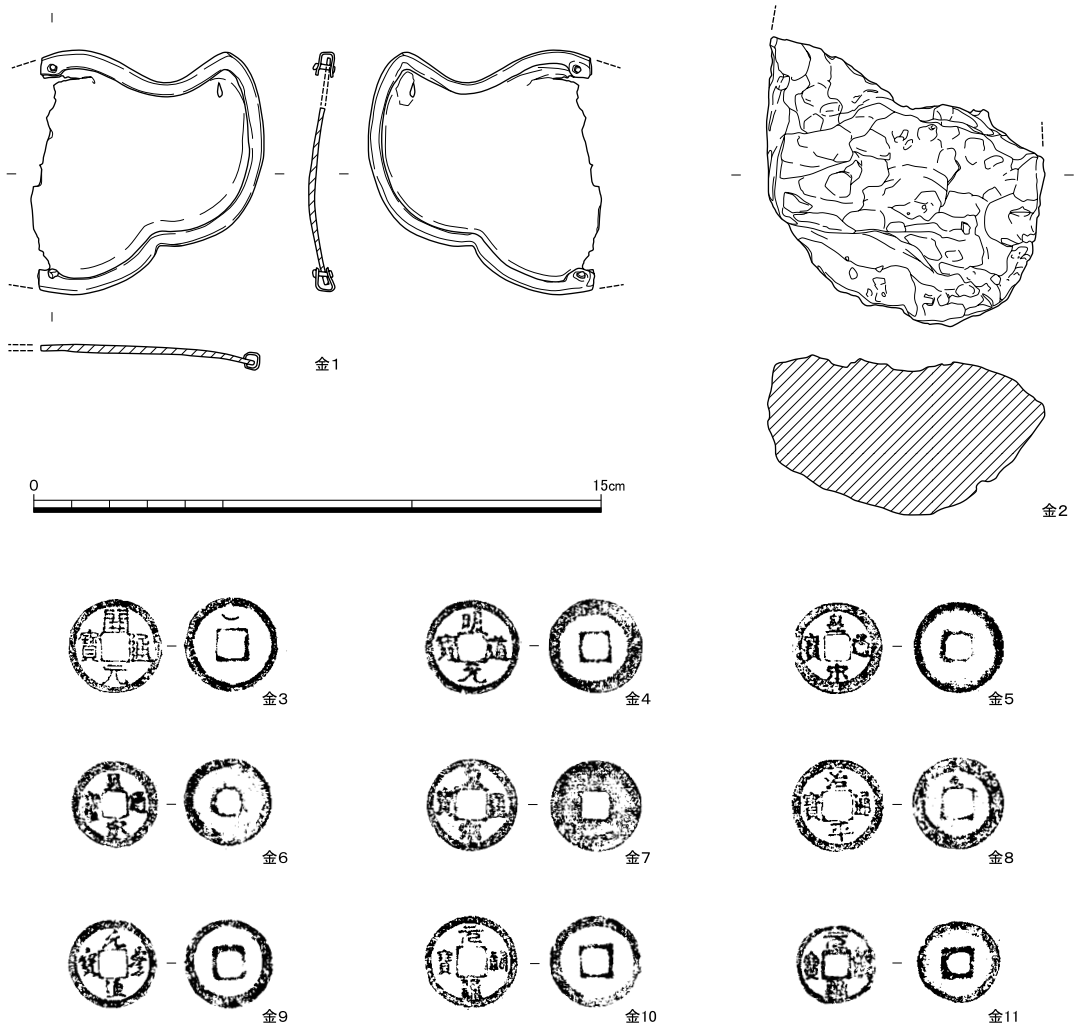


図10　金属製品実測図・銭貨拓影（１：２）

註

1） 森岡秀人「山城地域」『弥生土器の様式と編年－近畿編Ⅱ－』木耳社　1990年を参考にした。

2） 平安時代以降の土師器皿の型式・年代については、平尾政幸「土師器再考」『洛史　研究紀要　第12号』 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所　2019年発行予定に準拠する。

750年			840年			930年			1020年			1110年	1170年		1260年			1350年	1410年		1500年			1590年			1680年	1740年	1800年	1860年
1			2			3			4			5	6			7			8	9			10			11			12	13	14	
A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A B	A	B	C	A	B	C	A B	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A B	A B	A B

その他土器類の参考文献は、中世土器研究会編『概説　中世の土器・陶磁器』真陽社　1995年、太宰府市教育委員会編『太宰府市の文化財　第49集　大宰府条坊跡ＸＶ－陶磁器分類編－』太宰府市教育委員会　2000年、『角川　日本陶磁大辞典』角川書店　2002年

3） 墨書土器の釈読は、京都大学の西山良平名誉教授、京都産業大学の吉野秋二教授、大阪大谷大学の竹本晃講師から御教示を得た。

4） 「（3）瓦類」中の参考・引用文献は付表２～４ 瓦観察表 備考欄の参考文献一覧と対応。

5） 蛍光Ｘ線分析による。分析は龍谷大学北野信彦教授に依頼し、結果について御教示を得た。

6） 土製塔に関する参考・引用文献は以下の通り。
高崎光司「瓦塔小考」『考古学雑誌』第74巻第３号　日本考古学会　1989年、石井清司「瀬後谷出土の土製塔」『京都府埋蔵文化財調査研究センター報告書第27冊－奈良山窯跡群－』財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター　1997年、松本修自「小さな建物－瓦塔の一考察」『文化財論叢』奈良国立文化財研究所創立30周年論文集　同論文集刊行会　1993年、石田成年「摂河泉の瓦塔」『河内古文化研究論集』柏原市古文化研究所　1997年

7） 前掲註５に同じ。

8） 前掲註５に同じ。

4．まとめ

今回の調査では、２面３時期の調査を行い、弥生時代から江戸時代までの遺構を検出した。中でも、２区で見つかった大規模な南北方向の溝2220と東西方向の溝2230は、鎌倉時代の強固な護岸工事や出土遺物の内容から見て、六勝寺に関わる施設である可能性が高く、平安時代から室町時代までの長期間に渡って維持管理された溝であることが明確となったことは大きな成果である。今後、2017年度に実施予定の京都市美術館第４期調査において、今回調査地と第１期と第２期調査区の間を調査予定であり、遺構群の性格や変遷については、その成果を待って総括を行うことになるが、ここでは、一先ず第１期・第２期調査[1)]と今回の第３期調査成果から見た各時期の遺構の変遷をまとめる。

Ⅰ期〔弥生時代から古墳時代〕（図11）

今回の調査では、１区で流路1126を検出した。この流路は、第１期調査検出の湿地460、第２期調査検出の流路1100と同遺構であり、北東から南西に流れる自然流路の南東肩部の澱み部分と考えられる。この自然流路は京都市美術館の北東側の調査でも検出されている[2)]。今回調査した流路1126からは、古墳時代初頭の土器が微量出土したのみであるが、第１期調査では、西肩部から弥生時代後期から古墳時代初頭の土器が多量に出土しており、流路の北西側に集落が存在した可能性が高い。また、第２期調査でも、弥生時代後期から古墳時代後期の土器が流路の両岸から出土しており、自然木と杭で土留めした護岸1215が東岸で検出されていることなどから、南東側にも別の集落か時期の異なる集落が存在したことが推測される。

また、この流路の北西部では、第１期調査で、北から南西方向に向かって弧状に延びる溝459が検出されている。断面形状や堆積状況から人工的に掘削された溝と考えられ、集落を取り囲む環濠、あるいは自然流路と集落間の水を処理するための溝である可能性などが考えられている。古墳時代初頭の土器がまとまって出土しており、溝の北西側にこの時期の集落が展開していたと考えられる。今回の調査でも、２区で人工的に掘削されたと考えられる溝2250が検出された。第１期調査の溝459とは弧状の向きが逆で、出土遺物も溝459のものよりはやや古い弥生時代後期後半であることから、第１期調査北西部に想定される集落とは異なる時期の集落がこの溝2250の南側に展開していた可能性が高い。

つまり、第１期調査から第３期調査の成果だけでも、自然流路の北西側と南東側、溝2250の南側の３箇所に時期の異なる集落の存在が想定でき、岡崎遺跡の中での集落変遷を考える重要な手がかりを得ることができたといえよう。

Ⅱ－１期〔平安時代〕（図12）

今回の調査では、２区で南北方向の溝2220Cを検出した。この溝は、第１期調査の溝327、第２期調査の溝900と同遺構であり、その検出長は約100ｍとなる。幅は3.0～4.2ｍあり、一部に杭や

Ⅰ期〔弥生時代から古墳時代〕

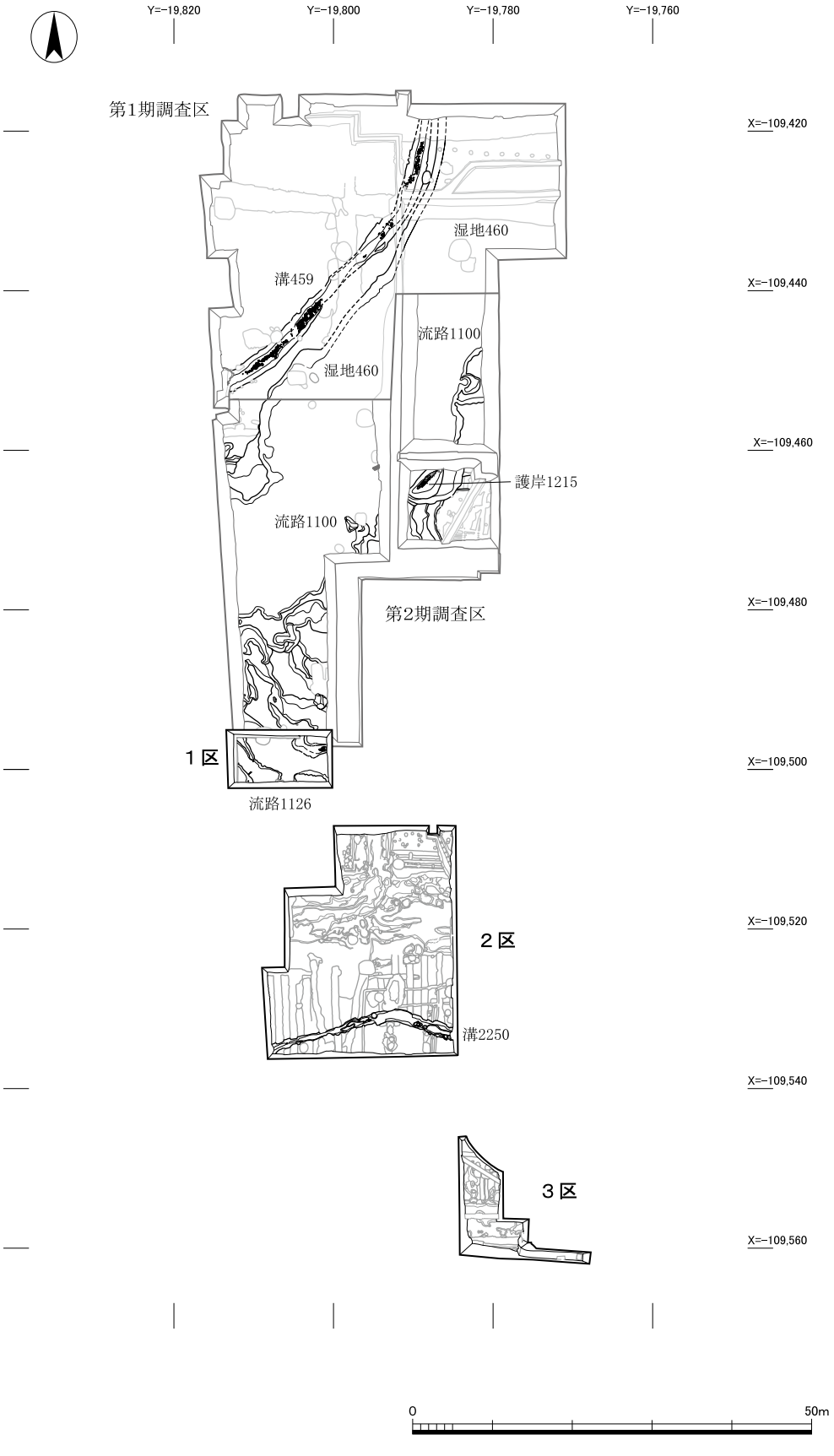


図11　遺構変遷図１（１：800）

土を用いた護岸状堆積が確認できるが、基本的には素掘り溝で、埋土からは12世紀後半代の遺物が出土している。第１期・第２期調査では、この溝の西で11世紀後半代の遺物が出土する溝302と溝1000が検出されている。今回調査地では検出されていないが、この溝は、方位が北に対してわずかに西に振れをもつため、第２期調査でも南半では溝900に削平されており、今回も溝2220Cの西肩に削平されたと考えられる。南北溝の開削は11世紀代に遡る可能性が高く、その溝が掘り直しや改修を繰り返しながら長く維持されたとみられる。

今回の調査で、この南北溝は屈曲して、東西溝2230Cとなり西側調査区外へと続くことが判明した。西側延長部では、1992年の調査[3)]で平安時代から室町時代の遺物を含む幅４ｍの東西溝が検出されており、それと同遺構である可能性が高い。また、第１期調査北端では、東西方向の溝627・658と接続することが確認されている。溝底の標高から見て、第１期溝627・658→第１期溝327→第２期溝900→溝2220C→溝2230C→1992年調査東西溝という水の流れが想定される。地形的に見ても北東から南西に低くなっており、地形を生かした形で水を排水する白河街区の基幹排水路として掘削された溝の可能性を考えたい。

その他、第１期・第２期調査と今回の調査を含め、12世紀代の多数の井戸や柱穴が検出されたが、寺院の主要建物伽藍に想定できる遺構は確認されていない。今回の調査で検出した土取り穴の可能性がある２区北東部土坑群や３区土坑3007は寺院造営に関わる遺構である可能性がある。

Ⅱ－２期〔鎌倉時代から室町時代前期〕（図13）

今回の調査では、２区で前時期の溝2220・2230Cを改修した溝2220・2230Bを検出した。

溝2220Bは、溝2220Cの両岸を埋めて石で護岸する。石の裏込めには多量の土器や瓦類が含まれる。溝2220Bは、第１期調査の溝327新[4)]、第２期調査の溝840と同遺構と考えられる。溝840も両岸を石で護岸する。また、溝2230Bも溝2230Cの肩を埋めて礫と土、杭などで護岸される。護岸された時期は、裏込めから出土した遺物から13世紀第２四半期と考えられる。この溝2220Bは、13世紀後葉に一度補修され、14世紀末頃に小規模な溝2220・2230Aに作り替えられる。溝2220・2230Aは15世紀前葉に埋まるが、南北溝が開削されたのが11世紀後半とすると、約350年に渡って維持管理されたことになり、当地にとって重要な溝であったことがわかる。また、13世紀代には、東西溝2240が掘削され、東側からも溝2220・2230に水を流し込んでいたことがわかる。

13世紀第２四半期の溝2220・2230の大規模な改修の契機としては、承久元年（1219）の火災後の白河街区復興との関連が推測される。承久元年は、４月に尊勝寺の塔と円勝寺の塔３基や鐘楼、西面門、金剛勝院などを焼いた火災[5)]、11月に白河殿辺りを出火元とし、成勝寺・延勝寺・最勝寺・証菩提院などを焼いた火災[6)]が相次いでいる。それらの火災の後処理や復興のため、調査地一帯が再整備されたのではないだろうか。護岸裏込めからは、白河街区の各寺院や院御所で出土する多種多様の軒瓦が出土しており、廃瓦が集められた可能性が考えられる。火災処理土坑と考えられる焼け瓦を多量に含む瓦溜2313も溝2220Bの南東で見つかっている。さらに、溝2220・2230の裏込めや埋土からは、寺院の塗料であるベンガラ、鞴羽口や砥石、漆や赤色顔料の付着する土器などの道具

Ⅱ－１期〔平安時代〕

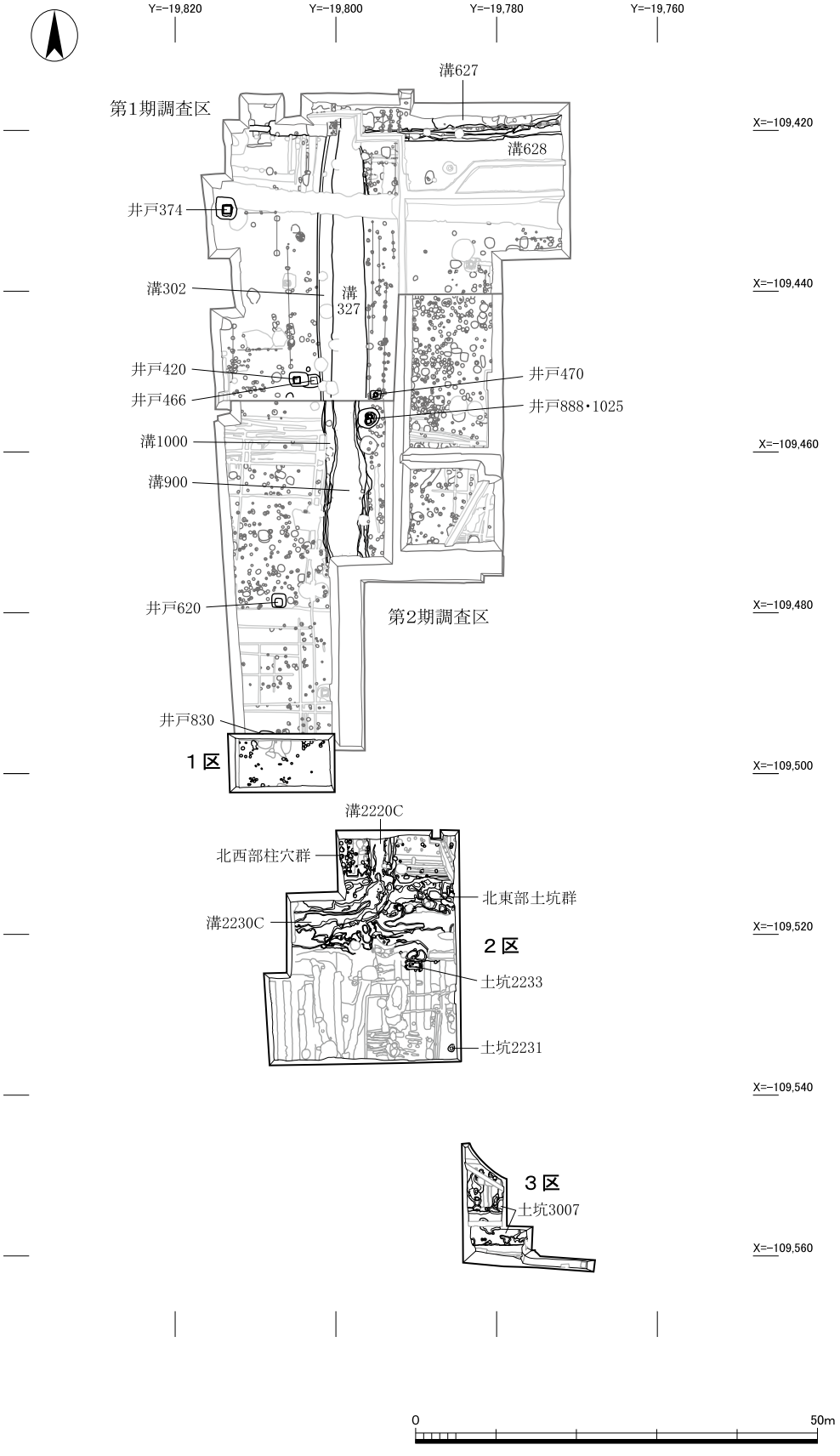


図12　遺構変遷図２（１：800）

Ⅱ－２期〔鎌倉時代から室町時代前期〕

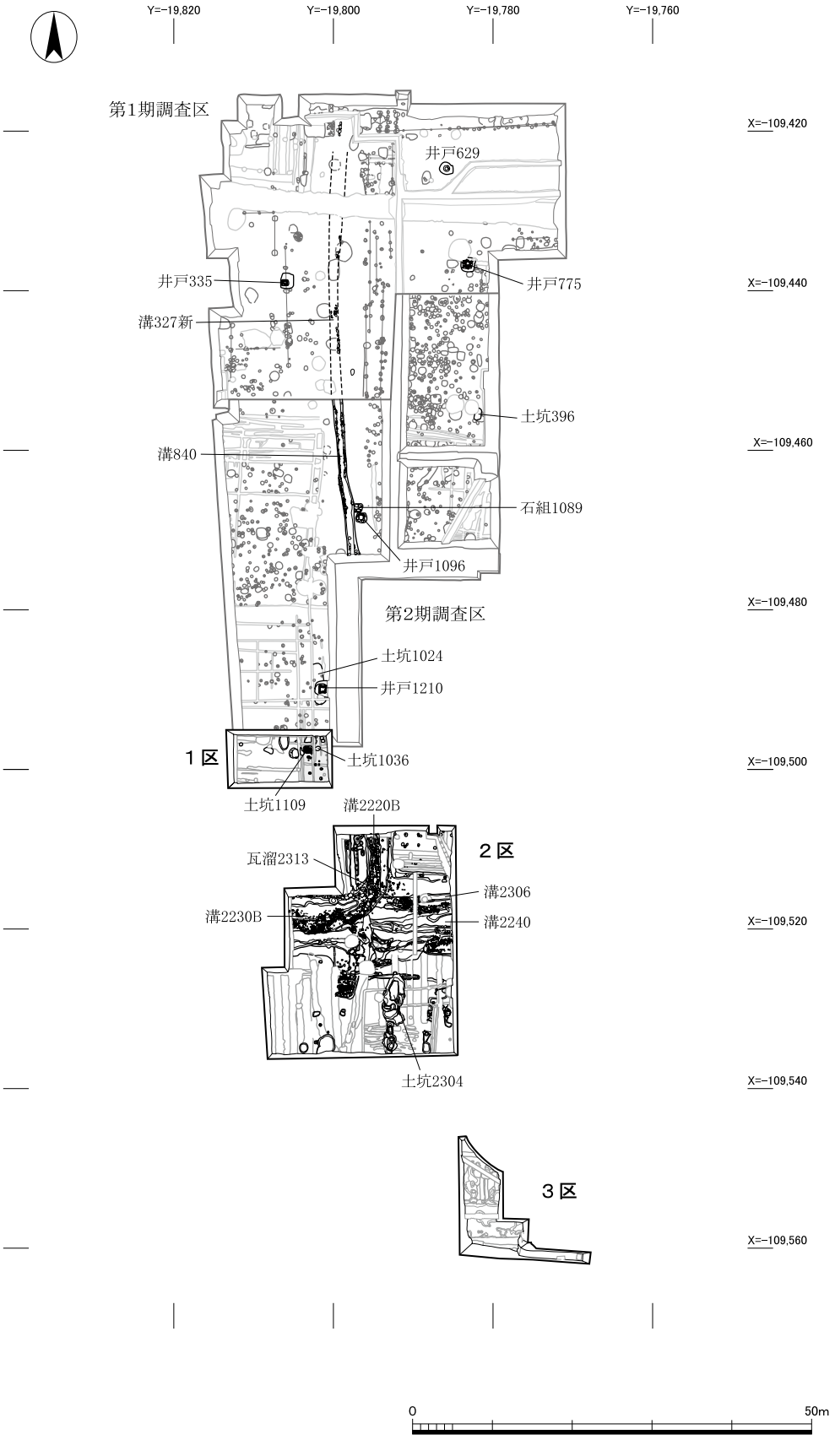


図13　遺構変遷図３（１：800）

類のほか、箸や籌木などの多量の木製品、鍋・釜などの瓦器の煮沸具など、多数の人が生活した痕跡とみられる遺物が出土しており、南北溝の両岸でみつかっている小規模な柱穴からなる建物や井戸は、寺院や院御所の修理やその後の維持管理を行う施設群であったと推測される。

大規模な南北溝については、第１期・第２期調査時には、円勝寺と成勝寺の寺域を限る溝ではないかとの指摘があったが、溝の開削が円勝寺・成勝寺の創建より古く、11世紀代に遡ることや、溝の両側に寺院の維持管理に関わる拠点が設けられたとすれば、円勝寺や成勝寺の寺域中心部からは外れている可能性が高い。2017年度に実施する第４期調査では、美術館敷地の東半でも調査が予定されており、その調査成果を待って、再度、円勝寺や成勝寺の位置についても検討を行いたい。

Ⅲ期〔室町時代後期から江戸時代〕（図14）

今回の調査では、２区北半で15世紀後半に埋まる南北溝2212、２区南半で南北溝2212とつながる可能性の高い南北溝2209・2218を検出した。溝2212は第１期調査の溝326、第２期調査の溝440と同遺構であり、Ⅱ－２期までの南北溝を踏襲する溝と考えられるが、この時期になると西に屈曲せず、南の調査区外に延びる。さらに、15世紀後半に溝を埋めた後、その上が畔2185となり畔上面には礫敷2088が構築される。この畔は、第２期調査の南壁断面でも確認されている。白河街区の寺院群は、応仁・文明の乱により焼亡し、荒廃したとされるが、寺院荒廃後も平安時代に掘削された南北溝が踏襲され、土地境として機能し続けていたことが判明した。畔の東西には耕作溝が掘削される。耕作溝は重複関係が激しいが、今回２区南東で検出した耕作溝群古からは15世紀から16世紀前半の遺物が出土しており、寺院群の衰退とともに耕作地に移行したことがわかる。それ以後は、遺構・遺物の出土状況からみて、耕作地であった時期が続いたと考えられるが、19世紀後半になって２区では井戸2084・2085や南北大溝群、３区の溝3004・3005が構築される。これは、江戸時代末期に当地に造営された加州屋敷（加賀前田藩邸）に関連する遺構と考えられる。

２区・３区ではそれらの遺構は、明治18年（1885）からはじまった琵琶湖疏水の掘削に伴うと考えられる厚い砂で覆われ、その後、それに合わせて敷地全体が嵩上げされて、現在の地形に近い状態になったとみられる。当地にはその後、明治42年（1909）に京都商品陳列所が建てられ、それが昭和８年（1933）に大礼記念京都美術館に建て替えられ、現在に至る。第１期調査では、明治期の遺構も検出されているが、それらの性格や時期については、第４期調査の成果とまとめて報告したい。

Ⅲ期〔室町時代後期から江戸時代〕

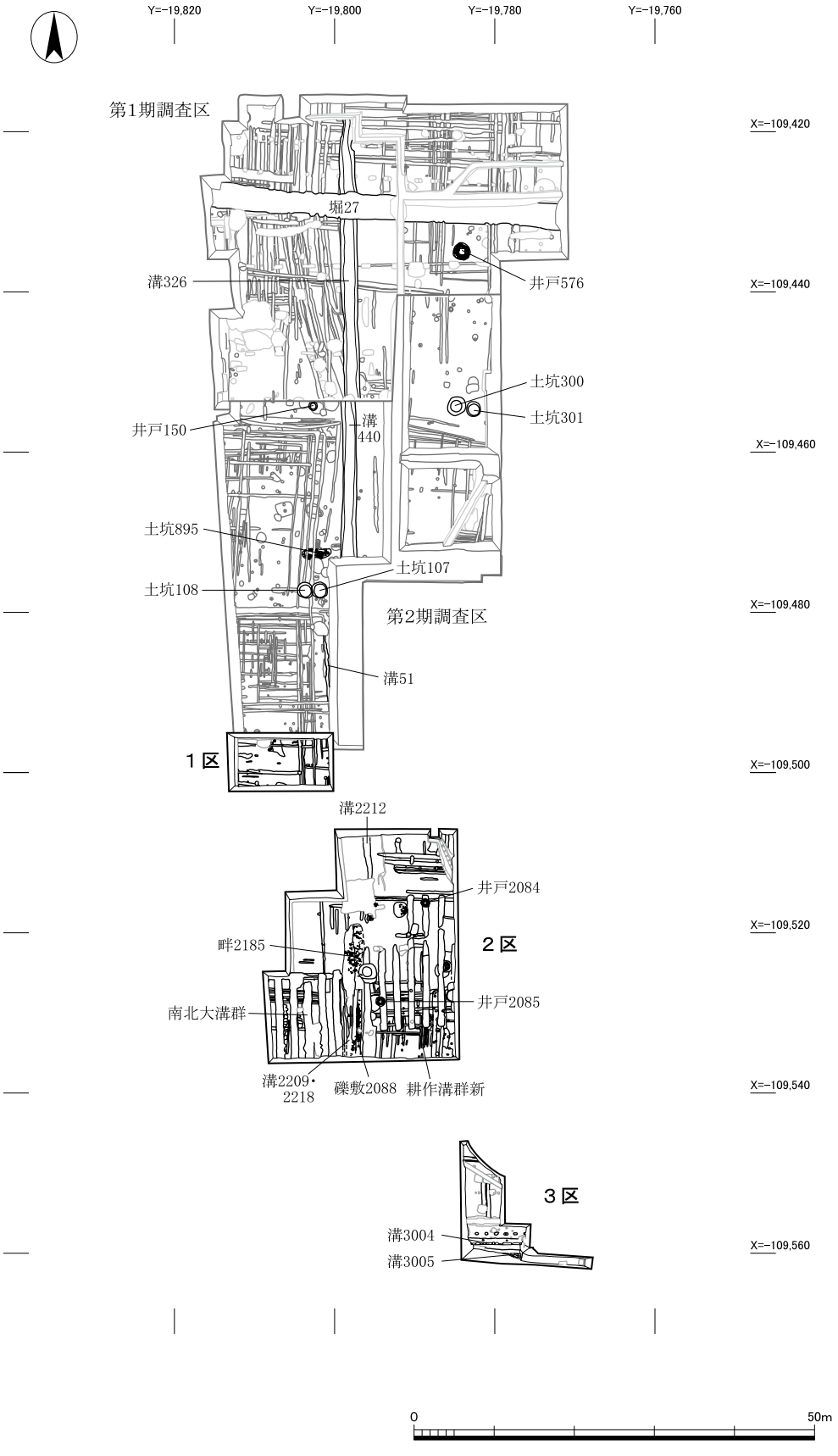


図14　遺構変遷図４（１：800）

註

1） 小檜山一良ほか『円勝寺跡・成勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2014－13　公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所　2015年、近藤奈央ほか『円勝寺跡・成勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2015－17　公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所　2016年

2） 「最勝寺跡・岡崎遺跡」『平成３年度　京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所　1995年

3） 「成勝寺跡」『平成４年度　京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所　1995年

4） 第１期調査では、平面検出していないが、３箇所の断面図で、図13に復元した点線の幅の溝を確認した。

5） 『百練抄』承久元年四月一日・二日条

6） 『百練抄』承久元年十一月二十七日条

付章１　放射性炭素年代測定

パリノ・サーヴェイ株式会社

（１）はじめに

円勝寺跡・成勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡（京都市左京区岡崎円勝寺町）は、白川により形成された扇状地に位置する。今回の京都市美術館の第１期から第３期にわたる発掘調査では、下層確認トレンチ調査において、扇状地の発達過程を考える上で重要な、約３万年前に噴出した姶良Tn（AT）火山灰層（Smith et al.,2013）とその上位を覆う堆積物断面が作成された。調査区北部の第１期区ではAT火山灰の上位に花崗岩質の土石流堆積物とされる砂礫質堆積物が覆う（公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所,2014;2015、小野・河角,2014;2015ほか）が、その南側の第２期から第３期区では土石流堆積物の下位に掃流性の砂質堆積物が確認された。今回の分析調査では、第３期２区の下層確認調査で確認されたAT火山灰を覆う掃流堆積物の形成年代に関する情報を得ることを目的として、堆積物中の木片について放射性炭素年代測定を実施する。

（２）試料

調査地の位置および今回の第３期下層確認トレンチの堆積層の累重状況を示す模式柱状図を、第１期・第２期の調査成果と合わせて図15に示す。

第１～３期の下層確認トレンチで確認されたAT火山灰層下限の標高をみると、AT降灰時の地形が北から南にかけて傾斜する、谷状の地形を形成していたことがうかがえる。AT火山灰層直下の堆積物は、黒色を呈する有機質ないし腐植質泥からなり、降灰時の地表環境が土壌生成の進行する安定した土地条件におかれていたことが推定される。

AT火山灰の上位には、上記したように北部の第１期区では土石流堆積物が覆うが、第２期から第３期区にかけては谷状の地形面を覆うように低角度のトラフ型斜交層理をなす掃流性の砂質堆積物が厚く堆積する。また、発掘調査時の所見に基づくと、第３期２区北縁から第２期区南部では、この砂質堆積物の上位に、最上部に巨礫を伴う塊状無層理をなす土石流堆積物が積層している状況が確認されている。

今回調査を実施した第３期２区の下層確認トレンチ断面では、AT火山灰層（トレンチ③15層、トレンチ②10層）の上位にATの再堆積層（トレンチ③11～14層・トレンチ②９～７層）が累重し、その上位に砂質堆積物が厚く堆積する。砂質堆積物は大きく上部と下部に区分される。砂質堆積物下部（トレンチ③10～８層、トレンチ②６～２層）は、浅いトラフ型斜交葉理をなす泥質砂～細礫・極粗粒砂からなる薄層の積層からなり、氾濫堆積物の示相構造である逆級化成層（増田・伊勢屋,1985）をなす層準を挟在する。最上部は細粒砂以下の粒径からなる木片等を含むやや有機質な砂質泥堆積物が覆う。減衰期の堆積物とみられる。砂質堆積物のトラフ型斜交層理は北東側から南西側にかけて発達していることから、古流向は南西方向と推定される。明瞭な侵食面は確認され

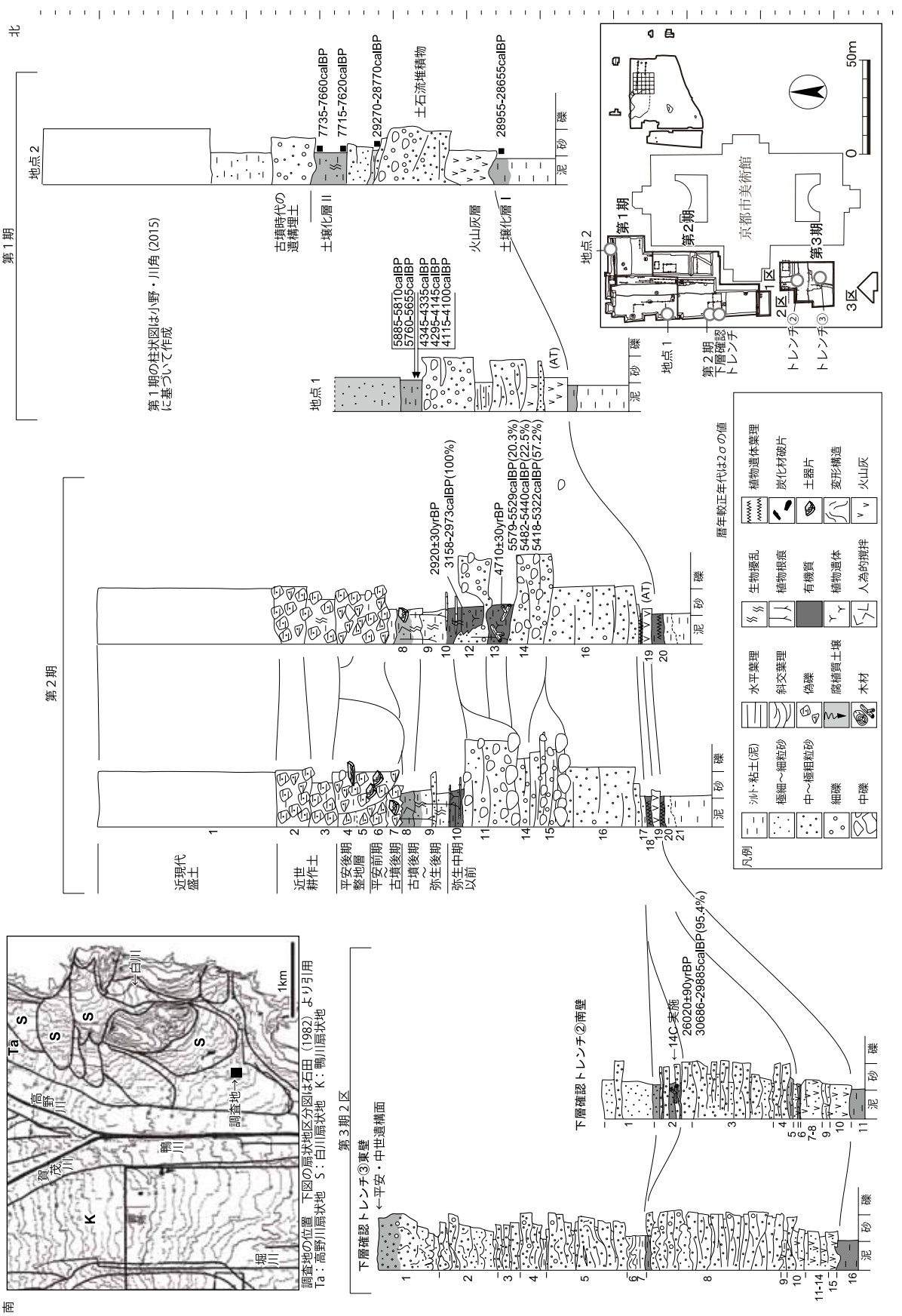


図15　調査地点の層序および年代測定実施層準

ず、かつ土壌生成が進行した層準も確認されない。これらのことから、砂質堆積物下部は、AT火山灰降灰後に谷底低地を充填した掃流性の氾濫堆積物と推定され、当時の澪筋が調査地の南西側に存在したことが示唆される。また、砂質堆積物形成期を通じて、基準面が上昇傾向にあったことになり、谷口が閉塞されていた可能性がある。

砂質堆積物上部（トレンチ③６～１層、トレンチ②１層）も南西方向に発達する浅いトラフ型斜交層理をなす砂質堆積物からなるが、氾濫堆積物の示相構造である逆級化成層をなす層準を多く挟在する。砂質堆積物下部も下位と同様に谷底低地の澪筋河岸を充填した氾濫堆積物と推定される。明瞭な土壌化層準は確認されないことから、この間も基準面は上昇傾向にあったことが示唆される。

年代測定試料は、下層確認トレンチ②の砂質堆積物上部に累重する有機質泥質細粒砂層（２層）下部より出土した木片を対象とする。採取された２点の木片は、いずれも常緑針葉樹のスギに同定された。放射性炭素年代測定は大きな破片（２地点②）について実施する。

（３）分析方法

試料は、試料の状況を観察後、分析用試料とする。塩酸（HCl）により炭酸塩等酸可溶成分を除去、水酸化ナトリウム（NaOH）により腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、塩酸によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する（酸・アルカリ・酸処理 AAA:Acid Alkali Acid)。濃度は塩酸、水酸化ナトリウム共に1mol/Lである。

試料の燃焼、二酸化炭素の精製、グラファイト化（鉄を触媒とし水素で還元する）はElementar社のvario ISOTOPE cube とIonplus社のAge3を連結した自動化装置を用いる。処理後のグラファイト・鉄粉混合試料をNEC社製のハンドプレス機を用いて内径１㎜の孔にプレスし、測定試料とする。

測定はタンデム加速器をベースとした^{14}C-AMS専用装置（NEC社製）を用いて、^{14}Cの計数、^{13}C濃度（^{13}C/^{12}C)、^{14}C濃度（^{14}C/^{12}C）を測定する。AMS測定時に、米国国立標準局（NIST）から提供される標準試料（HOX-Ⅱ)、国際原子力機関から提供される標準試料（IAEA-C6等)、バックグラウンド試料（IAEA-C1）の測定も行う。

δ^{13}Cは試料炭素の^{13}C濃度（^{13}C/^{12}C）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表したものである。放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma;68%）に相当する年代である。測定年代の表示方法は、国際学会での勧告に従う（Stuiver & Polach 1977)。また、暦年較正用に一桁目まで表した値も記す。

暦年較正は、大気中の14C濃度が一定で半減期が5568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の14C濃度の変動、その後訂正された半減期（14Cの半減期5730±40年）を較正することによって、暦年代に近づける手法である。Oxcal4.3による暦年較正は、１桁目まで表示した値を用いる。暦年較正に用いるソフトウエアは、Oxcal4.3（Bronk,2009）を用いる。較正曲線はIntcal13（Reimer et al.,2013）を用いる。

（4）結果

結果を表11、図16に示す。試料からは、測定を行うのに十分な炭素量が回収できた。

第３期２区下層確認トレンチ②のＡＴ火山灰を覆う、下位の掃流性砂質堆積物上部の泥質砂層（２層）下部から出土した木片（スギ）の14C年代値（同定体補正を行った値）は26,020±90BP、暦年較正年代（２σ暦年代範囲）は30,686～29,885calBPを示した。

ＡＴ火山灰の噴出年代は暦年代で約3万年前とされている（Smith et al.,2013）。第１期下層確認トレンチ地点２におけるＡＴ直下の腐植質土壌の年代は28955-28655calBPを示し、ＡＴの噴出年代と調和的である（小野・河角,2015）。今回の下位の砂質堆積物上部の木片の年代値は、概ねＡＴ火山灰の噴出年代と調和的である。先述したようにＡＴ火山灰層の上位の掃流堆積物中には明瞭な侵食面は認められず、数回の氾濫堆積物が積層している状況が確認されることを踏まえると、少なく

表11　放射性炭素年代測定および暦年較正結果

試料	種別/性状	方法	補正年代（暦年較正用）BP	δ ^{13}C（‰）	暦年較正年代				Code No.	
					年代値			確率%		
2地点②	木材スギ	AAA（1M）	26020±90（26019±88）	-26.77 ±0.19	σ	calBC 28622 - calBC 28226	30571 - 30175 calBP	68.2	YU-8136	pal-11369
					2σ	calBC 28737 - calBC 27936	30686 - 29885 calBP	95.4		

1)年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。
2)BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。
3)付記した誤差は、測定誤差σ（測定値の68.2%が入る範囲）を年代値に換算した値。
4)AAAは、酸・アルカリ・酸処理を示す。AaAは試料が脆弱なため、アルカリの濃度を薄くして処理したことを示す。
5)暦年の計算には、Oxcal v4.3.2を使用
6)暦年の計算には、補正年代に()で暦年較正用年代として示した、一桁目を丸める前の値を使用している。
7)較正曲線や較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。
8)統計的に真の値が入る確率は、σが68.2%、2σが95.4%である

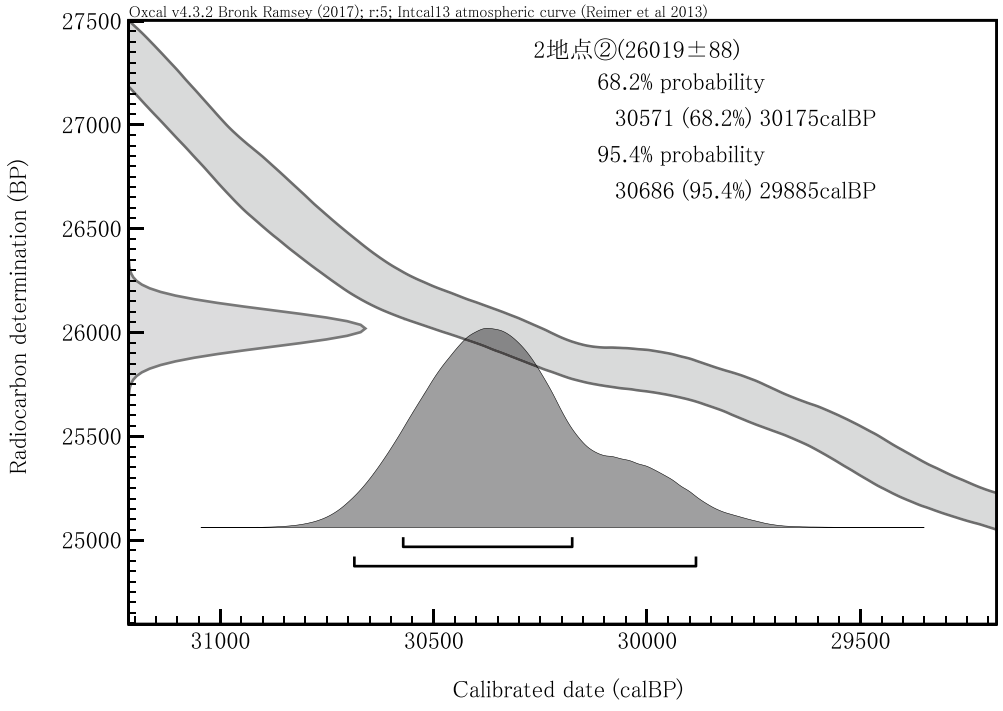
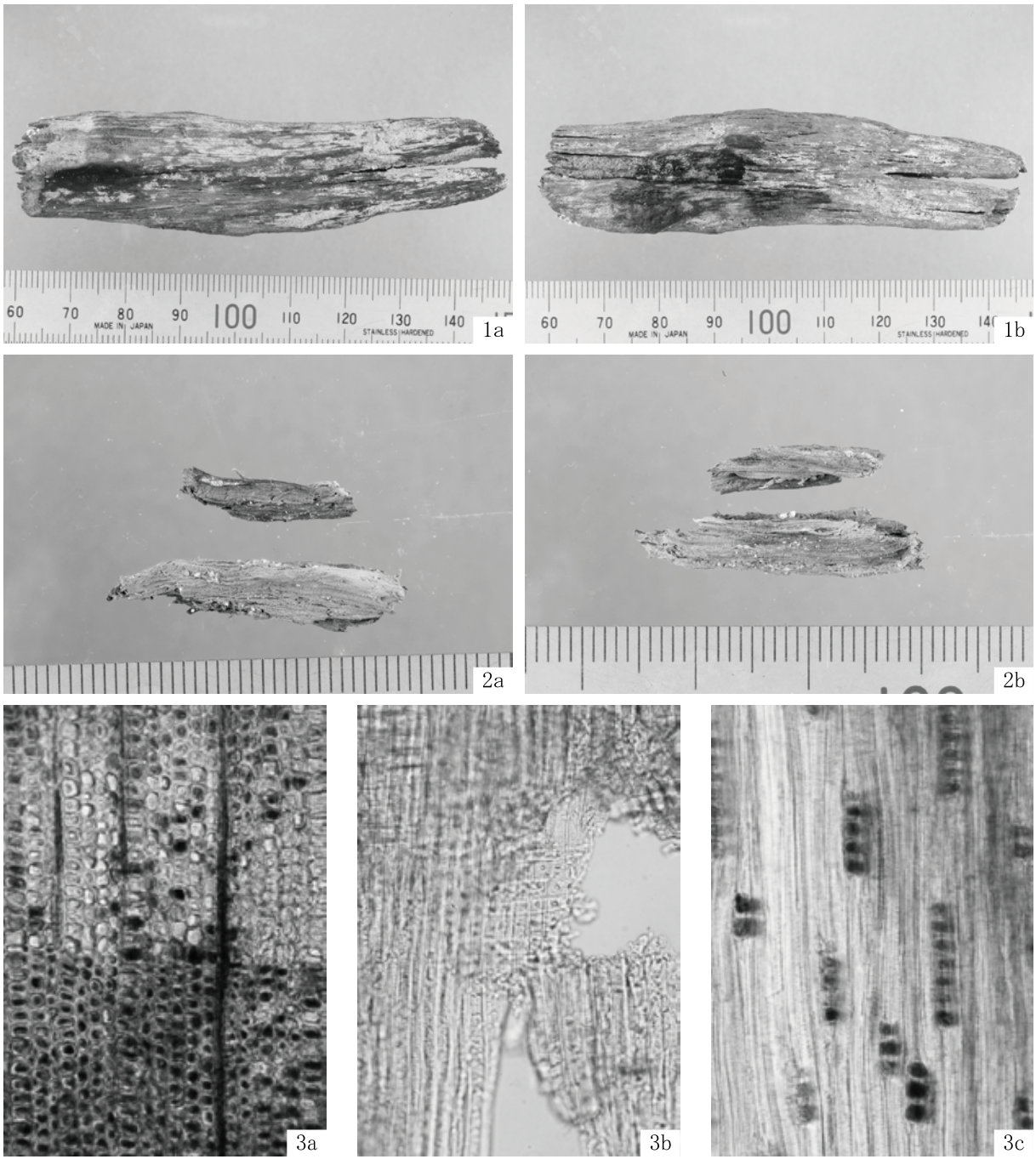


図16　較正年代の確率密度分布

とも砂質堆積物下部はＡＴ火山灰降灰後、間もない時期に形成されたことが推定される。

上記の第１期下層確認トレンチの地点２では、ＡＴ火山灰を覆う花崗岩質の砂礫層の上位に堆積した細粒堆積物層中の有機物から29,270～28,770cal BPの年代値が得られており、ＡＴ降灰直後に土石流が生じた可能性が強く示唆されている（小野・河角,2015）。この第１期下層確認トレンチの土石流堆積物と、今回の第３期下層確認トレンチで確認された掃流性砂質堆積物の層位関係は現



1. 試料（年代測定）
2. 試料
3. スギ（年代測定）（a:木口 b:柾目 c:板目）

図17　木材

状で不明であるが、その上位に堆積した細粒堆積物中の有機物の年代値は両地点でほぼ一致している。このことは、美術館調査区ではAT降灰後の間もない時期に谷斜面上部で土石流、谷底低地において土砂流出が顕著となるが、その堆積時・後には短期間にせよ比較的静穏な堆積環境となる時期が存在した可能性を示唆する。

下部砂質堆積物形成期以降も、第２期調査から第３期調査にかけての谷部では、氾濫堆積物とみられる上部砂質堆積物が厚く積層する。形成年代は特定できないが、下位層準との間に明瞭な侵食面が確認されないことから、下位砂質堆積物形成期との時間間隙は大きくなく、上位砂質堆積物も更新統に対比される可能性が高い。また、これら砂質堆積物形成期を通じて調査地点の基準面が上昇傾向にあったことになる。その背景として当該期の谷口の閉塞などの可能性が考えられるが、この点については、鴨川扇状地の地形発達などを踏まえた検討が必要である。

なお、第１期調査・第２期調査の層序および年代測定結果を踏まえると、現在の京都市美術館周辺地域では縄文時代後期末～晩期初頭まで間欠的な土砂の流入があったことが窺える。調査区全体が比較的静穏な堆積場へと変化するのはそれ以降である。この点は発掘調査によって確認されている、弥生時代以降に人間活動の痕跡が確認されるようになることとも同調的である。

引用文献

Bronk RC.,2009,Bayesian analysis of radiocarbon dates. Radiocarbon ,51, 337-360.

石田史朗,1982,京都盆地北部の扇状地－平安京遷都時の京都の地勢－.古代文化,34,1-9.

公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所,2014,延勝寺跡・岡崎遺跡.京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2014-1, 38p.,図版7.

公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所,2015,円勝寺跡・成勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡.京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2014-13, 100p.,図版96.

増田富士夫・伊勢屋ふじ子,1985,"逆グレーディング構造"：自然堤防帯における氾濫洪水堆積物の示相堆積構造.堆積学研究会会誌, 22・23, p.108-116.

小野映介・河角龍典,2014,京都盆地東部、延勝寺跡・岡崎遺跡における遺構面下の地質.延勝寺跡・岡崎遺跡,京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2014-1,公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所, 32-33.

小野映介・河角龍典,2015,姶良Tn火山灰と土石流堆積物.円勝寺跡・成勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡,京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2014-13,公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所, 68-70.

Reimer PJ., Bard E., Bayliss A., Beck JW., Blackwell PG., Bronk RC., Buck CE., Cheng H., Edwards RL., Friedrich M., Grootes PM., Guilderson TP., Haflidason H., Hajdas I., Hatté C., Heaton TJ., Hoffmann DL., Hogg AG., Hughen KA., Kaiser KF., Kromer B., Manning SW., Niu M., Reimer RW., Richards DA., Scott EM., Southon JR., Staff RA., Turney CSM., van der Plicht J.,2013,IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves 0–50,000 years cal BP. Radiocarbon,55,1869-1887.

Smith, V.C., Staff, R.A., Blockley, S.P.E., Ramsey, C.B., Nakagawa, T., Mark, D.F., Takemura, K. Danhara, T., Suigetsu 2006 Project Members, 2013, Identification and correlation of vesible tephras in the Lake Suigetsu SG06 sedimentary archive, Japan: chronostratigraphic markers for synchronizing of east Asian/west Pacific palaeoclimatic records across the last 150 ka. Quarternary Science Reviews, 67, 121-137.

Stuiver M., & Polach AH.,1977,Radiocarbon 1977 Discussion Reporting of 14C Data. Radiocarbon, 19, 355-363.

付章２　出土赤色顔料の分析調査

龍谷大学 文学部　北野信彦

（１）はじめに

京都岡崎周辺は、平安時代後期の院政期には皇室ゆかりの御願寺であった六つの寺院（総称して六勝寺）の伽藍群が建立された地区である。その後、たびたびの伽藍被災もありながら、13世紀代の鎌倉時代には再造営なども行われたようである。今回の京都市美術館の改修に伴う発掘調査では、この13世紀頃の鎌倉時代に年代観が比定される溝跡・排水路跡から赤色顔料の小塊片が多数確認された。ここからは六勝寺の寺域内の鍛冶工房に伴うと考えられる鞴羽口などの資料群も多数出土しており、本試料群もこの寺域内の寺院群で使用されるために作成された赤色顔料の一部と考えられる。

本稿では、これら赤色顔料に関する分析調査結果を報告する。なお調査地の周辺では、2010年度に京都市動物園内の発掘調査において、同じ六勝寺の寺域内関連建造物である法勝寺塔跡基壇部分が検出されており、ここからは瓦胎部に赤色顔料の痕跡が確認される軒平瓦片が４点出土した。この赤色顔料についても、すでに同様の分析調査を実施しているが、本稿では改めて参考資料としてこの結果についても若干言及することとする。

（２）調査対象試料

調査対象試料は、京都市埋蔵文化財研究所の担当者がそれぞれ赤色顔料の集合状態が良好な４箇所から周辺土壌をより分けて採取した赤色顔料小塊片である（図版92－１）。本調査では赤い色相が明確で残存状況が良好と考えられる箇所から改めて１～２㎜角の赤色顔料剥落小片をそれぞれ注意深くサンプリングして分析試料に供した。

試料１：85　16KS-CB003　２区A13 EA EB 溝2220B 下層
試料２：79　16KS-CB003　２区A13 EA　溝2230B 下層
試料３：133　16KS-CB003　２区A13 DE　溝2230B 北護岸裏込
試料４：130　16KS-CB003　２区A13 CB DE 溝2220B 西護岸裏込

（３）調査方法

１）赤い色相の測色測定

本調査では測色計計測による客観的数値の計測は行わず、新版標準土色帳のマンセル標示色見本（農林水産省農林水産技術会議事務局　監修・日本色彩研究所　色表監修；1991年版）と各試料の色相を自然採光条件下で比較して基本的な赤い色相のグルーピング作業を行った。

２）赤色顔料の色相と集合状態の観察

調査対象試料である赤色顔料粒子の集合状態や色相は、まず（株）スカラ製のDG-3型デジタル

顕微鏡を用いて50倍の倍率で観察した。引き続き、土壌などの付着夾雑物を注意深く除去しながら採取した顔料小破片塊は、観察箇所に応じてオリンパス製のHD型金属顕微鏡とデジタルカメラを連動させた200倍と400倍の倍率で観察するとともに、1,000倍から2,500倍の高倍率観察は、（株）ハイロックス社製のVH-7000S型デジタルマイクロスコープを使用して行った。

３）無機元素の定性分析

調査対象試料である赤色顔料の無機元素の定性分析は、まず（株）リガクのNiton XL3t-700携帯型のエネルギー分散型蛍光X線分析装置を調査対象箇所に注意深く近接させて大気中で分析した。設定条件は、測定視野は直径8.0㎜スポット、管球は対陰極Agtターゲット、管電圧は50kV、大気圧で分析設定時間は100秒である。設定条件は、管球はパラジウム（Pd）管球、管電圧は40kV、大気圧での分析設定時間は100秒である。引き続き採取した剥落小塊片の構成無機元素に関する詳細な定性分析は、分析用カーボンテープに固定した顔料を（株）堀場製作所MESA-500型の蛍光X線分析装置を使用した。設定条件は、分析時間は600秒、試料室内は真空、X線管電圧は15kVおよび50kV、電流は240μAおよび20μA、検出強度は200.0～250.0cpsである。

４）個々の顔料粒子の形態観察

個々の顔料の粒子形態を詳細に観察するための50,000倍の高倍率画像観察を、（株）日立製作所分析センターにおいて、日立製作所製S-3000型およびS-3200N型走査電子顕微鏡を用いて行った。各試料は、先のカーボン台に取り付けた試料のうち、実体顕微鏡および金属顕微鏡観察で赤い色相の物質の集積が良好であり、かつ電子顕微鏡観察で鉄（Fe）がマッピング検出された部分を中心に観察した。

５）鉱物結晶相（化合物）の同定

本試料群のうち周辺土壌の汚染が少なく分析量の確保が可能であった試料１について、結晶鉱物相（化合物）材料の同定を行った。分析はX線回析分析装置（リガク製RINT-2500型）と定性ソフトウェア（JADE-6）を使用して行った。測定条件は以下のとおりである。対陰極はCu-Kα、X線管電圧は50kV、X線管電流は30mA、検出器はシンチレーションカウンタ、走査速度は１度/１分、走査範囲は5-90度、散乱スリットは1deg.で受光スリットは0.15㎜、モノクロメーターは使用である。

（４）調査結果

各種の分析調査を行った結果、次のような基礎的データの蓄積を得た。

まず各試料の色相は、いずれも鮮明な真紅色（7.5R4/8：赤：red～7.5R4/6：赤:redもしくは10R4/8赤：red）のほぼ同様の赤い色相を呈していた（図版92－２）。各試料の赤色顔料の無機元素を分析した結果、いずれの試料も鉄（Fe）元素の特性X線が強く検出され、それ以外のシリカ（Si）、チタン（Ti）、カルシウム（Ca）、カリウム（K）、マンガン（Mn）などの元素や、水銀（Hg）および硫黄（S）や鉛（Pb）元素のピークは検出されなかった（図18～21）。そのため、いずれの試料も水銀系の朱（辰砂もしくは水銀朱；HgS）や鉛系の鉛丹（四酸化三鉛；Pb_3O_4）顔料ではな

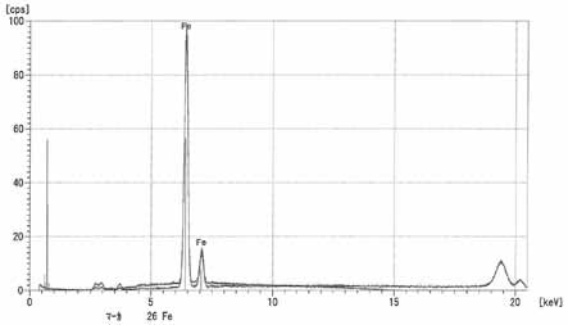


図18　試料１の蛍光Ｘ線分析結果

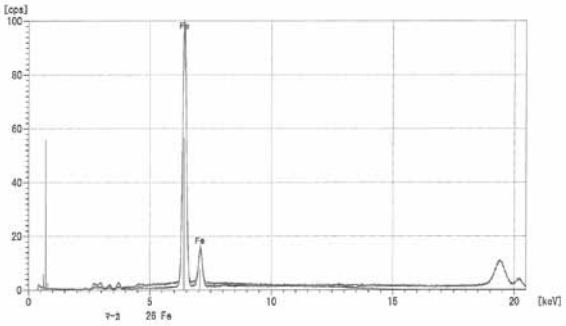


図19　試料２の蛍光Ｘ線分析結果

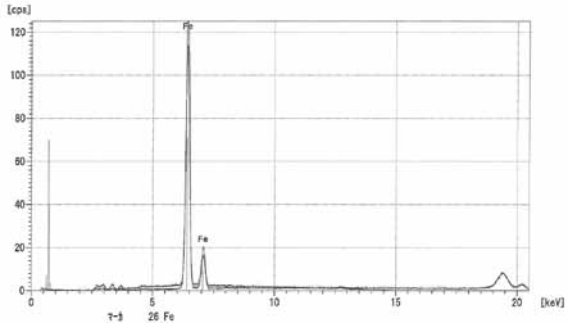


図20　試料３の蛍光Ｘ線分析結果

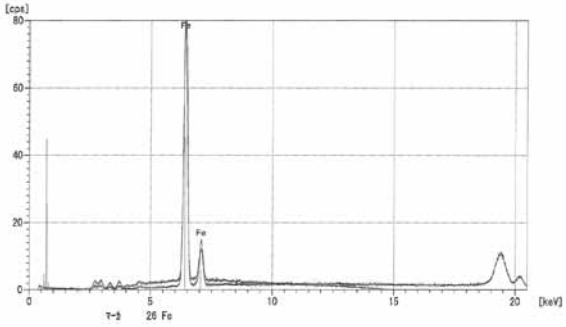


図21　試料４の蛍光Ｘ線分析結果

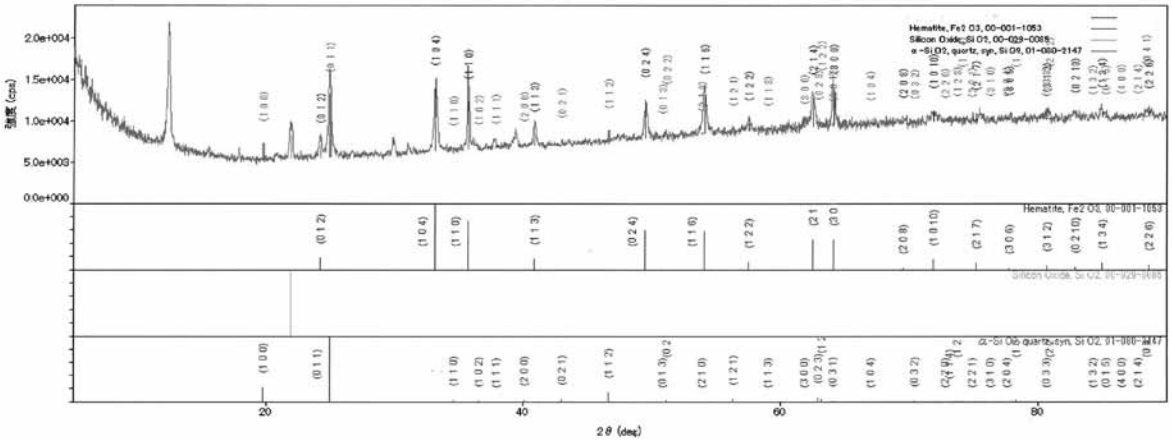


図22　試料１のＸ線回折分析結果

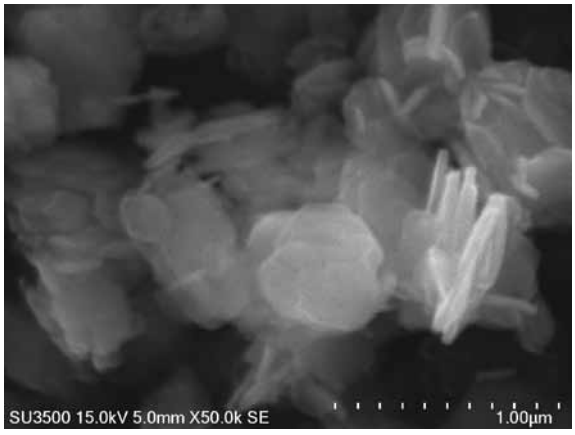


図23　試料１のベンガラ粒子の電子顕微鏡観察

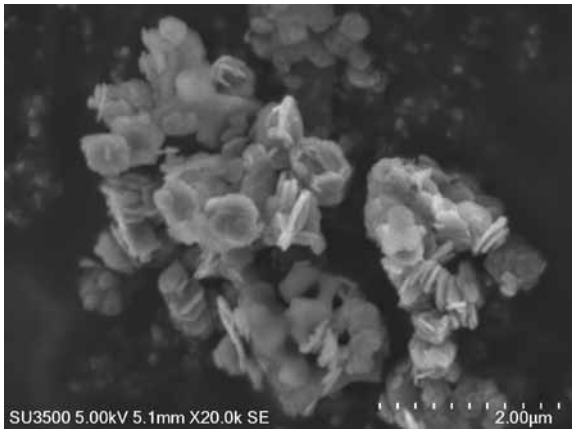


図24　試料２のベンガラ粒子の電子顕微鏡観察

く、酸化鉄系の赤い色相を呈するベンガラ（酸化第二鉄；Fe_2O_3が主成分）顔料であると同定した。このうち試料１の結晶鉱物相を同定した結果、若干の石英（Quartz：SiO_2）の夾雑物質を含むものの、基本的にはベンガラ顔料の主成分であるヘマタイト（α-Fe_2O_3：Hematite）の鋭い鉱物結晶相のピーク（$2\theta = 33°$）が検出された（図22）。

次に、このような各試料の性格を詳細に観察するためのベンガラ顔料を観察した。その結果、線紅色の赤い色相を呈する極めて均質な形態と粒度であることが認められた（図版92－３～６）。さらにこれらを電子顕微鏡による高倍率観察した結果、0.2μｍ程度の扁平な六角板状型粒子のベンガラ粒子微薄片の微細粉末の顔料粒子が集合して小塊片を構成している点が電子顕微鏡観察された（図23・24）。その一方で中空円筒のパイプ状もしくはチューブ状、さらには0.1μｍ程度の球状微粒子の集合体は見いだされなかった。

さて、本遺跡に近い法勝寺八角九重塔と考えられる塔跡基壇部地業遺構から出土した赤色顔料が付着した軒平瓦は、いずれも本試料群よりは古い時期の平安時代後期頃に年代観が比定されている（図版92－７）。この赤色顔料は本試料群とは異なり、赤い色相はいずれもやや黄味が強い赤色系（2.5YR5/8：明赤褐:bright reddish brown～2.5YR6/8：橙:orange）の赤い色相を呈しており、拡大観察すると鮮紅色を呈する部分と橙色もしくはオレンジ色系を呈する部分、さらには淡褐色もしくは透明感がある茶褐色を呈する部分が混在した状態で観察された（図版92－８）。電子顕微鏡観察結果でも基本的には極めて不定形を呈する微粒子の集合体であった（図26）。さらに構成無機元素においても、酸化第二鉄由来の鉄（Fe）のピークとともに、シリカ（Si）、チタン（Ti）、カリウム（K）、カルシウム（Ca）などの夾雑物のピークも共存していた（図25）。さらにＸ線回折分析結果では、非晶質物質を多く含むためかややブロードなピークを示すものの、主成分である石英（Quartz：SiO_2）、カオリナイト（Kaolinite：$Al_2Si_2O_5(OH)_4$）、白雲母（Muscovate：$KAl_2Si_3AlO_{10}(OH)_2$）、曹長石（Orthoclase：$KAlSi_3O_8$）などの夾雑物質などとともに、酸化第二鉄の含有量は鉱物結晶相であるヘマタイト（α-Fe_2O_3：Hematite）の主ピークである（$2\theta = 33°$）の幅は高角側に比較して幅広で緩慢（ブロード）な形で極めて微量である特徴を有しており、この点は純度が高いヘマタイト（α-Fe_2O_3：Hematite）の均一な微粒子集合体である点とは大きく異なる特徴であった（図27）。

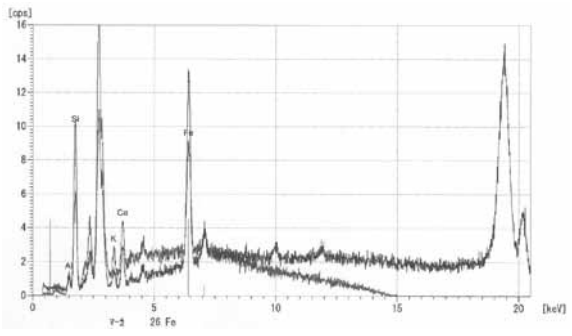


図25　法勝寺塔跡出土軒平瓦に付着した赤色顔料の蛍光Ｘ線分析結果

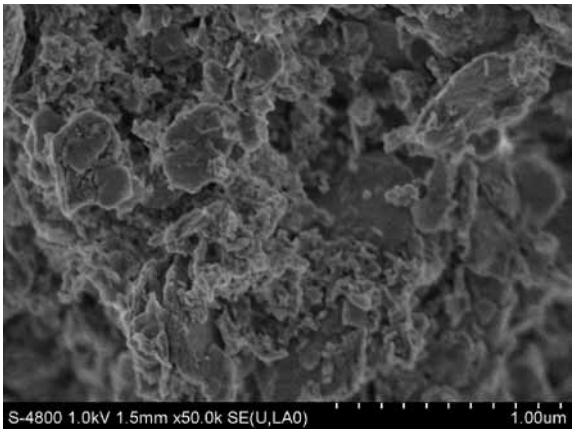


図26　同試料の電子顕微鏡観察

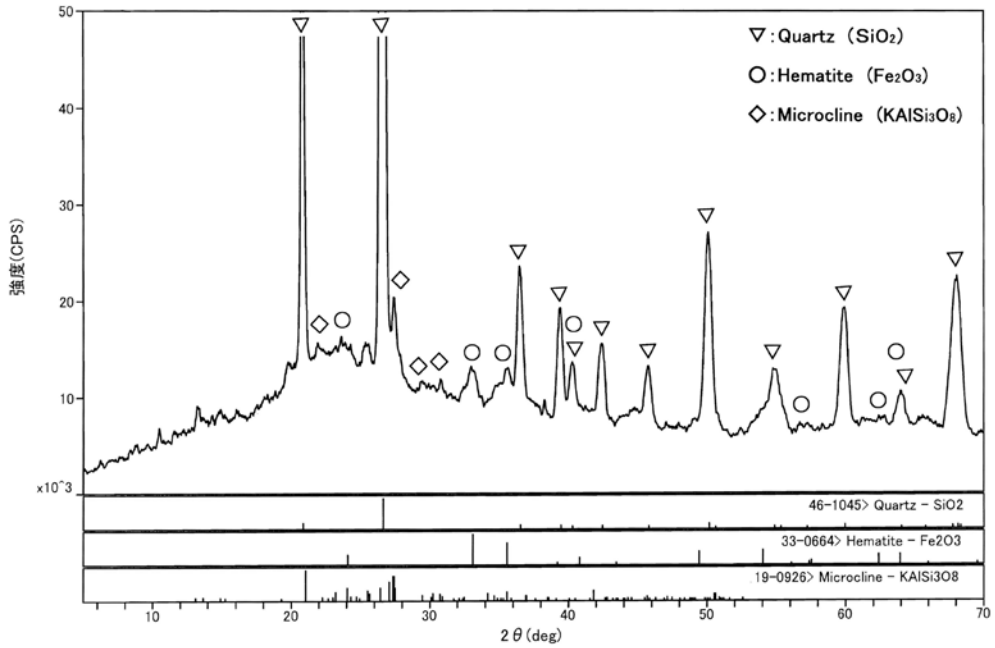


図27　同試料のＸ線回折分析結果

（５）考察

筆者によるこれまでの各種ベンガラ顔料の調査では、同じ酸化鉄系のベンガラ顔料でも、原材料や製法の違いにより、ベンガラ粒子の集合状態の分布や、赤色顔料としての赤い色相、さらには個々のベンガラ顔料の粒子形態や集合状態はそれぞれ異なることが明らかになっている。すなわち、（１）文献史料が「代赭」もしくは「赤土」と記し、天然赤鉄鉱を磨り潰して粉砕して磨り潰す、もしくは赤味が強い粘土系の風化生成土壌や赤鉄鉱の鉱石が風化して脆弱粉砕化された細粉集積土壌を精製して作成する天然鉱物系の「赤土ベンガラ」、（２）鉄分を多く含む黄土もしくは含水酸化鉄や針鉄鉱系の風化土壌を原材料とし、加熱～粉砕～水簸して作成するが、基本が土壌であるため夾雑物が多く赤い色相は劣るものの量産可能なため、古代建造物の外観塗装材料には多用された「丹土ベンガラ」、（３）近世の文献史料は「鉄丹もしくは鉄屑の弁柄」と記す。鉄サビに酸化促進剤を添加して加熱して作成する。ローハベンガラに比較して赤い色相はやや劣るが、中世以降のベンガラ塗装には多用される人造顔料系の「鉄丹ベンガラ」、（４）文献史料は「礬紅もしくは弁柄」と記し、硫化鉄鉱の風化生成物である緑礬（ローハ）を原材料として、これを加熱～水簸して作成する赤い色相は極めて良好な近世以降に登場する人造顔料系の「ローハベンガラ」、（５）鉄分の純度が高い*Leptothrix Ochraceae*種などの黄褐色浮遊沈殿物の鉄バクテリアを原材料としているため、赤い色相は良好な外径１μｍ程度の中空円筒状で定型化した形態を有する「パイプ状ベンガラ」、（６）『豊後風土記』が「赤湯泉（あかゆ）」の赤泥を建造物の柱に塗装したと記すように、温泉沈殿物の肌理の細かい赤泥を原材料として、これを加熱～水簸して作成する「赤泥ベンガラ」、（７）湿式沈殿法からなる現代のベンガラ、の少なくとも７種類の名称が異なる工業製品として作成されたベンガラ顔料の存在である。

この点を踏まえて鎌倉時代頃に年代観が比定される本試料群と平安時代後期頃と年代観が比定される法勝寺塔伽藍建造物で外観塗装材料として使用されていたと考えられる試料群は、いずれも三価の鉄イオン（Fe^{3+}）の赤い色相を赤色顔料の主成分とした広義の意味では酸化鉄系のベンガラ顔料であると認識した。しかし本試料群は、個々の顔料粒子の赤い色相や集合状態は、いずれも鮮紅色の赤い色相が優勢で均一な形状を呈する超微粒子集合体であり、酸化第二鉄の主要な結晶鉱物相であるヘマタイトの鋭いピークが検出されることから、いずれも「赤土ベンガラ」の範疇に属する試料群であると同定した。このような「赤土ベンガラ」の原材料である良質な天然赤鉄鉱原石の調達は希少であったためか、京都市中では平安宮朝堂院跡出土瓦（平安時代前期）や島津製作所跡地検出の邸宅跡（平安時代後期）で出土した赤色顔料小塊片などで確認しているが、あくまでも限定的である。一方、法勝寺塔跡出土のベンガラ顔料は、いずれもやや赤い色相に乏しい感もある橙色もしくはオレンジ色系を呈する部分と淡褐色もしくは透明感がある茶褐色を呈する部分が混在した状態で観察された。そしてベンガラ顔料の主要成分であるヘマタイトは、結晶鉱物相としての主ピーク（$2\theta = 33°$）は微弱で幅広な緩慢（ブロード）である特徴から基本的には天然風化土壌である黄土であるために廉価で入手し易く、かつ大量生産と安定的な供給が可能な「丹土ベンガラ」であると同定された。これは平等院鳳凰堂をはじめとする建造物塗装材料としては一般的なものである。このように、両者の性質は大きく異なっていた。この違いについては、それぞれの年代観の違いとともに、それぞれの使用目的の違いが反映されたものであろう。

（参考文献）
北野信彦（2013）『ベンガラ塗装史の研究』pp.352、雄山閣
朽津信明（2006）「古代地方寺院の外観塗装の色について」『保存科学 第45号』東京文化財研究所
西山 巖（1977）「べんがら」『改訂増補　最新顔料便覧』p.448-451、日本顔料技術協会編、誠文堂新光社
山崎一雄（1987）『古文化財の科学』思文閣出版
吉木文平（1959）「3 酸化鉄（Fe_2O_3,FeO）」p.196-216、『鉱物工学』技報

付表１　土器一覧表

No.	器種	器形	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	残存率(%)	色調　胎土	備考
1	弥生土器	壷	溝2250	11.4	(18.0)		20	7.5YR7/4にぶい橙色 φ2㎜以下の長石・石英・チャート・雲母	
2	弥生土器	壷	溝2250	8.1	(14.8)		55	7.5YR7/4にぶい橙色 φ5㎜以下の長石・石英・チャート	
3	弥生土器	壷	溝2250	10.6	(6.8)		口縁部15	5YR6/6橙色 φ2㎜以下の長石・石英・チャート・赤色粒	
4	弥生土器	壷	溝2250	9.9	(5.8)		口縁部20	10YR8/3浅黄橙色 φ1.5㎜以下の長石・石英・チャート・雲母	
5	弥生土器	壷	溝2250	15.9	(3.3)		15	7.5YR8/4浅黄橙色 φ2㎜以下の長石・石英・チャート・雲母・赤色粒	
6	弥生土器	壷	溝2250	4.4	(3.2)		底部100	φ2㎜以下の長石・石英・チャート	
7	弥生土器	壷	溝2250	4.5	(2.1)		底部95	7.5YR7/4にぶい橙色 φ4㎜以下の長石・石英・チャート・雲母・赤色粒	
8	弥生土器	壷	溝2250	5.5	3.4		底部100	内:2.5Y6/2灰黄色　外:10YR6/4にぶい黄橙色 φ3.5㎜以下の長石・石英・チャート・赤色粒	
9	弥生土器	壷or甕	溝2250	3.9	(3.7)		底部100	7.5YR7/3にぶい橙色 φ6㎜以下の長石・石英・チャート・雲母	
10	弥生土器	鉢	溝2250	9.1	6.1	3.3	65	7.5YR7/6橙色 φ1.5㎜以下の長石・石英・チャート・赤色粒	
11	弥生土器	有孔鉢	溝2250	12.6	6.0	3.8	55	7.5YR8/4浅黄橙色 φ5㎜以下の長石・石英・チャート・赤色粒	
12	弥生土器	有孔鉢	溝2250	4.3	(2.5)		底部85	内:N3/0暗灰、外10YR8/2灰白色 φ1.5㎜以下の長石・石英・チャート	
13	弥生土器	甕	溝2250	16.1	(3.1)		口縁部10	10YR8/3浅黄橙色 φ1.5㎜以下の長石・石英・チャート	
14	弥生土器	甕	溝2250	13.1	(22.2)		70	7.5YR7/4にぶい橙色 φ5㎜以下の長石・石英・チャート・雲母・赤色粒	
15	弥生土器	甕	溝2250	14.0	(3.9)		口縁部20	7.5YR7/3にぶい橙色 φ3㎜以下の長石・石英・チャート・雲母	
16	弥生土器	甕	溝2250	16.8	(3.8)		口縁部35	7.5YR7/4にぶい橙色 φ4㎜以下の長石・石英・チャート・雲母	
17	弥生土器	甕	溝2250	15.2	(6.6)		20	7.5YR7/4にぶい橙色 φ2㎜以下の長石・石英・チャート	
18	弥生土器	甕	溝2250	15.0	(4.3)		口縁部20	5YR7/6橙色 φ1.5㎜以下の長石・石英・チャート・雲母	
19	弥生土器	甕	溝2250		(16.8)		15	10YR7/3にぶい黄橙色 φ3.5㎜以下の長石・石英・チャート・雲母・角閃石	
20	弥生土器	甕	溝2250	15.4	(7.3)		口縁部20	10YR6/2灰黄褐色 φ3㎜以下の長石・石英・チャート・角閃石	
21	弥生土器	甕	溝2250	17.3	(4.1)		口縁部15	7.5YR7/3にぶい橙色 φ2㎜以下の長石・石英・チャート・雲母・赤色粒	
22	弥生土器	甕	溝2250	15.0	(2.8)		口縁部12	7.5YR8/3浅黄橙色 φ1.5㎜以下の長石・石英・チャート・雲母	
23	弥生土器	器台	溝2250	17.8	(3.1)		口縁部20	7.5YR8/4浅黄橙色 φ2㎜以下の長石・石英・チャート・雲母・赤色粒	
24	弥生土器	器台	溝2250	16.2	(8.9)		35	7.5YR6/6橙色 1.5㎜以下の長石・石英・チャート・雲母	
25	弥生土器	器台	溝2250		(3.1)	16.8	底部25	7.5YR8/3浅黄橙色 φ1㎜以下の長石・石英・チャート・雲母・赤色粒	
26	弥生土器	高杯	溝2250		(4.3)		突帯部15	7.5YR8/4浅黄橙色 φ1㎜以下の長石・石英・チャート・雲母	
27	弥生土器	高杯	溝2250		(6.5)		杯部25	7.5YR8/4浅黄橙色 φ2㎜以下の長石・石英・チャート・雲母・赤色粒	
28	弥生土器	高杯	溝2250	17.4	(5.4)		30	7.5YR7/4にぶい橙色 φ2㎜以下の長石・石英・チャート・雲母	
29	弥生土器	高杯	溝2250		(6.7)		脚柱部30	7.5YR7/4にぶい橙色 φ5㎜以下の長石・石英・チャート	
30	弥生土器	高杯	溝2250		(6.0)		脚柱部40	10YR7/3にぶい黄橙色 φ1.5㎜以下の長石・石英・チャート・雲母	
31	弥生土器	高杯	溝2250		(6.4)		脚柱部40	10YR8/3浅黄橙色 φ1.5㎜以下の長石・石英・チャート	
32	弥生土器	高杯	溝2250		(2.0)	9.4	25	7.5YR8/4浅黄橙色 φ1㎜以下の長石・石英・チャート・雲母・赤色粒	
33	古式土師器	壷	流路1126				5	内:2.5Y4/1黄灰色　外:2.5Y6/3にぶい黄色	

※（ ）は残存数値

No.	器種	器形	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	残存率(%)	色調　胎土	備考
34	古式土師器	高杯	流路1126				30	内:7.5YR6/8橙色　外:2.5Y4/1黄灰色	
35	古式土師器	器台	流路1126				50	5YR6/2灰褐色	
36	土師器	皿N	土坑2231	10.2	2.0		30	7.5YR7/4にぶい橙色	墨書(両面)
37	土師器	皿S	溝2220・2230B				小片	10YR8/2灰白色	墨書(両面)
38	山茶椀	椀	溝2230B南護岸	9.4	2.9	5.3	40	N7/0灰白色	底部外面墨書、内面赤色顔料
39	輸入施釉陶器	壷	土坑2316		(4.7)	8.2	底部45	10YR7/1灰白色	底部外面墨書
40	輸入白磁	壷	溝2230B		(4.1)	9.4	底部100	胎土:N7/0灰白色　釉:2.5GY7/1明オリーブ灰色	底部外面墨書
41	土師器	皿A	土坑2231	9.8	1.5		100	10YR8/4浅黄橙色	
42	土師器	皿A	土坑2231	9.3	1.7		100	10YR7/3にぶい黄橙色	
43	土師器	皿A	土坑2231	9.4	1.5		40	7.5YR7/6橙色	
44	土師器	皿A	土坑2231	9.6	1.6		35	7.5YR7/3にぶい橙色	
45	土師器	皿A	土坑2231	9.5	1.6		55	7.5YR7/4にぶい橙色	
46	土師器	皿A	土坑2231	10.0	1.3		100	7.5YR6/4にぶい橙色	
47	土師器	皿A	土坑2231	10.3	1.3		30	7.5YR8/4浅黄橙色	
48	土師器	皿A	土坑2231	10.4	1.8		40	7.5YR7/4にぶい橙色	
49	土師器	皿A	土坑2231	10.5	1.6		60	7.5YR8/3浅黄橙色	
50	土師器	皿A	土坑2231	10.6	1.3		100	10YR8/2灰白色	
51	土師器	皿A	土坑2231	10.9	1.6		40	内:10YR8/3浅黄橙色　外:7.5YR7/4にぶい橙色	
52	土師器	皿N	土坑2231	10.2	1.6		40	5YR7/4にぶい橙色にぶい橙色	
53	土師器	皿N	土坑2231	10.2	1.8		15	7.5YR8/3浅黄橙色	
54	土師器	皿N	土坑2231	10.3	1.5		100	7.5YR8/3浅黄橙色	
55	土師器	皿N	土坑2231	10.4	1.9		95	10YR7/3にぶい黄橙色	
56	土師器	皿N	土坑2231	10.5	2.0		20	10YR8/3浅黄橙色	
57	土師器	皿N	土坑2231	10.6	1.8		30	7.5YR8/4浅黄橙色	
58	土師器	皿N	土坑2231	10.7	2.0		50	7.5YR7/4にぶい橙色	
59	土師器	皿N	土坑2231	10.8	1.9		55	10YR8/2灰白色	煤付着
60	土師器	皿N	土坑2231	10.4	2.2		20	7.5YR7/6橙色	
61	土師器	皿N	土坑2231	11.2	2.6		15	7.5YR8/4浅黄橙色	
62	土師器	皿N	土坑2231	14.4	2.7		30	7.5YR8/4浅黄橙色	
63	土師器	皿N	土坑2231	14.5	2.5		35	7.5YR8/3浅黄橙色	
64	土師器	皿N	土坑2231	14.7	2.9		35	10YR8/2灰白色	
65	土師器	皿N	土坑2231	14.9	2.6		55	7.5YR8/3浅黄橙色	
66	土師器	皿N	土坑2231	15.2	2.7		30	7.5YR8/4浅黄橙色	

No.	器種	器形	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	残存率(%)	色調　胎土	備考
67	土師器	皿N	土坑2231	15.5	2.6		30	10YR8/3浅黄橙色	
68	土師器	皿N	土坑2231	15.7	2.4		40	10YR8/2灰白色	
69	土師器	皿N	土坑2231	16.1	2.6		25	10YR8/3浅黄橙色	
70	土師器	皿N	土坑2231	17.4	(3.4)		25	10YR8/3浅黄橙色	
71	土師器	皿N	土坑2231	14.3	3.0		55	10YR8/2灰白色	
72	土師器	皿N	土坑2231	14.4	3.4		100	7.5YR8/3浅黄橙色	
73	土師器	皿N	土坑2231	14.5	3.2		25	7.5YR7/3にぶい橙色	
74	土師器	皿N	土坑2231	15.0	3.1		20	10YR8/3浅黄橙色	
75	土師器	皿N	土坑2231	16.5	3.8		90	10YR7/2にぶい黄橙色	
76	土師器	皿N	土坑2231	16.8	4.2		95	7.5YR8/4浅黄橙色	
77	土師器	椀	土坑2231	8.3	3.7		25	10YR8/2灰白色	
78	須恵器	鉢	土坑2231	39			口縁部5	5Y6/1灰色	
79	輸入白磁	壷	土坑2231	8.0			口縁部10	胎土:5Y8/1灰白色　釉:2.5GY8/1灰白色	
80	土師器	皿Ac	土坑2343	9.8	1.1		20	2.5Y8/2灰白色	
81	土師器	皿A	土坑2343	10.3	1.4		90	10YR7/1灰白色	
82	土師器	皿N	土坑2343	10.8	(1.6)		25	10YR8/2灰白色	
83	土師器	皿N	土坑2343	14.0	2.6		25	2.5Y8/2灰白色	
84	土師器	皿N	土坑2314	9.4	1.5		35	10YR7/3にぶい黄橙色	
85	土師器	皿N	土坑2314	11.0	2.1		50	10YR5/1褐灰色	
86	土師器	皿N	土坑2314	13.7	2.2		口縁部25	7.5YR7/4にぶい橙色	
87	土師器	皿N	土坑2314	14.3	2.8		25	10YR8/2灰白色	
88	土師器	皿N	土坑2314	14.4	2.4		口縁部25	5YR7/6橙色	
89	土師器	皿N	土坑2314	14.6	2.8		65	10YR8/3浅黄橙色	
90	土師器	椀	土坑2314	7.0	2.7		50	5YR7/6橙色	
91	土師器	鍋	土坑2314	17.2	(8.1)		15	7.5YR8/3浅黄橙色	
92	土師器	鍋	土坑2314	19.3	(3.5)		10	7.5YR8/3浅黄橙色	
93	瓦器	椀	土坑2314	11.5	(2.8)		口縁部30	2.5Y7/1灰白色・N7/0暗灰色	
94	瓦器	椀	土坑2314	9.1	2.9	3.6	35	胎土:N7/0灰白色　表面:N3/0暗灰色	
95	瓦器	椀	土坑2314	15.6	5.0		20	N5/0灰色	
96	輸入白磁	皿	土坑2314	3.3	(2.0)		底部75	胎土:N7/0灰白色　釉:7.5Y7/2灰白色	
97	土師器	皿Ac	土坑2316	8.4	1.2		25	7.5YR7/4にぶい橙色	
98	土師器	皿N	土坑2316	9.0	1.5		90	7.5YR7/4にぶい橙色	
99	土師器	皿N	土坑2316	9.0	1.6		95	10YR7/3にぶい黄橙色	

No.	器種	器形	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	残存率(%)	色調　胎土	備考
100	土師器	皿N	土坑2316	9.2	1.7		95	10YR8/3浅黄橙色	
101	土師器	皿N	土坑2316	9.3	1.9		25	7.5YR7/4にぶい橙色	
102	土師器	皿N	土坑2316	9.8	1.7		30	10YR7/3にぶい黄橙色	
103	土師器	皿N	土坑2316	13.8	2.6		25	7.5YR8/3浅黄橙色	
104	土師器	皿N	土坑2316	13.8	2.8		35	10YR7/3にぶい黄橙色	
105	土師器	皿N	土坑2316	14.0	2.5		35	7.5YR7/4にぶい橙色	
106	土師器	皿N	土坑2316	14.8	3.1		60	10YR7/2にぶい黄橙色	
107	土師器	皿N	土坑2316	15.0	2.4		20	7.5YR7/3にぶい橙色	
108	土師器	鉢	土坑2316		(9.5)		底部100	10YR7/3にぶい黄橙色	
109	山茶椀	皿	土坑2316	8.6	2.4	4.2	10	2.5Y7/1灰白色	
110	山茶椀	椀	土坑2316	8.5	(3.0)		底部55	N5/0灰色	
111	瓦器	椀	土坑2316	14.8	(4.3)		15	胎土:N8/0灰白色　表面:N4/0灰色	
112	瓦器	椀	土坑2316	15.2	5.2	5.0	35	胎土:N7/0灰白色　表面:N5/0灰色	
113	瓦器	椀	土坑2316	15.2	4.6	5.0	45	胎土:N7/0灰白色　表面:N4/0灰色	
114	瓦器	盤	土坑2316	42.4	(11.1)		35	胎土:N6/0灰色　表面:N3/0暗灰色	
115	輸入白磁	椀	土坑2316	15.2	5.7	5.8	40	胎土:2.5Y8/2灰白色　釉:5Y8/2灰白色	
116	輸入白磁	椀	土坑2316	6.5	(4.0)		底部60	胎土:N6/0灰色　釉:10YR7/2灰白色	
117	輸入白磁	椀	土坑2316	6.8	2.8		底部40	胎土:N8/0灰白色　釉:N7/0灰白色	
118	土師器	皿Ac	土坑2326	8.2	1.2		30	7.5YR7/4にぶい橙色	
119	土師器	皿N	土坑2326	9.4	1.4		98	10YR8/3浅黄橙色	
120	土師器	皿N	土坑2326	7.4	1.4		35	7.5YR8/3浅黄橙色	
121	土師器	皿N	土坑2326	9.7	1.6		40	5YR7/6橙色	
122	土師器	皿N	土坑2326	11.7	2.0		35	10YR7/2にぶい黄橙色	
123	土師器	皿N	土坑2326	13.8	2.6		30	7.5YR8/3浅黄橙色	
124	土師器	皿N	土坑2326	13.9	(2.6)		30	10YR6/2灰黄褐色	
125	土師器	皿N	土坑2341	9.4	1.8		35	2.5Y7/2灰黄色	
126	土師器	皿N	土坑2341	9.5	1.8		95	7.5YR7/2明褐灰色	
127	土師器	皿N	土坑2341	9.5	1.9		27	10YR8/1灰白色灰白色	
128	土師器	皿N	土坑2341	13.4	(2.5)		25	10YR8/2灰白色	
129	土師器	皿N	土坑2341	13.8	(2.5)		20	10YR7/3にぶい黄橙色	
130	瓦器	皿	土坑2341	9.0	1.6		30	胎土:2.5Y7/1灰白色　表面:N3/0暗灰色	
131	土師器	皿N	土坑2317	9.1	1.4		55	10YR8/2灰白色	
132	土師器	皿N	土坑2317	9.2	1.4		80	10YR8/2灰白色	

No.	器種	器形	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	残存率(%)	色調　胎土	備考
133	土師器	皿N	土坑2317	10.4	1.7		25	2.5Y7/2灰黄色	
134	土師器	皿Nd	土坑2317	12.8	(2.7)		40	10YR7/3にぶい黄橙色	
135	土師器	皿Nd	土坑2317	14.1	(3.0)		45	7.5YR7/3にぶい橙色	
136	土師器	皿Nd	土坑2317	13.5	(3.3)		10	10YR7/2にぶい黄橙色	
137	瓦器	椀	土坑2317	14.4	5.0	5.0	25	胎土:N7/0灰白色　表面:N3/0暗灰色	
138	輸入白磁	椀	土坑2317		(2.3)	4.5	底部100	胎土:N8/0灰白色　釉:7.5Y7/2灰白色	
139	土師器	皿N	溝2220・2230C	9.5	(1.4)		12	10YR8/2灰白色	
140	土師器	皿N	溝2220・2230C	9.5	(1.8)		35	10YR7/2にぶい黄橙色	
141	土師器	皿N	溝2220・2230C	9.8	1.7		10	10YR8/2灰白色	
142	土師器	皿N	溝2220・2230C	9.8	(1.8)		20	7.5YR7/4にぶい橙色	
143	土師器	皿N	溝2220・2230C	10.8	1.8		25	10YR7/2にぶい黄橙色	
144	土師器	皿N	溝2220・2230C	12.0	(2.6)		15	5YR6/4にぶい橙色	
145	土師器	皿Nd	溝2220・2230C	13.2	(2.7)		20	7.5YR7/4にぶい橙色	
146	土師器	皿Nd	溝2220・2230C	14.2	(2.6)		12	7.5YR7/4にぶい橙色	
147	山茶椀	小椀	溝2220・2230C		(1.3)	5.5	底部45	5Y5/1灰色	内面底部に赤色顔料付着
148	須恵器	椀	溝2220・2230C		(1.9)	6.8	15	N6/0灰色	
149	山茶椀	椀	溝2220・2230C		(2.8)	8.0	底部45	N7/0灰白色	
150	白色土器	皿	溝2220・2230C	8.4	1.6	4.6	30	10YR8/2灰白色	
151	白色土器	高杯	溝2220・2230C		(17.3)		脚柱部95	10YR8/2灰白色	
152	瓦器	椀	溝2220・2230C		(1.5)	5.1	底部100	胎土:2.5Y7/2灰黄色　表面:N4/0灰色	
153	瓦器	鉢	溝2220・2230C	37.2	(7.4)		口縁部12	N6/0灰色	
154	土師器	皿N	瓦溜2313	8.4	1.4		90	10YR7/3にぶい黄橙色	
155	土師器	皿N	瓦溜2313	8.6	1.8		95	7.5YR8/4浅黄橙色	
156	土師器	皿N	瓦溜2313	8.7	1.6		95	10YR8/3浅黄橙色	
157	土師器	皿N	瓦溜2313	9.1	1.5		100	10YR8/3浅黄橙色	
158	土師器	皿N	瓦溜2313	9.1	1.5		100	10YR7/2にぶい黄橙色	
159	土師器	皿N	瓦溜2313	9.2	1.7		98	10YR8/3浅黄橙色	
160	土師器	皿N	瓦溜2313	9.3	1.6		90	10YR8/3浅黄橙色	
161	土師器	皿N	瓦溜2313	9.4	1.8		90	10YR7/3にぶい黄橙色	
162	土師器	皿N	瓦溜2313	9.4	1.5		100	2.5Y7/2灰黄色	
163	土師器	皿N	瓦溜2313	9.6	1.5		75	7.5YR8/2灰白色	
164	土師器	皿N	瓦溜2313	10.7	1.5		85	7.5YR8/2灰白色	
165	土師器	皿N	瓦溜2313	11.3	2.1		80	2.5Y7/2灰黄色	

No.	器種	器形	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	残存率(%)	色調　胎土	備考
166	土師器	皿N	瓦溜2313	12.8	2.5		20	5YR7/4にぶい橙色	
167	土師器	皿N	瓦溜2313	13.4	2.1		90	10YR7/2にぶい黄橙色	煤付着
168	土師器	皿N	瓦溜2313	13.4	2.9		30	7.5YR7/3にぶい橙色	
169	土師器	皿N	瓦溜2313	13.8	2.5		25	10YR8/2灰白色	
170	土師器	皿N	瓦溜2313	14.0	2.7		35	10YR7/3にぶい黄橙色	煤付着
171	土師器	皿N	瓦溜2313	14.0	2.3		60	10YR7/2にぶい黄橙色	
172	土師器	皿N	瓦溜2313	14.6	(1.6)		25	10YR7/3にぶい黄橙色	
173	白色土器	皿	瓦溜2313	9.4	1.7	4.5	60	7.5YR8/2灰白色	
174	瓦器	皿	瓦溜2313	10.2	(1.9)		20	胎土:N7/0灰白色　表面:N3/0暗灰色	
175	瓦器	椀	瓦溜2313	15.1	5.1	5.6	60	胎土:N7/0灰白色　表面:N4/0灰色	
176	瓦器	椀	瓦溜2313	14.8	(4.2)		20	胎土:N7/0灰白色　表面:N4/0灰色	
177	施釉陶器	皿	瓦溜2313	6.1	1.5	4.6	25	10YR8/1灰白色	
178	輸入白磁	皿	瓦溜2313	9.9	(1.9)		15	胎土:2.5Y8/1灰白色　釉:5Y8/2灰白色	
179	輸入白磁	椀	瓦溜2313	15.9	(1.9)		10	胎土:N7/0灰白色　釉:7.5Y7/2灰白色	
180	輸入白磁	椀	瓦溜2313	16.8	(4.0)		15	胎土:N7/0灰白色　釉:2.5GY7/1明オリーブ灰色	
181	土師器	皿Ss	溝2230B北護岸	9.0	1.5		25	10YR8/2灰白色	
182	土師器	皿N	溝2230B北護岸	9.4	1.5		25	10YR6/2灰黄褐色	
183	土師器	皿N	溝2230B北護岸	10.0	1.5		25	7.5YR8/4浅黄橙色	
184	土師器	皿N	溝2230B北護岸	13.0	1.7		15	10YR7/2にぶい黄橙色	
185	土師器	皿S	溝2230B北護岸	10.6	2.6		25	10YR8/2灰白色	
186	土師器	皿S	溝2230B北護岸	11.4	(2.8)		20	2.5Y8/2灰白色	
187	白色土器	高杯	溝2230B北護岸		(2.2)		脚柱部10	10YR8/2灰白色	
188	山茶椀	鉢	溝2230B北護岸	23.8	9.1	13.1	60	N6/0灰色灰色	
189	土師器	皿Sc	溝2220B西護岸	7.0	1.2		35	10YR8/2灰白色	
190	土師器	皿N	溝2220B西護岸	8.0	1.5		45	10YR8/3浅黄橙色	
191	白色土器	皿	溝2220B西護岸		(1.0)		底部80	7.5YR5/4にぶい褐色	
192	須恵器	鉢	溝2220B西護岸	28.0	(5.4)		口縁部10	2.5Y6/1黄灰色	
193	瓦器	蓋	溝2220B西護岸	2.2	1.3		80	N3/0暗灰色	
194	土師器	皿N	溝2220B東護岸	8.2	1.6		55	10YR7/2にぶい黄橙色	
195	土師器	皿N	溝2220B東護岸	8.5	1.1		30	2.5Y7/2灰黄色	煤付着
196	土師器	皿N	溝2220B東護岸	9.0	1.5		40	2.5Y8/2灰白色	
197	土師器	皿N	溝2220B東護岸	12.2	2.2		30	10YR6/3にぶい黄橙色	煤付着
198	土師器	皿N	溝2220B東護岸	13.8	2.4		40	7.5YR8/3浅黄橙色	

No.	器種	器形	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	残存率(%)	色調　胎土	備考
199	土師器	皿N	溝2220B東護岸	13.8	(2.6)		20	10YR6/2灰黄褐色	
200	土師器	皿N	溝2220B東護岸	14.0	(2.8)		20	10YR7/4にぶい黄橙色	
201	土師器	皿N	溝2220B東護岸	14.1	(2.8)		20	10YR7/2にぶい黄橙色	
202	土師器	皿Sc	溝2220B東護岸	4.4	0.9		100	10YR8/2灰白色	
203	土師器	皿Sc	溝2220B東護岸	7.0	1.2		25	10YR8/2灰白色	
204	土師器	皿S	溝2220B東護岸	9.2	2.1		25	10YR8/2灰白色	
205	土師器	皿S	溝2220B東護岸	11.4	(3.1)		20	2.5Y7/2灰黄色	
206	土師器	皿S	溝2220B東護岸	14.1	2.9		10	2.4Y8/1灰白色	
207	土師器	皿	溝2220B東護岸	13.2	(3.6)		20	7.5YR8/3浅黄橙色	
208	白色土器	皿	溝2220B東護岸	8.8	1.9	4.3	40	10YR8/1灰白色	
209	瓦器	皿	溝2220B東護岸	10.0	2.0		40	胎土:2.5Y8/1灰白色　表面:N3/0暗灰色	
210	瓦器	椀	溝2220B東護岸	11.7	3.0		20	N8/0灰白色	
211	瓦器	盤	溝2220B東護岸	42.8	(7.1)		10	胎土:N6/0灰色　表面:N3/0暗灰色	
212	焼締陶器	擂鉢	溝2220B東護岸	31.8	(8.8)		10	2.5Y5/2暗灰黄色	備前
213	輸入白磁	皿	溝2220B東護岸	9.8	1.7	6.6	10	胎土:N8/0灰白色　釉:7.5GY8/1明緑灰色	
214	輸入白磁	椀	溝2220B東護岸	18.6	(3.5)		口縁部8	胎土:N8/0灰白色　釉:7.5Y7/1灰白色	
215	輸入青磁	皿	溝2220B東護岸		(1.9)	4.1	底部90	胎土:2.5Y7/1灰白色　釉:2.5GY6/1オリーブ灰色	
216	輸入青磁	皿	溝2220B東護岸	10.6	2.2	5.0	30	胎土:5Y7/1灰白色　釉:7.5Y7/2灰白色	
217	土師器	皿N	溝2230B南護岸	8.1	1.6		70	10YR7/3にぶい黄橙色	
218	土師器	皿N	溝2230B南護岸	8.3	1.9		75	7.5YR7/4にぶい橙色	
219	土師器	皿N	溝2230B南護岸	8.4	1.7		95	7.5YR7/4にぶい橙色	
220	土師器	皿N	溝2230B南護岸	8.5	1.5		90	10YR7/2にぶい黄橙色	
221	土師器	皿N	溝2230B南護岸	8.5	1.5		85	7.5YR7/3にぶい橙色	
222	土師器	皿N	溝2230B南護岸	8.5	1.6		90	7.5YR7/4にぶい橙色	
223	土師器	皿N	溝2230B南護岸	11.0	(2.4)		15	10YR8/1灰白色	
224	土師器	皿N	溝2230B南護岸	11.3	2.3		35	7.5YR8/4浅黄橙色	
225	土師器	皿N	溝2230B南護岸	11.5	2.1		45	7.5YR7/4にぶい橙色	
226	土師器	皿N	溝2230B南護岸	11.6	2.5		75	7.5YR7/4にぶい橙色	
227	土師器	皿N	溝2230B南護岸	11.8	2.3		25	10YR7/2にぶい黄橙色	
228	土師器	皿N	溝2230B南護岸	11.9	2.4		30	7.5YR7/3にぶい橙色	
229	土師器	皿N	溝2230B南護岸	12.0	(2.1)		75	7.5YR7/4にぶい橙色	
230	土師器	皿N	溝2230B南護岸	12.2	2.4		75	10YR8/3浅黄橙色	
231	土師器	皿N	溝2230B南護岸	12.2	2.3		55	7.5YR7/4にぶい橙色	

No.	器種	器形	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	残存率(%)	色調　胎土	備考
232	土師器	皿N	溝2230B 南護岸	12.5	2.2		30	7.5YR8/4浅黄橙色	
233	土師器	皿N	溝2230B 南護岸	12.6	(2.2)		25	7.5YR8/3浅黄橙色	
234	土師器	皿Sc	溝2230B 南護岸	5.8	1.0		40	10YR8/2灰白色	
235	土師器	皿S	溝2230B 南護岸	12.4	(3.4)		40	10YR8/2灰白色	
236	土師器	皿S	溝2230B 南護岸	13.0	3.4		30	2.5Y8/2灰白色	
237	白色土器	皿	溝2230B 南護岸		(0.8)	3.0	底部75	7.5YR8/2灰白色	
238	白色土器	高杯	溝2230B 南護岸		(2.5)		5	2.5Y8/2灰白色	
239	山茶椀	鉢	溝2230B 南護岸	33.3	(8.1)		口縁部12	N5/0灰色	
240	山茶椀	皿	溝2230B 南護岸	6.8	1.8	3.4	25	N7/0灰白色	
241	瓦器	皿	溝2230B 南護岸	10.2	1.8		10	胎土:N6/0灰色　表面:N3/0暗灰色	
242	瓦器	椀	溝2230B 南護岸	11.0	3.0		20	胎土:N7/0灰白色　表面:N3/0暗灰色	輪花
243	瓦器	椀	溝2230B 南護岸	13.4	(2.8)		10	胎土:2.5Y8/1灰白色　表面:N4/0灰色	
244	瓦器	椀	溝2230B 南護岸	13.9	4.4	4.6	12	胎土:N7/0灰白色　表面:N4/0灰色	
245	瓦器	椀	溝2230B 南護岸	12.6	4.1	4.8	25	胎土:N8/0灰白色　表面:N3/0暗灰色	赤色顔料付着
246	瓦器	鉢	溝2230B 南護岸		(3.3)		5	胎土:5Y7/1灰白色　表面:黒	漆塗り
247	瓦器	鍋	溝2230B 南護岸	22.7	(6.8)		25	7.5YR4/2灰褐色	
248	瓦器	羽釜	溝2230B 南護岸	24.2	(5.6)		20	2.5Y7/1灰白色	
249	瓦器	羽釜	溝2230B 南護岸	24.3	(7.3)		15	2.5Y7/1灰白色	
250	輸入白磁	椀	溝2230B 南護岸		(3.5)	6.2	底部40	胎土:2.5Y8/2灰白色　釉:5Y7/2灰白色	
251	輸入白磁	水注	溝2230B 南護岸				注口のみ	胎土:5Y7/1灰白色　釉:10YR7/2灰白色	
252	輸入 施釉陶器	盤	溝2230B 南護岸	23.6	(4.2)		口縁部8	胎土:2.5Y6/1黄灰色 釉:2.5Y6/3にぶい黄色・5Y5/6明赤褐色	断面に漆痕
253	土師器	皿Sc	溝2220B 東護岸補修	4.5	0.8		100	10YR8/2灰白色	
254	土師器	皿Ss	溝2220B 東護岸補修	8.4	1.4		55	10YR8/1灰白色	
255	土師器	皿S	溝2220B 東護岸補修	12.2	3.2		20	10YR8/2灰白色	
256	土師器	皿S	溝2220B 東護岸補修	13.6	(3.4)		45	10YR7/2にぶい黄橙色	
257	土師器	皿N	溝2220B 東護岸補修	11.9	(2.1)		25	10YR8/3浅黄橙色	
258	須恵器	鉢	溝2220B 東護岸補修	25.4	(5.5)		口縁部12	N5/0灰色	
259	瓦器	羽釜	溝2220B 東護岸補修	24.0	(4.9)		口縁部20	2.5Y6/2灰黄色	
260	瓦器	鍋	溝2220B 東護岸補修	24.1	(8.6)		15	7.5Y5/2灰褐色	
261	輸入青磁	壷	溝2220B 東護岸補修		(3.3)		破片	胎土:N7/0灰白色　釉:7.5GY7/1明緑灰色	
262	土師器	皿N	溝2240 南護岸	7.9	1.8		100	10YR7/3にぶい黄橙色	
263	土師器	皿N	溝2240 南護岸	11.2	2.1		90	10YR8/3浅黄橙色	
264	土師器	皿N	溝2240 南護岸	11.3	2.2		90	10YR8/3浅黄橙色	

No.	器種	器形	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	残存率(%)	色調　胎土	備考
265	土師器	皿N	溝2240 南護岸	11.5	2.2		45	10YR7/3にぶい黄橙色	
266	土師器	皿S	溝2240 南護岸	11.2	3.0		80	10YR8/1灰白色	
267	土師器	皿S	溝2240 南護岸	11.3	3.1		95	10YR8/3浅黄橙色	煤付着
268	土師器	皿N	1区整地層	(12.6)			5	7.5YR7/3にぶい橙色	
269	土師器	皿N	1区整地層				5	10YR6/2灰黄褐色	
270	土師器	皿S	1区整地層				5	7.5YR8/1灰白色	
271	土師器	皿S	1区整地層				5	内:N3/0暗灰色　外:7.5YR7/6橙色	
272	土師器	皿N	土坑1109	7.8	1.7		75	10YR7/3にぶい黄橙色	
273	土師器	皿N	土坑1109	8.1	1.4		75	10YR7/1灰色	
274	土師器	皿N	土坑1109	8.2	1.5		100	10YR7/2にぶい黄橙色	
275	土師器	皿N	土坑1109	8.2	1.3		100	10YR7/1灰色	
276	土師器	皿N	土坑1109	8.2	1.3		100	10YR8/1灰白色	
277	土師器	皿N	土坑1109	8.2	(1.2)		25	10YR8/1灰白色	
278	土師器	皿N	土坑1109	8.4	1.5		50	10YR7/1灰色	
279	土師器	皿N	土坑1109	8.6	1.4		100	10YR7/3にぶい黄橙色	
280	土師器	皿N	土坑1109	11.4	2.2		65	5Y7/2灰白色	
281	土師器	皿N	土坑1109	11.6 ～12.2	2.0		100	7.5YR8/1灰白色	
282	土師器	皿N	土坑1109	12.2	2.1		75	2.5Y7/2灰黄色	
283	土師器	皿N	土坑1109	12.3	(2.0)		20	10YR8/1灰白色	
284	土師器	皿N	土坑1109	12.3	2.3		100	2.5Y8/1灰白色	
285	土師器	皿N	土坑1109	12.4	2.3		75	5Y7/1灰白色	
286	土師器	皿Sc	土坑1109	5.3	0.9		100	10YR8/1灰白色	
287	土師器	皿S	土坑1109	10.0	2.4		50	2.5Y8/1灰白色	
288	土師器	皿S	土坑1109	11.0	2.6		50	2.5Y8/1灰白色	
289	土師器	皿S	土坑1109	12.2	(3.0)		75	10YR8/1灰白色	
290	土師器	皿S	土坑1109	13.0	3.5		100	10YR8/3浅黄橙色	
291	土師器	皿S	土坑1109	13.6	(3.1)		60	10YR8/2灰白色	
292	須恵器	鉢	土坑1109				5	7.5Y5/1灰色	
293	瓦器	盤	土坑1109				5	内:7.5YR6/3にぶい褐色　外:2.5Y3/1黒褐色	
294	瓦器	盤	土坑1109				5	内:7.5YR7/2暗褐灰色　外:10YR3/1黒褐色	
295	土師器	皿N	土坑1036	8.0	(1.5)		50	5Y7/1灰白色	
296	土師器	皿N	土坑1036	8.2	1.4		50	10YR7/2にぶい黄橙色	煤付着
297	土師器	皿N	土坑1036	8.4	1.7		100	2.5Y8/2灰白色	

No.	器種	器形	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	残存率(%)	色調　胎土	備考
298	土師器	Ⅲ N	土坑1036	8.5	1.6		100	2.5Y7/1灰白色	
299	土師器	Ⅲ N	土坑1036	10.8	1.7		50	2.5Y7/2灰黄色	
300	土師器	Ⅲ N	土坑1036	11.0	1.9		70	10YR6/2灰黄褐色～10YR4/1褐灰色	
301	土師器	Ⅲ N	土坑1036	11.2	2.1		70	7.5YR7/3にぶい橙色	
302	土師器	Ⅲ N	土坑1036	11.5 ～12.1	1.9		50	7.5YR7/6橙色	
303	土師器	Ⅲ N	土坑1036	11.2 ～11.8	2.1		100	7.5YR6/4にぶい橙色	
304	土師器	Ⅲ N	土坑1036	11.4	2.2		70	7.5YR7/4にぶい橙色	
305	土師器	Ⅲ N	土坑1036	11.2 ～11.6	2.3		80	7.5YR8/4浅黄橙色	
306	土師器	Ⅲ N	土坑1036	11.6	(1.9)		15	7.5YR7/6橙色	
307	土師器	Ⅲ N	土坑1036	11.4	2.1		50	7.5YR8/2灰白色	
308	土師器	Ⅲ S	土坑1036	12.0	(3.0)		25	10YR8/2灰白色	
309	土師器	Ⅲ S	土坑1036	11.8	(3.0)		70	5Y8/1灰白色	
310	土師器	Ⅲ N	溝2220 ・2230B	7.5	1.2		85	7.5YR7/3にぶい橙色	
311	土師器	Ⅲ N	溝2220 ・2230B	7.8	1.6		90	10YR7/2にぶい黄橙色	
312	土師器	Ⅲ N	溝2220 ・2230B	7.8	1.5		55	2.5Y7/2灰黄色	煤付着
313	土師器	Ⅲ N	溝2220 ・2230B	7.9	1.3		40	10YR7/3にぶい黄橙色	
314	土師器	Ⅲ N	溝2220 ・2230B	8.0	1.3		65	10YR7/3にぶい黄橙色	
315	土師器	Ⅲ N	溝2220 ・2230B	8.1	1.3		60	10YR5/2灰黄褐色	煤付着
316	土師器	Ⅲ N	溝2220 ・2230B	8.2	1.5		100	10YR7/2にぶい黄橙色	煤付着
317	土師器	Ⅲ N	溝2220 ・2230B	8.3	1.5		75	10YR8/3浅黄橙色	
318	土師器	Ⅲ N	溝2220 ・2230B	8.4	(1.7)		25	2.5Y7/1灰白色	
319	土師器	Ⅲ N	溝2220 ・2230B	8.4	1.9		95	7.5YR7/4にぶい橙色	
320	土師器	Ⅲ N	溝2220 ・2230B	8.7	1.6		30	10YR7/2にぶい黄橙色	煤付着
321	土師器	Ⅲ N	溝2220 ・2230B	8.7	1.4		40	10YR7/1灰白色	
322	土師器	Ⅲ N	溝2220 ・2230B	8.8	1.4		100	10YR7/2にぶい黄橙色	煤付着
323	土師器	Ⅲ N	溝2220 ・2230B	8.9	1.6		60	2.5Y2/1黒色	煤付着
324	土師器	Ⅲ N	溝2220 ・2230B	8.9	(1.6)		55	10YR7/2にぶい黄橙色	
325	土師器	Ⅲ N	溝2220 ・2230B	9.1	1.8		100	10YR7/2にぶい黄橙色	煤付着
326	土師器	Ⅲ N	溝2220 ・2230B	9.5	1.5		45	10YR6/1褐灰色	煤付着
327	土師器	Ⅲ N	溝2220 ・2230B	8.1	1.6		40	7.5YR7/4にぶい橙色	
328	土師器	Ⅲ N	溝2220 ・2230B	8.2	1.7		99	7.5YR6/4にぶい橙色	煤付着
329	土師器	Ⅲ N	溝2220 ・2230B	10.8	(1.9)		26	内:7.5YR7/4にぶい橙色　外:10YR7/3にぶい橙色	
330	土師器	Ⅲ N	溝2220 ・2230B	11.0	(2.0)		25	2.5Y7/2灰黄色	

No.	器種	器形	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	残存率(%)	色調　胎土	備考
331	土師器	Ⅲ類N	溝2220・2230B	11.1	(1.9)		20	10YR8/3浅黄橙色	
332	土師器	Ⅲ類N	溝2220・2230B	11.5	(1.9)		20	2.5Y7/3浅黄色	煤付着
333	土師器	Ⅲ類N	溝2220・2230B	12.0	1.9		40	7.5YR7/2明褐灰色	
334	土師器	Ⅲ類N	溝2220・2230B	11.7	1.9		38	7.5YR7/4にぶい橙色	
335	土師器	Ⅲ類N	溝2220・2230B	11.8	(2.1)		25	10YR7/3にぶい橙色	煤付着
336	土師器	Ⅲ類N	溝2220・2230B	11.8	2.1		18	2.5Y8/2灰白色	
337	土師器	Ⅲ類N	溝2220・2230B	11.8	(2.0)		22	7.5YR7/3にぶい橙色	
338	土師器	Ⅲ類N	溝2220・2230B	12.2	2.1		40	10YR7/2にぶい黄橙色	
339	土師器	Ⅲ類N	溝2220・2230B	12.3	2.2		30	内:7.5YR7/4にぶい橙色　外:10YR7/3にぶい黄橙色	
340	土師器	Ⅲ類N	溝2220・2230B	12.3	(2.2)		25	10YR7/2にぶい黄橙色	煤付着
341	土師器	Ⅲ類Sc	溝2220・2230B	4.0	0.7		80	10YR8/1灰白色	
342	土師器	Ⅲ類Sc	溝2220・2230B	3.7	0.8		95	10YR8/2灰白色	
343	土師器	Ⅲ類Sc	溝2220・2230B	4.4	1.0		95	10YR8/2灰白色	
344	土師器	Ⅲ類Sc	溝2220・2230B	4.7	0.9		98	10YR8/2灰白色	
345	土師器	Ⅲ類Sc	溝2220・2230B	5.0	0.9		99	2.5Y8/2灰白色	
346	土師器	Ⅲ類Sc	溝2220・2230B	5.1	1.1		98	10YR8/2灰白色	
347	土師器	Ⅲ類Ss	溝2220・2230B	7.1	(1.5)		40	2.5Y8/1灰白色	
348	土師器	Ⅲ類Ss	溝2220・2230B	8.7	1.5		45	2.5Y8/2灰白色	
349	土師器	Ⅲ類Ss	溝2220・2230B	8.3	1.4		30	2.5Y8/1灰白色	
350	土師器	Ⅲ類Ss	溝2220・2230B	8.7	1.5		99	2.5Y7/2灰黄色	
351	土師器	Ⅲ類Sh	溝2220・2230B	6.3	2.0		70	10YR8/1灰白色	
352	土師器	Ⅲ類Sh	溝2220・2230B	6.4	1.8		45	2.5Y8/1灰白色	
353	土師器	Ⅲ類Sh	溝2220・2230B	6.8	1.6		45	10YR8/1灰白色	
354	土師器	Ⅲ類Sh	溝2220・2230B	6.8	1.9		99	2.5Y8/1灰白色	
355	土師器	Ⅲ類Sh	溝2220・2230B	7.2	1.6		25	N8/0灰白色	
356	土師器	Ⅲ類S	溝2220・2230B	10.0	2.6		35	10YR8/1灰白色	
357	土師器	Ⅲ類S	溝2220・2230B	10.6	2.8		25	10YR8/1灰白色	
358	土師器	Ⅲ類S	溝2220・2230B	11.0	(1.9)		40	2.5Y8/1灰白色	
359	土師器	Ⅲ類S	溝2220・2230B	11.1	2.8		45	2.5Y8/1灰白色	
360	土師器	Ⅲ類S	溝2220・2230B	11.1	2.5		20	10YR8/1灰白色	
361	土師器	Ⅲ類S	溝2220・2230B	11.3	(2.9)		27	2.5Y8/2灰白色	
362	土師器	Ⅲ類S	溝2220・2230B	11.5	2.6		25	2.5Y8/1灰白色	
363	土師器	Ⅲ類S	溝2220・2230B	12.0	(3.1)		30	2.5Y8/2灰白色	

No.	器種	器形	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	残存率(%)	色調　胎土	備考
364	土師器	皿S	溝2220・2230B	12.1	3.2		35	10YR8/2灰白色	
365	土師器	皿S	溝2220・2230B	12.2	3.0		35	2.5Y8/2灰白色	
366	土師器	皿S	溝2220・2230B	13.0	2.6		20	2.5Y8/2灰白色	
367	土師器	皿S	溝2220・2230B	13.0	(3.7)		25	10YR8/2灰白色	煤付着
368	土師器	皿S	溝2220・2230B	13.1	3.0		20	10YR8/1灰白色	
369	土師器	皿S	溝2220・2230B	13.2	(2.8)		20	10YR8/2灰白色	
370	土師器	皿S	溝2220・2230B	13.4	3.4		60	2.5Y8/2灰白色	
371	土師器	皿S	溝2220・2230B	13.5	(3.2)		25	内:7.5YR8/2灰白色　外:10YR7/3にぶい橙色	
372	土師器	皿	溝2220・2230B	7.5	1.6		60	7.5YR7/4にぶい橙色	
373	土師器	台付皿	溝2220・2230B	7.8	2.7		20	2.5Y6/1黄灰色	
374	土師器	片口鍋	溝2220・2230B	14.6	(3.3)		口縁部12	10YR7/2にぶい黄橙色	煤付着
375	土師器	ミニチュア片口鍋	溝2220・2230B	5.0	1.8		60	2.5Y8/2灰白色	
376	土師器	ミニチュア鍋	溝2220・2230B	5.2	(1.6)		40	2.5Y8/2灰白色	
377	土師器	ミニチュア羽釜	溝2220・2230B	5.0	(2.2)		口縁部25	2.5Y8/2灰白色	
378	土師器	羽釜	溝2220・2230B	25.6	(4.2)		口縁部13	胎土:N3/0暗灰色　表面:2.5Y7/3浅黄色	
379	土師器	羽釜	溝2220・2230B	24.4	(7.7)		20	胎土:N3/0暗灰色　表面:2.5Y5/2暗灰黄色	
380	土師器	鉢	溝2220・2230B	10.8	(6.3)		口縁部20	7.5YR6/4にぶい橙色	
381	土師器	鉢	溝2220・2230B	5.0	(9.1)		底部65	7.5YR6/4にぶい橙色	
382	土師器	鉢	溝2220・2230B	5.5	(7.4)		底部40	10YR6/3にぶい黄橙色	底部穿孔あり
383	灰釉陶器	輪花椀か	溝2220・2230B		(3.1)	5.1	底部100	10YR7/1灰白色	
384	須恵器	片口鉢	溝2220・2230B	10.8	2.8		10	N6/0灰色	体部内外面に赤色顔料付着
385	須恵器	鉢	溝2220・2230B	28.7	10.2	9.0	37	10YR7/2にぶい黄橙色	内面一部に赤色顔料付着
386	白色土器	皿	溝2220・2230B	8.1	2.0	3.8	40	10YR8/1灰白色	
387	山茶椀	小皿	溝2220・2230B	6.5	1.9	3.3	30	2.5Y7/1灰白色	
388	山茶椀	小皿	溝2220・2230B	8.1	2.2	4.3	20	N7/0灰白色	
389	山茶椀	小皿	溝2220・2230B	8.7	2.5	2.1	65	2.5Y7/1灰白色	
390	山茶椀	椀	溝2220・2230B	12.9	5.2	5.5	30	10YR7/2にぶい黄橙色	
391	山茶椀	椀	溝2220・2230B	13.0	5.1	6.1	25	2.5Y7/1灰白色	
392	山茶椀	椀	溝2220・2230B	14.6	4.8	5.7	10	N7/0灰白色	
393	山茶椀	椀	溝2220・2230B		(2.0)	7.8	30	10YR8/1灰白色	
394	山茶椀	鉢	溝2220・2230B		(6.4)		20	2.5Y7/1灰白色	
395	白色土器	皿	溝2220・2230B		(0.9)	6.2	底部95	7.5YR8/2灰白色	煤付着
396	施釉陶器	小椀	溝2220・2230B	6.1	1.4	4.2	55	2.5Y7/2灰黄色	

No.	器種	器形	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	残存率(%)	色調　胎土	備考
397	焼締陶器	甕	溝2220・2230B		(4.6)		破片	胎土:10YR7/1灰白色　表面:7.5YR4/3褐色	
398	焼締陶器	片口鉢	溝2220・2230B		(3.9)		20	内:10YR6/1褐灰色　外:10YR6/2灰黄褐色	
399	焼締陶器	片口鉢	溝2220・2230B	31.9	(6.6)		口縁部15	内:7.5YR5/2褐灰色　外:5YR7/6橙色	
400	瓦器	椀	溝2220・2230B	7.5	(2.1)		25	胎土:N8/0灰白色　表面:N7/0灰白色～N3/0暗灰色	
401	瓦器	椀	溝2220・2230B	11.0	2.8		30	胎土:N7/0灰白色　表面:N4/0灰色	
402	瓦器	椀	溝2220・2230B	7.5	3.1	3.8	25	胎土:N8/0灰白色　表面:N4/0灰色	
403	瓦器	椀	溝2220・2230B	10.2	(2.6)		20	胎土:10YR8/1灰白色　表面:N4/0灰色	
404	瓦器	鉢	溝2220・2230B	15.5	(4.8)		25	胎土:10YR8/1灰白色　表面:N3/0暗灰色	
405	瓦器	甕	溝2220・2230B	15.8	(4.9)		40	胎土:N8/0灰白色　表面:N4/0灰色	
406	瓦器	鍋	溝2220・2230B	25.6	(11.0)		40	胎土:N6/0灰色　表面:2.5Y7/2灰黄色	
407	瓦器	羽釜	溝2220・2230B	29.0	(7.0)		口縁部20	胎土:N3/0暗灰色　表面:N4/0灰色	
408	瓦器	羽釜	溝2220・2230B	13.5	(8.2)		25	10YR6/1褐灰色	
409	瓦器	火鉢	溝2220・2230B	18.0	4.8		30	胎土:N4/0灰色　表面:N3/0暗灰色	
410	瓦器	火鉢	溝2220・2230B	縦(11.5)	(5.1)	横(11.5)		胎土:N4/0灰色　表面:2.5Y5/1黄灰色	
411	瓦器	風炉	溝2220・2230B	長(11.4)	短(6.3)	厚(2.4)		N5/0灰色～N3/0暗灰色	
412	瓦器	風炉	溝2220・2230B	長(8.6)	短(10.3)	厚(2.7)		N3/0暗灰色	
413	瓦器	火鉢	溝2220・2230B		(13.7)	30.2	25	胎土:N8/0灰白色　表面:N3/0暗灰色	
414	瓦器	不明	溝2220・2230B		(14.5)	5.7	60	胎土:N4/0灰色　表面:N3/0暗灰色	
415	輸入陶器 鉄絵	壷か	溝2220・2230B	長(4.3)	短(3.8)	厚(0.5)	破片	胎土:N7/0灰白色 釉:5Y7/2灰白色・10YR5/2灰黄褐色	
416	輸入陶器 緑釉	壷	溝2220・2230B		(4.0)		小片	胎土:7.5YR5/3にぶい褐色 釉:10Y3/1オリーブ黒色	
417	輸入陶器 緑釉	壷	溝2220・2230B	13.0	(2.1)		口縁部12	胎土:10YR7/2にぶい黄橙色　釉:深緑	
418	輸入陶器 鉄釉	椀	溝2220・2230B	11.8	(4.3)		10	胎土5Y5/1灰色　釉:5B1.7/1青灰色	禾目天目椀
419	輸入 施釉陶器	盤	溝2220・2230B		(2.9)	24.7	底部5	胎土5Y6/1灰色　釉:5Y6/2灰オリーブ色	
420	輸入 施釉陶器	盤	溝2220・2230B		(4.6)	22.5	底部10	胎土:N6/0灰白色 釉:5Y7/3浅黄色・2.5Y4/4オリーブ褐色	
421	輸入白磁	皿	溝2220・2230B	8.4	1.6	5.1	35	胎土:N8/0灰白色　釉:10G8/1明緑灰色	
422	輸入白磁	皿	溝2220・2230B	8.8	1.6	5.8	25	胎土:N7/0灰白色　釉:7.5GY8/1明緑灰色	
423	輸入白磁	皿	溝2220・2230B	8.4	1.7	5.2	30	胎土:5Y7/1灰白色　釉:5GY8/1灰白色	
424	輸入白磁	皿	溝2220・2230B	9.8	2.8	3.6	20	胎土:5Y7/1灰白色 釉:5GY8/1灰白色・5Y8/2灰白色	
425	輸入白磁	椀	溝2220・2230B	10.7	(3.4)		20	胎土:N8/0灰白色　釉:10YR8/1灰白色	
426	輸入白磁	椀	溝2220・2230B	14.6	(4.2)		12	胎土:N8/0灰白色	
427	輸入白磁	椀	溝2220・2230B	15.6	(3.8)		20	胎土:N8/0灰白色　釉:5GY8/1灰白色	
428	輸入白磁	壷	溝2220・2230B			8.2	底部100 胴部15	胎土:N7/0灰白色　釉:10YR7/2灰白色	
429	輸入白磁	水注	溝2220・2230B				注口のみ	胎土:N7/0灰白色　釉:5GY7/1明オリーブ灰色	

No.	器種	器形	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	残存率(%)	色調　胎土	備考
430	輸入青白磁	皿	溝2220・2230B		(1.1)	3.6	底部のみ	胎土:N8/0灰白色　釉:10G7/1明緑灰色	
431	輸入青白磁	輪花皿	溝2220・2230B	6.7	1.1	2.1	15	胎土:N8/0灰白色　釉:うすい明青灰色	
432	輸入青磁	皿	溝2220・2230B	10.0	2.0	4.5	40	胎土:N6/0灰色　釉:5GY6/1オリーブ灰色	
433	輸入青磁	椀	溝2220・2230B		(1.7)	5.0	底部70	胎土:2.5Y7/1灰白色　釉:7.5Y7/2灰白色	内外面漆付着
434	輸入青磁	杯	溝2220・2230B	14.0	(2.4)		25	胎土:N7/0灰白色　釉:7.5GY7/1明緑灰色	
435	輸入青磁	杯	溝2220・2230B	12	(3.1)		15	胎土:N8/0灰白色　釉:10G7/1明緑灰色	
436	輸入青磁	椀	溝2220・2230B	15.2	(4.0)		10	胎土:N7/0灰白色　釉:10Y7/2灰白色	
437	輸入青磁	椀	溝2220・2230B	16.2	(4.2)		20	胎土:2.5Y7/1灰白色　釉:7.5GY7/1明緑灰色	
438	輸入高麗青磁	瓶	溝2220・2230B				破片	胎土:2.5Y7/1灰白色　釉:5Y6/3オリーブ黄色	
439	土師器	皿Sh	溝2220・2230A	6.8	1.8		25	7.5YR8/2灰白色	
440	土師器	皿N	溝2220・2230A	9.5	(1.9)		20	7.5YR7/3にぶい橙色	煤付着
441	土師器	皿N	溝2220・2230A	10.0	(2.1)		20	10YR7/3にぶい黄橙色	
442	土師器	皿N	溝2220・2230A	10.8	(2.1)		25	10YR7/3にぶい黄橙色	
443	瓦器	火鉢	溝2220・2230A	縦(17.2)	(8.0)	横(10.7)		胎土:N8/0灰白色　表面:N3/0暗灰色	
444	瓦器	鍋	溝2220・2230A	28.5	(5.2)		口縁部20	10YR6/2灰黄褐色	
445	焼締陶器	壺	溝2220・2230A	11.0	7.9	12.6	13	7.5YR5/1褐灰色	
446	輸入白磁	椀	溝2220・2230A	14.0	(2.9)		口縁部13	胎土:N8/0灰白色　釉:5GY8/1灰白色	
447	焼締陶器	鉢	畔2185		(5.1)	15.8	底部20	2.5Y7/1灰白色	
448	焼締陶器	擂鉢	畔2185	22.9	(5.6)		10	5YR7/6橙色・5YR5/4にぶい赤褐色	8条1単位
449	焼締陶器	擂鉢	畔2185	30.8	(5.7)		口縁部10	7.5YR5/2灰褐色～7.5YR5/3にぶい褐色	10条1単位
450	施釉陶器	椀	畔2185	11.4	(6.2)		20	胎土:2.5YR8/2灰白色 釉:7.5YR4/4褐色・10YR2/1黒色	天目椀
451	輸入青磁	椀	畔2185		(4.5)	5.6	底部60	胎土:N8/0灰白色　釉:10YR6/2オリーブ灰色	

付表２　軒丸瓦観察表

番号	瓦当文様の特徴	手法の特徴	時期・産地・同笵・同文	出土遺構
瓦1	単弁8弁蓮華文。凹中房、1＋8。蓮弁は接する。外区は界線・珠文16・界線、左回り16転唐草文、唐草先端巻き弱い。	瓦当成形不明。丸瓦接合位置低い。瓦当裏面平坦。瓦当裏面下半横ケズリ。	11世紀中葉。山城産。 法勝寺(上村ほか1987)瓦4と同笵。 朝堂院(平博1977)236と同文。	溝2230A、計1点
瓦2	単弁8弁蓮華文。凸中房、1＋4。蓮弁は接する。外区は界線・珠文15・界線、右回り唐草文、唐草巻き弱い。瓦当面笵キズ多い。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。 瓦当側面下半横ケズリ・裏面下半横ケズリ。	11世紀中葉。山城産。 高陽院(平尾ほか1982)12と同笵。	2区断割、計1点
瓦3	単弁8弁蓮華文。花形線中房、1＋4で蓮子は放射線で連結する。蓮弁は宝珠形で輪郭線あり。外区は界線・密な珠文、外区一部・周縁なし。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。 瓦当裏面盛り上がる。	11世紀中葉。山城産。 高陽院(平尾ほか1982)17、朝堂院(平博1977)208、安井西裏窯(田中ほか1999)12と同笵。	溝2230A、計1点
瓦4	複弁8弁蓮華文。圏線中房、1＋8。蓮弁は山形。間弁は独立。輪郭線あり、外区なし。	瓦当成形不明。丸瓦接合位置低い。裏面平坦。	11世紀後葉。播磨産。 円勝寺(CB2)瓦2、法勝寺(市埋文1996)390と同笵。	溝2220B東護岸、計1点
瓦5	複弁8弁蓮華文。圏線中房、1＋8。間弁は独立。輪郭線あり、外区なし。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 裏面平坦。丸瓦接合位置低い。	11世紀後葉。播磨産。 円勝寺(CB1)瓦1、法勝寺(辻2007)図9-41、神出堂ノ前窯(春成2014)258と同文。	土坑2316、計1点
瓦6	複弁8弁蓮華文。圏線中房、1＋8。弁端は山形、間弁は独立。瓦笵外区縮小し、輪郭線の端部のみ残存。瓦当面笵キズあり。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 裏面平坦。	11世紀後葉。播磨産。 円勝寺(CB1)瓦4、円勝寺(円勝団1972)ER001C型式、法勝寺(近藤2014b)図14-4と同笵。	溝2220・2230B、計1点
瓦7	複弁蓮華文。凸中房。間弁あり。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 裏面平坦。	11世紀後葉。播磨産。	溝2220・2230B、 溝2220B東護岸、計2点
瓦8	単弁16弁蓮華文。圏線、1＋5。蓮弁は接する、子葉なし。間弁は三角形。外区は界線。瓦当面笵キズあり。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 裏面平坦。丸瓦接合位置低い。	11世紀後葉。播磨産。 法勝寺(市埋文1996)387、神出堂ノ前窯(春成2014)260と同文。	溝2220B東護岸、計1点
瓦9	単弁17弁蓮華文。圏線中房、1＋8。蓮弁は接し、間弁は連続。外区なし。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 裏面平坦。	11世紀後葉。播磨産。 円勝寺(CB2)瓦4、円勝寺(市埋文1996)490と同笵。	溝2220・2230C、計1点
瓦10	単弁蓮華文。瓦9と同文で、蓮弁が長い。間弁は連続。外区なし。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。	11世紀後葉。播磨産。	溝2230B南護岸、計1点
瓦11	複弁8弁蓮華文。花形圏線中房。子葉・蓮弁端は山形。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 瓦当裏面平坦。	11世紀後葉。播磨産。 円勝寺(円勝団1972)ER016型式、法勝寺(京都市1975)2と同文。	溝2056、計1点
瓦12	複弁8弁蓮華文。凸中房、1＋4。周囲に圏線。蓮弁は上下2重で交互に配置。間弁は連続、基部は珠文となる。外区は密な珠文。笵キズあり。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。 裏面平坦。	11世紀後葉。丹波産。 円勝寺(CB2)瓦11と同笵。 平安宮真言院(京都市1976a)図22-2、篠町A號瓦窯址(安井1960)第98図-16と類似。	溝2220・2230、計1点
瓦13	複弁5弁蓮華文。圏線中房、1＋5。間弁は連続。外区は界線・珠文17。瓦当面笵キズ多い。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 瓦当裏面平坦。瓦当側面下半横ケズリ、裏面下半横方向ケズリ。	11世紀後葉。大和産。 円勝寺(円勝団1972)ER007型式、円勝寺(CB2)瓦9と同笵。薬師寺(山崎1987)69図5と同文。	土坑2314、土坑2316、計2点
瓦14	複弁8弁蓮華文。圏線中房で中央盛り上がる、1＋5。間弁は独立。輪郭線あり、外区なし。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 裏面平坦。	11世紀後葉。大和産。 円勝寺(円勝団1972)ER021型式、興福寺(藪中1991)Ⅵ丸A4と同文。	2区断割、計1点
瓦15	複弁8弁蓮華文。花形凸中房、1＋8。回りに蕊あり。蓮弁は接する。外区は界線。瓦当面笵キズ多い。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。	11世紀後葉。大和産。 最勝寺推定地(内田ほか1995)2と同笵。 興福寺(藪中1991)Ⅵ丸E5と同文。	土坑2343、計1点
瓦16	単弁8弁蓮華文。凸中房、1＋4。間弁なし。外区に密な竹管押し。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 瓦当裏面平坦。	11世紀後葉。大和産。 興福寺(藪中1991)Ⅴ丸B1、興福寺北円堂(今井2012)第23図2と同文。 尊勝寺(奈文研1961)67型式と類似。	溝2220A、計1点
瓦17	単弁8弁蓮華文。凸中房、蓮子は周環、1＋4。周囲に蕊・珠点あり。蓮弁は上下2重で交互に配置。蓮弁輪郭線あり。間弁なし。外区は界線。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。 裏面平坦。	11世紀後葉。大和産。 円勝寺(CB2)瓦8、(円勝団1972)ER024型式と同笵。 薬師寺(山崎1987)Fig.38-31と同文。	溝2220B東護岸、 土坑2316、計2点
瓦18	単弁14弁蓮華文。凸中房、蓮子不明。間弁は連続。外区に密な珠文。瓦当面笵キズ多い。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 裏面平坦。瓦当側面上半不定方向ケズリ。	11～12世紀。産地不明。	土坑2316、計1点
瓦19	単弁8弁蓮華文。凹中房、1＋5。蓮弁は盛り上がり、独立。間弁なし。外区は1段下がり、珠文19。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 裏面平坦。瓦当側面下半横ケズリ、裏面下半横方向ケズリ。	11～12世紀。産地不明。 円勝寺(円勝団1972)ER027型式と同笵。 尊勝寺(奈文研1961)66型式と類似。	ピット1101、計1点
瓦20	単弁蓮華文。平坦中房。蓮弁は盛り上がり、独立。間弁なし。界線・段なし。外区は珠文。	裏面溝付丸瓦挿入成形。 瓦当裏面平坦。	11～12世紀代。産地不明。 円勝寺(円勝団1972)ER023型式、尊勝寺(奈文研1961)66型式と同文。	溝2220・2230C、計1点
瓦21	複弁8弁蓮華文。凸中房、周囲に圏線。弁区一段高い。蓮弁接し、弁端返り強い。外区なし。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 裏面平坦。	11～12世紀。産地不明。 円勝寺(CB1)瓦90、円勝寺(円勝団1972)ER012型式、旧勧業館(市埋文1996)513と同文。	2区写真清掃中、計1点

番号	瓦当文様の特徴	手法の特徴	時期・産地・同笵・同文	出土遺構
瓦22	複弁8弁蓮華文。圏線中房、1＋6。蓮弁・間弁は独立。外区は界線・珠文16・圏線。瓦当面笵キズ多い。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。	12世紀前葉。山城産。 円勝寺(CB2)瓦16、尊勝寺(奈文研1961)6型式と同笵。	溝2230B南護岸、計1点
瓦23	複弁7弁蓮華文。圏線中房、1＋5。蓮弁・間弁は独立。外区は界線・珠文10・圏線。瓦当面笵キズ多い。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。	12世紀前葉。山城産。 円勝寺(CB1)瓦16、尊勝寺(奈文研1961)7型式と同笵。	溝2220・2230C、 瓦溜2313、計2点
瓦24	複弁6弁蓮華文。圏線中房、1＋4。蓮弁は接する。間弁なし。外区は界線・珠文12・圏線。瓦当面笵キズあり。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。	12世紀前葉。山城産。 尊勝寺(奈文研1961)5型式、円勝寺(CB2)瓦15、南ノ庄田窯(高1998)139と同笵。	溝2220・2230B、2区断割、計2点
瓦25	複弁6弁蓮華文。凸中房、1＋4。蓮弁は接し、弁端盛り上がる。間弁なし。外区界線・珠文12・圏線。瓦当面笵キズあり。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。	12世紀前葉。山城産。 円勝寺(CB1)瓦12、尊勝寺(奈文研1961)31型式と同笵。	溝2209、計1点
瓦26	複弁8弁蓮華文。圏線中房、1＋4。蓮弁は接し、間弁なし。外区は界線・珠文16・圏線。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 裏面平坦。側面下半横ケズリ。	12世紀前葉。山城産。 円勝寺(CB1)瓦14、尊勝寺(奈文研1961)8型式、栗栖野窯(市埋文1996)56と同笵。	2区断割、計2点
瓦27	蓮華文。蓮弁は一部接する。間弁なし。外区は界線・密な珠文13。瓦当面は楕円形。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 瓦当側面下半横ケズリ。	12世紀前葉。山城産。 尊勝寺(上村ほか1994b)図67-2、法勝寺(京都市1975)図20-9、栗栖野窯(市埋文1996)28と同笵。	土坑2316、計1点
瓦28	複弁6弁蓮華文。凸中房、蓮子不明。蓮弁接する。外区は界線。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 裏面盛り上がる。	12世紀前葉。山城産。	溝2220A、計1点
瓦29	単複混合蓮華文(複弁7＋単弁2)。圏線中房で内向き突起あり、1＋4で中心蓮子は水滴形。蓮弁は独立、弁端盛り上がる。外区なし。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。	12世前葉。山城産。 円勝寺(CB1)瓦47、尊勝寺(奈文研1961)41A型式と同文。	土坑2316、計1点
瓦30	蓮華文。蓮弁は接する、間弁は連続。外区なし。弁区に2本笵キズあり。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 瓦当側面縄タタキあり。	12世紀前葉。山城産。 円勝寺(CB1)瓦23、尊勝寺(奈文研1961)23B型式と同笵。	瓦溜2313(3点)、 溝2220B東護岸(2点)、 溝2306、計6点
瓦31	瓦30と同文で、子葉短い。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。	12世紀前葉。山城産。 法勝寺(上村ほか1987)図版13-9、尊勝寺(奈文研1961)23C型式と同文。	瓦溜2313、溝2240B、 計2点
瓦32	単弁10弁蓮華文。圏線中房、中央に突起あり。蓮弁接し、間弁は連続。外区珠文は上半大7個、下半小2個。瓦当面は楕円形。	瓦当成形不明。瓦当側面下半横ケズリ。	12世紀前葉。山城産。 尊勝寺(梶川1987)図6-2、円勝寺(CB1)瓦21、円勝寺(円勝団1972)ER038型式、南ノ庄田窯(高1998)図版3-16と同笵。	溝2230B南護岸、計1点
瓦33	単弁9弁蓮華文。圏線中房、1＋4。蓮弁に輪郭線あり。間弁は連続。外区は珠文9。瓦当面笵キズ多い。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 瓦当側面下半横ケズリ。	12世紀前葉。山城産。 円勝寺(CB1)瓦18、尊勝寺(奈文研1961)64型式、栗栖野窯(吉村1993)図23-14と同笵。	2区断割、 溝2220B東護岸、 瓦溜2313、計3点
瓦34	単弁12弁蓮華文。凸中房。蓮弁は接し、間弁は連続。外区は珠文。瓦当面笵キズあり。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。	12世紀前葉。山城産。 円勝寺(CB1)瓦19と同笵。 尊勝寺(奈文研1961)60型式と同文。	瓦溜2313、計1点
瓦35	瓦34と同文で、中房で高い。瓦当面笵キズあり。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。	12世紀前葉。山城産。 尊勝寺(奈文研1961)60型式と類似。	土坑2316、計1点
瓦36	単弁蓮華文。平坦中房、蓮子不明。蓮弁は接し、間弁は連続。外区は珠文。	成形不明。瓦当側面下半横ケズリ。	12世紀代。山城産。 円勝寺(CB2)瓦24と同文。	溝2220B東護岸、計1点
瓦37	単弁4弁蓮華文。蓮子は1個で半球状。間弁は独立。外区は木瓜形の界線・密な珠文。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。 瓦当側面下半縦方向ケズリ。	12世紀中葉。山城産。 法住寺殿(網ほか2011)35、金剛心院(前田2002)KM4Aと同文。	溝2220B東護岸(3点)、 溝2230B南護岸、 溝2220・2230B、計5点
瓦38	単弁4弁蓮華文。蓮子は円形1個。間弁はT字形で独立。外区は木瓜形の界線・密な珠文。小型瓦。	瓦当成形不明。	12世紀中葉。山城産。 右京六条一坊(平尾ほか2002)瓦24と同文。	重機掘削中、計1点
瓦39	単弁16弁蓮華文。圏線中房、1＋8。蓮弁は剣頭状。外区は界線。瓦当面笵キズあり。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。	12世紀前葉。山城産。 円勝寺(CB1)瓦30、尊勝寺(奈文研1961)89型式と同笵。	土坑2314(2点)、 溝2220B東護岸、 土坑2357、計4点
瓦40	単弁8弁蓮華文。凹中房、1＋5。蓮弁は方形、子葉1箇所輪郭線に接する。間弁は独立。外区は界線。瓦当面笵キズ多い。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。 裏面盛り上がる。	12世紀代。山城産。 円勝寺(CB1)瓦31、延勝寺(近藤2014a)図23-瓦10と同笵。	溝2220B東護岸、計1点
瓦41	単弁8弁蓮華文。圏線中房、蓮子なし。蓮弁は接する。外区なし。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。	12世紀前葉。山城産。 尊勝寺(奈文研1961)80型式と同文。	溝2230B南護岸、計1点
瓦42	単弁8蓮弁蓮華文。凸中房、蓮子不明。蓮弁は接する、子葉あり。外区なし。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。	12世紀前葉。山城産。 尊勝寺(上村1981)図4-2と同文。	土坑2314、計1点
瓦43	単弁8弁蓮華文。中房は半球状。蓮弁は剣頭状で、子葉あり。間弁なし。外区なし。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。	12世紀前葉。山城産。 円勝寺(CB1)瓦35、円勝寺(円勝団1972)ER044型式、法勝寺(上村ほか1987)図版13-14と同笵。	土坑2314、 溝2230B南護岸、 溝2220・2230C、 瓦溜2313、計4点

番号	瓦当文様の特徴	手法の特徴	時期・産地・同笵・同文	出土遺構
瓦44	瓦43と同文。蓮弁幅広い。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。	12世紀前葉。山城産。 円勝寺(CB1)瓦36、尊勝寺(奈文研1961)86型式と同文。	溝2230B南護岸、計1点
瓦45	単弁8弁蓮華文。凸中房、蓮子なし。周囲に蕊あり。間弁なし。外区なし。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。	12世紀代。山城産。 円勝寺(CB2)瓦37、鳥羽田中殿2次(杉山ほか1975)図6-3と同文。	溝2220・2230B、計1点
瓦46	単弁8弁蓮華文。凹中房、1＋8、周囲に蕊あり。蓮弁は接し、間弁なし。周縁との間に幅線あり。	瓦当成形不明。	12世紀代。山城産。 円勝寺(CB2)瓦35、尊勝寺(奈文研1961)96A型式と同文。	溝2220・2230B、計1点
瓦47	単弁8弁蓮華文。圏線中房、1＋4。蓮弁は接し、蓮弁輪郭が周縁となる。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。	12世紀前葉。山城産。 円勝寺(CB2)瓦42、尊勝寺(奈文研1961)81型式と同文。	瓦溜2313、溝2042、計2点
瓦48	単複混合蓮華文(単弁5弁＋複弁1弁)。圏線中房、凸線2・突起2、1＋4。間弁は独立。蓮弁輪郭が周縁となる。	成形不明。	12世紀代。山城産。 円勝寺(CB1)瓦45、尊勝寺(奈文研1961)82型式と同笵。	溝2220・2230C、 溝2220・2230B、計2点
瓦49	単弁蓮華文。圏線中房、蓮子不明。蓮弁は柳葉状で不定方向。外区なし。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。	12世紀代。山城産。 円勝寺(CB1)瓦34と類似。	溝2230B南護岸、計1点
瓦50	単弁蓮華文。蓮弁は独立。間弁なし。外区なし。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。	12世紀代。山城産。 円勝寺(円勝団1972)ER040型式と類似。	溝2220・2230B、計1点
瓦51	複弁8蓮弁蓮華文。圏線中房、1＋8。間弁は連続。外区は珠文26・圏線。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。 裏面平坦。	12世紀前葉。播磨産。 円勝寺(CB1)瓦50と同笵。 尊勝寺(奈文研1961)53型式、久留美柳谷2号窯(池田1999)NM1Bと同文。	土坑2314、計1点
瓦52	複弁8弁蓮華文。圏線中房、1＋6。間弁は連続。外区は珠文25・圏線。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。 裏面環状に凹む。	12世紀前葉。播磨産。 円勝寺(CB1)瓦49、法勝寺塔(柏田2011)図80-瓦21と同笵。尊勝寺(奈文研1961)52型式と同文。	溝2230B南護岸、計1点
瓦53	複弁8弁蓮華文。凸中房、1＋4、周囲に蕊あり。間弁は連続し先端が水滴形となる。外区は密な珠文。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。 裏面凹む。	12世紀前葉。播磨産。 円勝寺(CB2)瓦48と同笵。 尊勝寺(奈文研1961)24型式、林崎三本松窯(池田2017)NM32と同文。	土坑2316、計1点
瓦54	複弁8弁蓮華文。凸中房、1＋4、周囲に蕊あり。間弁は連続し先端が水滴形となる。	成形不明。	12世紀前葉。播磨産。 円勝寺(CB2)瓦50、尊勝寺(奈文研1961)52A型式、神出老ノ口(春成2014)243と同文。	重機掘削中、計1点
瓦55	複弁8弁蓮華文。圏線中房、蓮子不明。蓮弁は接し、基部に珠文あり。間弁は三角形で独立。外区は界線。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。	12世紀前葉。播磨産。 白河(持田ほか2013)K31と同文。	土坑2341、計1点
瓦56	複弁8弁蓮華文。圏線中房、1＋4。蓮弁は接し、間弁は連続。外区は界線。	裏面溝付丸瓦挿入成形。	12世紀前葉。播磨産。 最勝寺推定地(内田ほか1995)5と同文。	土坑2314、計1点
瓦57	複弁8弁蓮華文。凹中房、1＋8。蓮弁は接し、間弁は連続。外区は界線。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。	12世紀前葉。播磨産。 円勝寺(CB1)瓦68、尊勝寺(奈文研1961)46型式、林崎三本松窯(池田2017)NM7Aaと同文。	溝2230A、 溝2220B東護岸、 土坑2317、計3点
瓦58	複弁8弁蓮華文。圏線中房、1＋8。蓮弁は接し、間弁は連続。外区は界線。 中房径7.8cm、界線径12.8cm。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 瓦当裏面平坦。	12世紀前葉。播磨産。 円勝寺(CB1)瓦57、尊勝寺(奈文研1961)44型式と同文。	2区断割、 溝2230B北護岸、計2点
瓦59	瓦58と同文で、中房径小さい。 中房径6.7cm、界線径12.0cm。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。	12世紀前葉。播磨産。 尊勝寺(奈文研1961)44型式、林崎三本松窯(池田2017)NM09Aと同文。	溝2220B東護岸、 溝2220・2230B(2点)、 溝2230B南護岸、 溝2220・2230C、計5点
瓦60	複弁6弁蓮華文。凸中房、1＋8。蓮弁は接し、間弁は連続。外区は界線。 中房径6.2cm、界線径10.6cm。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。	12世紀前葉。播磨産。 円勝寺(CB1)瓦64と同笵。 尊勝寺(奈文研1961)45A型式、林崎三本松窯(池田2017)NM10Eと同文。	2区断割、計1点
瓦61	瓦60と同文で、瓦当径小さい。 中房径5.8cm、界線径9.8cm。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。	12世紀前葉。播磨産。 円勝寺(CB1)瓦66と同笵。 尊勝寺(奈文研1961)45A型式、法金剛院(小松ほか1998)8と同文。	土坑2316、溝2230A、 溝2220・2230B(2点)、 2区断割、計5点
瓦62	複弁6弁蓮華文。凸中房で圏線あり、1＋8。蓮弁は接し、間弁は連続。外区は界線。 中房径9.7cm、界線径14.0cm。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。	12世紀前葉。播磨産。 円勝寺(CB2)瓦56と同笵。 尊勝寺(奈文研1961)45B型式と同文。	溝2212、計1点
瓦63	瓦62と同文で、瓦当径小さい。 中房径6.1cm、界線径10.4cm。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 瓦当裏面平坦。	12世紀前葉。播磨産。 円勝寺(CB1)瓦65と同笵。 尊勝寺(奈文研1961)45B型式と同文。	溝2220・2230B(2点)、 溝2220B東護岸、計3点
瓦64	瓦62と同文で、瓦63より瓦当径小さい。 中房径5.7cm、界線径9.9cm。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。	12世紀前葉。播磨産。 円勝寺(CB1)瓦67と同笵。 尊勝寺(奈文研1961)45B型式と同文。	溝2220B東護岸、計1点

番号	瓦当文様の特徴	手法の特徴	時期・産地・同笵・同文	出土遺構
瓦65	複弁8弁蓮華文。圏線中房、1＋8。圏線に内向突起8あり。蓮弁は接し、間弁は連続。外区は界線。中房径8.0㎝、界線径14.0㎝。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。	12世紀前葉。播磨産。円勝寺(CB2)瓦53と同笵。尊勝寺(奈文研1961)45C型式と同文。	溝2220B東護岸、溝2220C、計2点
瓦66	複弁6弁蓮華文。蓮弁は接し、間弁は連続。外区なし。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。	12世紀前葉。播磨産。尊勝寺(市埋文1980)191、林崎三本松窯(池田2017)NM09Cと同文。	土坑2316、計1点
瓦67	複弁9弁蓮華文。圏線中房、1＋6。蓮弁は上下に2重で内外に配す。間弁は連続。外区なし。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。裏面平坦。	12世紀前葉。播磨産。円勝寺(CB1)瓦71と同笵。尊勝寺(奈文研1961)19型式、林崎三本松窯(池田2017)NM02と同文。	溝2220・2230B、計1点
瓦68	複弁8弁蓮華文。圏線中房。蓮弁の子葉部凹む。間弁は連続。外区なし。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。裏面平坦。	12世紀前葉。播磨産。円勝寺(CB1)瓦2、法勝寺(柏田2011)瓦10、尊勝寺(熊谷2016)瓦1と同文。	畔2185、計1点
瓦69	複弁8弁蓮華文。凹中房で中央盛り上がる。1＋6。蓮弁の子葉部凹む。間弁は連続。外区なし。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。裏面中央凹む。	12世紀前葉。播磨産。円勝寺(CB1)瓦54と同笵。尊勝寺(奈文研1961)9型式、法金剛院(中谷1970)、林崎三本松窯(池田2017)NM01と同文。	2区断割、ピット2361、計2点
瓦70	複弁13弁蓮華文。圏線中房で内向突起5箇所あり、周囲に圏線。蓮子1＋5。間弁は連続。外区なし。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。	12世紀前葉。播磨産。円勝寺(CB2)瓦72と同笵。尊勝寺(奈文研1961)22型式、林崎三本松窯(池田2017)NM34と同文。	溝2220A、溝2220B東護岸、溝2230B南護岸、土坑2317、計4点
瓦71	単弁6弁蓮華文。凸中房、1＋6。蓮弁は独立。弁端切り込む。間弁なし。外区は2重界線。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。	12世紀前葉。播磨産。円勝寺(CB1)瓦76、尊勝寺(上村ほか1996)33と同笵。	溝2220・2230B(2点)溝2220・2230C、計3点
瓦72	単弁蓮華文。圏線中房、蓮子1個。蓮弁三角形で子葉のあるものとないものあり。間弁は単独。外区は界線。瓦当面笵キズ多い。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。	12世紀代。播磨産。神出窯(池田1998)NM19と類似。	溝2220B東護岸、計1点
瓦73	単弁8蓮弁蓮華文。圏線中房、蓮子なし。蓮弁は単独。外区は界線。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。裏面平坦。	12世紀代。播磨産。神出窯(池田1998)HM10と類似。	土坑2341、計1点
瓦74	単弁8弁蓮華文。圏線中房、1＋8、周囲に蕚・圏線あり。間弁は連続、間弁基部が水滴形になる。外区は界線。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面中央やや凹む。	12世紀前葉。播磨産。円勝寺(CB2)瓦78と同笵。尊勝寺(奈文研1961)55型式、林崎三本松窯(池田2017)NM35Aと同文。	溝2306、土坑2314、計2点
瓦75	瓦74と同文で、中房周囲の蕚外側の圏線なし。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。	12世紀前葉。播磨産。円勝寺(CB2)瓦77と同笵。尊勝寺(奈文研1961)54型式、林崎三本松窯(池田2017)NM35Bと同文。	溝2230B北護岸、土坑2314、計2点
瓦76	単弁16弁蓮華文。圏線中房、1＋6。蓮弁は接する。間弁は連続。外区なし。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。	12世紀前葉。播磨産。神出窯(池田1998)NM8と同文。尊勝寺(奈文研1961)43型式と類似。	重機掘削中、計1点
瓦77	単弁11弁蓮華文。圏線中房で中央盛り上がる。圏線から内側に突起あり。中房周囲に蕚あり。蓮弁大・小交互に配置。弁端切り込む。間弁は連続、基部に珠点。外区なし。	裏面溝付丸瓦挿入成形。	12世紀前葉。播磨産。円勝寺(CB1)瓦74、林崎三本松窯(池田2017)NM33と同文。	溝2220B東護岸、計1点
瓦78	単弁8弁蓮華文。凸中房で中央盛り上がる、1＋6＋8。周囲に溝あり。蓮弁は接し、弁端切り込む。外区なし。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面盛り上がる。	12世紀前葉。播磨産。円勝寺(CB1)瓦73と同笵。尊勝寺(奈文研1961)47型式、林崎三本松窯(池田2017)NM14と同文。	溝2220・2230C、計1点
瓦79	単弁8弁蓮華文。凸中房、1＋8。蓮弁は独立、弁端切り込む。間弁なし。外区なし。中房径6.2㎝。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。	12世紀中葉。播磨産。延勝寺(近藤2014a)瓦3、鳥羽金剛心院(前田2002)HM3B、林崎三本松窯(池田2017)NM14と同文。	溝2220・2230B、計1点
瓦80	瓦79と同文。蓮弁幅大きい。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。	12世紀中葉。播磨産。尊勝寺(梶川ほか1977)SWA03、林崎三本松窯(池田2017)NM13と同文。	溝2220・2230B、計1点
瓦81	複弁8弁蓮華文。圏線中房、1＋5。蓮弁は上下2重で交互に配置。間弁は連続。外区は珠文。	成形不明。	12世紀前葉。丹波産。円勝寺(CB2)瓦82、尊勝寺(奈文研1961)40型式と同笵。	2区断割、計1点
瓦82	単弁8弁蓮華文。凸中房、1＋4。間弁は三角形で独立。外区は界線・珠文。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。	12世紀前葉。丹波産。円勝寺(CB1)瓦85、尊勝寺(上村ほか1989)図3-2と同笵。円勝寺(円勝団1972)ER030型式、丹波出雲神社(梅原1925)図版第33-6と同文。	溝2220・2230B、計1点
瓦83	単弁16弁蓮華文。凸中房1＋4で、周囲に溝あり。上面に十字複線配す。蓮弁は独立。間弁は三角形で独立。外区は界線・密な珠文・圏線。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。	12世紀前葉。丹波産。円勝寺(CB2)瓦83、円勝寺(円勝団1972)ER029C型式、最勝寺推定地(内田ほか1995)と同笵。	溝2220B東護岸補修、溝2220・2230C、計2点

番号	瓦当文様の特徴	手法の特徴	時期・産地・同笵・同文	出土遺構
瓦84	単弁16弁蓮華文。凸中房、1＋4。蓮弁は独立。間弁は三角形で独立。外区は界線・密な珠文・圏線。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。	12世紀前葉。丹波産。 円勝寺(円勝団1972)ER029A型式、丹波出雲神社(梅原1925)図版第33-5と同文。	溝2220B東護岸、 土坑2233、溝2220・2230、重機掘削、計4点
瓦85	瓦84と同笵。中房上に十字複線を追刻。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。	12世紀前葉。丹波産。 円勝寺(円勝団1972)ER029A型式と同文。	土坑2317、計1点
瓦86	単複交互蓮華文。凸中房、1＋5。周囲に圏線あり。蓮弁は上複弁4・下単弁4の2重で、交互に配置。上の複弁は弁端返り、子葉輪郭線あり。下の単弁は弁央に稜あり。外区なし。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。	12世紀代。和泉産。 石清水八幡宮(市埋文1996)1145、堺市大野寺・日置荘遺跡・陶荒田神社(市本2001)と同文。	溝2220・2230B、計1点
瓦87	単弁8弁蓮華文。凸中房、1＋8、周囲に蕊あり。蓮弁は単独、間弁なし。外区は界線。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。	12世紀代。産地不明。 円勝寺(CB1)瓦92と同笵。 堺市法道寺・東大阪市客坊山遺跡(市本2001)と同文。	溝2230B南護岸、 2区断割、計2点
瓦88	単弁4弁蓮華文。中心蓮子1個。蓮弁は単独で、弁央凹む。外区は界線。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。	12世紀代。産地不明。 円勝寺(市埋文1996)498と同文。	溝2220・2230B、計1点
瓦89	単弁蓮華文。蓮弁は接する。間弁なし。外区なし。	瓦当成形不明。	12世紀代。産地不明。	溝2220B東護岸、計1点
瓦90	複弁8弁蓮華文。平坦中房で、周囲に圏線あり。蓮弁は上下2重で交互に配置。間弁は三角形で、周縁と接する。	成形不明。	12世紀代。産地不明。	溝2306、計1点
瓦91	蓮巴文。内区は右三巴文。頭部・尾部は離れる。外区に単弁8弁蓮華文。蓮弁と周縁の間に幅線を配す。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。	12世紀代。山城産。 円勝寺(CB1)瓦116、最勝寺推定地(内田ほか1995)図41-1と同笵。 尊勝寺(奈文研1961)101型式と同文。	溝2230B南護岸、計1点
瓦92	蓮巴文。内区は右三巴文。頭部一部連結し、尾部は離れる。外区は単弁18弁蓮華文。蓮弁は三角形で接する。2重圏線あり。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。	12世紀代。山城産。 円勝寺(CB2)瓦88と同笵。	溝2220B東護岸、計1点
瓦93	蓮巴文。内区は左三巴文。頭部・尾部は離れる。外区は単弁10弁蓮華文。蓮弁は剣頭文状。間弁は連続し周縁と接する。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。	12世紀代。山城産。 白河(市埋文1996)568と同文。	土坑2314、計1点
瓦94	右巻二巴文。頭部連結し、尾部は互いに接し界線となる。外区に菱形珠文と、「大」字配する。瓦当面笵キズ多い。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。	12世紀代。山城産。 左京北辺四坊(加納2004)93-10、南ノ庄田窯(高1998)21と同笵。	溝2230B南護岸、計1点
瓦95	右巻三巴文。頭部・尾部は離れる。外区は界線・珠文。	裏面溝付丸瓦挿入成形。 瓦当部側面下半縄タタキ。	12世紀代。山城産。	土坑2316、計1点
瓦96	右巻三巴文。頭部・尾部は離れる。外区は界線・密な珠文。	裏面溝付丸瓦挿入成形。	12世紀代。山城産。 金剛心院(前田2002)KM9Aと同文。	土坑2316、計1点
瓦97	右巻三巴文。頭部・尾部は離れる。外区は珠文22。瓦当面笵キズあり。	成形不明。 裏面やや盛り上がる。	12世紀代。山城産。 尊勝寺(奈文研1961)117形式と同文。	溝2230B南護岸、計1点
瓦98	右巻三巴文。頭部・尾部は離れる。外区は界線。	成形不明。	12世紀代。山城産。 尊勝寺(奈文研1961)102型式と同文。	土坑2327、計1点
瓦99	右巻三巴文。頭部は離れ、尾部は互いに接し界線となる。外区なし。瓦当面は楕円形。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。	12世紀代。山城産。 上鴨神社(市埋文1996)639と同笵。 尊勝寺(奈文研1961)107型式と同文。	溝2220B東護岸、計1点
瓦100	右巻三巴文。頭部は離れ、尾部は互いに接し界線となる。外区なし。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。	12世紀代。山城産。 円勝寺(CB1)瓦117と同文。	2区断割、計1点
瓦101	右巻三巴文。頭部は離れ、尾部は互いに接し界線となる。外区なし。瓦当面は楕円形。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。	12世紀代。山城産。	土坑2316、計1点
瓦102	右巻三巴文。頭部は離れ、尾部は周縁に接する。外区なし。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。	12世紀代。山城産。	溝2230B南護岸、計1点
瓦103	右巻三巴文。頭部は・尾部は離れる。外区なし。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。	12世紀代。山城産。	2区断割、計1点
瓦104	右巻三巴文。頭部・尾部は離れる。外区なし。瓦当面笵キズ多い。	成形不明。	12世紀代。山城産。	瓦溜2313、計1点
瓦105	右巻三巴文。頭部は離れ、尾部は周縁に接する。外区なし。瓦当面笵キズあり。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。	12世紀代。山城産。	瓦溜3213、計1点

番号	瓦当文様の特徴	手法の特徴	時期・産地・同笵・同文	出土遺構
瓦106	右巻三巴文。頭部は離れ、尾部は周縁に接する。外区なし。瓦当面は楕円形。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。	12世紀代。山城産。 円勝寺(CB1)瓦133と同笵。	土坑2137、計1点
瓦107	左巻二巴文。頭部は離れ、尾部は接し界線となる。外区は珠文18。瓦当面笵キズ多い。	裏面溝付丸瓦挿入成形。 瓦当側面に斜縄叩き。	12世紀代。山城産。 円勝寺(CB1)瓦114と同笵。	溝2220B東護岸、計1点
瓦108	左巻二巴文。頭部は連結、尾部は離れる。外区は珠文20。瓦当面笵キズ多い。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。	12世紀代。山城産。 円勝寺(CB1)瓦115と同笵。	溝2230B南護岸、計1点
瓦109	左巻三巴文。頭部・尾部は離れる。外区は界線。	裏面溝付丸瓦挿入成形。	12世紀代。山城産。	土坑2303、計1点
瓦110	左巻三巴文。頭部・尾部は離れる。外区なし。瓦当面楕円形。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。	12世紀代。山城産。 金剛心院(前田2002)KM14Bと同文。	溝2220B東護岸、計1点
瓦111	左巻三巴文。頭部は離れ、尾部は接し界線となる。外区なし。	裏面溝付丸瓦挿入成形。	12世紀代。山城産。	溝2230B南護岸、計1点
瓦112	右巴文。尾部は他の巴に接する。外区は界線・密な珠文。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。	12世紀代。播磨産。	溝2220・2230、計1点
瓦113	右巴文。頭部は離れる。外区は楕円形の密な珠文。瓦当面笵キズあり。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 裏面やや盛り上がる。	12世紀代。播磨産。 林崎三本松窯(池田2017)NM41と同文。	溝2220・2230B、計1点
瓦114	右三巴文。頭部は離れる。尾部は他の巴に接する。外区は界線・密な珠文。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。	12世紀代。播磨産。	畔2185、計1点
瓦115	右三巴文。頭部は離れる。外区なし。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。	12世紀代。播磨産。	2区断割、計1点
瓦116	左三巴文。頭部は連結し、尾部は他の巴に接する。外区は界線・密な珠文。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。 裏面平坦。	12世紀代。播磨産。 尊勝寺(奈文研1961)145型式と同文。	溝2230B南護岸、計1点
瓦117	複弁8弁蓮華文。凸中房、「卍」字を配す。蓮弁は接する。間弁は連続。外区は界線・珠文12・圏線。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 裏面平坦。	13世紀代。山城産。 円勝寺(CB1)瓦147、円勝寺(円勝団1972)ER014型式、亀山殿(布川2005)109と同笵。	溝2220・2230B(2点)、 溝2230B南護岸 溝2220・2230、計4点
瓦118	複弁4弁蓮華文。凸中房、「卍」字を配す。蓮弁は接する。間弁は連続。外区は界線・珠文8・圏線。小型瓦。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。 裏面平坦。	13世紀代。山城産。 壇林寺(市埋文1996)832と同文。	溝2255、計1点
瓦119	複弁8蓮弁蓮華文。凸中房、「九」字を配す。蓮弁は接する。間弁は連続。外区は珠文12・圏線。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 裏面平坦。	13世紀代。産地不明。 法勝寺(柏田2011)瓦38と同笵。	溝2230B南護岸、計3点
瓦120	瓦119と同文で、中房の文字が異なる。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 裏面平坦。	13世紀代。産地不明。 法勝寺(柏田2011)瓦38と同文。	溝2230B南護岸、計1点
瓦121	複弁8蓮弁蓮華文。圏線中房、「七」字を配す。周囲に蕊あり。蓮弁は独立。間弁なし。外区は界線・珠文・圏線。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 裏面平坦。	13世紀代。産地不明。 法勝寺(高橋ほか2012)図27-5と同笵。 東大寺(平松2000)fig.117-408Cと同文。	溝2230B南護岸、計1点
瓦122	単弁8弁蓮華文。圏線中房、梵字「カーン」を配す。蓮弁は円形浮文で独立。外区は界線・珠文(2・3個1単位)・圏線。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 裏面平坦。	13世紀代。産地不明。 円勝寺(CB1)瓦146と同笵。 醍醐大智院(杉山ほか1976)第15図-21と同文。四天王寺(市本2001)図9と類似。	溝2240、溝2220・2230B、計2点
瓦123	右巴文。外区は界線・密な珠文。瓦当面笵キズあり。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。 裏面平坦。	13世紀代。産地不明。	2区断割、計1点
瓦124	右三巴文。頭部・尾部は離れる。外区なし。内区径7.8cm。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。 裏面平坦。	13世紀代。山城産。 亀山殿(近藤2015)77と同笵。 大覚寺(上原1997)DKM13Bと同文。	溝2220・2230B、計1点
瓦125	右三巴文。頭部・尾部は離れる。外区なし。内区径8.2cm。	成形不明。裏面平坦。	13世紀代。山城産。 亀山殿(近藤2015)75と同文。	溝2220・2230B、計1点
瓦126	右三巴文。頭部・尾部は離れる。外区なし。内区径7.4cm。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。 裏面平坦。	13世紀代。山城産。 亀山殿(近藤2015)図42-75と同文。	溝2220・2230B、計1点
瓦127	単弁8蓮弁蓮華文。凸中房、1+7。周囲に蕊あり。蓮弁は接する。	瓦当部成形不明。	時期不明。産地不明。	重機掘削中、計1点
瓦128	単弁蓮華文。蓮弁は接する。間弁なし。外区は界線。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。	時期不明。産地不明。	溝2230B南護岸、計1点
瓦129	単複混合弁蓮華文。凹中房、蓮子あり。蓮弁は単独。間弁なし。外区・周縁なし。	瓦当部成形不明。	時期不明。産地不明。	溝2220B西護岸、計1点
瓦130	単弁16弁蓮華文。中心蓮子1個。蓮弁は単独、間弁なし。外区は界線。小型瓦。	瓦当部成形不明。裏面平坦。	時期不明。産地不明。 法勝寺北側(辻2007)43、白河(梶原2003)21と類似。	溝2240A、計1点

付表３　軒平瓦観察表

番号	瓦当文様の特徴	手法の特徴	時期・産地・同笵・同文	出土遺構
瓦131	宝相華文。中心文は下向き花文で、両側に花弁3単位配する。外区はなく、上周縁あり。瓦当面笵キズあり。	段顎。顎貼付成形。顎凸面・裏面横ケズリ。	11世紀中葉。山城産。 民部省(平博1977)33、小野窯(吉崎2005)13類と同文。	土坑2304、畔2185、溝2240、計3点
瓦132	左6転偏行唐草文。唐草巻き強い。外区は界線・珠文。	段顎。顎貼付成形。顎凸面・裏面横ケズリ。	11世紀中葉。山城産。 内裏(平博1977)157、安井西裏窯(田中ほか1999)16と同笵。	土坑2007、計1点
瓦133	内行3転唐草文。唐草は複線で連続。外区は界線・珠文。瓦当面笵キズあり。	曲線顎B。成形不明。瓦当面上縁横ケズリ。顎凸面横ナデ、裏面オサエ。	11～12世紀。山城産。 円勝寺(CB2)瓦114、円勝寺(円勝団1972)ER142型式、法勝寺(市埋文1996)419と同文。	土坑2268、計1点
瓦134	外行3転唐草文。中心文は背向C字で上で連結。唐草巻き強く連続、分岐点に房あり。外区は界線。	段顎。顎貼付成形。顎凸面・裏面横ナデ。	11世紀後葉。播磨産。 円勝寺(CB2)瓦115、円勝寺(円勝団1972)ER115型式、法勝寺金堂(京都市1976b)図14-7と同笵。	ピット2329、溝2220・2230B、計2点
瓦135	外行3転唐草文。中心文は背向C字。唐草は連続、分岐点に房あり。唐草が界線に接する。外区は界線。	段顎。顎貼付成形。顎凸面・裏面横ナデ。	11世紀後葉。播磨産。 円勝寺(CB2)瓦115、円勝寺(円勝団1972)ER115型式と同文。	溝2230B南護岸、計2点
瓦136	外行唐草文。中心文は背向C字。唐草は連続、分岐点に房あり。外区は界線。	段顎。顎貼付成形。顎凸面・裏面横ナデ。	11世紀後葉。播磨産。 円勝寺(CB1)瓦153と同笵。 法勝寺金堂(京都市1975)図14-6と同文。	1区検出中、計1点
瓦137	外行右3転・左2転唐草文。唐草は陰刻。外区は界線。	段顎。顎貼付成形。顎凸面・裏面・平瓦凸面縦縄タタキ。	11～12世紀。播磨産。 円勝寺(CB2)瓦120、円勝寺(円勝団1972)ER147型式と同笵。	溝2220A、計1点
瓦138	外行2転唐草文。唐草は陰刻、連続。外区は界線。	段顎。顎貼付成形。瓦当面上縁横ケズリ。顎凸面横ケズリ、裏面縦ナデ。平瓦凸面縦縄タタキ。	11～12世紀。播磨産。 円勝寺(CB2)瓦119と同笵。 尊勝寺(奈文研1961)151-D型式と同文。	溝2220B東護岸、計1点
瓦139	外行唐草文。唐草は陰刻、連続。外区は界線。	段顎。顎貼付成形。瓦当面上縁横ケズリ。	11～12世紀。播磨産。 尊勝寺(奈文研1961)151型式と同文。	溝2220B東護岸、計1点
瓦140	外行3転唐草文。中心文は背向C字。唐草巻き強く連続。上外区と下外区に界線・密な珠文・圏線。	段顎。顎貼付成形。顎凸面横ケズリ、裏面横ナデ。平瓦凸面無文タタキ。	11世紀後葉。丹波産。 円勝寺(CB1)瓦152、最勝寺推定地(内田ほか1995)図46-13と同笵。	溝2220・2230B、計1点
瓦141	外行3転唐草文。中心文は背向C字で、上下にコンマ形あり。唐草は分離。外区は界線・密な珠文。界線両側は屈曲。	蹄顎。顎貼付成形。顎凸面斜方向縄タタキ、裏面横縄タタキ。平瓦凸面縦縄タタキ。	11世紀後葉。丹波産。 円勝寺(円勝団1972)ER117型式、法成寺(福山ほか1968)第3図-3B、篠三軒家南窯(安井1960)と同文。	溝2220B東護岸、計1点
瓦142	外行3転唐草文。中心文は背向C字。唐草は連続。上外区と下外区に界線・密な珠文。	蹄顎。顎貼付成形。顎凸面・裏面横縄タタキ。平瓦凸面縦縄タタキ。	11世紀後葉。丹波産。 円勝寺(円勝団1972)ER117型式、法成寺(福山ほか1968)第3図-3A、篠三軒家南窯(安井1960)と同文。	溝2230B南護岸、計2点
瓦143	外行2転唐草文。中心文はダルマ形・上向C字。唐草は連続、先端丸くなる。外区は界線。	段顎。顎貼付成形。顎凸面横ケズリ、裏面横ナデ。平瓦凸面縦ケズリ。	11世紀後葉。大和産。 円勝寺(CB1)瓦157、円勝寺(円勝団1972)ER135型式と同文。	溝2220・2230B、計1点
瓦144	6転右偏行唐草文。唐草は連続、分岐点に房あり。外区なし。	曲線顎B。顎貼付成形。顎凸面横ナデ・裏面縦ナデ。	11世紀後葉。大和産。 平安京左京二条二坊十町高陽院(網1990)22、興福寺(藪中1991)Ⅵ平A1と同文。	溝2220B東護岸、計1点
瓦145	外行4転唐草文。唐草は連続。外区なし。	段顎。顎貼付成形。顎凸面・裏面横ナデ。平瓦凸面縦ナデ。	11世紀後葉。大和産。 円勝寺(CB1)瓦254、円勝寺(円勝団1972)ER144型式、興福寺(藪中1991)Ⅵ平D2と同文。	溝2220B東護岸、計1点
瓦146	内行2転唐草文。唐草は連続。外区は界線・密な珠文・圏線。	曲線顎B(額面有)。顎貼付成形。顎凸面横ケズリ、裏面横ナデ。平瓦凸面縦ナデ。	11～12世紀。産地不明。 最勝寺推定地(内田ほか1995)と同笵。 円勝寺(円勝団1972)ER119型式、円勝寺(市埋文1996)502と同文。	溝2220B西護岸、計1点
瓦147	内区に梵字「キャ・カ・ラ・バ・ア」を配す。外区なし。	曲線顎B。顎貼り付け成形。額凸面横ナデ、裏面・平瓦縦ナデ。平瓦右側部に釘穴あり。円勝寺(CB2)瓦123、円勝寺(市埋文1996)509、法勝寺(柏田2011)瓦51は釘穴位置が同じ。同瓦52は釘穴位置が左。	11世紀後葉。大和産。 円勝寺(CB2)瓦123、法勝寺(柏田2011)瓦56(B類)、興福寺(藪中1991)Ⅵ平K1と同文。	2区断割、瓦溜2313、土坑2316、計3点
瓦148	外行左2転・右2.5転唐草文。中心文は半裁花文。唐草は連続。半裁花文と唐草端部は離れる。左端部笵型を縮小。瓦当面笵キズあり。	曲線顎B(額面有)。瓦当成形不明。顎凸面横ケズリ、裏面～平瓦凸面斜方向縄タタキ。	11世紀後葉。讃岐産。 広隆寺(平博1977)531、平安京左京五条三坊十五町(佐々木1981)33図-1と同笵。 西村1号窯(松本1986)と同文。	溝2230B南護岸、計1点
瓦149	外行7転唐草文。中心文は花文。唐草は分離。外区は界線・密な珠文。瓦当面笵キズ多い。	段顎又は曲線顎。瓦当成形不明。顎凸面横ナデ、裏面～平瓦凸面縦ケズリまたは横ナデ。	11～12世紀。産地不明。 朝堂院(平博1977)545と同文。	溝2220・2230B、計3点
瓦150	左偏行唐草文。唐草は連続。外区なし。	段顎又は曲線顎。顎貼付成形。顎凸面横ケズリ、裏面～平瓦凸面縦ケズリ。	11～12世紀。産地不明。	溝2220・2230B、計1点

番号	瓦当文様の特徴	手法の特徴	時期・産地・同笵・同文	出土遺構
瓦151	唐草文。唐草は分離、先端三葉形。外区なし。	曲線顎B(額面有)。顎貼付成形。顎凸面横ケズリ、裏面～平瓦凸面縦ケズリ。	11～12世紀。産地不明。	溝2230B北護岸、計1点
瓦152	外行2転唐草文。中心文なし。唐草は連続。外区は界線・珠文。	段顎。半折曲成形。顎凸面横ナデ、裏面縦縄タタキ後ナデ。	12世紀前葉。山城産。円勝寺(CB1)瓦161、栗栖野窯(吉村1993)図26-93と同笵。尊勝寺(奈文研1961)174型式と同文。	溝2220B東護岸、計1点
瓦153	外行3転唐草文。中心文なし。唐草は連続。外区は界線・珠文。	曲線顎B。半折曲成形。顎凸面横ケズリ、裏面ナデ。	12世紀前葉。山城産。尊勝寺(上村1981)瓦14と同笵。	溝2230B南護岸、土坑2314、計2点
瓦154	外行3転唐草文。中心文は3重半裁花文。唐草は1転目中心文と接し、他は分離。外区なし。	段顎。折曲成形。瓦当面上縁横ケズリ。顎凸面横ケズリ、裏面ナデ、曲げ皺あり。	12世紀前葉、山城産。円勝寺(CB1)瓦173と同笵。尊勝寺(奈文研1961)272A型式と同文。	溝2220・2230C、溝2230B南護岸、計2点
瓦155	瓦154と同文で、中心花文の花弁幅広い。	段顎。折曲成形。顎凸面横ナデ、裏面ナデ、曲げ皺あり。	12世紀前葉、山城産。円勝寺(円勝団1972)SR172BB型式、尊勝寺(奈文研1961)272B型式と同文。	あげ土、計1点
瓦156	外行3転唐草文。中心文なし。唐草は連続。外区なし。瓦当面笵キズあり。	段顎。半折曲成形。顎凸面横ケズリ、裏面オサエナデまたは横ナデ。	12世紀前葉。山城産。円勝寺(CB1)瓦128、栗栖野窯(北田1986)図版13-8と同笵。尊勝寺(奈文研1961)171A型式と同文。	溝2220・2230C(2点)、溝2220B東護岸(3点)、溝2220・2230B(2点)、溝2230B南護岸、2区断割、計9点
瓦157	外行3転唐草文。中心文なし。唐草は連続。外区なし。	段顎。半折曲成形。顎凸面横ケズリ、裏面オサエナデ。	12世紀前葉。山城産。鳥羽東殿134次(前田ほか1990)21と同文。	あげ土、計1点
瓦158	外行3転唐草文。唐草は連続。外区なし。平瓦凹面ヘラ記号あり。	完全折曲成形。顎凸面横ケズリ、裏面オサエナデ・曲げ皺あり。	12世紀後葉。山城産。円勝寺(CB2)瓦137と同笵。鳥羽田中殿113次(堀内ほか1986)8と同文。	土坑2316、計1点
瓦159	外行2転唐草文。中心文なし。唐草主茎は連続。外区なし。平瓦凸面ヘラ記号あり。	薄顎。完全折曲成形。顎凸面横ケズリ、裏面オサエナデ・曲げ皺あり。	12世紀前葉。山城産。円勝寺(CB2)瓦133と同笵。尊勝寺(奈文研1961)181型式と同文。	溝2220B東護岸、計1点
瓦160	瓦159と同文で、支茎形が異なる。	薄顎。完全折曲成形。顎裏面縦縄タタキ・曲げ皺あり。	12世紀前葉。山城産。円勝寺(CB2)瓦132と同笵。尊勝寺(奈文研1961)181型式と同文。	溝2220B東護岸、計1点
瓦161	外行唐草文。唐草は連続。外区なし。	薄顎。完全折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面横ケズリ、裏面オサエ・曲げ皺あり。	12世紀中葉。山城産。尊勝寺(奈文研1961)179型式、金剛心院(前田2002)KH1Aと同文。	土坑2341、計1点
瓦162	外行4転唐草文。中心文は対向C字で上側接する。唐草は連続。外区なし。	段顎。完全折曲成形。顎凸面縦縄タタキ。裏面オサエ・曲げ皺あり。	12世紀代。山城産。円勝寺(CB1)瓦169と同文。	土坑2316、計1点
瓦163	外行6転唐草文。中心文は対向C字で上側接する。唐草は連続。外区なし。瓦当面布目残存。瓦当面笵キズ多い。	段顎。完全折曲成形。顎凸面横ケズリ、裏面横ナデ。	12世紀代葉。山城産。尊勝寺(奈文研1961)190型式と同文。	瓦溜2313、計1点
瓦164	外行唐草文。唐草は連続。外区なし。瓦当面布目残存。	薄顎。完全折曲成形。顎凸面横ケズリ、裏面横ナデ・曲げ皺あり。	12世紀代。山城産。尊勝寺(奈文研1961)265型式と同文。	土坑2316、計1点
瓦165	内行3転唐草文。唐草は分離。上下外区は界線・密な珠文・圏線。瓦当面笵キズあり。	曲線顎B。半折曲成形。顎凸面・裏面下端横ケズリ。裏面ナデ。	12世紀前葉。山城産。延勝寺(近藤2014a)瓦30と同笵。円勝寺(CB2)瓦139、尊勝寺(奈文研1961)175型式と同文。	2区断割、計1点
瓦166	内行6転唐草文。唐草は連続。上下外区は密な珠文。	曲線顎B。半折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面ナデ・裏面縦ナデ。	12世紀前葉。山城産。内裏内郭回廊(甲元ほか1976)第23図-6～8と同文。	畔2185、計1点
瓦167	内行2転唐草文。唐草は連続。外区なし。下外縁削り取り。平瓦凸面ヘラ記号あり。	曲線顎B。半折曲成形。顎凸面横ケズリ、裏面横ナデ。	12世紀前葉。山城産。円勝寺(CB2)瓦140と同笵。法勝寺金堂(京都市1975)図13-2、法勝寺(柏田2011)瓦65と同文。	土坑3216、計1点
瓦168	内行6転唐草文。唐草は連続。瓦当面笵キズあり。	曲線顎B。半折曲成形。顎凸面・裏面下端横ケズリ。裏面ナデ。	12世紀前葉。山城産。南庄田窯(市埋文1996)140と同文。	溝2220B東護岸、計1点
瓦169	内行唐草文。唐草は連続、先端丸くなる。外区なし。	曲線顎B。半折曲成形。顎凸面・横ケズリ、裏面ナデ。	12世紀前葉。山城産。円勝寺(CB1)瓦178、尊勝寺(奈文研1961)158型式と同文。	溝2230B南護岸、計1点
瓦170	右偏行唐草文。唐草は連続。外区なし。周縁一部残存。平瓦凸面ヘラ記号あり。瓦当面笵キズ多い。	曲線顎B。半折曲成形。顎凸面・横ケズリ、裏面横ナデ。	12世紀前葉。山城産。円勝寺(CB1)瓦179と同笵。尊勝寺(奈文研1961)195型式、栗栖野窯(北田1986)図版13-3と同文。	溝2230B南護岸(2点)、溝2220B東護岸、土坑2327、計4点
瓦171	右偏行5転唐草文。唐草は連続。外区なし。瓦当面布目残存。	薄顎。完全折曲成形。顎凸面横ケズリ、裏面オサエナデ・曲げ皺あり。	12世紀前葉。山城産。尊勝寺(上村1991)28と同文。	瓦溜2313、溝2220B東護岸、計2点
瓦172	右偏行6転唐草文。唐草は連続、端部結合して紡錘形になる。外区なし。瓦当面に布目残存。	段顎。半折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面横ナデ、裏面縦ナデ。	12世紀前葉。山城産。円勝寺(CB1)瓦182と同笵。尊勝寺(奈文研1961)202型式と同文。	溝2240B(2点)、溝2220・2230C、計3点

番号	瓦当文様の特徴	手法の特徴	時期・産地・同笵・同文	出土遺構
瓦173	右偏行3転唐草文。唐草は連続。外区なし。瓦当面笵キズ多い。	段顎。半折曲成形。顎凸面横ケズリ、裏面横ナデ。	12世紀前葉。山城産。 法勝寺(上村ほか1987)図版17-45と同笵。	溝2220B東護岸、計1点
瓦174	右偏行唐草文。唐草は連続。外区なし。	薄顎。完全折曲成形。顎裏面横ナデ・曲げ皺あり。	12世紀代。山城産。	溝2240B、計1点
瓦175	右偏行唐草文。唐草は連続。外区なし。	曲線顎。半折曲成形。顎凸面横ケズリ、裏面横ナデ。	12世紀代。山城産。	溝2220B東護岸、計1点
瓦176	左偏行唐草文。外区・周縁なし。瓦当面布目残存。	薄顎。完全折曲成形。顎凸面横ケズリ、裏面オサエナデ・曲げ皺あり。	12世紀代。山城産。 円勝寺(CB2)瓦135、尊勝寺(奈文研1961)203型式、平安京左京一条三坊九町(前田ほか1996)14と同文。	溝2230B南護岸、計1点
瓦177	左偏行3転唐草文。唐草は連続、周縁に接する。外区なし。	段顎。半折曲成形。顎裏面ナデ。	12世紀代。山城産。 円勝寺(CB1)瓦185、尊勝寺(上村ほか1989)図4-10と同笵。	瓦溜2313、計1点
瓦178	左偏行4転唐草文。唐草は連続。外区なし。瓦当面布目残存。	段顎。折曲成形。顎凸面横縄タタキ、裏面横ナデ。瓦当周縁上面横細縄タタキ。曲げ皺あり。	12世紀代。山城産。 平安京右京六条一坊五町(梅川1992)図48-295と同笵。	溝2220・2230B、 溝2220・2230C、計2点
瓦179	唐草文。唐草は連続。外区なし。瓦当面布目残存。	段顎。折曲成形。顎凸面横ナデ、裏面オサエ。曲げ皺あり。	12世紀代。山城産。	土坑2316、計1点
瓦180	唐草文。唐草は分離。外区なし。	薄顎。折曲成形。顎凸面横ナデ、裏面横ナデ。	12世紀代。山城産。	溝2230B南護岸、計1点
瓦181	唐草文。唐草は連続。外区なし。	段顎。折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面・裏面横ナデ、裏面に布目・曲げ皺あり。	12世紀代。山城産。	溝2220・2230B、計1点
瓦182	唐草文。唐草は分離。外区なし。	段顎。半折曲成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀前葉。山城産。	溝2220・2230C、計1点
瓦183	唐草文。唐草は連続。外区なし。瓦当面布目残存。	段顎。半折曲成形。顎凸面横ケズリ、裏面横ナデ。	12世紀前葉。山城産。	溝2220・2230C、計1点
瓦184	唐草文。唐草は連続。両外区は界線。瓦当面笵キズあり。	段顎。半折曲成形。	12世紀前葉。山城産。	溝2220・2230B、計1点
瓦185	唐草文。唐草は連続。外区なし。瓦当面布目残存。	薄顎。完全折曲成形。顎凸面横ナデ、裏面オサエ・布目曲げ皺あり。	12世紀代。山城産。	土坑2304、計1点
瓦186	半裁花文。中心文は縦線。左右3単位を上下交互に配す。外区は界線。	薄顎。完全折曲成形。顎凸面横ケズリ、裏面ナデ。	12世紀代。山城産。 円勝寺(CB1)瓦268、法勝寺北方(近藤2005)図64-548と同文。	瓦溜2313、計1点
瓦187	外行2転唐草文。中心文は花文。唐草は連続、分岐点に房あり。外区は界線。	段顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	11～12世紀。播磨産。 尊勝寺(奈文研1961)236型式、東寺(森ほか1995)172、神出窯田井支群(春成2014)265と同文。	溝2220・2230B、計1点
瓦188	外行唐草文。中心文は背向C字、上を「へ」字形で繋ぐ。唐草は連続、分岐点に房あり。外区は界線。瓦当面笵キズ多い。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	11～12世紀。播磨産。 円勝寺(CB2)瓦117と同文。	溝2220・2230C、計1点
瓦189	外行2転唐草文。中心文は背向C字、下を「へ」字形で繋ぐ。唐草は連続、分岐点に房あり。外区は界線。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀前葉。播磨産。 尊勝寺(奈文研1961)232型式と同文。	溝2220B東護岸、計1点
瓦190	瓦189と同文。唐草太い。	バチ形顎。裏面平瓦貼付成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀前葉。播磨産。 円勝寺(CB1)瓦186と同文。	溝2220・2230B、計1点
瓦191	外行3転唐草文。中心文は背向C字。唐草は連続。外区は界線。瓦当面笵キズあり。瓦当面離れ砂付着。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀前葉。播磨産。 久留美窯(池田1999)NH2と同笵。 円勝寺(CB1)瓦200、尊勝寺(奈文研1961)240型式と同文。	溝2240B、計1点
瓦192	外行2転唐草文。中心文は下向きC字並列。唐草は分離。下外区は界線。	曲線顎。半折曲技法。顎凸面横ナデ・裏面縦ナデ。	12世紀前葉。播磨産。 尊勝寺(奈文研1961)242型式、林崎三本松窯(池田2017)NH02と同文。	瓦溜2313、計1点
瓦193	瓦192と同文。瓦当面右端を縮小し、2転目唐草切れる。	曲線顎。半折曲成形。瓦当面上縁横ケズリ。顎凸面横ナデ、裏面縦ナデ。	12世紀前葉。播磨産。 円勝寺(CB1)瓦211、円勝寺(円勝団1972)SR242B型式と同笵。 林崎三本松窯(池田2017)NH02と同文。	瓦溜2313、 溝2230B南護岸、計2点
瓦194	瓦192と同文。中心文縦線太い。	段顎。顎貼付成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀前葉。播磨産。 尊勝寺(奈文研1961)242型式と同文。	溝2220・2230B、計1点
瓦195	外行4転唐草文。中心文は2重花文、上側丸い。唐草は連続。外区は界線。	段顎。顎貼付成形。 バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形のものもあり。 いずれも顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀前葉。播磨産。 円勝寺(CB1)瓦190と同笵。林崎三本松窯(池田2017)NH44Caと同文。	溝2230B南護岸、 溝2220B東護岸、 土坑2314、土坑2316、 計4点
瓦196	外行4転唐草文。中心文は2重花文、上側丸い。唐草は連続。外区は界線。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀前葉。播磨産。 円勝寺(CB2)瓦159、円勝寺(円勝団1972)ER134型式と同笵。林崎三本松窯(池田2017)NH44Aaと同文。	土坑2314、 溝2220・2230B、 溝2220・2230C、計3点

番号	瓦当文様の特徴	手法の特徴	時期・産地・同笵・同文	出土遺構
瓦197	外行4転唐草文。中心文は2重花文、上側やや平ら。唐草は連続。外区は界線。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀前葉。播磨産。 円勝寺(CB1)瓦196と同笵。 林崎三本松窯(池田2017)NH44と同文。	溝2230B南護岸、 溝2220B東護岸、計2点
瓦198	外行4転唐草文。中心文は2重花文、上側尖る。唐草は連続。外区は界線。	段顎。顎貼り付け成形。凸面・裏面横ナデ。平瓦凸面平行タタキ。	12世紀前葉。播磨産。 円勝寺(CB2)瓦153と同笵。 最勝寺(吉村ほか1995)図28-23、法金剛院(中谷1970)第56図-28、林崎三本松窯(池田2017)NH44と同文。	あげ土、2区断割、計2点
瓦199	外行4点唐草文。中心文は3重花文、上側やや平ら。唐草は連続。外区は界線。	バチ形顎。裏面平瓦貼付成形。凸面・裏面横ナデ。平瓦凸面平行タタキ。	12世紀前葉。播磨産。 円勝寺(CB2)瓦159と同笵。 林崎三本松窯(池田2017)NH44Aと同文。	溝2220・2230B、 瓦溜2313、計2点
瓦200	外行唐草文。中心文は3重花文、上側尖る。唐草は連続。外区は界線。	バチ形顎。瓦当裏面平瓦貼付成形。顎凸面・裏面横	12世紀前葉。播磨産。 円勝寺(CB2)瓦155と同笵。 林崎三本松窯(池田2017)NH44と同文。	土坑2304、計1点
瓦201	外行唐草文。中心文は2重花文、上側丸い。唐草は連続、支葉は紡錘形。外区は界線。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀前葉。播磨産。 最勝寺(上村ほか1996)60と同笵。 林崎三本松窯(池田2017)NH44Gと同文。	溝2240A、計1点
瓦202	外行唐草文。中心文は二重花文、上面尖る。唐草は連続、界線に接する。支葉は紡錘形。外区は界線。	段顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀前葉。播磨産。 円勝寺(CB2)瓦154と同笵。 林崎三本松窯(池田2017)NH44Bと同文。	溝2230B北護岸、 溝2220・2230B、計2点
瓦203	外行唐草文。唐草は連続、界線に接する。唐草太い。外区は界線。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀前葉。播磨産。 林崎三本松窯(池田2017)NH44と同文。	瓦溜2313、計1点
瓦204	外行3転唐草文。中心文は半裁花文。唐草は連続。外区は界線。	段顎。顎貼付成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀前葉。播磨産。 円勝寺(CB1)瓦214と同笵で接合。 平安京左京三条二坊十町(加納2008)瓦133、吉田南遺跡(春成2014)105と同文。	土坑2316、計1点
瓦205	外行3転唐草文。中心文は上に紡錘形。唐草は連続。外区は界線。	曲線顎B。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀前葉。播磨産。 尊勝寺(奈文研1961)230型式、神出窯田井支群堂ノ前小支群(春成2014)263と同文。	溝2220・2230B、計1点
瓦206	外行2転唐草文。中心文は樹状で房あり。唐草は連続、分岐点に房あり。外区は界線。	バチ形顎。瓦当平瓦貼付成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀前葉。播磨産。 円勝寺(CB1)瓦209、尊勝寺(奈文研1961)254型式と同文。	溝2220・2230B、計1点
瓦207	外行5転唐草文。中心文は花文。唐草は連続。外区は界線。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀前葉。播磨産。 尊勝寺(奈文研1961)237型式と同文。	土坑2314、計1点
瓦208	左側4転・右側3転外行唐草文。中心文は垂線。唐草主茎は直線的で連続、支茎は不定方向、界線に接する。外区は界線。瓦当面笵キズ多い。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀前葉。播磨産。 円勝寺(CB1)瓦213、尊勝寺(奈文研1961)278型式と同笵。	土坑2314、計1点
瓦209	3転外行唐草文。文様は陰刻。中心文は花文。唐草文は支茎は不定方向、界線に接する。外区は界線。瓦当面笵キズ多い。	バチ形顎。瓦当裏面平瓦貼付成形成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀前葉。播磨産。 尊勝寺(奈文研1961)235型式と同文。	2区断割、計1点
瓦210	外行2転唐草文。中心文は下向C字。唐草は連続。唐草やや太い。外区なし。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。平瓦平行タタキのものあり。	12世紀前葉。播磨産。 円勝寺(CB1)瓦219と同笵。 尊勝寺(奈文研1961)253型式と同文。	土坑2316、重機掘削中、 溝2220・2230C、 溝2240南護岸、計4点
瓦211	瓦210と同文。唐草が細い。	曲線顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。平瓦平行タタキ。	12世紀前葉。播磨産。 尊勝寺(奈文研1961)253型式と同文。	溝2220・2230B、計1点
瓦212	瓦210と同文。右端唐草は屈曲。	曲線顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀前葉。播磨産。 円勝寺(CB1)瓦218と同笵。 尊勝寺(奈文研1961)253型式と同文。	土坑2316、計1点
瓦213	外行2.5転唐草文。中心文は下向C字。唐草は分離。外区なし。	薄顎。瓦当裏面溝付平瓦挿入成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀前葉。播磨産。 円勝寺(CB1)瓦223と同笵。 尊勝寺(奈文研1961)250型式と同文。	溝2220B東護岸、計1点
瓦214	外行1転唐草文。中心文は上向半裁花文。唐草は連続。外区なし。	段顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀前葉。播磨産。 最勝光院(上村2013)333と同文。	溝2220・2230C、計1点
瓦215	外行3転唐草文。中心下部に子葉配す。唐草は連続。外区なし。	段顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。平瓦平行タタキ。	12世紀前葉。播磨産。 円勝寺(CB2)瓦175と同笵。	瓦溜2313、計2点
瓦216	左3転・右2転外行唐草文。中心文は左巻き唐草。唐草は連続。外区なし。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。平瓦凸面平行タタキ。	12世紀前葉。播磨産。 円勝寺(CB1)瓦216と同笵。 林崎三本松窯(池田2017)NH4A、玉津田中遺跡(春成2014)482と類似。	2区断割、 溝2220・2230C、計2点
瓦217	瓦216と同文。唐草太い。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。平瓦凸面平行タタキ。	12世紀前葉。播磨産。 林崎三本松窯(池田2017)NH4Aと類似。	溝2220・2230、計1点

番号	瓦当文様の特徴	手法の特徴	時期・産地・同笵・同文	出土遺構
瓦218	外行3転唐草文。中心文は右巻き唐草。唐草は連続、右端花弁形になる。外区なし。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀前葉。播磨産。 円勝寺(CB1)瓦257と同笵。	溝2220B東護岸、計1点
瓦219	外行2転唐草文。中心文は右巻き唐草。唐草は連続。外区なし。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀前葉。播磨産。 円勝寺(CB1)瓦225と同笵。 林崎三本松窯(池田2017)NH31、神出窯(池田1998)NH13と同文。	溝2220・2230B(2点)、 溝2220A、 溝2220B東護岸、 溝2230B南護岸、計5点
瓦220	瓦219と同文。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀中葉。播磨産。 金剛心院(前田2002)HH3A形式と同文。 林崎三本松窯(池田2017)NH31と類似。	溝2220・2230B、計1点
瓦221	瓦219と同文。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀前葉。播磨産。 林崎三本松窯(池田2017)NH31と類似。	2区断割、計1点
瓦222	外行唐草文。中心文は垂線。唐草主茎は連続。外区なし。瓦当面笵キズあり。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀前葉。播磨産。 円勝寺(CB2)瓦181と同笵。 尊勝寺(奈文研1961)266型式と同文。	土坑2327、計1点
瓦223	外行唐草文。中心文は花文。唐草は連続。外区なし。	段顎。瓦当裏面溝付平瓦挿入成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀前葉。播磨産。 円勝寺(CB2)瓦204と同笵。 林崎三本松窯(池田2017)NH37と同文。	溝2230B南護岸、計1点
瓦224	外行唐草文。中心文は花文。唐草は連続。外区なし。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀前葉。播磨産。 円勝寺(CB2)瓦202と同笵。 林崎三本松窯(池田2017)NH35と同文。	2区断割、あげ土、 溝2220・2230C、計3点
瓦225	外行唐草文。中心文は花文。唐草は連続、分岐点に花文。外区なし。	段顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀前葉。播磨産。 円勝寺(CB1)瓦259と同笵。 林崎三本松窯(池田2017)NH36と同文。	溝2220・2230B、計1点
瓦226	外行唐草文。中心文は右巻き唐草。唐草は連続、分岐点に花文。外区なし。	段顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀前葉。播磨産。 円勝寺(CB1)瓦261と同笵。	土坑2232、計1点
瓦227	外行唐草文。中心文なし。唐草は連続、分岐点に子葉が付く。外区なし。	段顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀前葉。播磨産。 円勝寺(CB1)瓦263と同笵。 円勝寺(円勝団1972)ER138型式と同文。	溝2220・2230B、 溝2230B南護岸(2点)、 計3点
瓦228	右7転偏行唐草文。唐草は連続。内区1段凹む。外区は密な珠文。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀前葉。播磨産。 円勝寺(CB1)瓦237と同笵。 尊勝寺(奈文研1961)176A型式、久留美窯(池田ほか1999)NH6と同文。	土坑2316、 溝2220・2230B、計2点
瓦229	右偏行19転唐草文。唐草は連続。外区は界線、界線両端半円形。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀前葉。播磨産。 円勝寺(CB1)瓦238、尊勝寺(奈文研1961)218型式、林崎三本松(池田2017)NNH171、三木久留美窯(池田ほか1999)NH8と同笵。	溝2220B東護岸(2点)、 溝2220・2230B、計3点
瓦230	左偏行唐草文。唐草は連続。外区は2重界線・密な珠文・圏線。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀前葉。播磨産。 円勝寺(CB1)瓦239、三木久留美窯(池田ほか1999)NH7と同笵。	溝2220B東護岸修復、 計1点
瓦231	唐草文。唐草は連続。外区は界線。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀前代。播磨産。	土坑2314、計1点
瓦232	唐草文。唐草は分離。外区なし。	バチ形顎。瓦当裏面溝付平瓦挿入成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀前代。播磨産。	溝2220・2230C、計1点
瓦233	宝相華文。中心文は花文、両側に花文2単位、間に唐草文配す。外区なし。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀前葉。播磨産。 林崎三本松窯(池田2017)NH39ABと同文。	溝2220・2230B、計1点
瓦234	宝相華文。両側に花文2単位、間に唐草文配す。外区なし。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀前葉。播磨産。 林崎三本松窯(池田2017)NH39と同文。	溝2220・2230B、計1点
瓦235	外行3転唐草文。中心文は背向C字。唐草は分離、3転目は大きく巻く。外区は界線・密な珠文。	薄顎。折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎下面に縦縄タタキ、裏面横縄タタキ、曲げ皺あり。	12世紀前葉。丹波産。 朝堂院(平博1977)426、円勝寺(円勝団1972)ER117型式と同文。	溝2220B東護岸、計1点
瓦236	外行3転唐草文。中心文は背向C字、上下に水滴形配す。唐草文は分離、3転目小さく巻き、下に唐草配す。外区は界線・密な珠文。界線両端は屈曲。瓦当面布目残存。	段顎。折曲成形。顎下面斜縄タタキ、裏面横縄タタキ。	12世紀前葉。丹波産。 円勝寺(CB1)瓦243、円勝寺(円勝団1972)ER117型式と同文。	溝2220B東護岸、 溝2220・2230C、計2点
瓦237	瓦236と同文。	段顎。折曲成形。顎下面斜縄タタキ、裏面横縄タタキ。曲げ皺あり。	12世紀前葉。丹波産。 円勝寺(円勝団1972)ER117型式と同文。	溝2220・2230B、畔2185、 計2点
瓦238	瓦236と同文。瓦当面布目残存。	段顎。顎下面に斜縄タタキ。	12世紀前葉。丹波産。 尊勝寺(上村1981)17と同笵。 円勝寺(円勝団1972)ER117型式、篠窯(安井1960)97-1と同文。	溝2220・2230B、計1点
瓦239	瓦236と同文。3転目巻き小さい。	段顎。折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎裏面斜縄タタキ。曲げ皺あり。	12世紀前葉。丹波産。 最勝寺推定地(内田ほか1995)、円勝寺(円勝団1972)ER117型式と同文。	溝2220・2230B、 溝2220B東護岸、計2点

番号	瓦当文様の特徴	手法の特徴	時期・産地・同笵・同文	出土遺構
瓦240	外行3転唐草文。中心文は対向C字。界線両端は直線。	薄顎。完全折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面斜縄タタキ、裏面オサエナデ。	12世紀前葉。丹波産。 円勝寺(CB1)瓦244、円勝寺(円勝団1972)ER118型式、法勝寺北方(近藤2005)図64-543、篠窯(安井1960)97-8と同文。	土坑2316、計1点
瓦241	外行唐草文。唐草は連続。外区は界線・珠文。界線は両端直線。瓦当面布目残存。	薄顎。完全折曲成形。顎凸面縦縄タタキ、裏面斜縄タタキ。	12世紀前葉。丹波産。	瓦溜2313、計1点
瓦242	外行3転唐草文。中心文は花文。唐草は陰刻で連続。外区珠文は陽刻、3個1単位。瓦当面笵キズ多い。	段顎。完全折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。瓦当凸面斜縄タタキ、裏面縦縄タタキ。曲げ皺あり。	12世紀前葉。丹波産。 円勝寺(CB2)瓦189、円勝寺(円勝団1972)ER108型式と同笵。	溝2220・2230B(2点)、溝2220・2230C、重機掘削中(2点)、畔2185、溝2240B、第2面掘下げ、計8点
瓦243	外行5転唐草文。中心文なし。唐草は分離。唐草端は水玉形になる。外区は2重界線。瓦当面布目残存。	段顎。完全折曲成形。顎凸面斜縄タタキ、裏面縦縄タタキ。裏面曲げ皺あり。	12世紀前葉。丹波産。 円勝寺(CB2)瓦192、円勝寺(円勝団1972)ER101A型式と同文。	溝2220・2230、溝2220・2230B、計2点
瓦244	外行唐草文。唐草は分離。唐草端は水玉形になる。外区は2重界線。瓦当面布目残存。	段顎。完全折曲成形。顎凸面斜縄タタキ、裏面縦縄タタキ。裏面曲げ皺あり。	12世紀前葉。丹波産。 円勝寺(円勝団1972)ER101B型式と同文。	溝2220・2230、計1点
瓦245	外行唐草文。中心文は花文。唐草は連続。外区は2重界線。唐草先端丸くなる。	薄顎。完全折曲成形。顎凸面横ナデ、裏面縦縄タタキ。	12世紀前葉。丹波産。 最勝寺推定地(内田ほか1995)と同文。	畔2185、計1点
瓦246	外行2転唐草文。中心文は花文。唐草は連続、分岐点に蕾あり。唐草下部・左端は縮小。外区は界線。瓦当面笵キズ多い。	段顎。完全折曲成形。顎凸面斜縄タタキ、裏面横縄タタキ。	12世紀前葉。丹波産。 円勝寺(CB2)瓦190、円勝寺(円勝団1972)ER123B型式、最勝寺推定地(内田ほか1995)図46-11と同笵。	溝2220B東護岸、溝2230B南護岸、計2点
瓦247	外行2転唐草文。中心文は縦線。唐草は2本。外区は界線。瓦当面笵キズあり。	蹄顎。完全折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面斜縄タタキ、裏面横縄タタキ。曲げ皺あり。	12世紀前葉。丹波産。 尊勝寺(奈文研1961)267型式と同文。	溝2220・2230、計1点
瓦248	左2転・右3転外行唐草文。中心文なし。唐草は連続。唐草巻き強く、先端分かれる。外区は界線。	段顎。完全折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面縦縄タタキ、裏面ナデオサエ。	12世紀前葉。丹波産。 尊勝寺(奈文研1961)150A型式と同文。	溝2212、溝2220・2230B、計2点
瓦249	右偏行唐草文。唐草は連続。外区なし。	段顎。完全折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面斜縄タタキ、裏面縦縄タタキ。曲げ皺あり。	12世紀代。産地不明。	瓦溜2313、計1点
瓦250	左偏行唐草文。唐草は分離、周縁に接する。外区なし。	段顎。成形不明。顎凸面・裏面縦縄タタキ。	12世紀代。産地不明。	溝2220B東護岸、計1点
瓦251	唐草文。外区なし。	段顎。完全折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面斜縄タタキ、裏面横縄タタキ。曲げ皺あり。	12世紀代。産地不明。	瓦溜2313、計1点
瓦252	宝相華文。文様は分離。外区なし。	直線顎。成形不明。顎凸面～平瓦凸面斜縄タタキ。	12世紀代。讃岐産。	溝2230B南護岸、計1点
瓦253	半裁花文。上下交互に配す。花文中央に縦線あり。外区なし。	曲線顎。顎貼付成形。顎凸面から平瓦凸面斜縄タタキ。	12世紀代。讃岐産。 円勝寺(CB2)瓦208と同文。	溝2230B北護岸、計1点
瓦254	外行唐草文。中心文は半裁花文。唐草は連続、周縁に接する。外区なし。	直線顎。瓦当成形不明。調整不明。	12世紀代。産地不明。 円勝寺(円勝団1972)ER140型式と同笵。 東寺(加納1998)7と同文。	土坑2316、計1点
瓦255	陽刻剣頭文。7単位。剣頭は複弁で子葉2あり。弁は接する。配置は放射状。外区なし。	段顎。瓦当成形不明。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀代。産地不明。 尊勝寺(上村1991)35と同笵。	溝2230B北護岸、計1点
瓦256	陽刻剣頭文。11単位。剣頭は単弁で子葉あり。弁は分離するが、左3単位は接する。配置は放射状。外区なし。	曲線顎。半折曲成形。顎凸面横ナデ、裏面オサエ。	12世紀代。山城産。 円勝寺(CB2)瓦217と同笵。 尊勝寺(奈文研1961)287型式、栢杜堂(杉山ほか1975)Lと同文。	溝2220B東護岸、計1点
瓦257	陽刻剣頭文。剣頭は連続、配置は放射状。上外区は密な珠文。瓦当面布目残存。	段顎。半折曲成形。瓦当面上縁横ケズリ。顎凸面横ナデ、裏面縦ナデ。	12世紀代。山城産。 円勝寺(CB1)瓦282と同文。	瓦溜2313、溝2230B南護岸、計2点
瓦258	陰刻剣頭文。6単位。配置は放射状。瓦当面布目残存。	段顎。完全折曲成形。顎凸面横ナデ、裏面オサエ、曲げ皺・布目あり。	12世紀代。山城産。	2区断割、溝2220・2230C、計2点
瓦259	陰刻剣頭文。配置は垂直。瓦当面布目残存。	段顎。完全折曲成形。顎凸面ナデ、裏面オサエ、曲げ皺あり。	12世紀代。山城産。	溝2220・2230B、計1点
瓦260	陰刻剣頭文。配置は放射状。瓦当面布目残存。	段顎。完全折曲成形。瓦当面上縁ヘラケズリ。顎凸面横ナデ、裏面オサエ、曲げ皺あり。	12世紀代。山城産。	溝2230B南護岸、計1点
瓦261	陰刻剣頭文。剣頭幅広い。配置は垂直。瓦当面布目残存。	段顎。折曲成形。瓦当面上縁横ケズリ。顎凸面横ナデ、裏面オサエ、曲げ皺あり。	12世紀代。山城産。	溝2220・2230B、計1点
瓦262	陰刻剣頭文。剣頭幅広い。配置は垂直。	段顎。折曲成形。顎凸面・裏面ナデ。	12世紀代。山城産。	溝2220・2230C、計1点

番号	瓦当文様の特徴	手法の特徴	時期・産地・同笵・同文	出土遺構
瓦263	陰刻剣頭文。配置は垂直。	段顎。折曲成形。顎凸面・裏面横ナデ。曲げ皺あり。	12世紀代。山城産。	溝2220B東護岸、計1点
瓦264	陰刻剣頭文。配置は放射状。瓦当面布目残存。	段顎。折曲成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀代。山城産。	溝2220・2230B、計1点
瓦265	陰刻剣頭文。配置は垂直。瓦当面笵キズあり。	段顎。完全折曲成形。顎凸面、裏面に縄タタキ、曲げ皺あり。	12世紀代。山城産。	溝2220・2230B、計1点
瓦266	陰刻剣頭文。配置は放射状。平瓦凹面ヘラ記号あり。	段顎。完全折曲成形。顎凸面横ナデ、裏面オサエ、曲げ皺あり。	12世紀代。山城産。	あげ土、計1点
瓦267	陰刻剣頭文。配置は垂直。平瓦凸面ヘラ記号あり。	段顎。完全折曲成形。顎凸面ナデ、裏面オサエ、曲げ皺あり。	12世紀代。山城産。	溝2220・2230C、計1点
瓦268	陰刻剣頭文。配置は垂直。瓦当面布目残存。	段顎。完全折曲成形。顎凸面縦縄タタキ、裏面オサエ・縦縄タタキ、曲げ皺・布目あり。	12世紀代。山城産。	溝2220・2230C、計1点
瓦269	陰刻剣頭文。配置は垂直。瓦当面布目残存。	段顎。完全折曲成形。顎凸面横ナデ、裏面布目・曲げ皺あり。	12世紀代。山城産。	溝2220・2230B、計1点
瓦270	陰刻剣頭文。配置は垂直。瓦当面布目残存。	段顎。完全折曲成形。顎凸面横ナデ、裏面ナデ、曲げ皺あり。	12世紀代。山城産。	溝2220・2230B、計1点
瓦271	陰刻剣頭文。配置は垂直。	段顎。完全折曲成形。顎凸面横ナデ、裏面オサエ・曲げ皺あり。	12世紀代。山城産。	土坑2233、計1点
瓦272	陰刻剣頭文。配置は放射状。剣頭幅広い。	段顎。折曲成形。顎凸面横ナデ、裏面オサエ。	12世紀代。山城産。	溝2230A、計1点
瓦273	陰刻剣頭文。剣頭配置は垂直。右端には斜線配す。	段顎。折曲成形。顎凸面横ナデ、裏面オサエ。	12世紀代。山城産。	土坑2316、計1点
瓦274	陰刻剣頭文。7単位。中心にXを配す。鏑は三角形。剣頭配置は垂直。	段顎。完全折曲成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面縦縄タタキ、裏面オサエ、曲げ皺あり。	12世紀中葉。山城産。 金剛心院(前田2002)KH8A型式と同文。	土坑2316、計1点
瓦275	剣巴文。中心右三巴文配し、両側陰刻剣頭文3単位。巴文の頭部・尾部は離れる。剣頭配置は垂直。瓦当面布目残存。	曲線顎。完全折曲成形。顎凸面・裏面横ナデ、裏面オサエ、凹型台圧痕あり。平瓦右隅を切り取る隅切り軒平瓦である。平瓦凹面布目、凸面オサエ、側面縦ケズリ。	12世紀中葉。山城産。 円勝寺(円勝団1972)ER154型式と同文。	2区断割、計1点
瓦276	剣巴文。右三巴文3単位配し、間と両側に陰刻剣頭文1単位配す。巴文の頭部は離れ、尾部は周縁に接する。剣頭配置は放射状。	段顎。半折曲成形。顎凸面横ケズリ、裏オサエ。	12世紀代。山城産。 栗栖野窯(北田1986)図版13-16と同文。	溝2220・2230B南護岸、計1点
瓦277	剣巴文。右二巴文3単位配し、間と両側に陰刻剣頭文1単位配す。巴文の頭部・尾部は離れる。剣頭配置は放射状。	段顎。完全折曲成形。瓦当面上縁横ケズリ。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀代。山城産。 尊勝寺(奈文研1961)297型式と類似。	2区断割、計1点
瓦278	剣巴文。中央に陽刻剣頭文、両側に右三巴文2単位配す。巴文の頭部は離れ、尾部は接続して圏線となる。文様間の上・下にVを配す。瓦当面布目残存。	薄顎。完全折曲成形。顎凸面横ナデ、裏面ナデ、曲げ皺あり。	12世紀代。山城産。 円勝寺(市埋文1996)508と同文。 尊勝寺(奈文研1961)295A型式と同文。	瓦溜2313、計2点
瓦279	連巴文。左二巴文4.5単位配す。巴文の頭部は離れ、尾部は圏線に接する。圏線は周縁に接する。瓦当面布目残存。	曲線顎。半折曲成形。顎凸面横ナデ、裏面縦ナデ。	12世紀代。山城産。 尊勝寺(上村ほか1994a)27と同文。	溝2220B東護岸、計1点
瓦280	連巴文。右巻三巴文・米を交互に配す。巴文の頭部は離れ、尾部は周縁に接する。外区なし。	段顎。完全折曲成形。顎凸面横ナデ、裏面オサエ、曲げ皺あり。	12世紀中葉。山城産。 円勝寺(CB1)瓦279と同笵。 東寺東門南側(引原1992)図48-16、金剛心院(前田2002)KH8A型式と同文。	溝2230B北護岸、計1点
瓦281	斜格子文。外区なし。	曲線顎。半折曲成形。顎凸面横ナデ、裏面オサエ。	12世紀代。山城産。 白河(市埋文1996)631と同文。	あげ土、計1点
瓦282	連巴文。左三巴文を配す。巴文の頭部は接し、尾部は接続して圏線となる。外区なし。	段顎。瓦当裏面に平瓦を当て成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀代中葉。播磨産。 金剛心院(前田2002)HH9と同文。	溝2220・2230B、計1点
瓦283	幾何学文。線鋸歯文で、上下に鏑を配す。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀代。播磨産。	溝2220・2230B、計1点
瓦284	幾何学文。線鋸歯文で、上下に鏑2個を配す。	バチ形顎。両側面に粘土を付加する包込成形。顎凸面・裏面横ナデ。	12世紀代。播磨産。	溝2220・2230B、計1点
瓦285	5転外行唐草文。中心文は花文。唐草は分離。外区なし。小型瓦。	段顎。折曲成形。顎凸面・裏面横ナデ。平瓦接合部に凹型台圧痕あり。	13世紀代。山城産。 亀山殿(布川2005)104と同笵。	畔2185、計1点
瓦286	3転外行唐草文。中心文なし。唐草は分離。外区なし。小型瓦。	段顎。折曲成形。顎凸面横ナデ・裏面オサエ。平瓦接合部に凹型台圧痕なし。	13世紀代。山城産。 常盤仲之町遺跡(鈴木ほか1978)27と同笵。	溝2220B東護岸、計1点

番号	瓦当文様の特徴	手法の特徴	時期・産地・同笵・同文	出土遺構
瓦287	外行唐草文。唐草は分離。外区なし。小型瓦。	段顎。折曲成形。顎凸面・裏面横ナデ。平瓦接合部に凹型台圧痕なし。	13世紀代。山城産。	2区断割、計1点
瓦288	陰刻剣頭文。配置は垂直。小型瓦。	段顎。折曲成形。顎凸面横ナデ・裏面オサエ。平瓦接合部に凹型台圧痕あり。	13世紀代。山城産。	土坑2347、計1点
瓦289	陰刻剣頭文。配置は垂直。瓦当面布目残存。小型瓦。	段顎。折曲成形。顎凸面横ナデ・裏面オサエ。平瓦接合部に凹型台圧痕あり。	13世紀代。山城産。	溝2220・2230B、計1点
瓦290	蓮華剣頭文。中心文は単弁7弁蓮華文。両側に陰刻剣頭文4単位配す。剣頭配置は垂直。小型瓦。	段顎。折曲成形。顎凸面横ナデ、平瓦接合部に凹型台圧痕あり。	13世紀代。山城産。 亀山殿(布川2005)114と同笵。	溝2220・2230、計1点
瓦291	剣巴文。中心右二巴文配し、両側陰刻剣頭文3単位。巴文の頭部・尾部は離れる。剣頭配置は垂直。小型瓦。	段顎。折曲成形。瓦当面上縁横ケズリ。顎凸面横ナデ、裏面ナデ、平瓦接合部に凹型台圧痕あり。	13世紀代。。山城産。 亀山殿(布川2005)117と同文。	溝2240A、計1点
瓦292	10転外行唐草文。中心文は唐草S字形。唐草は連続。外区は界線・粗い珠文。	段顎。瓦当貼付成形。顎凸面・裏面横ナデ。平瓦接合部に凹型台圧痕あり。	13世紀代。産地不明。 法勝寺(柏田2011)89と同笵。	溝2220・2230B、 溝2230B南護岸、計2点
瓦293	9転外行唐草文。中心文は「九」字。唐草は連続。外区は界線・粗い珠文。	段顎。瓦当貼付成形。顎凸面・裏面横ナデ。平瓦接合部に凹型台圧痕あり。	13世紀代。産地不明。 法勝寺(柏田2011)90と同笵。	溝2220・2230C、 溝2220・2230B、計2点
瓦294	6転外行唐草文。中心文は横S字形。唐草は連続。外区は界線・粗い珠文。	段顎。顎貼付成形。顎凸面・裏面横ナデ。平瓦凸面格子タタキ。	13世紀代。産地不明。 円勝寺(CB1)瓦296と同笵。 法勝寺(京都市1975)28と同文。	溝2220・2230B、計1点
瓦295	唐草文。唐草は連続。外区は界線・珠文。	段顎。瓦当貼付成形。顎凸面・裏面横ナデ。平瓦接合部に凹型台圧痕あり。	13世紀代。産地不明。	溝2240、計1点
瓦296	唐草文。唐草は連続。外区は界線・珠文。	段顎。顎貼付成形。平瓦接合部に凹型台圧痕あり。	13世紀代。産地不明。 法勝寺(柏田2011)90と同笵。	溝2220・2230B、計1点
瓦297	外行唐草文。唐草は分離、支葉端に返りあり。外区は界線、脇のみ2重界線。	段顎。瓦当貼付成形。顎凸面・裏面横ナデ。凹型台圧痕なし。	13世紀代。産地不明。 円勝寺(CB2)瓦225と同文。 尊勝寺(奈文研1961)305型式、栢杜方形堂(杉山ほか1975)C類と類似。	溝2220・2230B、計1点
瓦298	唐草文。外区は界線。	段顎。瓦当貼付成形。顎凸面ナデ・裏面縦ナデ。凹型台圧痕なし。	時期・産地不明。	溝2230A、計1点
瓦299	唐草文。上下に支葉が展開。下外区のみ界線。	段顎。顎貼付成形。顎凸面ナデ・裏面縦ナデ。平瓦接合部に凹型台圧痕あり。	時期・産地不明。	溝2230B南護岸、計1点
瓦300	外行唐草文。唐草は連続。外区なし。	段顎。顎貼付成形。顎凸面ナデ・裏面横ナデ。凹型台圧痕なし。平瓦凸面格子タタキ。	時期・産地不明。 東寺(上村1993)31と同文。	溝2230B南護岸、計1点
瓦301	外行2転唐草文。中心文は花文。唐草は分離、分岐点に花文。外区は界線。	蹄顎。顎貼付成形。顎凸面・裏面横ナデ。凹型台圧痕なし。	13世紀代。産地不明。 円勝寺(CB1)瓦266と同笵。	溝2230B北護岸、 土坑2007、計2点
瓦302	瓦301と同文。中心花文が太い。	蹄顎。顎貼付成形。顎凸面・裏面横ナデ。凹型台圧痕なし。	13世紀代。産地不明。 円勝寺(CB2)瓦224と同文。	溝2220・2230、計1点
瓦303	外行唐草文。中心文は花文。外区は界線。	長段顎。顎貼付成形。	13世紀代。産地不明。	溝2220A、計1点
瓦304	幾何学文。外区は界線。	長段顎。顎貼付成形。瓦当上面横ケズリ。顎裏面ナデ。平瓦接合部に凹型台圧痕あり。	13世紀代。産地不明。	溝2230B南護岸、計1点
瓦305	文字文。内区は「福寺」を配す。文字は横書きで、右から左へ配置。外区は界線・密な珠文・圏線。平瓦凸面ヘラ記号。	曲線顎。顎貼付成形。瓦当上縁横ケズリ。顎凸面・裏面横ナデ。平瓦凸面縦縄タタキ。	13世紀代。産地不明。	溝2220A、計1点
瓦306	文字文。内区は「南無阿弥陀仏」を配す。文字は縦書きで、右から左へ配置。外区なし。	長段顎。顎貼付成形。瓦当上面横ケズリ。顎凸面・裏面横ナデ。	13世紀代。和泉産。 最勝寺推定地(内田ほか1995)、美原町真福寺遺跡・松原市大保廃寺(市本2001)と同文。	溝2220・2230B、計1点

付表４　鬼瓦・道具瓦・刻印瓦・ヘラ記号瓦観察表

番号	種類	形状・文様の特徴	手法の特徴	時期・産地・同笵・同文	出土遺構
瓦307	鬼瓦	左上半部・右眉残存。外区は界線・密な珠文・圏線。裏面平坦で、上部に固定施設の凹みあり。	版型による成形。表面ナデ、側面縦ケズリ、裏面ケズリ、刳形横ナデ。	12世紀代。播磨産。 玉津田中遺跡(春成2014)500と類似。	土坑2316、計1点
瓦308	鬼瓦	歯・右牙・右足残存。牙は下向き。裏面平坦。	版型による成形。表面ナデ、刳形・底面ナデ、裏面ケズリ。	12世紀代。播磨産。	溝2220・2230B、計1点。
瓦309	鬼瓦	右髭・右足残存。裏面平坦。	版型による成形。刳形縦ケズリ・側面縦ナデ、底面ナデ、裏面ナデ。	平安時代。産地不明。	土坑2316、計1点
瓦310	鬼瓦	右側上部残存。牙は下向き。裏面平坦で中央部凹む。	粘土板による成形。表面に突起部貼付、珠文は竹管押しつけ、表面ナデ、側面縦ナデ、裏面ケズリ後ナデ。	12世紀代。産地不明。 尊勝寺(上村1981)23と類似。	畔2185、計1点
瓦311	鬼瓦	鼻部。鼻は高い。	手捏ね成形。鼻上面調整はケズリ。下面オサエ。鼻穴はオサエ。	時期不明。産地不明。 円勝寺(CB2)瓦230と類似。	2区断割、計1点
瓦312	道具瓦	平瓦で厚い。端面は無文様。用途不明。	凸面縦縄タタキ、側面縦ケズリ、凹面糸切後布目後ナデ、広端面横ケズリ後ナデ。側面両縁部縦ケズリ。	平安時代。産地不明。	重機掘削中、計1点
瓦313	雁振瓦	端面中央が屈曲し、高くなる。	上面縦ナデ・側面縦ナデ・下面布目後ナデ。屈曲部下面ケズリ。	時期不明。産地不明。	畔2185、計1点。
瓦314	雁振瓦	端面中央が屈曲し、高くなる。下面側縁にヘラ凹線施す。	上面縦ナデ・側面縦ナデ・下面糸切後ナデ。屈曲部下面ケズリ。	時期不明。産地不明。	畔2185、計1点
瓦315	刻印丸瓦	玉縁端面に刻印あり。刻印は竹管。	丸瓦玉縁凸面ナデ、凹面布目・面取りケズリ、端面横ナデ。	12世紀代。山城産。	溝2230B、計1点。
瓦316	刻印平瓦	平瓦凹面端部に五輪塔刻印2個押捺。刻印は陰刻五輪塔で横方向に連続して押捺。	凸面・凹面ナデ、離れ砂付着。端面横ケズリ。	13世紀代。産地不明。 法勝寺(市埋文1996)463と同文。	溝2230B南護岸、計1点
瓦317	刻印平瓦	端面に刻印あり。「＝」。	凹面ナデ、凸面ナデ、端面横ナデ。	13世紀代。産地不明。	溝2230B南護岸、計1点。
瓦318	刻印平瓦	端面に刻印あり。「＊」。	凹面ナデ、凸面斜縄タタキ、端面横ナデ。	12世紀代。産地不明。	溝2230B南護岸、計1点
瓦319	刻印平瓦	狭端面に刻印あり。刻印は竹管。	凹面縦ナデ、凸面ナデ、端面横ナデ、側面縦ナデ。	12世紀代。産地不明。	溝2220・2230B、計1点
瓦320	刻印平瓦	狭端面に刻印あり。刻印は竹管。	凹面布目後ナデ、凸面縦縄タタキ、端面横ナデ、側面縦ナデ。	12世紀代。産地不明。	溝2220B東護岸、計1点。
瓦321	刻印平瓦	凹面に刻印あり。「十」。	凹面布目、凸面縦縄タタキ、側面縦ナデ。	12世紀代。山城産。	瓦溜2313、計1点
瓦322	ヘラ記号丸瓦	狭端部凸面にヘラ記号あり。「×」。	凸面縦縄タタキ、凹面布目、側面縦ケズリ。	12世紀代。山城産。	瓦溜2313、計1点
瓦323	ヘラ記号丸瓦	狭端部凹面にヘラ記号あり。「×」。	泥状版築成形。凸面縦ナデ、凹面ナデ、側面縦ケズリ。	12世紀代。播磨産。	瓦溜2313、計1点
瓦324	ヘラ記号丸瓦	狭端部凸面にヘラ記号あり。「キ」。	凸面縦縄タタキ、凹面布目、側面縦ケズリ。	12世紀代。山城産。	溝2230B南護岸、計1点
瓦325	ヘラ記号丸瓦	玉縁部凸面にヘラ記号あり。「×」。	凸面縦縄タタキ、凹面糸切り・布目、側面縦ケズリ。玉縁部横ナデ。	12世紀代。播磨産。	溝2220B東護岸、計1点
瓦326	ヘラ記号丸瓦	狭端部凸面にヘラ記号あり。記号は弧線2本。	凸面縦縄タタキ後ナデ、凹面布目、側面縦ケズリ。玉縁部横ナデ。	12世紀代。山城産。	溝2220・2230、計1点
瓦327	ヘラ記号丸瓦	狭端部凸面にヘラ記号あり。記号は弧線。	凸面縦縄タタキ後ナデ、凹面布目、側面縦ケズリ。	12世紀代。山城産。	溝2230B南護岸、計1点
瓦328	ヘラ記号丸瓦	玉縁部凸面にヘラ記号あり。「×」。	凸面縦縄タタキ後ナデ、凹面布目、側面縦ケズリ。玉縁部横ナデ。	12世紀代。播磨産。	溝2220・2230C、計1点
瓦329	ヘラ記号丸瓦	狭端部凸面にヘラ記号あり。「＝」。	凸面・凹面・端面横ナデ。	12世紀代。山城産。	溝2230B南護岸、計1点
瓦330	ヘラ記号丸瓦	狭端部凸面にヘラ記号あり。「N」。	凸面縦縄タタキ、凹面布目、側面縦ケズリ。	12世紀代。山城産。	瓦溜2313、計1点
瓦331	ヘラ記号丸瓦	狭端部凸面にヘラ記号あり。記号は弧線2本。	凸面縦縄タタキ後ナデ、凹面布目、側面縦ケズリ。	12世紀代。山城産。	溝2230B南護岸、計1点
瓦332	ヘラ記号平瓦	端面にヘラ記号あり。「＋」。	凹面布目、凸面縦縄タタキ、端面横ナデ。	12世紀代。山城産。	瓦溜2313、計1点
瓦333	ヘラ記号平瓦	端面にヘラ記号あり。「111」。	凹面布目、凸面縦縄タタキ、端面横ナデ。	12世紀代。山城産。	土坑2316、計1点
瓦334	ヘラ記号平瓦	端面にヘラ記号あり。「V」。	凹面糸切り痕跡、凸面縦縄タタキ、端面横ナデ。	12世紀代。山城産。	溝2220・2230C、計1点

番号	種類	形状・文様の特徴	手法の特徴	時期・産地・同笵・同文	出土遺構
瓦335	ヘラ記号平瓦	端面にヘラ記号あり。「／」。	凹面布目、凸面縦縄タタキ、端面横ナデ。	12世紀代。山城産。	溝2220B西護岸、計1点
瓦336	ヘラ記号平瓦	端面にヘラ記号あり。「キ」。	凹面ナデ、凸面縦縄タタキ、端面横ナデ。	12世紀代。山城産。	溝2220B東護岸、計1点
瓦337	ヘラ記号平瓦	端面にヘラ記号あり。「＝」。	凹面布目、凸面縦縄タタキ、端面横ナデ。	12世紀代。山城産。	溝2220・2230B、計1点
瓦338	ヘラ記号平瓦	端面にヘラ記号あり。「×」。	凹面布目、凸面縦縄タタキ、端面横ナデ。	12世紀代。山城産。	重機掘削中、計1点
瓦339	ヘラ記号平瓦	凹面にヘラ記号あり。「キ」。	凹面布目、凸面ナデ、端面横ナデ。	12世紀代。山城産。	溝2220・2230B、計1点
瓦340	ヘラ記号平瓦	凹面にヘラ記号あり。「×」。	凹面布目、凸面縦縄タタキ、端面横ナデ。	12世紀代。山城産。	溝2220B東護岸、計1点
瓦341	ヘラ記号平瓦	凹面にヘラ記号あり。「仝」。	凹面布目、凸面ナデ、端面横ナデ。	12世紀代。山城産。	溝2220B東護岸、計1点
瓦342	ヘラ記号平瓦	凹面にヘラ記号あり。記号は弧線2本。	凹面・凸面縦ナデ。	12世紀代。播磨産。	土坑2357、計1点
瓦343	ヘラ記号平瓦	凹面にヘラ記号あり。「×」。	凹面・凸面・側面縦ナデ。	12世紀代。播磨産。	土坑2314、計1点
瓦344	ヘラ記号平瓦	凹面にヘラ記号あり。記号は弧線。	凹面布目、凸面縦ナデ。	12世紀代。播磨産。	溝2230B南護岸、計1点
瓦345	ヘラ記号平瓦	凹面にヘラ記号あり。「1111」。	凹面ナデ、凸面・側面縦ナデ。	12世紀代。播磨産。	溝2220・2230B、計1点
瓦346	ヘラ記号平瓦	凹面にヘラ記号あり。記号は太線の弧線。	凹面布目、凸面縦ナデ、端面横ナデ。	12世紀代。不明	2区断割、計1点
瓦347	ヘラ記号平瓦	凹面にヘラ記号あり。「ハ」。	凹面縦ナデ、凸面ナデ、端面横ナデ。	12世紀代。播磨産。	土坑2316、計1点
瓦348	ヘラ記号平瓦	凸面にヘラ記号あり。「の」。	凹面布目、凸面縦ナデ。	12世紀代。播磨産。	溝2220B東護岸、計1点
瓦349	ヘラ記号平瓦	凸面にヘラ記号あり。「川」。	凹面布目、凸面縦縄タタキ。	12世紀代。山城産。	溝2230B南護岸、計1点
瓦350	ヘラ記号平瓦	凸面にヘラ記号あり。「川」。	凹面糸切り痕跡、凸面ナデ。	12世紀代。播磨産。	土坑2198、計1点
瓦351	ヘラ記号平瓦	凹面にヘラ記号あり。「C」。	凹面布目、凸面縦縄タタキ、端面・側面ナデ。	12世紀代。山城産。	重機掘削中、計1点

付表５　塼観察表

番号	形状	手法の特徴	時期・産地	出土遺構
塼1	方形敷塼。無文様。 長辺22.5cm、短辺23.0cm、厚さ3.0～3.2cm。	型による成形。表面ヘラによるナデ、縁部にバリ残存。側面ナデ・裏面ナデ。	時期不明。産地不明。	土坑2314、計1点
塼2	方形敷塼。無文様。 長辺24.0cm、短辺15cm以上、厚さ2.7cm。	表面ナデ、側面ナデ、裏面ナデ。	時期不明。産地不明。	室町後期遺物包含層、計1点
塼3	方形塼。側面に文様あり。右巴文。 表面にヘラ記号あり。 長辺14cm以上、短辺10.5cm、厚さ2.8～3.7cm。	表面ケズリ、側面ナデ、裏面ナデ。	12世紀代。産地不明。	溝2220B東護岸、計1点
塼4	有孔方形塼。無文様。 表面にヘラ記号あり。 長辺19cm以上、短辺11.5cm以上、厚さ4.7cm。	表面・側面・裏面縄タタキ。	時期不明。産地不明。	溝2220・2230B、計1点
塼5	長方形塼。無文様。 長辺15cm以上、短辺9.5cm、厚さ5.0cm。	表面・両側面・裏面は縄タタキ。端面オサエナデ。	時期不明。産地不明。	室町後期遺物包含層、計1点
塼6	塼。上面平坦で、両側が垂下する。 上面にヘラ記号あり。	上面ナデ、側面ナデ、裏面ナデ。	時期不明。産地不明。	溝2220・2230、計1点

付表２～４　瓦観察表の参考文献一覧

京都市美術館第１・２期調査

ＣＢ１：上村和直・李　銀眞「瓦類」『円勝寺跡・成勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2014－13、同研究所、2015年

ＣＢ２：上村和直・松吉祐希「瓦類」『円勝寺跡・成勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2015－17、同研究所、2016年

あ

網1990：網　伸也「平安京左京二条二坊」『平安京跡発掘調査概報　平成元年度』京都市文化観光局、1990年

網ほか2011：網　伸也・竜子正彦「法住寺殿跡・六波羅政庁跡・方広寺跡」『京都市内遺跡詳細分布調査報告　平成22年度』京都市文化市民局、2011年

池田1998：池田征弘「瓦」『神出窯跡群』兵庫県文化財調査報告第171冊、兵庫県教育委員会、1998年

池田2017：池田征弘「瓦」『林崎三本松瓦窯跡群発掘調査報告書』明石市文化財調査報告書 第６冊、同教育委員会、2017年

池田ほか1999：池田征弘・森内秀造『久留美・跡部窯跡群－山陽自動車道関係埋蔵文化財調査報告ＸＸＸ－』兵庫県文化財調査報告第186冊、兵庫県教育委員会、1999年

市本2001：市本芳三「大阪地域の平安時代後期瓦の様相」『第４回摂河泉古代寺院フォーラム　中世寺院の幕開け－11・12世紀の寺院の考古学的研究－』摂河泉古代寺院研究会、2001年

今井2012：今井晃樹「北円堂・瓦磚類」『興福寺　第１期境内整備事業にともなう発掘調査概報Ⅵ』興福寺、2012年

上原1987：上原真人「瀬戸内海を渡ってきた瓦」『大阪湾をめぐる文化の流れ－もの・ひと・みち－』帝塚山考古学研究所、1987年

上原1997：上原真人「瓦類」『史跡大覚寺御所跡発掘調査報告　大沢池北岸域復原整備事業に伴う調査』大覚寺、1997年

上村1981：上村和直「六勝寺跡Ａ・Ｂ調査区」『六勝寺跡発掘調査概要　昭和55年度』京都市埋蔵文化財調査センター、1981年

上村1991：上村和直「尊勝寺跡」『昭和62年度　京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所、1991年

上村1993：上村和直「平安京左京九条一坊・東寺旧境内１」『昭和63年度　京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所、1993年

上村1999：上村和直「平安京と白河－院政期京都の空間構造－」『条里制・古代都市研究』通巻15号、同研究会、1999年

上村2013：上村和直「瓦類」『法住寺殿跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2012－10、同研究所、2013年

上村ほか1987：上村和直・辻　裕司『法勝寺跡発掘調査概報　昭和61年度』京都市文化観光局、1987年

上村ほか1989：上村和直・辻　裕司「尊勝寺跡」『昭和61年度　京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所、1989年

上村ほか1994a：上村和直・西大條 哲「尊勝寺跡・岡崎遺跡１」『平成元年度　京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所、1994年

上村ほか1994b：上村和直・西大條 哲「尊勝寺跡・岡崎遺跡２」『平成元年度　京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所、1994年

上村ほか1996：上村和直・堀内明博・吉村正親「尊勝寺跡・最勝寺跡・岡崎遺跡（95ＫＳ62）」『京都市内遺跡立会調査概報　平成７年度』京都市文化市民局、1996年

内田ほか1995：内田好昭・丸川義広・平方幸雄「最勝寺跡・岡崎遺跡」『平成３年度　京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所、1995年

梅川1992：梅川光隆「瓦」『平安京右京六条一坊－平安時代前期邸宅跡の調査－』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第11冊、同研究所、1992年

梅原1925：梅原末治「南桑田郡千歳村出雲神社境内發見ノ古瓦」『京都府史跡勝地調査会報告 第６冊』京都府、1925年

円勝団1972：円勝寺発掘調査団「円勝寺の発掘調査（下）」『佛教藝術84号』毎日新聞社、1972年

か

梶川1987：梶川敏夫「尊勝寺跡」『昭和59年度　京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所、1987年

梶川ほか1977：梶川敏夫・木村捷三郎・渡辺和子『六勝寺跡　六盛西店新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告』六勝寺研究会、1977年

梶原2003：梶原義美「13世紀における「中央官衙系」瓦工の編成と展開－京都大学医学部校内AO18区の資料から－」『京都大学構内遺跡調査研究年報　1999年度』京都大学埋蔵文化財研究センター、2003年

柏田2011：柏田有香「法勝寺跡」『京都市内遺跡発掘調査報告　平成22年度』京都市文化市民局、2011年

加納1998：加納敬二「平安京左京九条一坊」『平成８年度　京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所、1998年

加納2004：加納敬二「瓦類」『平安京左京北辺四坊』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第22冊、同研究所、2004年

加納2008：加納敬二「瓦類」『平安京左京三条二坊十町跡（堀河院）跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2007－17、同研究所、2008年

北田1986：北田栄造『栗栖野瓦窯跡発掘調査概報　昭和60年度』京都市文化観光局、1986年

京都市1975：京都市文化観光局文化財保護課編「法勝寺金堂跡発掘調査概要」『京都市埋蔵文化財年次報告 1974－Ⅱ』同課、1975年

京都市1976ａ：京都市文化観光局文化財保護課編「平安宮真言院跡推定地発掘調査概要」『京都市埋蔵文化財年次報告 1975』同課、1976年

京都市1976ｂ：京都市文化観光局文化財保護課編「法勝寺金堂跡第Ⅱ次発掘調査概要」『京都市埋蔵文化財年次報告 1975』同課、1976年

熊谷2016：熊谷舞子「尊勝寺跡・岡崎遺跡」『京都市内遺跡発掘調査報告　平成27年度』京都市文化市民局、2016年

高1998：高 正 龍『南ノ庄田瓦窯跡』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第18冊、同研究所、1998年

甲元ほか1976：甲元真之・伊藤玄三「平安宮内裏内郭回廊跡第二次調査」『平安博物館研究紀要　第６輯』古代學協會、1976年

小松ほか1998：小松武彦・吉村正親・小檜山一良「平安京右京一条四坊・法金剛院境内」『平成８年度　京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所、1998年

近藤2005：近藤奈央「瓦類」『白河街区跡・岡崎遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2005－4、同研究所、2005年

近藤2014a：近藤章子『延勝寺跡・岡崎遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2014－1、同研究所、2014年

近藤2014b：近藤章子『白河街区跡・法勝寺跡・岡崎遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2014－6、同研究所、2014年

近藤2015：近藤奈央『史跡・名勝　嵐山』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2013－17、同研究所、2015年

さ

佐々木1981：佐々木英夫『平安京左京五条三坊十五町』平安京跡研究調査報告第５輯、古代學協會、1981年

市埋文1980：財団法人京都市埋蔵文化財研究所編『坂東善平収蔵品目録』同研究所、1980年

市埋文1996：財団法人京都市埋蔵文化財研究所編『木村捷三郎収集瓦図録』同研究所、1996年

杉山ほか1975：杉山信三・長宗繁一「鳥羽離宮跡第14次発掘調査概要－田中殿第2次発掘調査－」『鳥羽離宮跡・史跡西寺跡　京都市埋蔵文化財年次報告 1974－Ⅳ』京都市文化観光局文化財保護課、1975年

杉山ほか1976：杉山信三・長宗繁一「醍醐寺境内地に於ける埋蔵文化財発掘調査概報」『埋蔵文化財発掘調査概報集1976』鳥羽離宮跡調査研究所、1976年

鈴木ほか1978：鈴木廣司・伊藤　潔・平尾政幸『常盤仲ノ町集落跡発掘調査報告』京都市埋蔵文化財研究所調査報告－Ⅲ、同研究所、1978年

清野1975：清野紀子「瓦」『栢杜遺跡調査概報』鳥羽離宮跡調査研究所、1975年

た

高橋ほか2012：高橋　潔・家原圭太「法勝寺跡・岡崎遺跡」『京都市内遺跡発掘調査報告　平成23年度』京都市文化市民局、2012年

田中ほか1999：田中利津子・辻　裕司・大立目 一「平安京右京二条四坊・安井西裏瓦窯跡」『平成９年度　京都市埋蔵文化財調査概要』、財団法人京都市埋蔵文化財研究所、1999年

辻2007：辻　裕司『法勝寺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2007－9、同研究所、2007年

な

中谷1970：中谷雅治「８法金剛院境内出土の古瓦」『埋蔵文化財発掘調査概報（1970）』京都府教育委員会、1970年

奈文研1961：奈良国立文化財研究所編「尊勝寺跡発掘調査報告－京都会館建設地の調査－」『平城宮跡第一次・伝飛鳥板葺宮跡発掘調査報告　奈良国立文化財研究所学報第十冊』同研究所、1961年

布川2005：布川豊治「瓦類」『史跡・名勝　嵐山』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2004－11、同研究所、2005年

は

春成2014：春成秀爾「明石の古瓦集成２」『明石の古代Ⅱ』発掘された明石の歴史展実行委員会・明石市、2014年

引原1992：引原茂治「史跡教王護国寺境内発掘調査概要」『京都府遺跡調査概報　第48冊』京都府埋蔵文化財調査研究センター、1992年

平尾ほか1982：平尾政幸・辻　純一「左京二条二坊（２）」『平安京跡発掘調査概報　昭和56年度』京都市文化観光局、1982年

平尾ほか2002：平尾政幸・山口　真・永田宗秀『平安京右京六条一坊・左京六条一坊跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2002－6、同研究所、2002年

平松2000：平松良雄『東大寺防災施設工事・発掘調査報告書　発掘調査編』東大寺、2000年

平博1977：平安博物館編『平安京古瓦図録』雄山閣、1977年

福山ほか1968：福山敏夫・大塚ひろみ「法成寺の古瓦」『佛教藝術　第86号』毎日新聞社、1968年

堀内ほか1986：堀内明博・鈴木久男・北田栄造「第113次調査」『鳥羽離宮跡発掘調査概報　昭和60年度』京都市文化観光局、1986年

ま

前田2002：前田義明「瓦類」『鳥羽離宮跡Ⅰ　金剛心院跡の調査』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第20冊、同研究所、2002年

前田ほか1990：前田義明・山本雅和「134次調査」『鳥羽離宮跡発掘調査概報　平成元年度』京都市文化観光局、1990年

前田ほか1996：前田義明・会下和宏「平安京左京一条三坊」『平成５年度　京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所、1996年

松本1986：松本敏三『讃岐陶邑古窯址群の瓦窯址について』第24回帝塚山大学考古学研究会発表資料、1986年

持田ほか2013：持田　透・小池知美『白河街区跡・岡崎遺跡－集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』イビソク京都市内遺跡調査報告 第５輯、イビソク関西支店、2013年

森ほか1995：森　郁夫・鈴木久男・上村和直・前田義明「瓦」『新東寶記　東寺の歴史と美術』東寺、1995年

や

安井1960：安井良三「第２節　篠町Ａ號瓦窯址」『亀岡市史　上巻』亀岡市、1960年

藪中1991：藪中五百樹「平安時代における興福寺の造営と瓦」『佛教藝術　第194号』毎日新聞社、1991年

山崎1987：山崎信二「瓦セン」『薬師寺発掘調査報告　奈良国立文化財研究所学報第45冊』同研究所、1987年

吉崎2005：吉崎　伸「小野瓦窯跡」『京都市内遺跡発掘調査概報　平成16年度』京都市文化市民局、2005年

吉村1993：吉村正親「栗栖野瓦窯跡の調査（その２）」『栗栖野瓦窯跡発掘調査概報　平成４年度』京都市文化観光局、1993年

吉村ほか1995：吉村正親・尾藤徳行「最勝寺跡・岡崎遺跡（94KS257）」『京都市内遺跡立会調査概報　平成６年度』京都市文化観光局、1995年

付表６　土製品一覧表

番号	種類	出土遺構	寸法(cm)	色調	備考
土1	鞴羽口	溝2220B東護岸	長さ(9.4)　幅7.7	胎土:7.5YR7/2明褐灰色 表面:10YR7/2にぶい黄橙色	
土2	鞴羽口	溝2220B東護岸	長さ(7.8)　幅9.1	10YR7/2にぶい黄橙色～7.5YR 7/3にぶい橙色	
土3	鞴羽口	溝2220・2230B	長さ(12.0)　幅7.6	10YR7/2にぶい黄橙色～10YR 5/1褐灰色	
土4	鞴羽口	溝2220B東護岸	長さ(8.2)　幅7.5	胎土:5YR6/8橙色 表面:10YR7/2にぶい黄橙色	
土5	土製円塔	2区断割	直径(3.5)　高さ1.8	2.5Y8/1灰白色	
土6	土製円塔	溝2220・2230B	直径(4.0)　高さ2.1	胎土:2.5Y8/1灰白色 釉:7.5Y6/3オリーブ黄色	
土7	土製円塔	溝2220B西護岸	直径(4.1)　高さ1.9	胎土:2.5Y8/1灰白色 釉:10Y4/2オリーブ灰色	
土8	土製円塔	溝2230B北護岸	直径(5.1)　高さ2.4	胎土:2.5Y8/1灰白色 釉:10Y4/1灰色	
土9	土製円塔	重機掘削中	直径<6.0>　高さ2.8	胎土:2.5Y8/1灰白色 釉:7.5Y5/2灰オリーブ色	
土10	土製円塔	溝2220・2230C	直径(5.8)　高さ2.9	胎土:10Y8/1灰白色 釉5Y6/4オリーブ黄色	
土11	土製円塔	溝2220・2230A	直径<6.2>　高さ2.8	胎土:N4/0灰白色 釉:7.5Y7/3オリーブ黄色	
土12	土製円塔	溝2220・2230B	直径<6.2>　高さ(2.1)	胎土:2.5Y8/1灰白色 釉:暗緑色	刻み施文か
土13	土製円塔	溝2220断割	直径<6.3>　高さ(3.4)	7.5YR7/3にぶい橙色	
土14	土製円塔	溝2220・2230C	直径(7.5)　高さ4.0	胎土:N3/0暗灰色～N8/0灰白色 釉:10YR3/1オリーブ黒色	
土15	土製円塔	溝2220・2230C	直径<8.2>　高さ4.0	胎土:N4/0灰色～N8/0灰白色 釉:5GY2/1オリーブ黒色	
土16	硯	溝2220・2230B	長さ(6.3)　幅(4.5)　高さ(2.3)	N6/0灰色	風字硯
土17	硯か	溝2220B東護岸	長さ(9.5)　幅(7.3)　厚さ(1.9)	胎土:10YR7/4にぶい黄橙色 外面:N3/0暗灰色	
土18	硯か	溝2230B南護岸	長さ(10.3)　幅(9.5)　厚さ(2.5)	胎土:10YR8/1灰白色 外面:N4/0灰色	
土19	角柱状土製品	溝2230B南護岸	長さ(7.7)　幅3.7　厚さ3.3	胎土:10YR4/1褐灰色 表面:10YR4/1褐灰色	
土20	円盤状土製品	溝2230B南護岸	直径9.0　厚さ2.2	5YR6/8橙色	
土21	円盤状土製品	溝2220・2230B	直径5.5　厚さ1.1	10YR7/2にぶい黄橙色	
土22	土製塔	溝2230B南護岸	長さ(21.4)　幅(15.8)　厚さ(4.8)	胎土:10YR8/1灰白色 外面:N4/0灰色	

※(　)は残存数値、<　>は復元径

付表７　木製品一覧表

番号	種類	出土遺構	樹種	寸法(cm)	備考
木1	部材	溝2220・2230B	スギ	長さ(2.3) 幅(9.6) 厚さ4.0	
木2	部材	溝2220・2230B	ヒノキ	長さ(3.6) 幅(5.9) 厚さ2.0	
木3	横櫛	溝2230B南護岸	イスノキ	長さ(4.5) 幅(4.4) 厚さ0.9	
木4	漆器鉢	溝2230B南護岸	ケヤキ	器高(4.5)	
木5	鞘	溝2220・2230B	ヒノキ科ヒノキ属	長さ14.3 幅3.0 厚さ1.8	
木6	鞘	溝2220・2230B	スギ	長さ(8.8) 幅2.0 厚さ1.1	
木7	火箸の柄	溝2220・2230B	モクセイ科イボタノキ属	長さ13.4 幅2.0 厚さ1.0	
木8	毬	溝2220・2230B	カキノキ	長さ4.6 幅3.6 厚さ3.6	
木9	毬	土坑2219	エゴノキ科アサガラ属	長さ5.0 幅5.1 厚さ(3.9)	
木10	毬	溝2220・2230B	バラ科	長さ(5.7) 幅6.0 厚さ(3.9)	
木11	下駄	溝2220・2230A	ヒノキ	長さ(12.2) 幅(4.5) 高さ(1.2)	
木12	下駄	溝2220・2230A	ヒノキ	長さ19.1 幅(5.1)	
木13	刀形木製品	溝2220・2230B	ヒノキ	長さ(7.5) 幅(2.3) 厚さ0.2	
木14	刀形木製品	溝2220・2230B	スギ	長さ(10.1) 幅(3.1) 厚さ0.2	
木15	折敷底板	溝2220・2230B	ヒノキ	長さ(7.7) 幅(4.0) 厚さ0.2	
木16	折敷底板	溝2220・2230B	ヒノキ	長さ(9.6) 幅(2.2) 厚さ0.2	
木17	曲物底板か	溝2220・2230B	ヒノキ	長さ(17.6) 幅(4.1) 厚さ0.2	
木18	杓子形木製品	溝2220・2230B	スギ	長さ19.5 幅3.3 厚さ0.4	
木19	楔形木製品	溝2220・2230A	ヒノキ	長さ(31.5) 幅2.9 厚さ1.5	
木20	楔形木製品	溝2220・2230A	ヒノキ科アスナロ属	長さ(26.2) 幅(3.0) 厚さ2.0	
木21	篦状木製品	溝2220・2230B	ネズコ	長さ22.1 幅1.3 厚さ0.6	
木22	篦状木製品	溝2220・2230B	スギ	長さ(13.2) 幅(2.1) 厚さ0.4	
木23	火付け木	溝2220B東護岸	ヒノキ科	長さ31.1 幅1.4 厚さ1.2	
木24	火付け木	溝2230B南護岸	スギ	長さ27.3 幅1.2 厚さ0.8	
木25	火付け木	溝2220・2230B	スギ	長さ16.4 幅2.5 厚さ0.5	
木26	火付け木	溝2230B南護岸	ヒノキ科ヒノキ属	長さ(18.2) 幅1.6 厚さ0.8	
木27	火付け木	溝2230B南護岸	ヒノキ	長さ17.0 幅0.7 厚さ0.7	
木28	火付け木	溝2220・2230B	コウヤマキ	長さ13.8 幅0.9 厚さ0.8	
木29	火付け木	溝2220・2230B	スギ	長さ8.7 幅0.9 厚さ0.5	
木30	箸	溝2220・2230B	ヒノキ科	長さ17.4 幅0.5 厚さ0.4	
木31	箸	溝2220・2230B	ヒノキ科アスナロ属	長さ(18.0) 幅0.7 厚さ0.5	
木32	箸	溝2220・2230B	ヒノキ科	長さ(19.0) 幅0.7 厚さ0.6	
木33	箸	溝2220・2230B	ヒノキ	長さ21.8 幅0.8 厚さ0.5	
木34	箸	溝2220・2230B	ヒノキ	長さ22.1 幅0.7 厚さ0.5	
木35	箸	溝2220・2230B	ヒノキ	長さ22.9 幅0.8 厚さ0.4	
木36	箸	溝2220・2230B	ヒノキ	長さ23.1 幅0.7 厚さ0.5	
木37	箸	溝2220・2230B	ヒノキ科	長さ23.7 幅0.7 厚さ0.4	
木38	簪木	溝2230B南護岸	ヒノキ	長さ(17.9) 幅1.1 厚さ0.8	
木39	簪木	溝2230B南護岸	スギ	長さ(16.3) 幅1.2 厚さ0.3	
木40	簪木	溝2230B南護岸	スギ	長さ18.8 幅(1.3) 厚さ0.3	
木41	簪木	溝2230B南護岸	ヒノキ	長さ16.5 幅1.6 厚さ0.8	
木42	簪木	溝2230B南護岸	ヒノキ	長さ16.9 幅1.1 厚さ0.3	
木43	簪木	溝2230B南護岸	スギ	長さ(19.1) 幅1.7 厚さ0.3	
木44	簪木	溝2220・2230B	スギ	長さ16.5 幅1.2 厚さ0.2	
木45	簪木	溝2220・2230B	スギ	長さ(16.4) 幅1.0 厚さ0.3	
木46	羽子板形木製品	溝2230B南護岸	スギ	長さ46.6 幅15.5 厚さ2.2	
木47	部材	溝2220・2230B	ニレ科？	長さ(41.0) 幅(11.4) 厚さ(5.7)	

※（ ）は残存数値

付表８　石製品一覧表

番号	種類	出土遺構	石材	寸法(cm)	重さ(g)	備考
石1	石鍋	溝2220B東護岸	滑石	口径(23.8) 器高(6.0)	415.0	
石2	石鍋	溝2220B東護岸	滑石	器高(7.4) 幅(14.3)	300.5	転用品、側面・下端2次加工
石3	石鍋	土坑2304	滑石	器高(4.8) 幅(12.8)	211.9	
石4	石鍋	溝2220・2230A	滑石	器高(6.2) 幅(12.3)	210.3	
石5	石鍋	溝2220・2230A	滑石	器高(6.8) 幅(8.4)	198.5	
石6	石鍋	1区清掃中	滑石	器高(6.2) 幅(9.5)	170.7	
石7	石鍋	溝2220・2230B	滑石	器高(8.0) 幅(11.8)	245.4	転用品、温石か
石8	石鍋	溝2230B北護岸	滑石	器高(5.2) 幅11.9	153.7	転用品、硯か
石9	石鍋	溝2220・2230B	滑石	器高(3.7) 幅2.8	30.8	転用品
石10	石鍋	2区断割	滑石	器高(13.2) 幅(8.9)	221.8	転用品、温石か
石11	砥石	溝2220・2230A	頁岩	長さ4.9 幅2.8 厚さ0.9	16.1	
石12	砥石	溝2230B南護岸	頁岩	長さ5.4 幅2.8 厚さ0.8	26.2	
石13	砥石	重機掘削中	頁岩	長さ4.8 幅3.4 厚さ1.0	34.3	
石14	砥石	溝2220・2230B	頁岩	長さ(5.4) 幅3.9 厚さ1.6	53.1	
石15	砥石	2区断割	頁岩	長さ(6.4) 幅(4.4) 厚さ1.0	50.8	
石16	砥石	溝2220・2230A	頁岩	長さ7.0 幅3.5 厚さ1.1	43.4	
石17	砥石	畔2185	砂岩	長さ(6.2) 幅2.7 厚さ1.6	48.0	
石18	砥石	溝2220・2230B	凝灰岩系	長さ(6.7) 幅3.6 厚さ2.0	75.6	
石19	砥石	瓦溜2313	凝灰岩系	長さ(6.9) 幅(6.9) 厚さ(2.9)	152.8	
石20	砥石	土坑2341	凝灰岩系	長さ(6.7) 幅(5.7) 厚さ2.8	160.4	
石21	砥石	溝2230B南護岸	頁岩	長さ(10.6) 幅(7.0) 厚さ1.9	160.4	
石22	砥石	南北大溝群	頁岩	長さ(12.5) 幅(6.9) 厚さ1.1	106.3	
石23	砥石	あげ土	滑石	長さ12.5 幅(5.1) 厚さ2.4	279.7	
石24	砥石	瓦溜2313	粘板岩	長さ(12.1) 幅5.8 厚さ2.2	198.0	
石25	砥石	土坑1066	凝灰岩系	長さ(9.3) 幅5.9 厚さ3.2	232.0	
石26	砥石	あげ土	砂岩	長さ(11.8) 幅6.2 厚さ3.7	309.5	
石27	砥石	土坑2293	凝灰岩系	長さ4.8 幅4.6 厚さ2.1	62.1	転用品か
石28	硯か	溝2230B南護岸	粘板岩	長さ13.5 幅(5.0) 厚さ2.6	255.0	
石29	硯	溝2220・2230C	粘板岩	長さ(6.2) 幅(4.6) 厚さ0.65	29.9	
石30	石斧	溝2220・2230A	砂岩	長さ(14.3) 幅(7.8) 厚さ3.3	571.5	

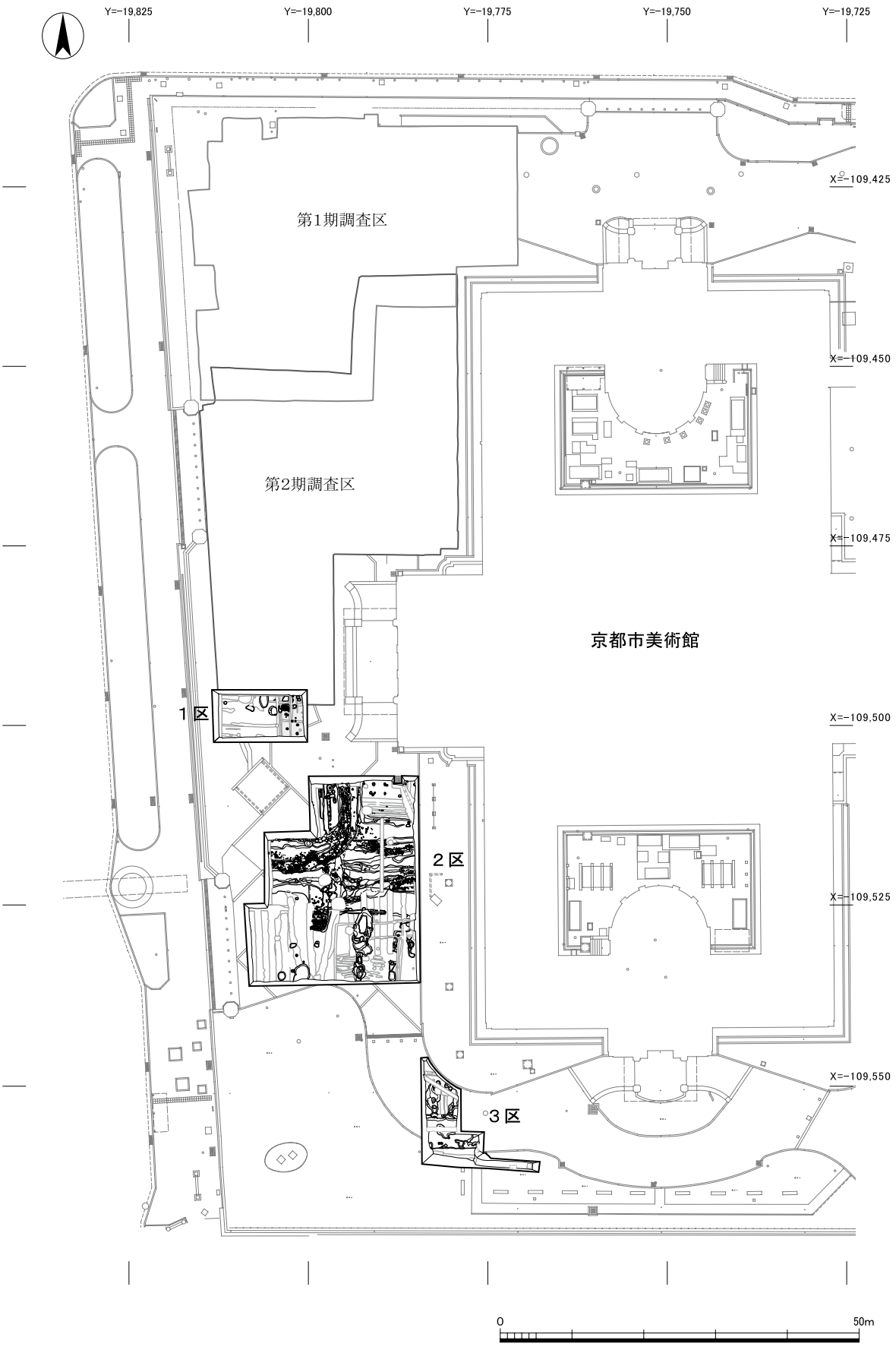
※（ ）は残存数値

付表９　金属製品一覧表

番号	種類	出土遺構	材質	寸法(cm)	重さ(g)	備考
金1	風招	溝2240南護岸	縁:銅 板:鉄	縦(6.5) 横(6.1) 厚0.7	22.4	
金2	椀形滓	土坑2271	鉄	縦(7.7) 横7.4 厚4.2	220.9	
金3	開元通寶	溝2220・2230B	銅	径2.55 孔0.70 厚0.15	2.92	唐621年初鋳
金4	明道元寶	溝2220・2230B	銅	径2.55 孔0.65 厚0.16	3.79	北宋1032年初鋳
金5	皇宋通寶	2区断割	銅	径2.43 孔0.65 厚0.12	2.96	北宋1038年初鋳
金6	皇宋通寶	溝2220・2230A	銅	径2.36 孔0.62 厚0.14	3.10	北宋1038年初鋳
金7	皇宋通寶	1区遺構検出中	銅	径2.47 孔0.70 厚0.15	4.38	北宋1038年初鋳
金8	治平通寶	溝2220・2230B最下層	銅	径2.47 孔0.75 厚0.12	2.63	北宋1064年初鋳
金9	元豊通寶	溝2220・2230A	銅	径2.43 孔0.65 厚0.14	4.04	北宋1078年初鋳
金10	元祐通寶	溝2220・2230B最下層	銅	径2.47 孔0.67 厚0.13	3.69	北宋1086年初鋳
金11	元符通寶	溝2220・2230B	銅	径2.21 孔0.55 厚0.10	1.95	北宋1098年初鋳

※（ ）は残存数値

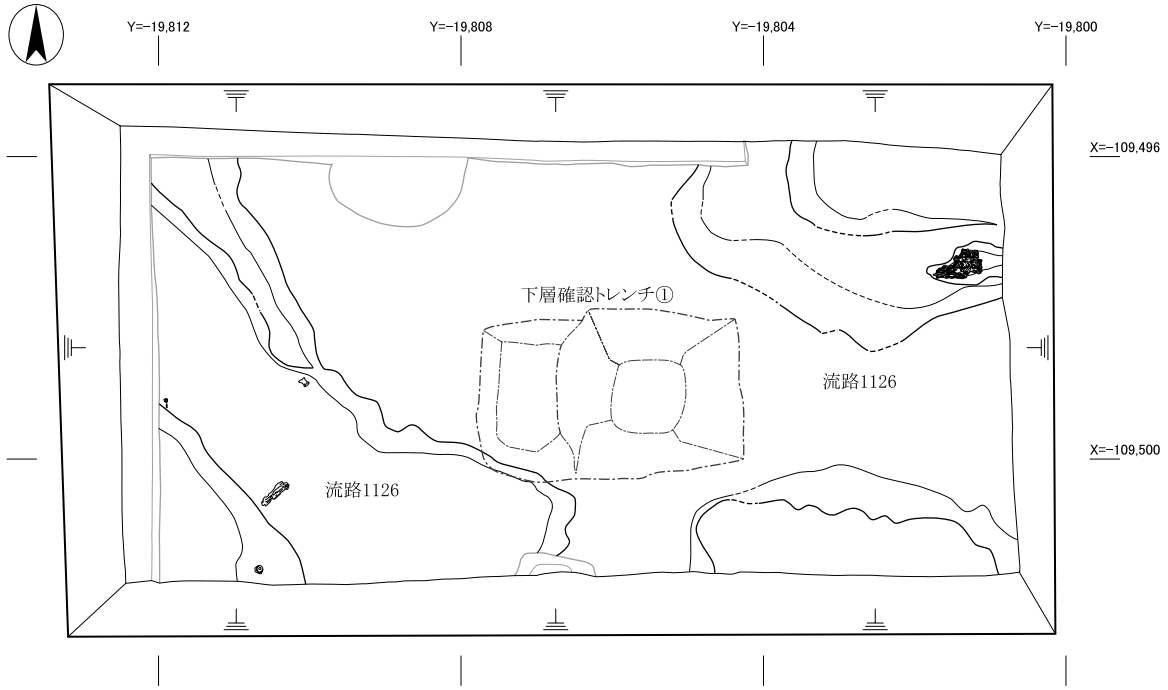
図　　版


Y=−19,825
Y=−19,800
Y=−19,775
Y=−19,750
Y=−19,725
X=−109,425
X=−109,450
X=−109,475
X=−109,500
X=−109,525
X=−109,550
第1期調査区
第2期調査区
京都市美術館
1区
2区
3区
0
50m

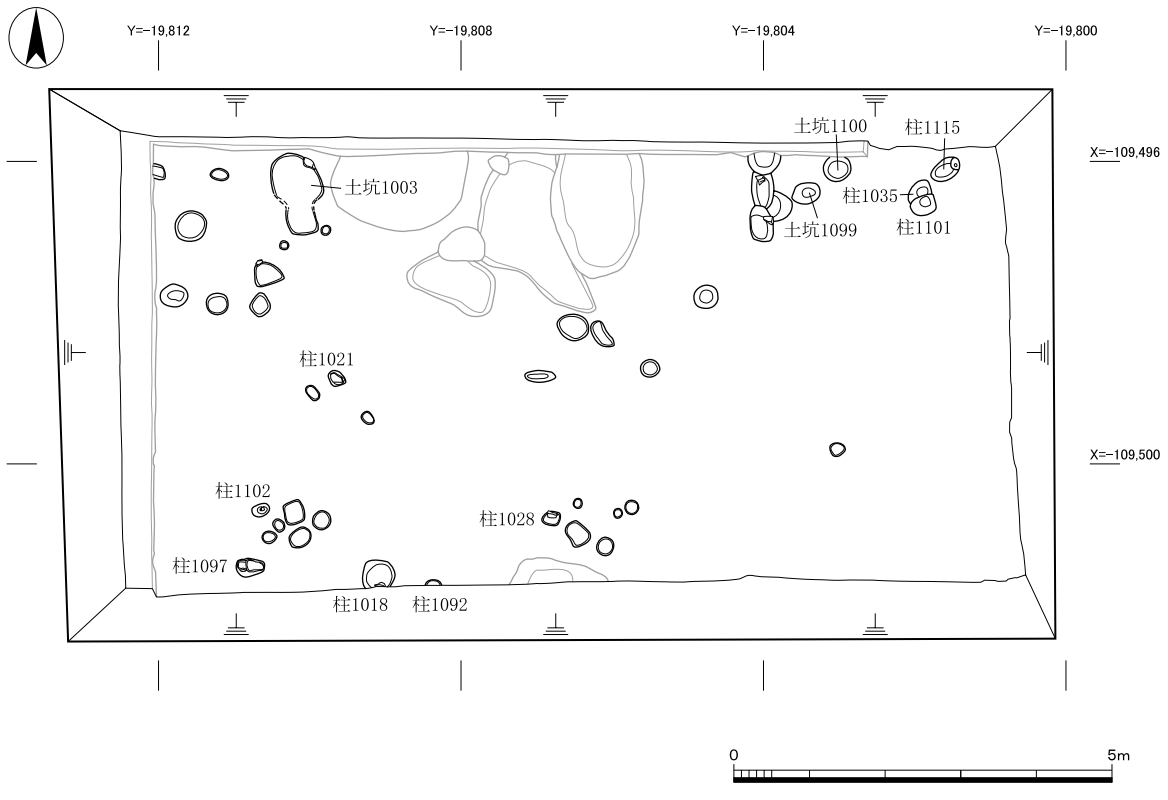
調査区配置図（1：800）

図版２　遺構

Ⅰ期

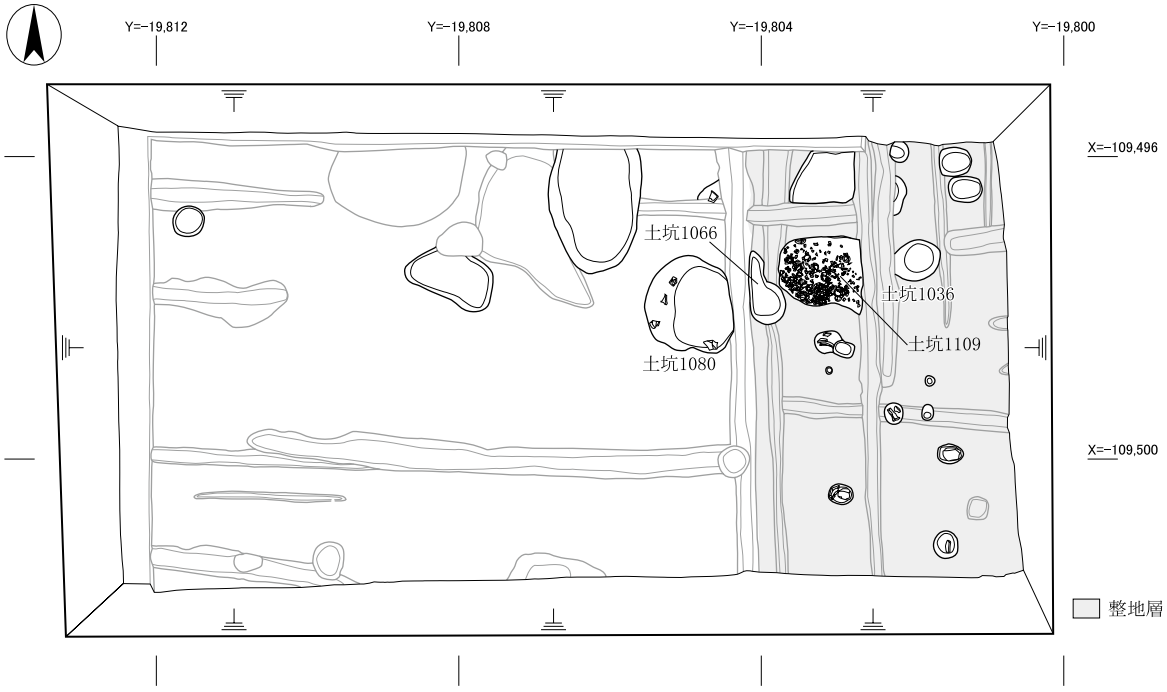


Ⅱ－１期

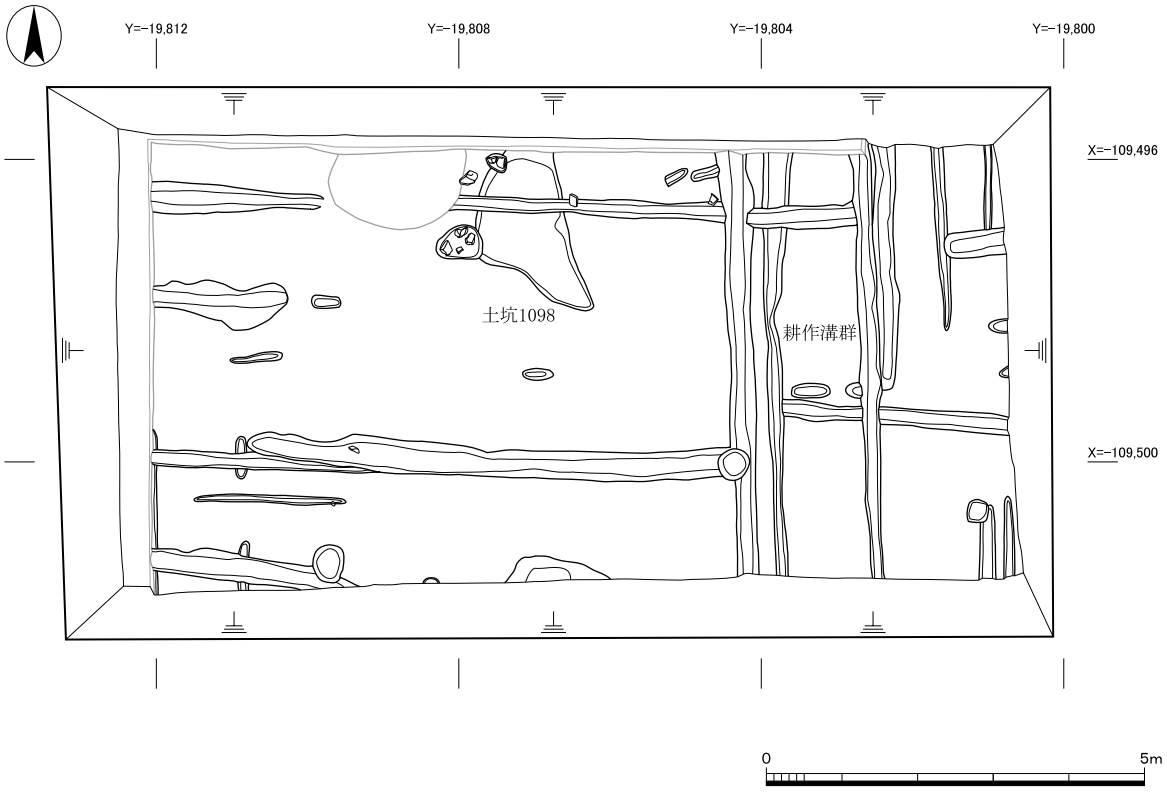


１区　Ⅰ期・Ⅱ－１期平面図（１：100）

Ⅱ－２期



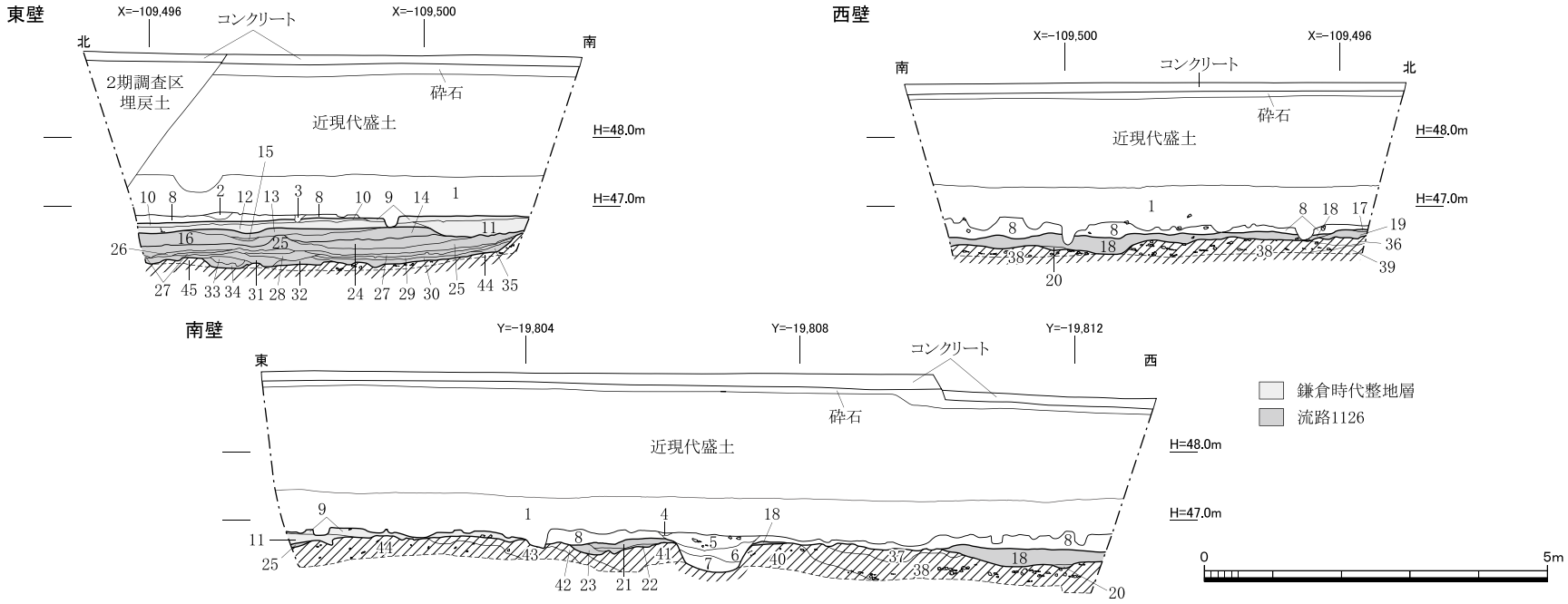
Ⅲ期



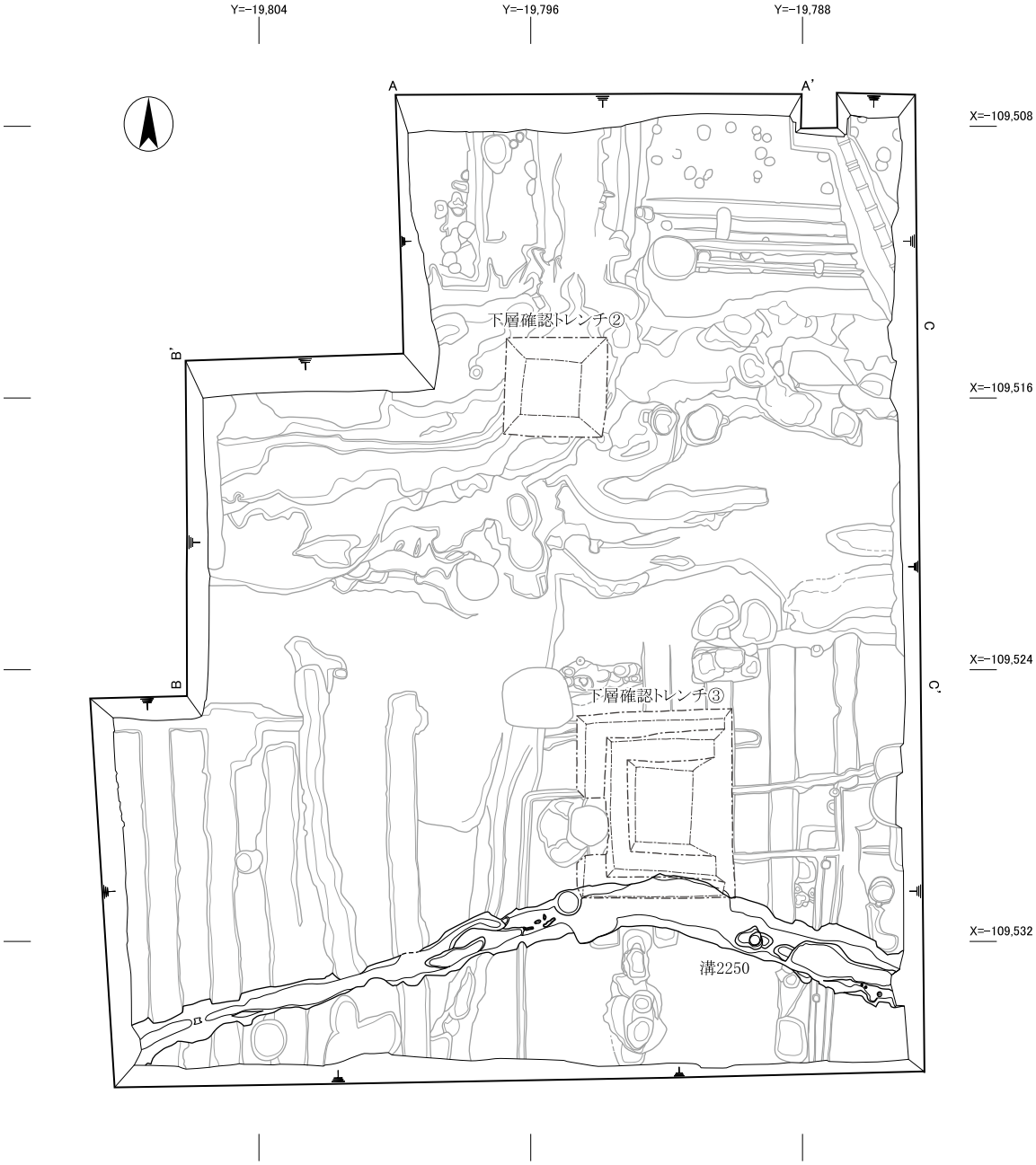
１区　Ⅱ－２期・Ⅲ期平面図（１：100）

遺構図版 4

1区　東壁・西壁・南壁断面図（1：100）

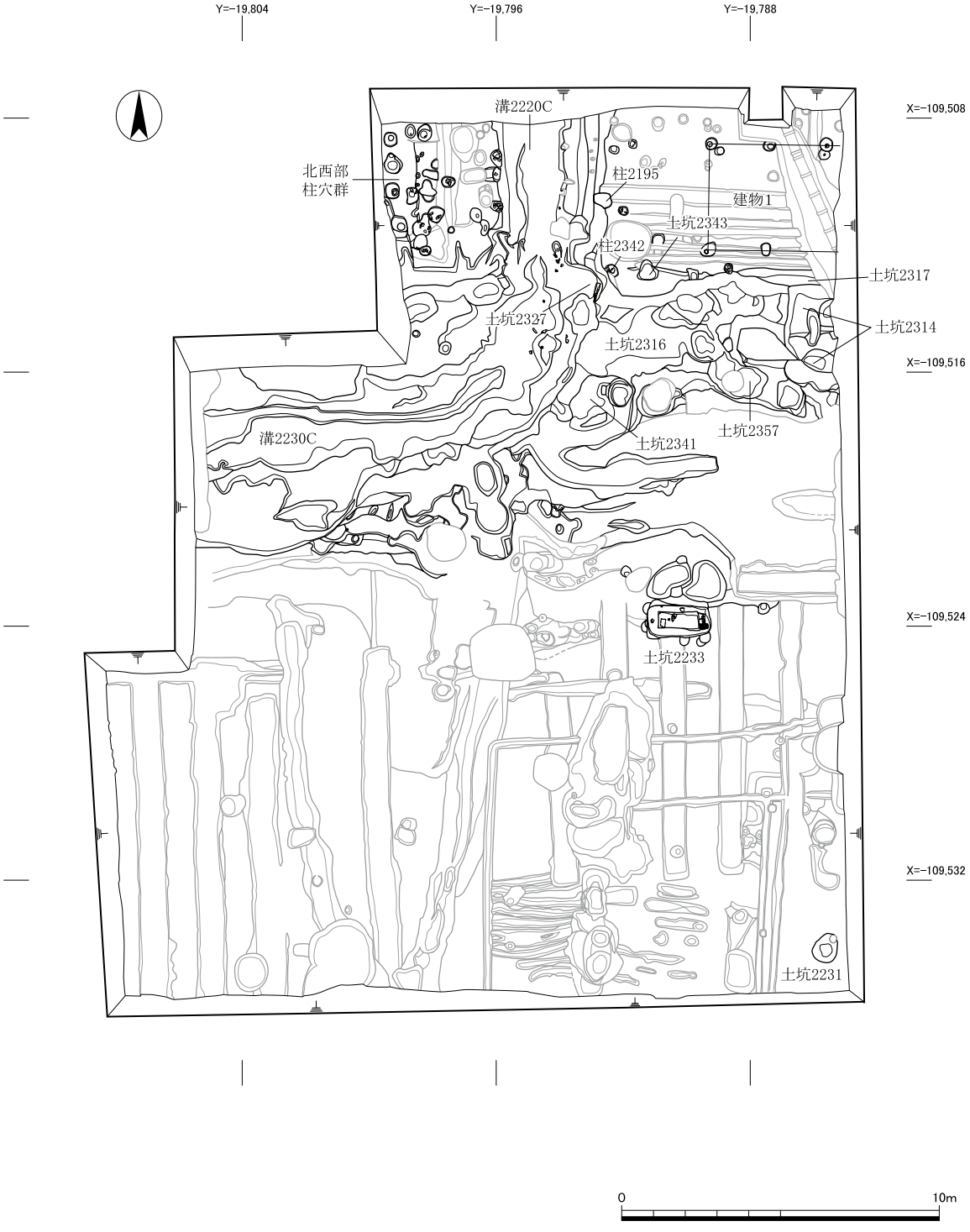


1　10YR3/4暗褐色粗砂　φ0.5～3cm砂礫・土器片多量 ― 中近世耕作土
2　2.5Y3/2黒褐色シルト～細砂　φ0.2cm白色粒多量、木炭粒少量
3　2.5Y3/2黒褐色シルト～細砂　φ0.2cm白色粒・土器片少量 ― 耕作溝
4　2.5Y2/1黒色粗砂　φ0.2cm白色砂粒多量、土器片少量
5　10YR2/1黒色シルト～細砂　粘質　φ0.3cm白色粒・土器片多量、炭少量
6　10YR3/1黒褐色シルト～細砂　φ0.1cm白色粒・炭・粘土塊少量混
7　10YR2/1黒色シルト～細砂　粘質　0.1cm白色粒微量、木片・炭少量
8　10YR2/1黒色シルト～細砂　φ0.2cm白色粒・土器片・炭多量 ― 室町後期遺物包含層
9　10YR2/2黒色粗砂　φ1～3cm小石や炭少量混
10　10YR1.7/1黒色粗砂　炭多量、φ0.2～0.3cm白色粒と土器片少量
11　10YR2/2黒褐色シルト～細砂　φ0.2cm白色粒と炭多量、土器片少量 ― 鎌倉整地層
12　10YR2/2黒褐色細砂～粗砂　炭と白色粒多量、土器片少量
13　10YR2/2黒褐色シルト～細砂　粘質　φ0.2cm白色粒と炭少量
14　10YR1.7/1黒色シルト～細砂　φ0.1～0.2cm白色粒少量混
15　10YR1.7/1黒色シルト～細砂
16　10YR1.7/1黒色シルト　φ0.1cm白色粒微量
17　10YR2/3黒褐色細砂～粗砂　φ0.5cm白色粒多量 ― 流路1126上層
18　7.5YR1.7/1黒色細砂　φ0.1cm白色粒多量、炭少量
19　10YR2/1黒褐色シル　φ0.1cm白色粒微量　粘質強い
20　2.5Y3/1黒褐色細砂～粗砂
21　10YR2/1黒色シルト～細砂　φ0.2cm白色粒少量
22　10YR2/2黒褐色シルト　φ0.1cm白色粒微量混　粘質 ― 流路1126下層
23　10YR2/1黒色シルト～細砂　φ0.3cm白色粒少量混
24　10YR2/2黒褐色シルト　φ0.1cm白色粒微量混
25　10YR1.7/1黒色シルト
26　7.5YR2/2黒褐色シルト～細砂　木片の腐食土
27　2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト(火山灰？含む)
28　10YR2/1黒色シルト～細砂
29　5YR3/1オリーブ黒色シルト
30　5Y3/1オリーブ黒色シルト
31　10YR3/4暗褐色シルト～細砂　木片・白色粒混
32　10GB5/1青灰色細砂～粗砂
33　2.5Y4/3オリーブ褐色粗砂
34　10YR3/4暗褐色砂質土
35　10Y5/2オリーブ灰色粗砂～礫 ― 流路1126下層
36　10GB5/1青灰色細砂～粗砂
37　10YR4/2灰黄褐色粗砂　10YR2/2黒褐色細砂混
38　2.5Y4/3オリーブ褐色粗砂　φ0.5～5cm礫多量
39　10GB5/1青灰色細砂
40　2.5Y4/2暗灰黄色粗砂　φ8～10cm小石・礫多量
41　10Y5/2オリーブ灰色粗砂　φ1cm礫・10YR2/1黒色シルト少量混 ― 基盤層
42　10GB5/1青灰色細砂　10YR2/1黒色シルト少量混
43　10Y5/2オリーブ灰色粗砂　φ1cm礫多量
44　5GY5/1オリーブ灰色粗砂
45　10Y7/1灰白色粗砂　礫多量

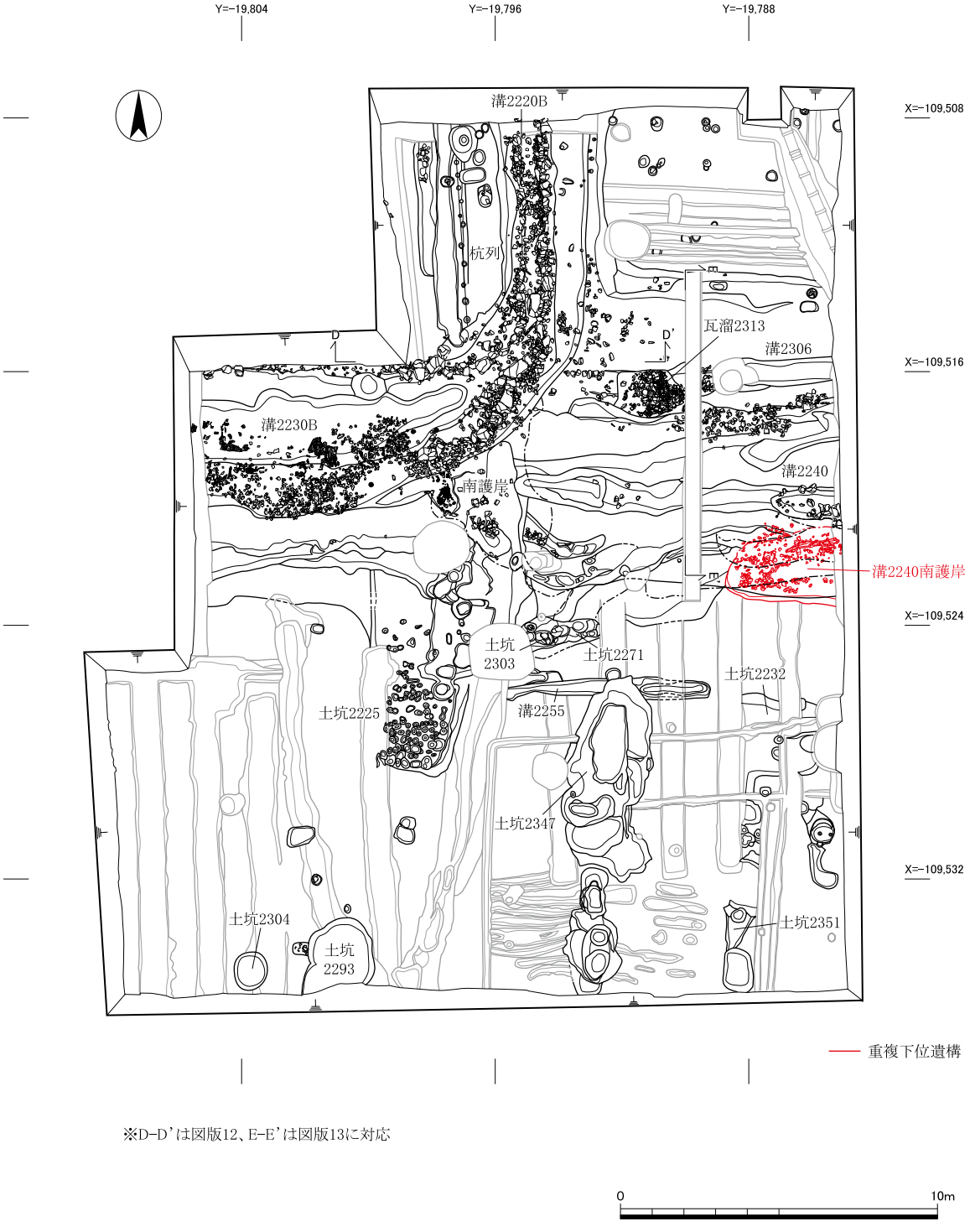


※A−A'は図版9、B−B'は図版10、C−C'は図版11に対応

2区　Ⅰ期平面図（1：200）

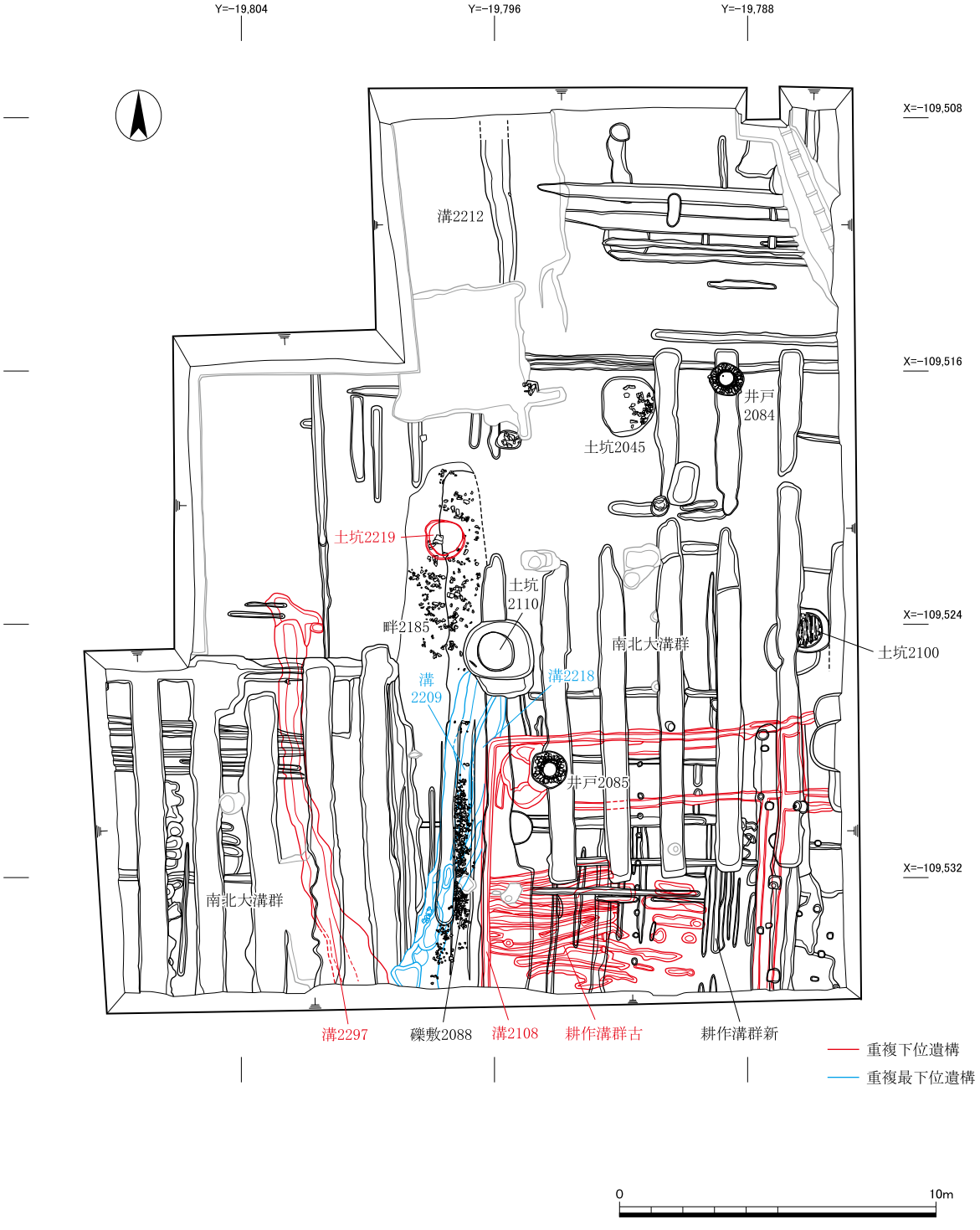


2区　Ⅱ－1期平面図（1：200）



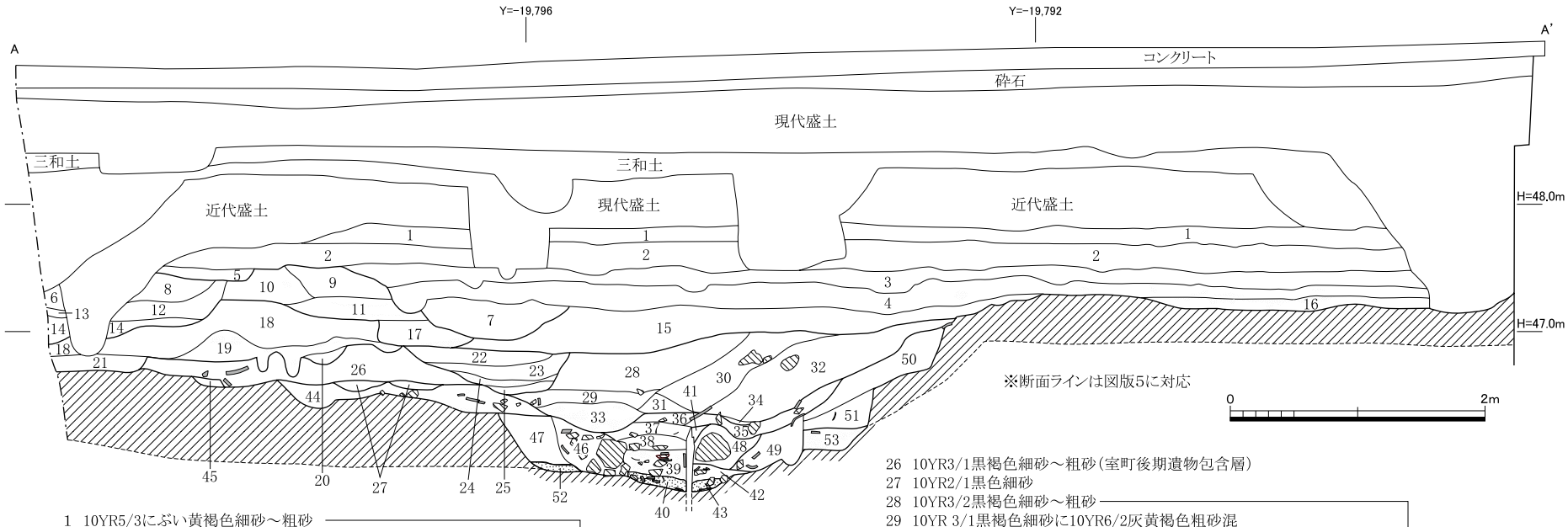
※D–D'は図版12、E–E'は図版13に対応

2区　Ⅱ－2期平面図（1：200）



2区　Ⅲ期平面図（1：200）

2区　北壁断面図（1：50）

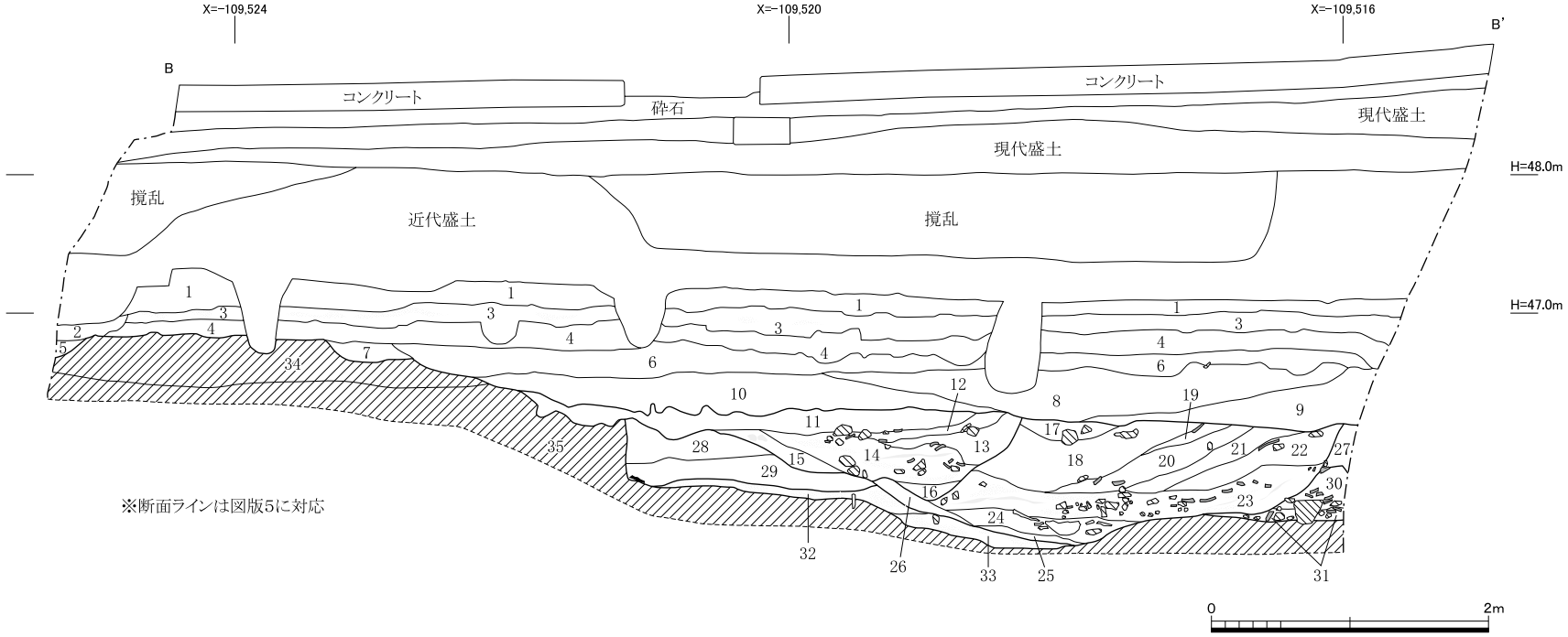


1　10YR5/3にぶい黄褐色細砂～粗砂
2　10YR5/2灰黄褐色細砂～粗砂
3　10YR4/1褐灰色細砂　やや粘質
4　10YR4/2灰黄褐色細砂～粗砂　極粗砂ブロック多量
5　10YR5/3にぶい黄褐色細砂～中砂　φ3～7cmの礫中量
6　10YR3/1黒褐色細砂～中砂　極粗砂混
　耕作土
7　10YR4/2灰黄褐色細砂～粗砂　固くしまる(畔に伴う溝)
8　7.5YR4/3褐色中砂　小礫多量
9　10YR4/2灰黄褐色細砂～粗砂
10　10YR6/3にぶい黄橙色極粗砂に10YR4/2灰黄褐色細砂ブロック少量
11　10YR7/2にぶい黄橙色粗砂と10YR4/2灰黄褐色細砂の互層
12　2.5Y4/2暗灰黄色細砂～中砂　極粗砂多量、固くしまる
　畔
13　10YR3/1黒褐色細砂　粘質
14　10YR3/1黒褐色細砂に10YR5/2灰黄褐色粗砂～　極粗砂ブロック多量
15　10YR3/1黒褐色細砂～粗砂　固くしまる
16　10YR3/1黒褐色細砂～中砂　極粗砂ブロック多量
　耕作土
17　10YR5/2灰黄褐色極粗砂と10YR4/1褐灰色細砂の互層(畔に伴う溝)
18　10YR3/2黒褐色細砂～粗砂　固くしまる
19　10YR3/1黒褐色細砂～中砂に10YR6/2灰黄褐色極粗砂多量
　畔
20　10YR2/1黒色細砂
21　10YR3/1黒褐色細砂～中砂(耕作土)
22　10YR3/1黒褐色細砂～中砂
23　10YR3/1黒褐色細砂～中砂に10YR5/2灰黄褐色中砂層入る
24　10YR6/2灰黄褐色中砂～粗砂(流水堆積)
25　10YR3/1黒褐色細砂～粗砂
　溝2212

26　10YR3/1黒褐色細砂～粗砂(室町後期遺物包含層)
27　10YR2/1黒色細砂
28　10YR3/2黒褐色細砂～粗砂
29　10YR 3/1黒褐色細砂に10YR6/2灰黄褐色粗砂混
30　2.5Y3/1黒褐色細砂～粗砂　固くしまる
31　2.5Y2/1黒色細砂～粗砂
32　10YR3/1黒褐色細砂～粗砂　φ5～20cmの礫少量　固くしまる
33　10YR 3/1黒褐色細砂と10YR6/2灰黄褐色粗砂の互層(流水堆積)
34　10YR3/1黒褐色粘質極細砂
　溝2220A
35　10YR2/1黒色細砂～粗砂　固くしまる
36　10YR2/1黒色中砂～粗砂
37　10YR3/2黒褐色粗砂～極粗砂　10YR2/1黒色細砂混
38　10YR6/2灰黄褐色極粗砂　φ2～5cmの礫含む(流水堆積)
39　10YR6/6明黄褐色極粗砂　φ5～10cmの礫・小礫・土器片多量(流水堆積)
40　10YR6/4にぶい黄橙色極粗砂　φ2～5cmの礫多量(流水堆積)
　溝2220B補修後埋土
41　10YR3/1黒褐色中砂(溝2220B護岸補修土)
42　2.5Y6/6明黄褐色極粗砂　φ5～10cmの礫・土器片多量(流水堆積)
43　2.5Y6/4にぶい黄色極粗砂　φ2～5cmの礫多量(流水堆積)
　溝2220B補修前埋土
44　2.5Y4/2暗灰黄色極粗砂と10YR2/1黒色細砂～中砂混(流れ、澱み)　溝2220B越流堆積
45　2.5Y3/1黒褐色中砂～粗砂
46　10YR4/2灰黄褐色粗砂　φ10～30cmの礫多量
47　10YR3/1黒褐色細砂～中砂　極粗砂混
48　10YR3/1黒褐色細砂～中砂　極粗砂混
49　10YR2/1黒色粘質極細砂～細砂
50　10YR4/2灰黄褐色中砂～極粗砂　固くしまる
51　10YR3/1黒褐色細砂～粗砂　固くしまる
　溝2220B護岸
52　10YR6/4にぶい黄橙色極粗砂　φ2～5cmの礫多量(流水堆積)
53　10YR6/4にぶい黄橙色粗砂～極粗砂(流水堆積)
　溝2220C

図版6　遺構

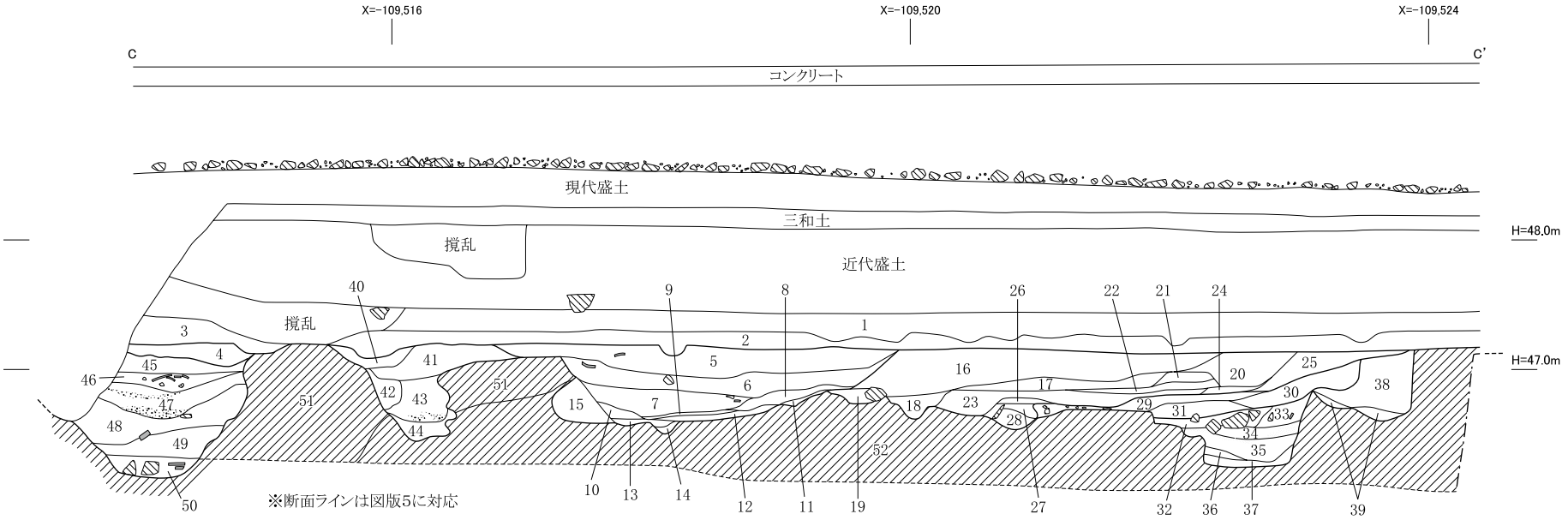
2区　西壁断面図（1：50）



1 10YR4/2灰黄褐色細砂～中砂
2 10YR4/2灰黄褐色細砂～中砂
3 10YR4/1褐灰色細砂　粗砂～極粗砂ブロック多量
4 10YR5/2灰黄褐色細砂　粗砂混
　耕作土
5 10YR4/2灰黄褐色細砂～粗砂　10YR7/4にぶい黄橙色粗砂ブロック混（近世大溝群埋土）
6 10YR4/2灰黄褐色細砂～中砂　粗砂ブロック多量
7 10YR3/4黒褐色中砂～極粗砂
　耕作土
8 10YR3/1黒褐色細砂～粗砂　固くしまる
9 10YR3/1黒褐色細砂～中砂　固くしまる
10 10YR2/1黒色細砂～粗砂　固くしまる
　室町後期遺物包含層
11 10TR3/2黒褐色中砂～粗砂　10YR7/2にぶい黄橙色極粗砂ブロック多量
12 10YR6/2灰黄褐色粗砂ブロックと10YR7/2にぶい黄橙色粗砂ブロック多量
13 10YR2/2黒褐色粘質細砂　瓦・φ5～10cmの礫少量
14 10YR8/2灰白色極粗砂　10YR7/2にぶい黄橙色粗砂　10YR3/1黒褐色細砂互層（流水堆積）
15 10YR4/2灰黄褐色粗砂に10YR8/1灰白色シルトブロック・10YR3/1黒褐色細砂ブロック多量（流水堆積）
16 10YR3/1黒褐色中砂～粗砂　木片多量（澱み）
　溝2230A
17 10YR2/1黒色粘質極細砂～細砂　φ10～15cmの礫少量
18 10YR3/1黒褐色細砂　10YR6/1褐灰色粗砂ブロック中量
　溝2230B
19 10YR4/2灰黄褐色中砂～極粗砂
20 10YR3/1黒褐色中砂～粗砂
21 2.5Y3/1黒褐色細砂　粗砂少量、固くしまる　やや粘質
22 10YR2/1黒色粘質極細砂～細砂　φ5～20cmの礫・瓦中量、固くしまる
23 10YR6/3にぶい黄橙色粗砂　極粗砂の互層、10YR3/1黒褐色細砂層帯状に入る　ラミナあり（流水堆積）
24 10YR5/1褐灰色中砂　木片多量（澱み）
25 10YR6/2灰黄褐色極粗砂（流水堆積）
26 10YR3/2黒褐色細砂～中砂　木片少量
　溝2230B
27 10YR3/1黒褐色細砂～中砂　極粗砂・土器片多量、φ5～10cmの礫・瓦中量
28 10YR3/1黒褐色細砂～粗砂　10YR4/1褐灰色シルトブロック少量固くしまる
29 10YR3/1黒褐色細砂～粗砂　10YR7/3にぶい黄橙色　粗砂帯状に入る
　溝2230B護岸
30 10YR5/2灰黄褐色中砂　φ5～10cmの礫・瓦多量（流水堆積）
31 10YR5/6黄褐色極粗砂～小礫　φ1～5cmの礫・瓦多量（流水堆積）
32 10YR4/2灰黄褐色極粗砂　小礫混（流水堆積）
33 10YR5/2灰黄褐色極粗砂～小礫　φ1～5cmの礫多量（流水堆積）
　溝2230C
34 10YR7/4にぶい黄橙色極粗砂
35 粗砂・シルト・細砂の互層
　基盤層

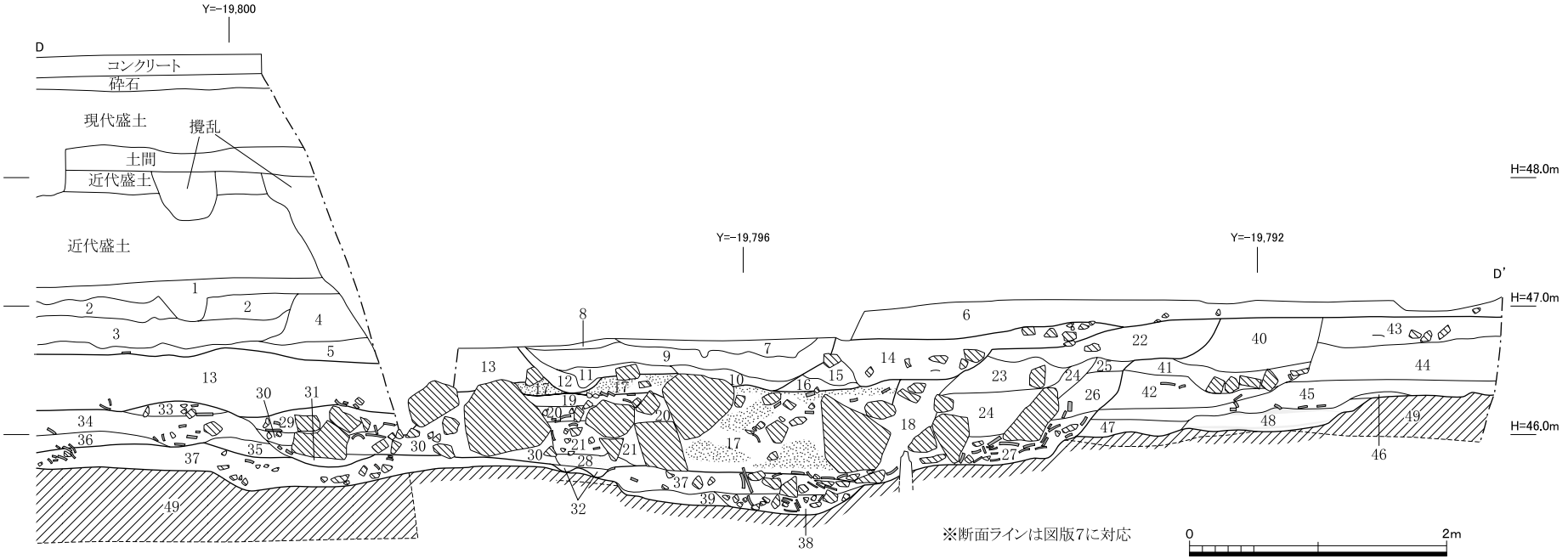
遺構図版11

2区　東壁断面図（1：50）



1 10YR4/2灰黄褐色中砂～粗砂　細砂ブロック多量
2 10YR4/2灰黄褐色中砂～粗砂
3 7.5YR3/2黒褐色細砂～粗砂　土器片・瓦・炭混
　耕作土
4 10YR3/4暗褐色細砂～中砂（室町後期遺物包含層）
5 10YR3/3暗褐色細砂～粗砂　固くしまる
6 10YR4/2灰黄褐色細砂～粗砂に10YR8/1灰白色極細砂ブロック多量
7 10YR4/1褐灰色細砂～粗砂
8 10YR4/1褐灰色極粗砂　粘質
9 10YR4/2灰黄褐色中砂　固くしまる
10 2.5Y4/2暗褐色中砂
11 2.5Y6/3にぶい黄色細砂　固くしまる
12 10YR7/2にぶい黄橙色細砂と10YR4/1褐灰色粗砂の互層（流水堆積）
13 10YR5/2灰黄褐色細砂　粗砂混
14 10YR7/2にぶい黄橙色細砂と10YR4/1褐灰色粗砂の互層（流水堆積）
15 10YR4/2灰黄褐色中砂～粗砂に10YR5/3にぶい黄褐色極粗砂ブロック多量
　溝2240A
16 10YR3/3暗褐色細砂～粗砂　固くしまる
17 2.5Y5/3黄褐色中砂（流水堆積）
18 10YR4/2灰黄褐色細砂　固くしまる
19 10YR4/3にぶい黄褐色細砂～中砂　小礫少量
20 7.5YR3/2黒褐色細砂～粗砂　非常に固くしまる
　溝2240B
21 2.5Y5/3黄褐色細砂～中砂固くしまる
22 10YR4/1褐灰色細砂～中砂　固くしまる（土間状）
23 10YR4/2灰黄褐色中砂と10YR7/2にぶい黄橙色中砂～粗砂混（流水堆積）
24 7.5YR3/2黒褐色細砂～中砂に10YR6/2灰黄褐色粗砂混
25 10YR3/3暗褐色細砂～中砂　固くしまる
26 10YR7/3にぶい黄橙色中砂～粗砂（流水堆積）
27 10YR5/3にぶい黄褐色中砂
28 10YR8/1灰白色極粗砂（流水堆積）
29 10YR3/1黒褐色細砂～中砂　φ0.5～2cmの礫多量、非常に固くしまる（土間状）
30 10YR2/3黒褐色細砂～中砂　固くしまる
31 10YR4/2灰黄褐色細砂～中砂に10YR7/2にぶい黄橙色中砂ブロック多量
　溝2240B
32 2.5Y4/1黄灰色粘質シルト
33 5YR3/2暗赤褐色細砂～粗砂　鉄分多量、固くしまる
34 10YR5/2灰黄褐色粗砂　10YR3/1黒褐色粘質シルト10YR8/2灰白色極粗砂が混じる
35 10YR3/1黒褐色粘質シルトに10YR5/2灰黄褐色粗砂ブロック混
36 10YR3/1黒褐色粘質シルトに10YR5/2灰黄褐色粗砂ブロック混
37 10YR2/1黒色粘質シルトに10YR5/2灰黄褐色粗砂ブロック混
38 10YR4/4褐色細砂～中砂　10YR7/2にぶい黄橙色粗砂10YR8/1灰白色細砂が混じる
39 7.5YR3/2黒褐色細砂～粗砂
　溝2240B護岸
40 10YR4/3にぶい黄褐色細砂～中砂　極粗砂混
41 2.5Y7/4浅黄粗砂～極粗砂
42 10YR3/2黒褐色細砂～粗砂
43 2.5Y7/4浅黄粗砂～極粗砂に10YR3/2黒褐色細砂～粗砂ブロック混
44 10YR6/3にぶい黄褐色細砂と10YR4/2灰黄褐色粗砂の互層（流水堆積）
　溝2306
45 10YR4/2灰黄褐色細砂に10YR5/2灰黄褐色粗砂～極粗砂ブロック多量
46 10YR6/3にぶい黄橙色粗砂～極粗砂　瓦多量
47 10YR4/2灰黄褐色中砂と10YR6/3にぶい黄橙色極粗砂の互層
48 10YR3/2黒褐色細砂　φ3～10cmの礫・瓦・炭少量
49 10YR6/3にぶい黄橙色中砂～粗砂と10YR3/1黒褐色シルトの互層
50 10YR5/6黄褐色極粗砂　φ5～20cmの礫・瓦多量
　土坑2314
51 2.5Y8/1灰白色極粗砂
52 細砂・粗砂の互層
　基盤層

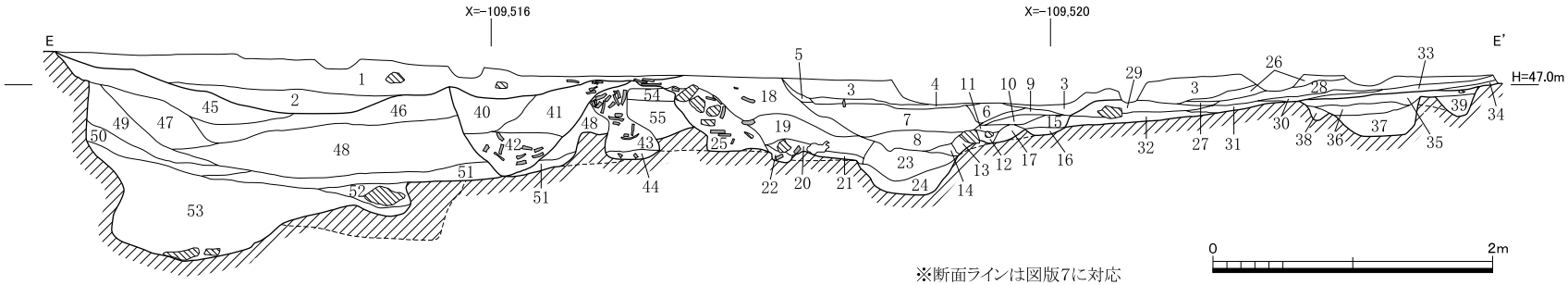
2区　溝2220・2230断面図（1：50）



1　10YR4/2灰黄褐色細砂～中砂
2　10YR4/1褐灰色細砂　粗砂～極粗砂ブロック多量　耕作土
3　10YR5/2灰黄褐色細砂　粗砂混
4　10YR5/3にぶい黄褐色中砂～粗砂　極粗砂混(畔)
5　10YR4/2灰黄褐色細砂～中砂　粗砂ブロック多量　耕作土
6　10YR4/2灰黄褐色細砂～粗砂
7　10YR2/1黒色シルト～極細砂　やや粘質
8　2.5Y3/2黒褐色細砂　粗砂～小礫混
9　10YR3/1黒褐色極細砂～細砂　粗砂混　溝2212
10　10YR5/2灰黄褐色中砂～粗砂
11　10YR2/1黒色シルト～極細砂
12　10YR4/2灰黄褐色中砂～粗砂
13　10YR3/1黒褐色細砂～中砂　固くしまる(室町後期遺物包含層)
14　10YR3/2黒褐色細砂　粗砂混、下層やや粘質
15　10YR3/1黒褐色中砂～粗砂　溝2220・2230A
16　10YR3/1黒褐色細砂～粗砂
17　10YR6/2灰黄褐色細砂～極粗砂と2.5Y3/1黒褐色細砂の互層　φ5～20cmの礫・瓦・木片多量(流水堆積)　溝2220・2230B 埋土
18　10YR3/1黒褐色細砂～中砂　固くしまる
19　10YR2/2黒褐色シルト～極細砂　やや粘質
20　10YR3/1黒褐色細砂～粗砂　砂質、φ5～15cmの礫多量　溝2220・2230B 護岸補修土
21　10YR2/1黒色細砂～中砂　やや粘質
22　10YR3/2黒褐色細砂～粗砂　固く締まる
23　10YR3/1黒褐色細砂　やや粘質
24　10YR2/1黒色シルト～細砂　やや粘質、土器多量　溝2220・2230B 護岸
25　10YR3/1黒褐色細砂　極粗砂少量混
26　10YR3/1黒褐色細砂～粗砂　粗砂ブロック混
27　10YR3/1黒褐色細砂～粗砂　瓦多量
28　10YR5/3にぶい黄褐色中砂～極粗砂(補修前埋土か)
29　10YR2/1黒色細砂～粗砂　極粗砂混、φ5～15cmの礫・瓦多量、固くしまる　溝2220・2230B 護岸
30　10YR2/1黒色細砂　φ5～20cmの礫多量、固くしまる
31　10YR4/2灰黄褐色中砂～粗砂　φ3～10cmの礫・瓦多量
32　10YR3/1黒褐色極細砂～細砂
33　10YR4/2灰黄褐色中砂～粗砂　φ5～10cmの礫中量　溝2220B護岸
34　10YR1.7/1黒色極細砂～細砂　やや粘質、φ3～20cmの礫少量
35　10YR2/2黒褐色細砂～中砂
36　10YR2/1黒色極細砂～細砂　粘質
37　10YR6/1褐灰色粗砂～極粗砂　φ5～30cmの礫・瓦多量　溝2220・2230C
38　10YR5/2灰黄褐色粗砂～極粗砂　φ5～20cmの礫・瓦多量
39　10YR5/1褐灰色粗砂～極粗砂
40　10YR4/2灰黄褐色細砂～粗砂と10YR6/2灰黄褐色粗砂の互層　土坑2316
41　10YR3/1黒褐色細砂　φ20～30cmの礫多量
42　10YR3/1黒褐色細砂～粗砂
43　10YR4/2灰黄褐色細砂～粗砂
44　10YR4/2灰黄褐色中砂　粗砂～極粗砂ブロック多量混
45　10YR3/1黒褐色中砂～粗砂
46　7.5Y7/1灰白細砂
47　10YR5/4にぶい黄褐色極粗砂黒褐色細砂ブロック多量混
48　10YR7/3にぶい黄橙色極粗砂と10YR4/2灰黄褐色中砂の互層
49　10YR7/2にぶい黄橙色粗砂～極粗砂(基盤層)

図版13　遺構

2区　溝2240断面図（1：50）

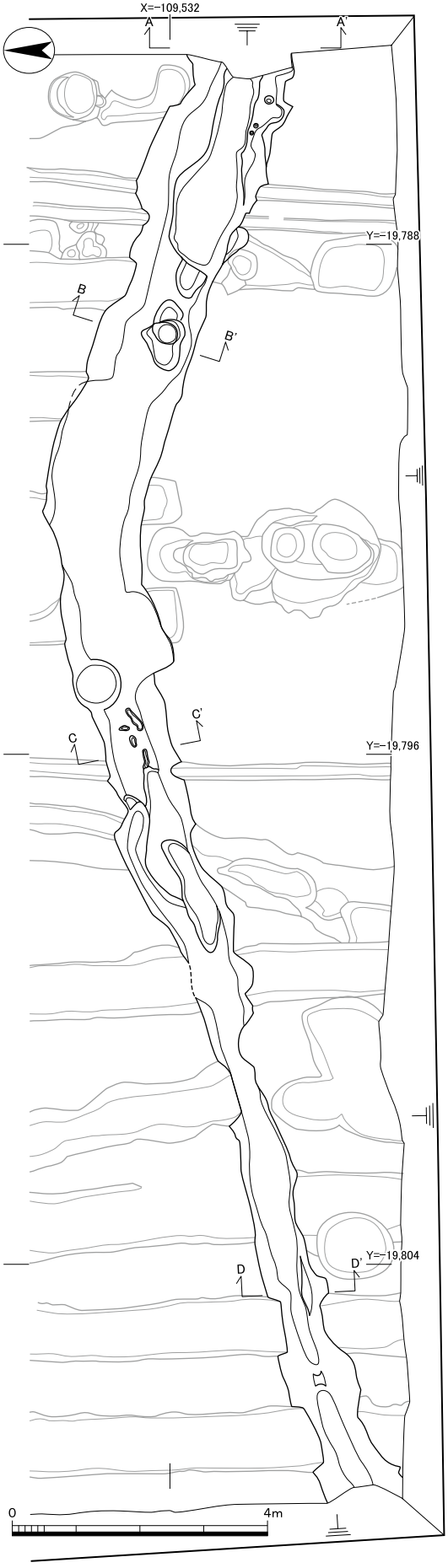


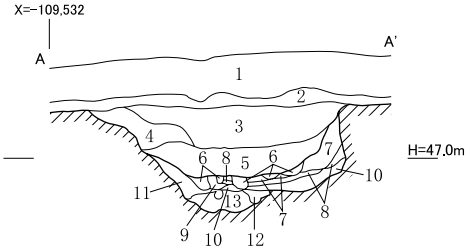
※断面ラインは図版7に対応

1 2.5Y3/2黒褐色細砂～粗砂　瓦片少量 ┐ 室町後期遺物包含層
2 10YR4/2灰黄褐色細砂　極粗砂少量 ┘
3 10YR4/2灰黄色細砂～粗砂　極粗砂多量 ┐
4 10YR5/2灰黄褐色粘質シルト
5 10YR4/3にぶい黄褐色細砂　粗砂少量
6 10YR4/2灰黄褐色細砂～粗砂
7 10YR4/1褐灰色細砂～中砂
8 2.5Y4/1黄灰色粘質シルト　粗砂少量
9 2.5Y3/2黒褐色細砂～粗砂　2.5Y6/2灰黄色細砂ブロック混
10 2.5Y5/3黄褐色中砂～粗砂
11 2.5Y4/2暗灰黄色細砂～粗砂
12 2.5Y5/2暗灰黄色中砂～粗砂
13 2.5Y5/2暗灰黄色細砂
14 2.5Y6/2灰黄色粗砂
15 10YR5/2灰黄褐色中砂に10YR7/3粗砂ブロック多量混
16 10YR7/2にぶい黄橙色極粗砂
17 2.5Y6/3にぶい黄色粗砂
18 2.5Y4/2暗灰黄色細砂～粗砂　極粗砂多量
19 2.5Y4/1黄灰色細砂～粗砂　極粗砂多量
20 2.5Y7/2灰黄色細砂に2.5Y5/2黄灰色細砂～中砂少量混
　φ5～10㎝の礫・瓦含
21 2.5Y3/1黒褐色細砂～粗砂
22 2.5Y4/1黄灰色細砂～粗砂
23 2.5Y8/1灰白色極細砂　中砂・粗砂の互層（流水堆積）
24 2.5Y6/2灰黄色シルト　極細砂・細砂の互層（流水堆積） ┘ 溝2240A
25 2.5Y4/2暗灰黄色細砂～粗砂　φ10～20㎝の礫・瓦詰まる（溝2240A護岸）
26 10YR4/2灰黄褐色粗砂 ┐
27 10YR6/3にぶい黄橙色粗砂～極粗砂
28 10YR5/2灰黄褐色中砂～粗砂　固くしまる ┘ 溝2240B

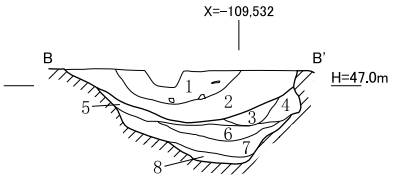
29 2.5Y5/3黄褐色極細砂に2.5Y7/4浅黄色シルトブロック混 ┐
30 10YR5/4にぶい黄褐色粗砂
31 10YR6/3にぶい黄橙色粗砂
32 10YR6/2灰黄褐色粗砂～極粗砂
33 10YR4/4褐色細砂～粗砂　固くしまる
34 10YR6/4にぶい黄橙色粗砂 ┘ 溝2240B
35 10YR4/2灰黄褐色細砂～中砂　非常に固くしまる ┐
36 10YR4/2灰黄褐色中砂～粗砂
37 10YR3/3暗褐色細砂～粗砂
38 10YR4/4褐色細砂～粗砂
39 10YR4/3にぶい黄褐色中砂～粗砂 ┘ 溝2240B護岸
40 10YR3/1黒褐色中砂～粗砂 ┐
41 10YR4/2灰黄褐色細砂～粗砂に10YR8/2灰白色粗砂
　ブロック多量混 ┘ 溝2306
42 10YR4/2灰黄褐色細砂～粗砂　瓦多量
43 10YR4/2灰黄褐色細砂～粗砂　瓦詰まる
44 10YR5/2灰黄褐色極粗砂
45 10YR2/2黒褐色細砂に粗砂～極粗砂ブロック多量 ┐
46 10YR3/1黒褐色細砂
47 10YR4/1褐灰色中砂に10YR5/3にぶい黄褐色粗砂多量混
48 10YR4/1褐灰色細砂と10YR8/2灰白色中砂・粗砂・極粗砂の互層
49 10YR4/2灰黄褐色細砂～粗砂
50 10YR3/1黒褐色粘質極細砂
51 10YR4/1褐灰色細砂～粗砂
52 10YR4/2灰黄褐色細砂～粗砂
53 10YR3/1黒褐色細砂と10YR7/3にぶい黄橙色極粗砂の互層
54 10YR6/3にぶい黄橙色粗砂～極粗砂　地山由来　非常に固くしまる
55 10YR7/3にぶい黄橙色粗砂　細砂の薄層・黒褐色
　細砂ブロック少量、固くしまる ┘ 土坑2316

図版14　遺構

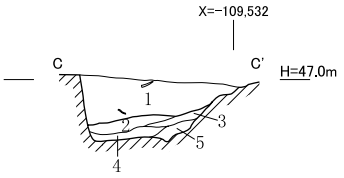




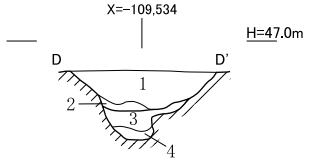
1　10YR3/2黒褐色細砂～中砂　小礫・炭多量(近世盛土か)
2　10YR5/3にぶい黄褐色細砂～中砂(中世耕作土)
3　10YR3/3暗褐色細砂～中砂土器片少量
4　10YR3/3暗褐色細砂に10YR6/4にぶい黄橙色極粗砂ブロック混　上層
5　10YR3/2黒褐色極細砂～中砂　やや粘質　炭少量
6　10YR3/2黒褐色極細砂～中砂　やや粘質　炭少量　踏み込みか
7　10YR4/3にぶい黄褐色細砂～中砂に10YR6/3にぶい黄橙色
　粗砂ブロック多量混
8　10YR6/4にぶい黄橙色細砂(流水堆積)
9　10YR5/4にぶい黄褐色極粗砂
10　10YR5/4にぶい黄褐色極粗砂と10YR4/1褐灰色極細砂の互層　下層
11　10YR3/3暗褐色細砂～粗砂と10YR6/4にぶい黄橙色細砂
　マーブル状
12　10YR6/4にぶい黄橙色極粗砂に10YR3/3暗褐色細砂ブロック混
13　10YR6/3にぶい黄橙色細砂　最下層は粗砂(流水堆積)



1　10YR2/2黒褐色粘質シルト　炭・φ2～5㎝の礫・土器片少量
2　10YR3/2黒褐色細砂～中砂　上層
　10YR4/2灰黄褐色粘質細砂ブロック多量
3　10YR3/3暗褐色細砂～粗砂
4　10YR4/3にぶい黄褐色中砂～粗砂
　10YR6/4にぶい黄橙色粗砂大ブロック入
5　10YR3/2黒褐色極粗砂～中砂　やや粘質　下層
6　10YR4/3にぶい黄褐色中砂～粗砂
7　10YR4/4褐色中砂と10YR5/4にぶい黄褐色粗砂の互層(流水堆積)
8　10YR6/4にぶい黄橙色中砂
　下層10YR5/4にぶい黄褐色粗砂(流水堆積)



1　10YR2/2黒褐色細砂～中砂　土器片少量　上層
2　10YR6/4にぶい黄橙色中砂(流水堆積)
3　10YR3/2黒褐色細砂～中砂　やや粘質
4　10YR4/4褐色中砂～粗砂　下層
　10YR4/1褐灰色粘質シルトブロック少量
5　10YR5/4にぶい黄褐色中砂(流水堆積)

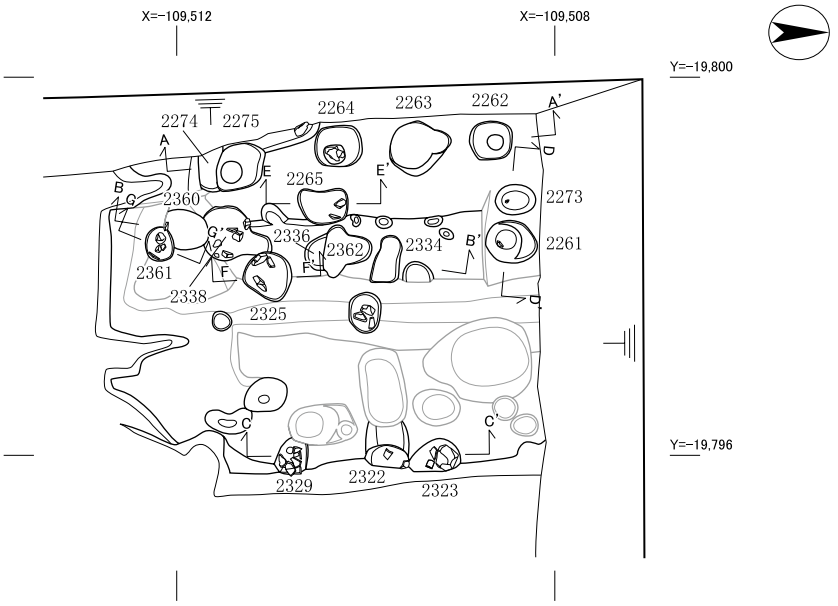


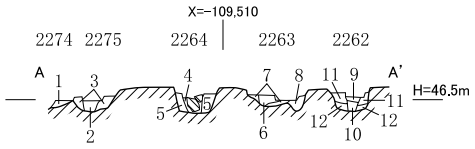
1　10YR2/2黒褐色細砂～粗砂
2　10YR3/3暗褐色細砂～粗砂に　上層
　10YR6/4にぶい黄橙色細砂ブロック混
3　10YR3/2黒褐色中砂～粗砂
4　10YR6/3にぶい黄橙色中砂(流水堆積)　下層

2区　Ⅰ期　溝2250実測図（1：100、1：50）

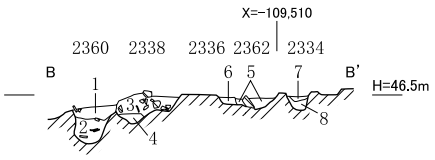
柱2195・2342

２区　Ⅱ－１期　建物１、柱2195・2342実測図（１：50）

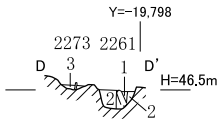




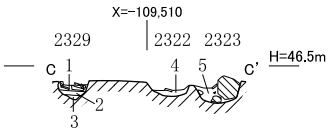
1　2.5Y3/1黒褐色細砂～中砂　粗砂混
2　10YR2/1黒色細砂～中砂　やや粘質
3　10YR3/1黒褐色細砂～粗砂
4　10YR2/1黒色細砂～中砂
5　2.5Y2/1黒色細砂～粗砂
6　10YR2/1黒色細砂～中砂　やや粘質
7　10YR1.7/1黒色細砂～粗砂
8　2.5Y5/1黄灰色中砂～粗砂
9　2.5Y3/1黒褐色細砂～中砂
10　10YR3/1黒褐色細砂　やや粘質
11　10YR4/1褐灰色細砂～粗砂
12　10YR2/1黒色細砂～中砂



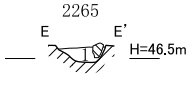
1　10YR3/1黒褐色中砂　φ3～10㎝の礫少量
2　10YR5/1褐灰色粗砂　φ3～10㎝の礫多量
3　10YR3/1黒褐色細砂～粗砂　φ10～15㎝の礫・瓦多量
4　10YR4/2灰黄褐色粗砂　土器片多量
5　10YR4/1褐灰色中砂　小礫少量
6　10YR6/2灰黄褐色粗砂～極粗砂
7　10YR2/1黒色細砂　粘質
8　10YR3/1黒褐色粗砂　10YR2/1黒色細砂ブロック少量



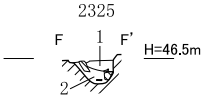
1　10YR4/2灰黄褐色粗砂
2　10YR6/1褐灰色中砂～極粗砂
3　10YR6/1褐灰色中砂～粗砂



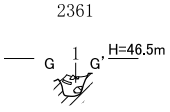
1　10YR3/1黒褐色中砂　φ5～10㎝の礫・瓦多量
2　10YR2/1黒色粗砂
3　10YR2/1黒色細砂　粘質
4　2.5Y5/1黄灰色粗砂～極粗砂
5　10YR3/1黒褐色粗砂　φ15～30㎝の礫・瓦入る



1　10YR5/1褐灰色粗砂



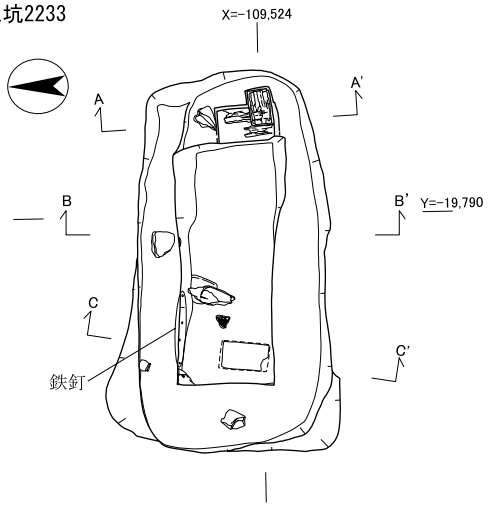
1　10YR2/1黒色細砂　極粗砂少量
　φ5～20㎝の礫・土器片多量
2　10YR5/1褐灰色粗砂　φ10～20㎝の礫少量



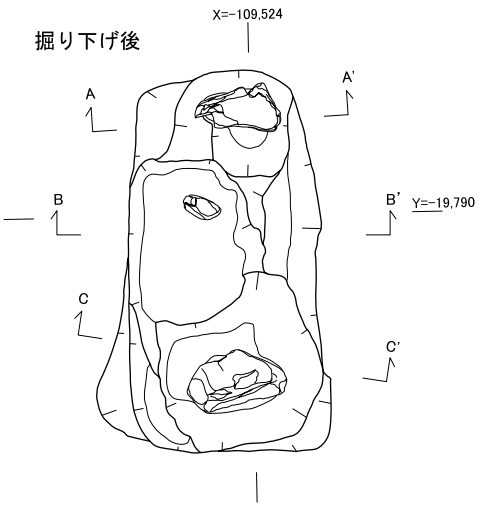
1　10YR4/1褐灰色粗砂
　φ10～20㎝の礫・瓦多量

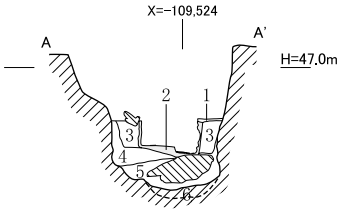
2区　Ⅱ－1期　北東部柱穴群実測図（1：80）

土坑2233

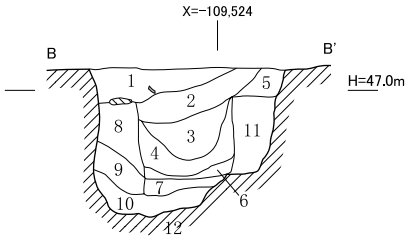


掘り下げ後

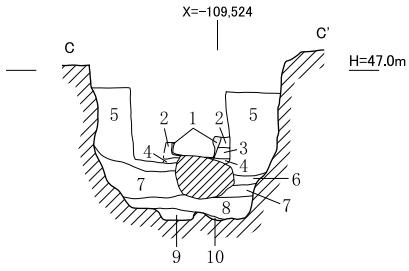




1　10YR3/3暗褐色細砂
2　10YR5/2灰黄褐色シルト～細砂　粘質(腐植木)
3　10YR4/3にぶい黄褐色細砂～中砂
4　10YR4/1褐灰色細砂～中砂
5　10YR4/2灰黄褐色中砂
6　10YR8/2灰白色中砂～粗砂(基盤層)

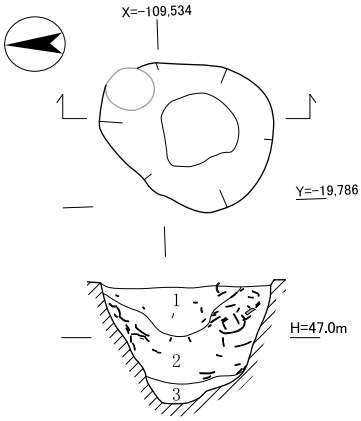


1　10YR3/4暗褐色細砂　粗砂混
2　10YR3/3暗褐色細砂に2.5Y7/4浅黄色粗砂ブロック混
3　10YR4/3にぶい黄褐色極細砂～細砂に2.5Y6/4にぶい黄色シルトブロック少量混
4　10YR3/3暗褐色極細砂～細砂
5　10YR3/4暗褐色細砂　粗砂混
6　10YR3/2黒褐色細砂　やや粘質
7　10YR4/3にぶい黄褐色細砂～中砂　固くしまる
8　10YR5/2灰黄褐色中砂～粗砂　細砂ブロック多量
9　10YR8/3浅黄橙色粗砂
10　10YR4/2灰黄褐色細砂～中砂　粗砂ブロック混
11　10YR7/2にぶい黄橙色粗砂　細砂ブロック混
12　10YR4/2灰黄褐色細砂～中砂(基盤層)



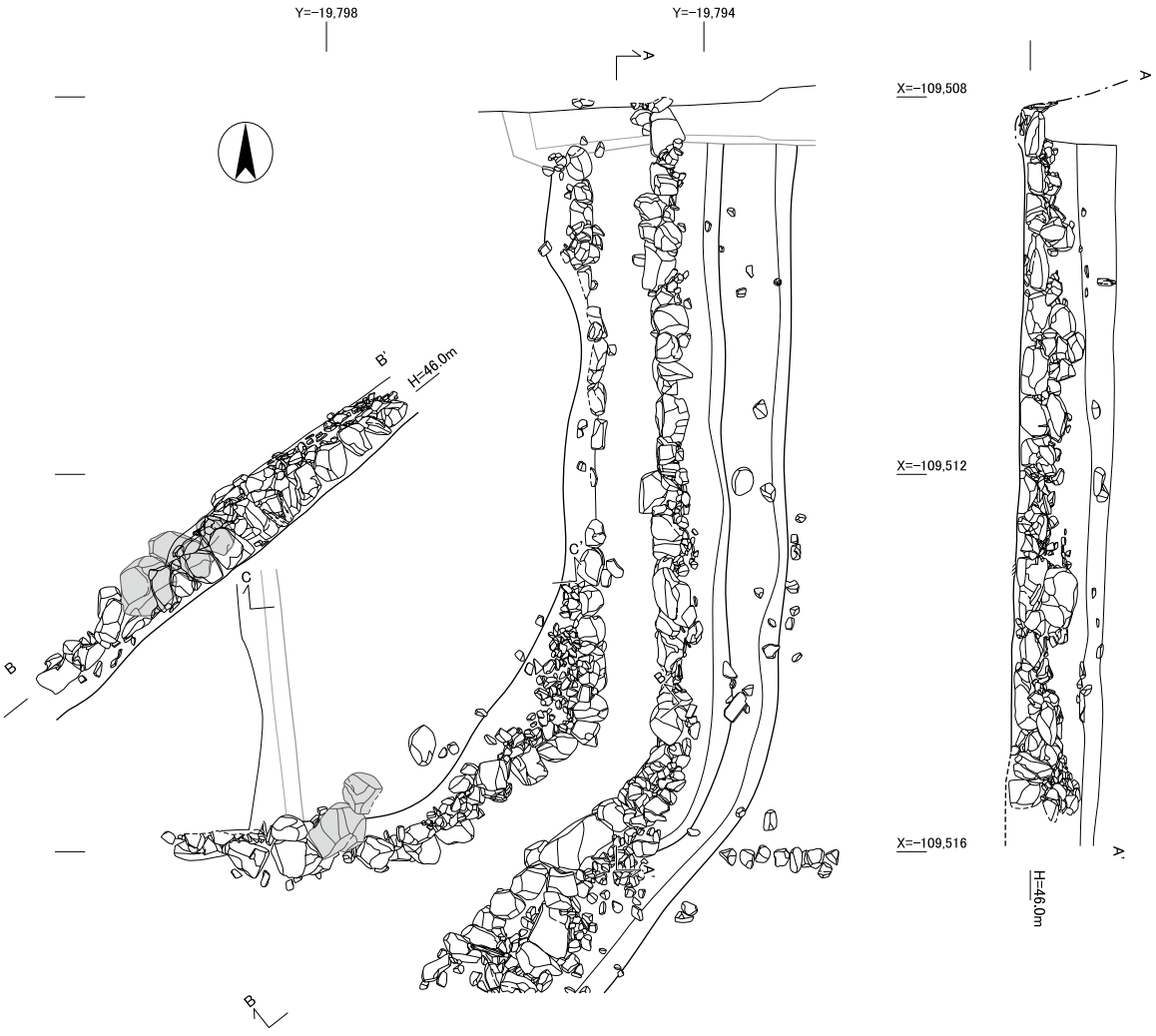
1　2.5Y4/1黄灰色粘質シルト(腐植木)
2　10YR4/3にぶい黄褐色細砂
3　10YR3/2黒褐色シルト～細砂に10YR7/4にぶい黄橙色細砂ブロック混
4　10YR3/1黒褐色シルト～細砂
5　10YR4/1褐灰色細砂　粗砂ブロック多量
6　10YR3/3暗褐色細砂　粗砂ブロック多量
7　10YR5/2灰黄褐色細砂～粗砂　極細砂ブロック多量
8　10YR2/2黒褐色細砂　粗砂ブロック多量
9　10YR7/2にぶい黄橙色粗砂
10　10YR7/2にぶい黄橙色中砂

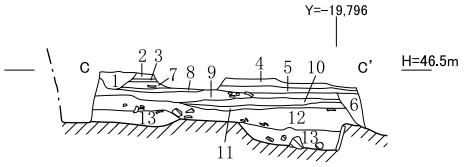
土坑2231



1　10YR3/2黒褐色シルト～細砂　炭・土器片少量混
2　10YR3/3暗褐色細砂～中砂に2.5Y7/4浅黄色細砂ブロック少量混　土器片・炭多量
3　2.5Y6/4にぶい黄色中砂に10YR4/2灰黄褐色シルト～細砂ブロック少量混

2区　Ⅱ－1期　土坑2233・2231実測図（1：40）

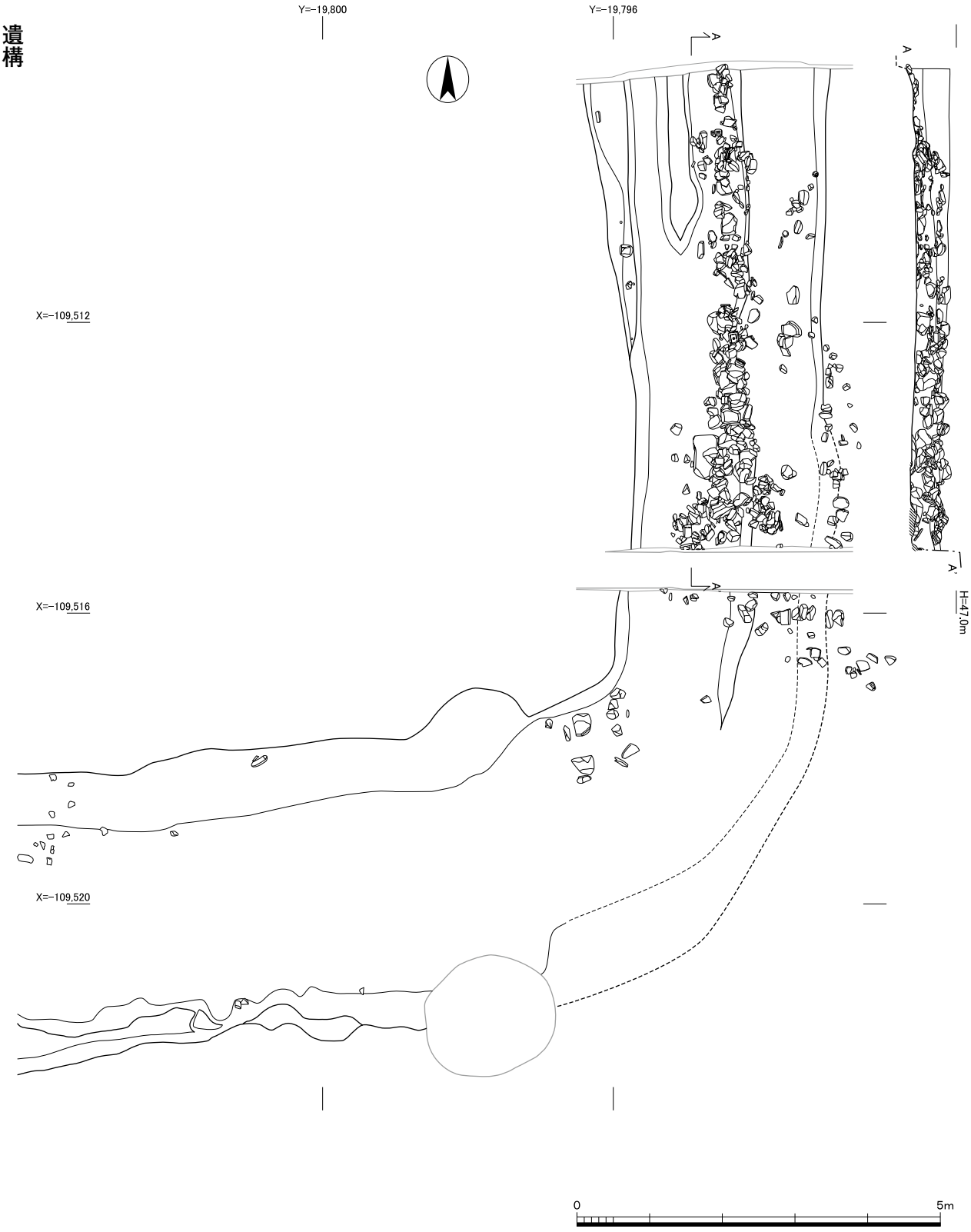




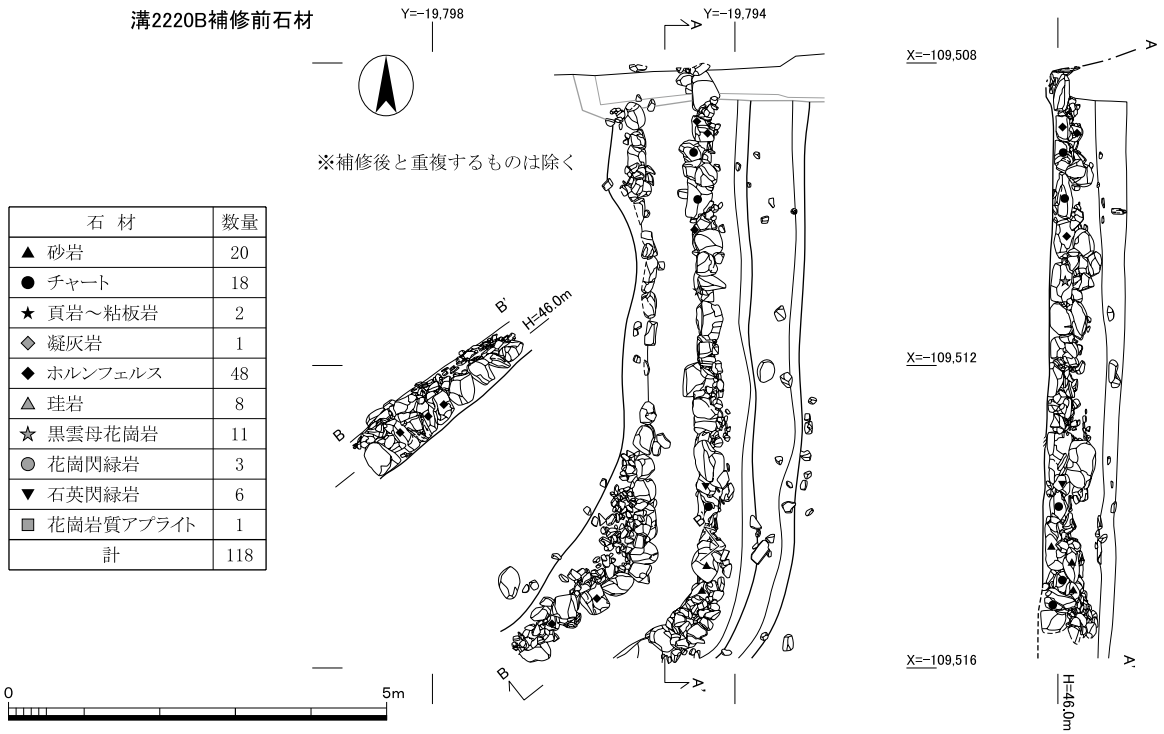
1　2.5Y3/1黒褐色細砂～粗砂
2　10YR2/1黒色細砂　固くしまる
3　10YR4/1褐灰色細砂　砂質
4　10YR4/1褐灰色細砂～粗砂　10G6/1緑灰色細砂ブロック多量、固くしまる ┐整地
5　10YR5/2灰黄褐色粗砂　砂質 ┘
6　10YR2/1黒色細砂～粗砂　黒色シルトブロック多量(石掘形)
7　10YR2/1黒色細砂粗砂混　固くしまる
8　2.5Y3/1黒褐色細砂に10G6/1緑灰色中砂ブロック多量
9　10YR3/1黒褐色細砂～粗砂　10G6/1緑灰色中砂大ブロック少量
10　10G6/1緑灰色粗砂と10YR3/1黒褐色シルト　互層
11　10YR2/1黒色粘質粗砂
12　10YR3/1黒褐色細砂に10YR7/3にぶい黄橙色粗砂～極粗砂　瓦・礫多量
13　10YR7/3にぶい黄橙色粗砂～極粗砂(流水堆積)

2区　Ⅱ－2期　溝2220・2230B実測図（1：80）

2区　Ⅱ－2期　溝2220・2230B補修後実測図（1：80）



2区　Ⅱ－2期　溝2220・2230A実測図（1：80）



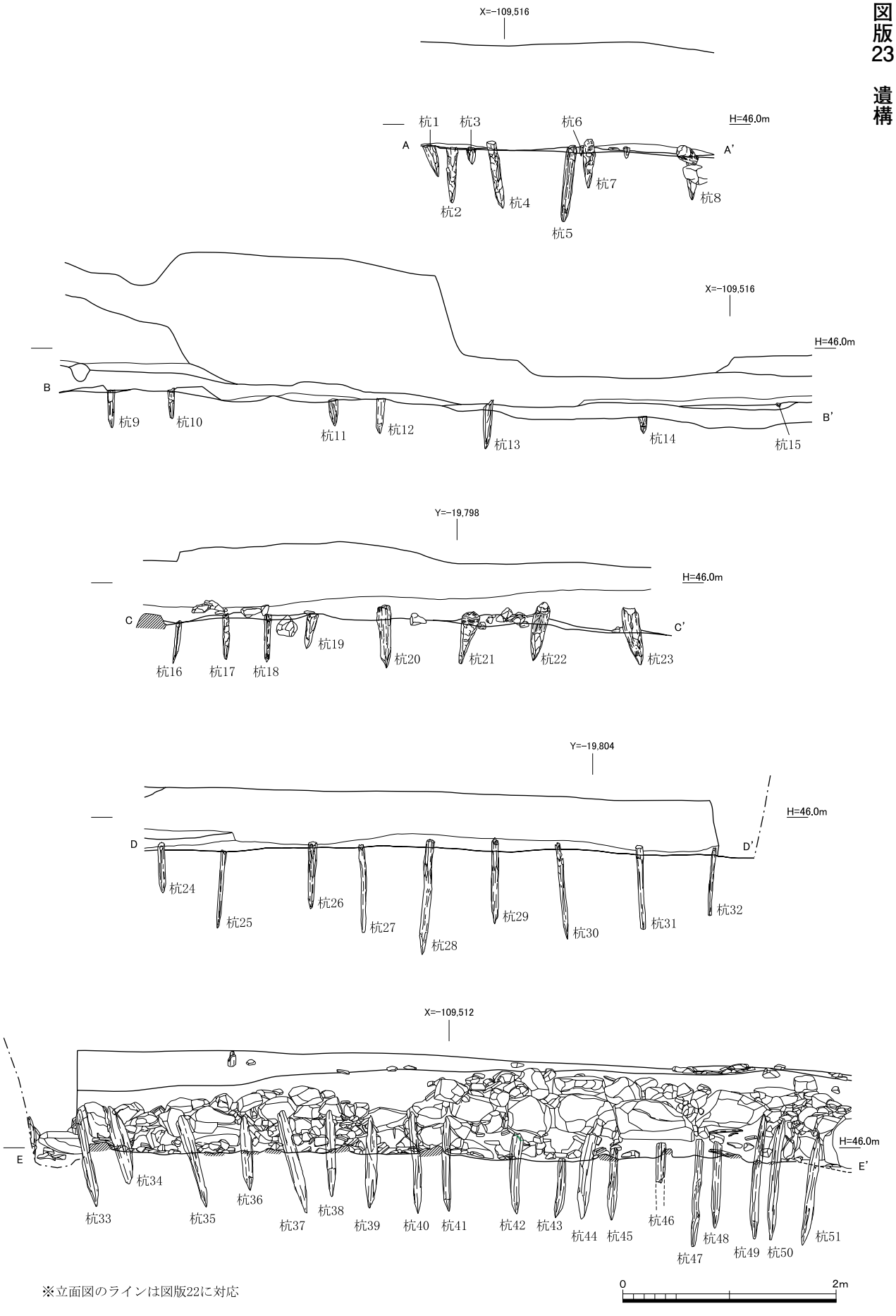
石　材	数量
▲ 砂岩	20
● チャート	18
★ 頁岩～粘板岩	2
◇ 凝灰岩	1
◆ ホルンフェルス	48
△ 珪岩	8
☆ 黒雲母花崗岩	11
○ 花崗閃緑岩	3
▼ 石英閃緑岩	6
□ 花崗岩質アプライト	1
計	118

2区　溝2220・2230B石材（1：100）

溝2220・2230B杭の樹種一覧（杭番号は図版23に対応）

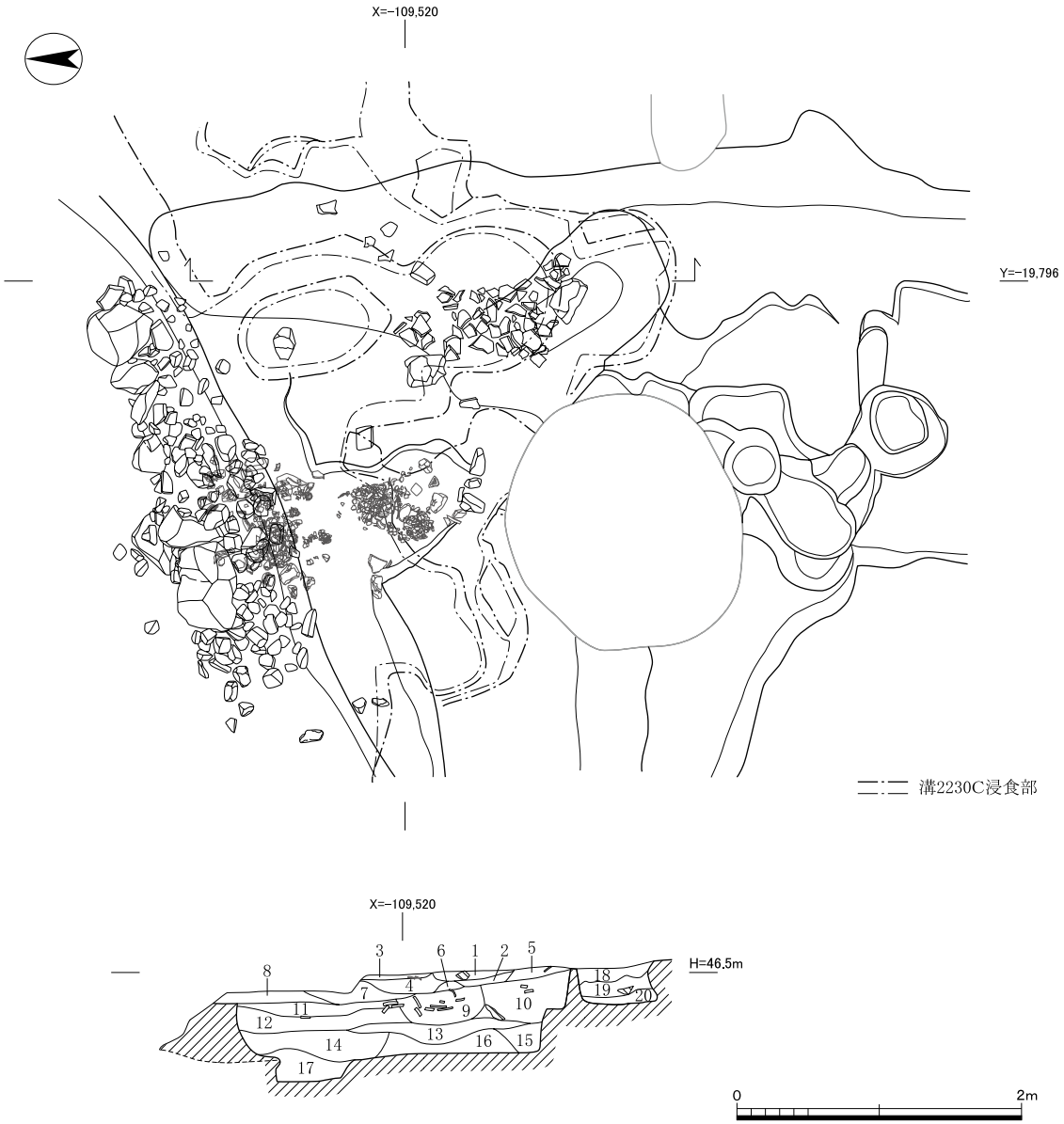
番号	樹種	番号	樹種	番号	樹種	番号	樹種
杭1	サクラ属	杭14	カキノキ属	杭27	カラマツ	杭40	クリ
杭2	サクラ属	杭15	カキノキ属	杭28	イヌガヤ属	杭41	ブナ科
杭3	サクラ属？	杭16	クリ	杭29	ツガ属	杭42	クリ
杭4	サクラ属	杭17	クリ	杭30	ツガ属	杭43	クリ
杭5	ツブラジイ	杭18	クリ	杭31	二葉松	杭44	クリ
杭6	サクラ属	杭19	スダジイ	杭32	二葉松	杭45	ブナ科(クリorスダジイ)
杭7	サクラ属	杭20	サクラ属？	杭33	ブナ科	杭46	ブナ科
杭8	サクラ属	杭21	クワ科	杭34	クリ	杭47	クリ
杭9	マンサク属	杭22	ウコギ科？	杭35	クリ	杭48	クリ
杭10	スダジイ	杭23	サクラ属？	杭36	ブナ科(クリorスダジイ)	杭49	クリ
杭11	サクラ属	杭24	ツガ属	杭37	クリ	杭50	ブナ科(クリorスダジイ)
杭12	サクラ属	杭25	ツガ属	杭38	クリ	杭51	クリ
杭13	ブナ科	杭26	ケヤキ	杭39	クリ		

2区　溝2220・2230B杭位置平面図（1：100）



※立面図のラインは図版22に対応

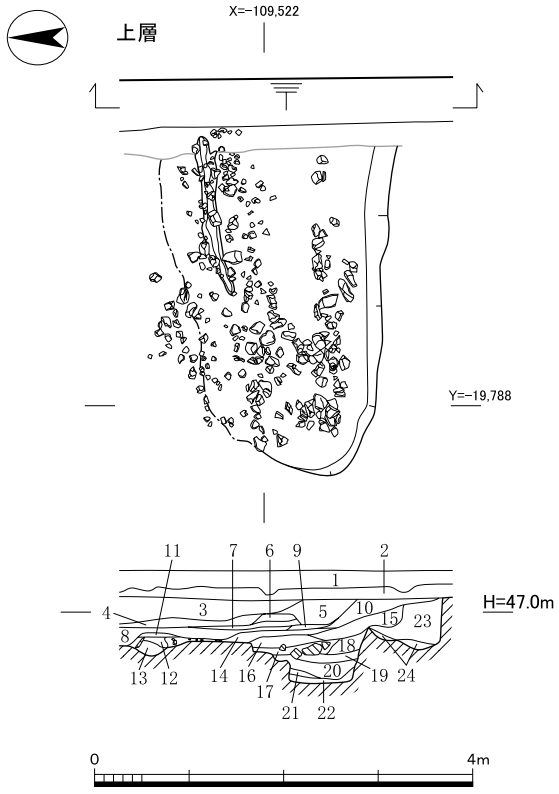
2区　溝2220・2230B杭列立面図（1：50）

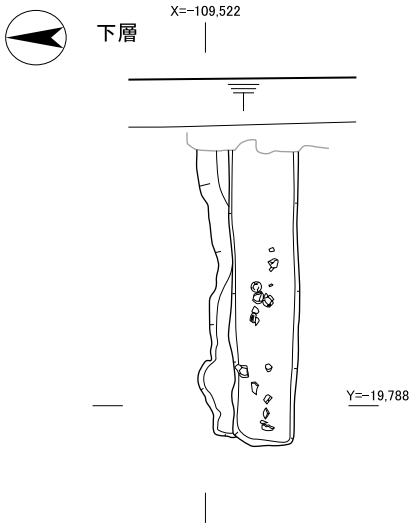


1 10YR4/1褐灰色細砂～粗砂
2 10YR6/3にぶい黄橙色粗砂 ラミナあり
3 10YR3/1黒褐色細砂～粗砂 固くしまる
4 10YR2/1黒色細砂～中砂
5 10YR4/2灰黄褐色中砂～粗砂
6 10YR7/3にぶい黄橙色粗砂
7 10YR6/3いぶい黄橙色中砂
8 10YR4/1褐灰色細砂～中砂
9 10YR5/3にぶい黄褐色粗砂 瓦多量
10 10YR3/2黒褐色細砂～中砂 瓦少量
11 10YR3/1黒褐色細砂～粗砂 固く締まる
12 10YR4/2灰黄褐色細砂～粗砂と5GY7/1細砂の互層
13 10YR4/2灰黄褐色中砂～粗砂
14 10YR5/3にぶい黄褐色粗砂
15 10YR3/1黒褐色細砂～粗砂
16 10YR8/3浅黄橙色粗砂と極粗砂(下層) えぐり
17 10YR5/2灰黄褐色極粗砂 えぐり
18 10YR2/1黒色細砂に10YR7/3粗砂ブロック多量
19 10YR2/1黒色細砂～粗砂に10YR7/1粘質シルトブロック混
20 10YR5/3にぶい黄褐色極粗砂

2区　溝2230B南護岸実測図（1：50）

溝2240南護岸



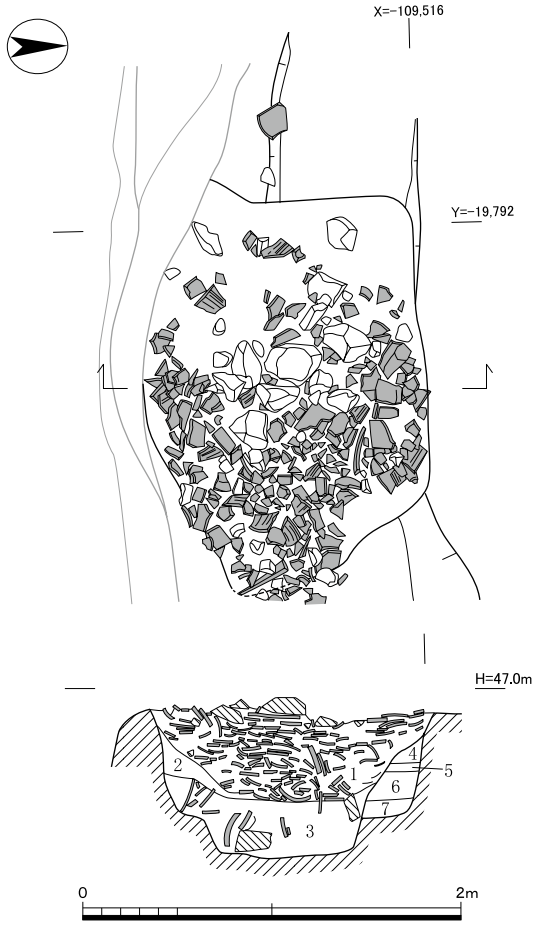


1 10YR4/2灰黄褐色中砂～粗砂 細砂ブロック多量
2 10YR4/2灰黄褐色中砂～粗砂
→ 耕作土

3 10YR3/3暗褐色細砂～粗砂 固くしまる
4 2.5Y5/3黄褐色中砂 ラミナあり(流水堆積)
5 7.5YR3/2黒褐色細砂～粗砂 非常に固くしまる
6 2.5Y5/3黄褐色細砂～中砂固くしまる
7 10YR4/1褐灰色細砂～中砂 固くしまる(土間状)
8 10YR4/2灰黄褐色中砂と10YR7/2にぶい黄橙色中砂～粗砂混(流水堆積)
9 7.5YR3/2黒褐色細砂～中砂に10YR6/2灰黄褐色粗砂混
10 10YR3/3暗褐色細砂～中砂 固くしまる
11 10YR7/3にぶい黄橙色中砂～粗砂(流水堆積)
12 10YR5/3にぶい黄褐色中砂
13 10YR8/1灰白色極粗砂(流水堆積)
14 10YR3/1黒褐色細砂～中砂 φ0.5～2㎝の礫多量、非常に固くしまる(土間状)
15 10YR2/3黒褐色細砂～中砂 固くしまる
16 10YR4/2灰黄褐色細砂～中砂に10YR7/2にぶい黄橙色中砂ブロック多量
→ 溝2240B

17 2.5Y4/1黄灰色粘質シルト
18 5YR3/2暗赤褐色細砂～粗砂 鉄分多量、固くしまる
19 10YR5/2灰黄褐色粗砂 10YR3/1黒褐色粘質シルト10YR8/2灰白色極粗砂が混じる
20 10YR3/1黒褐色粘質シルトに10YR5/2灰黄褐色粗砂ブロック混
21 10YR3/1黒褐色粘質シルトに10YR5/2灰黄褐色粗砂ブロック混
22 10YR2/1黒色粘質シルトに10YR5/2灰黄褐色粗砂ブロック混
23 10YR4/4褐色細砂～中砂 10YR7/2にぶい黄橙色粗砂10YR8/1灰白色細砂が混じる
24 7.5YR3/2黒褐色細砂～粗砂
→ 溝2240B護岸

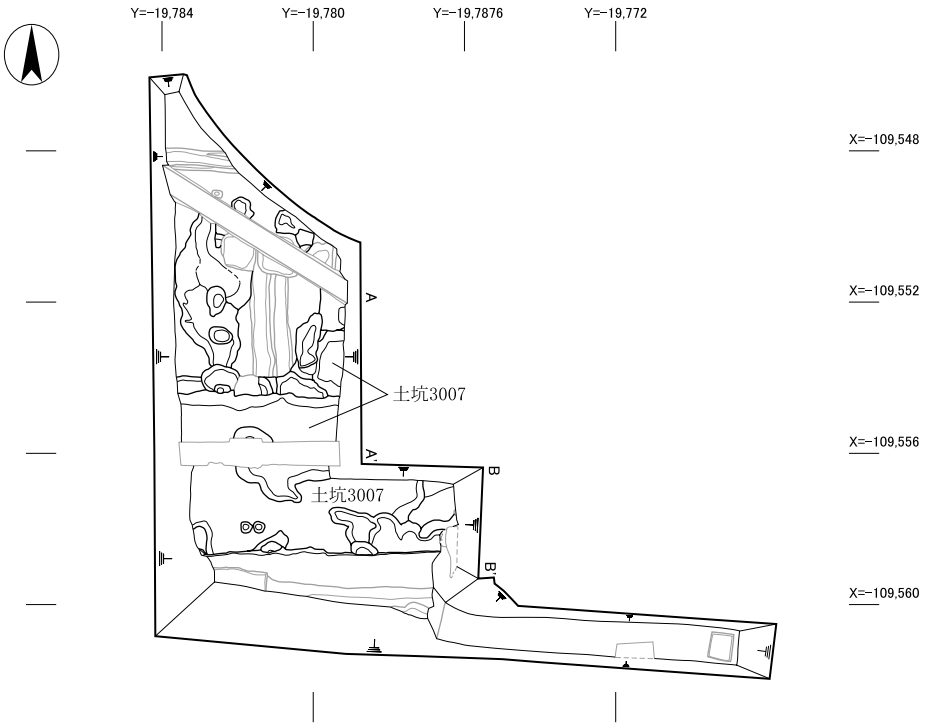
瓦溜2313



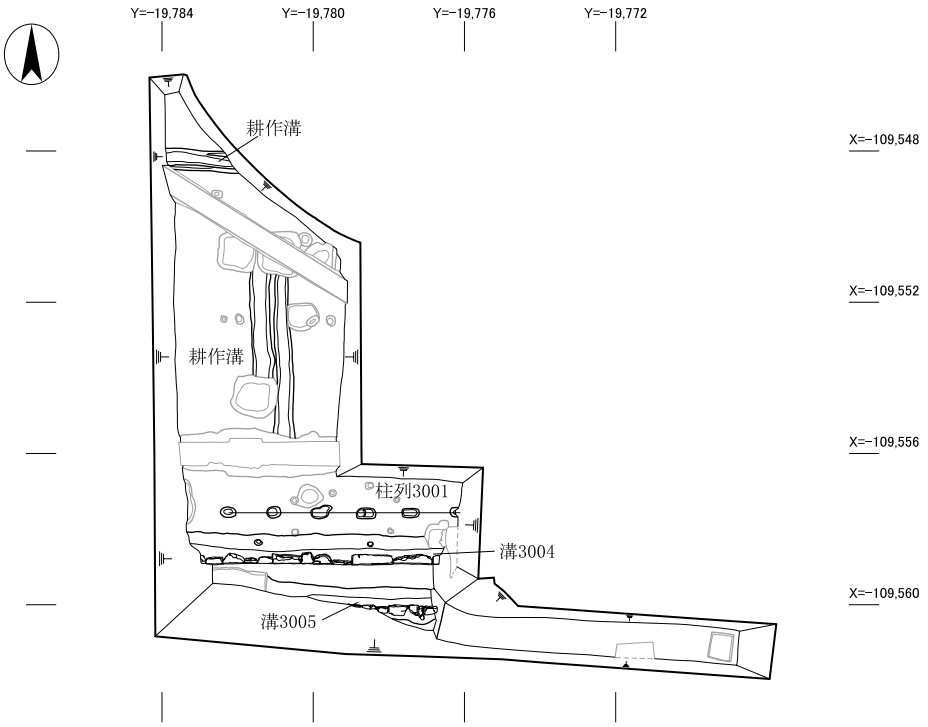
1 10YR3/2黒褐色シルト～細砂 やや粘質、瓦・礫詰まる
2 10YR3/1黒褐色細砂～粗砂
3 10YR4/2灰黄褐色粗砂～極粗砂 瓦・礫多量
4 10YR3/3暗褐色細砂～粗砂
5 10YR3/1黒褐色細砂 やや粘質
6 10YR3/3暗褐色細砂～粗砂
7 10YR3/1黒褐色細砂 やや粘質
→ 溝2306

2区 溝2240南護岸、瓦溜2313実測図（1：80、1：40）

3区Ⅱ期

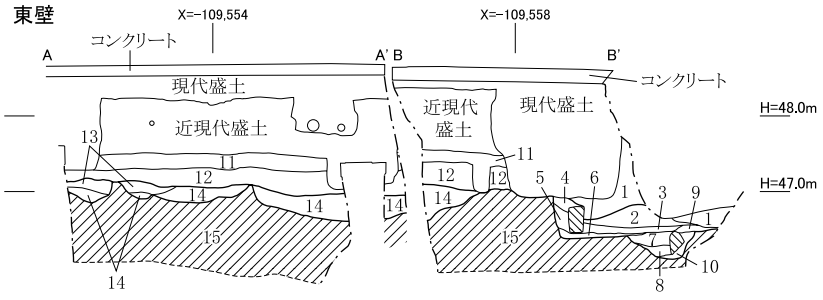


3区Ⅲ期



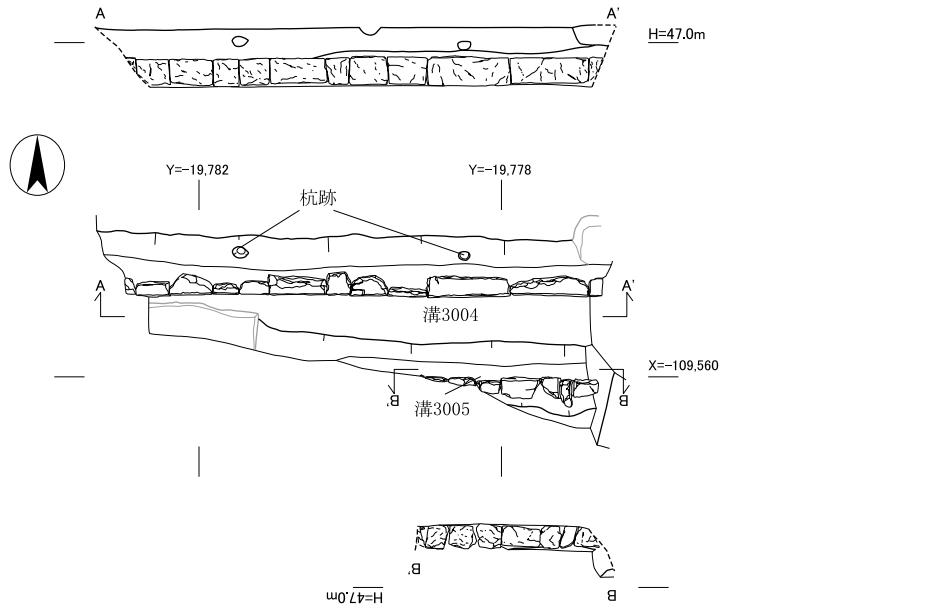
3区　Ⅱ期・Ⅲ期平面図（1：200）

東壁



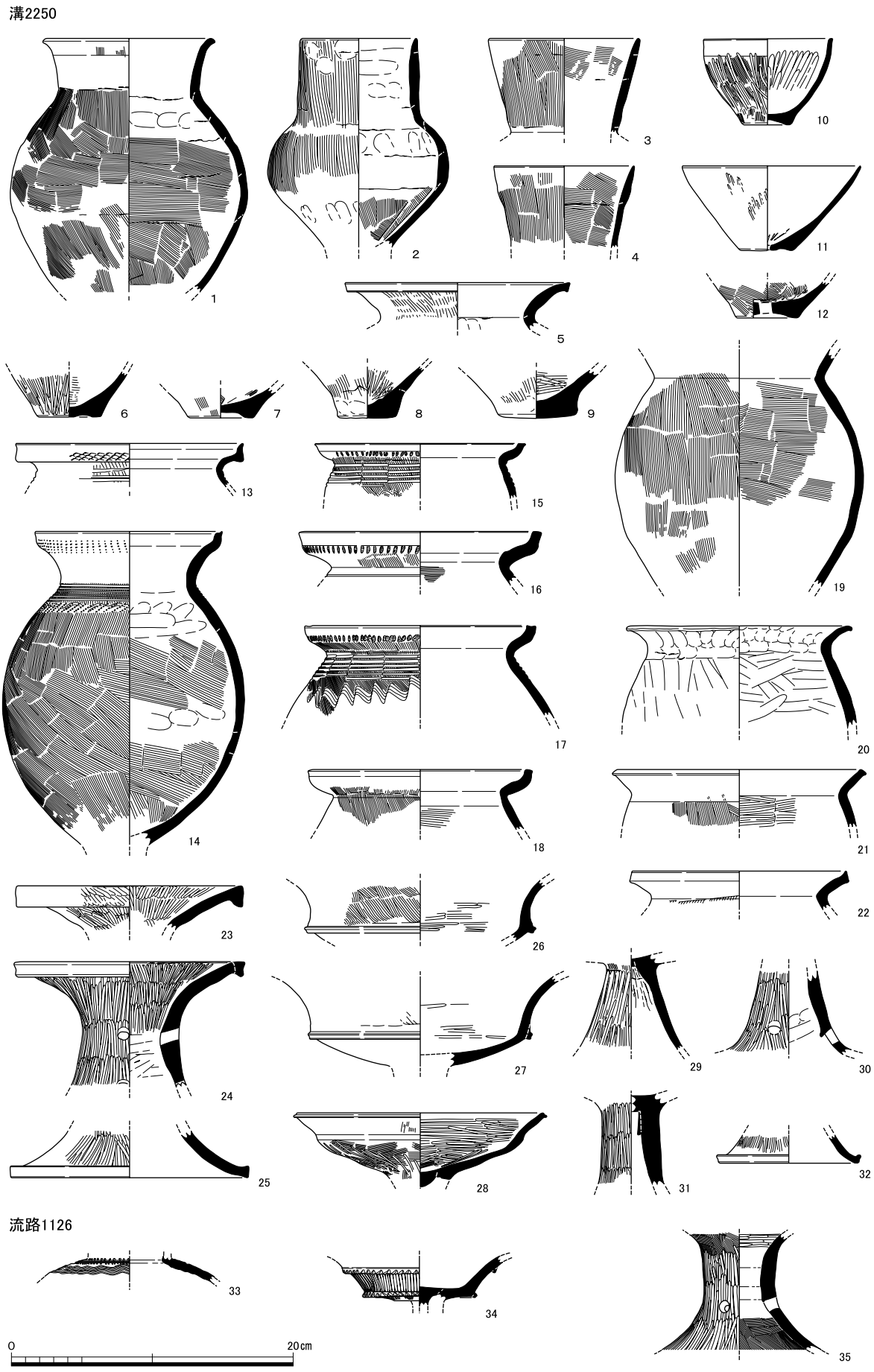
1 10YR7/2にぶい黄褐色細砂に10YR4/1褐灰色シルトブロック多量(近代疎水掘削土か)
2 10YR8/2黒褐色細砂 ラミナあり(流水堆積)
3 10YR5/4にぶい黄褐色粗砂 ラミナあり(流水堆積)
4 10YR3/3暗褐色細砂～粗砂
5 10YR7/2にぶい黄橙色粗砂 ┐
6 10YR3/1黒褐色細砂に10YR6/6明黄褐色シルトブロック多量 ┘ 溝3004石列裏込
7 10YR3/1黒褐色細砂 やや粘質
8 10YR4/4褐色粗砂 ラミナあり(流水堆積)
9 10YR3/1黒褐色細砂～粗砂(整地土か)
10 10YR3/2黒褐色シルト～極細砂 粘質 固くしまる(溝3005石列裏込)
11 10YR3/2黒褐色細砂～粗砂 炭化物多量 ┐
12 10YR3/3暗褐色細砂～粗砂 ┘ 耕作土
13 10YR3/1黒褐色細砂～粗砂 ┐
14 10YR3/1黒褐色細砂～粗砂に10YR6/6明黄褐色粘質シルトブロック多量 ┘ 土坑3007
15 10YR5/6黄褐色粘質シルト～細砂と10YR6/6明黄褐色粗砂～極粗砂の互層
細砂～中砂層を部分的に挟在(基盤層)

溝3004・3005



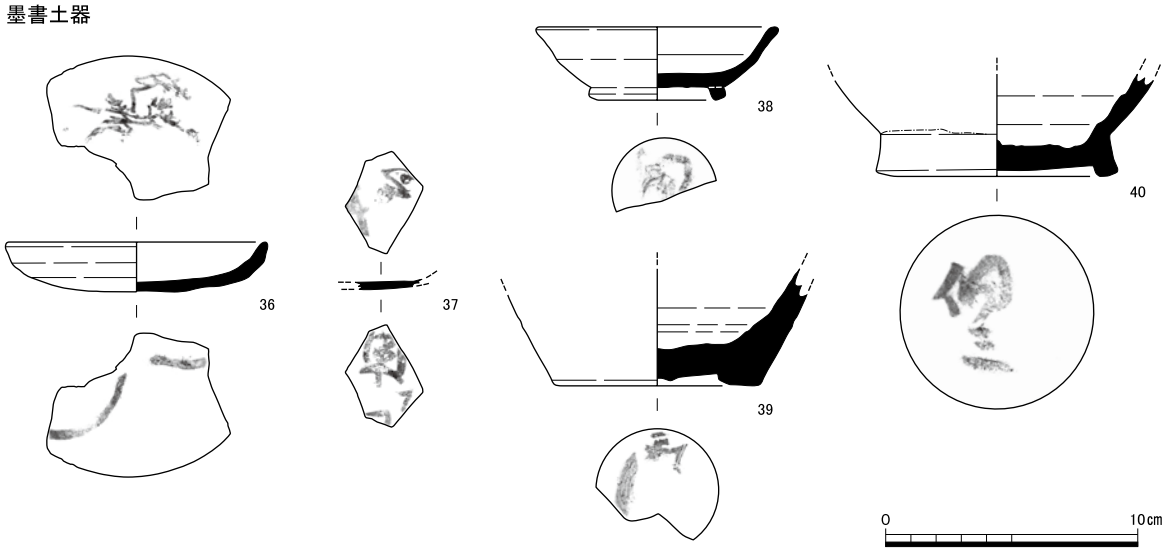
0 5m

3区 東壁断面図、溝3004・3005実測図（1：100）

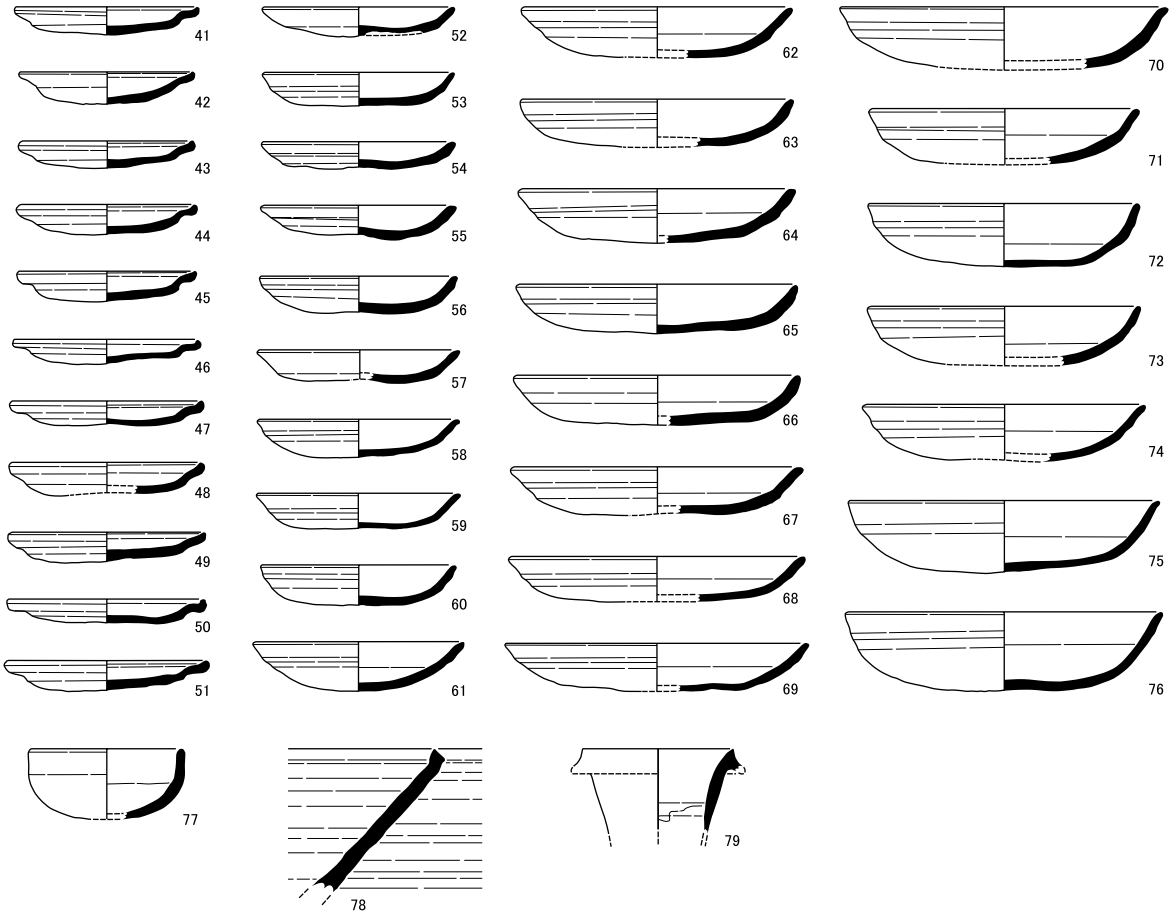

溝2250
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
流路1126
33
34
35
0
20cm

土器実測図１（１：４）

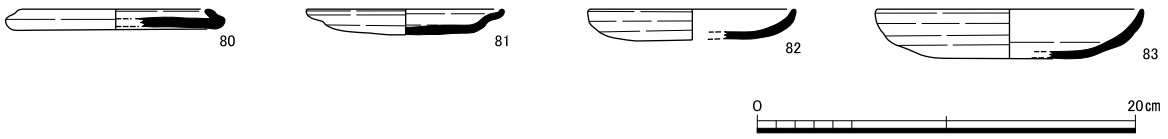
墨書土器



土坑2231

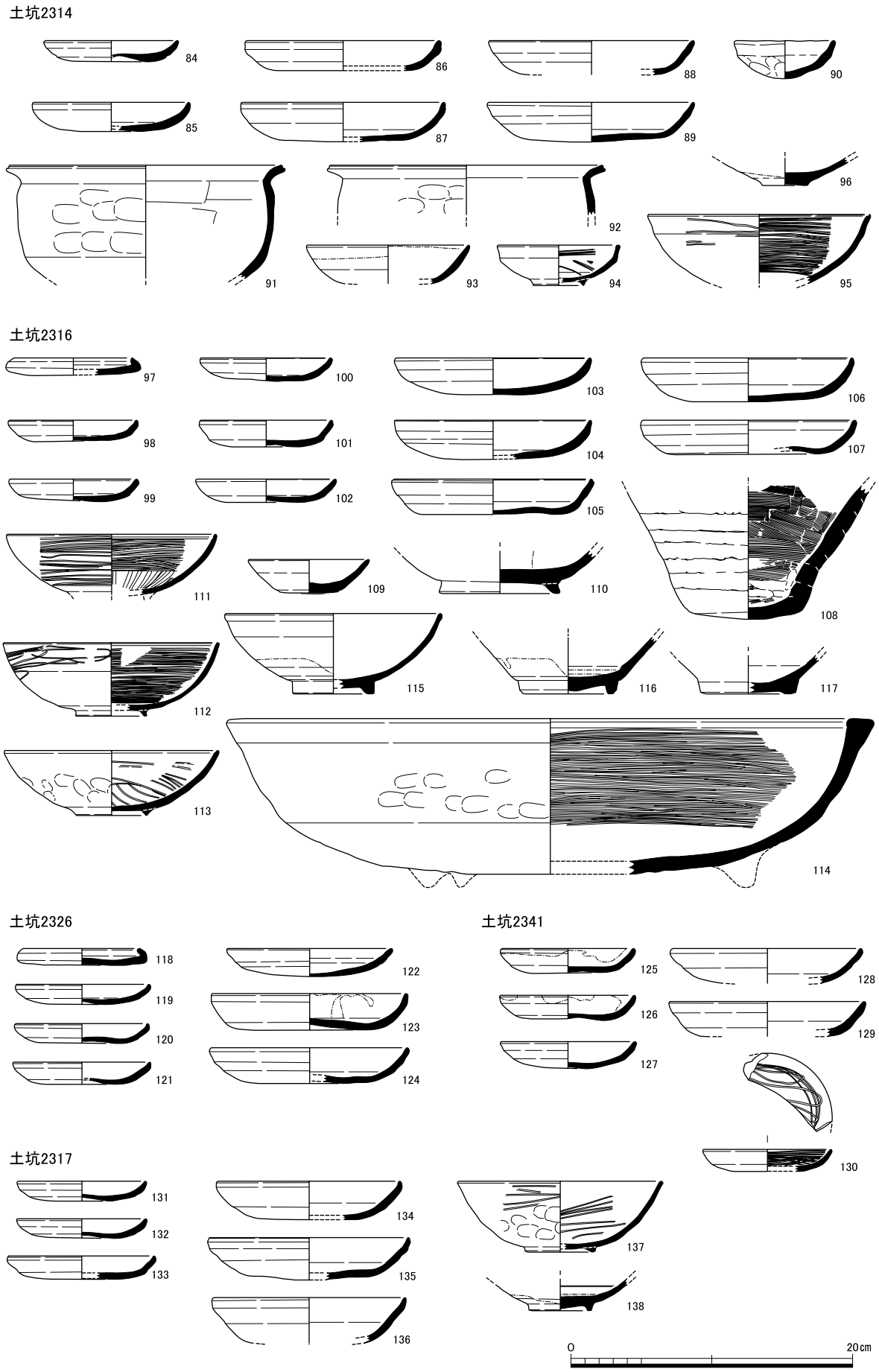


土坑2343



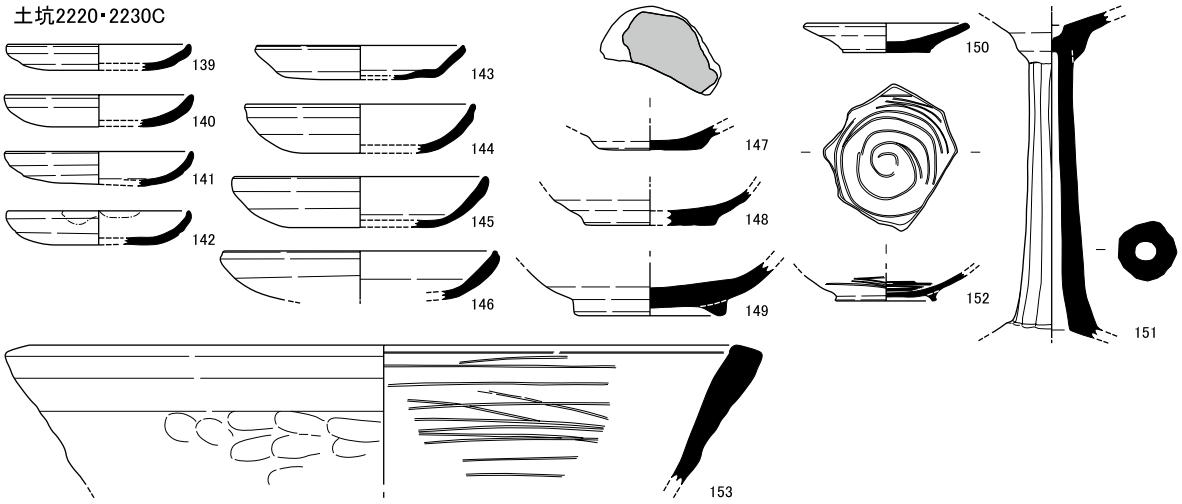
土器実測図２（１：３、１：４）

図版30 遺物

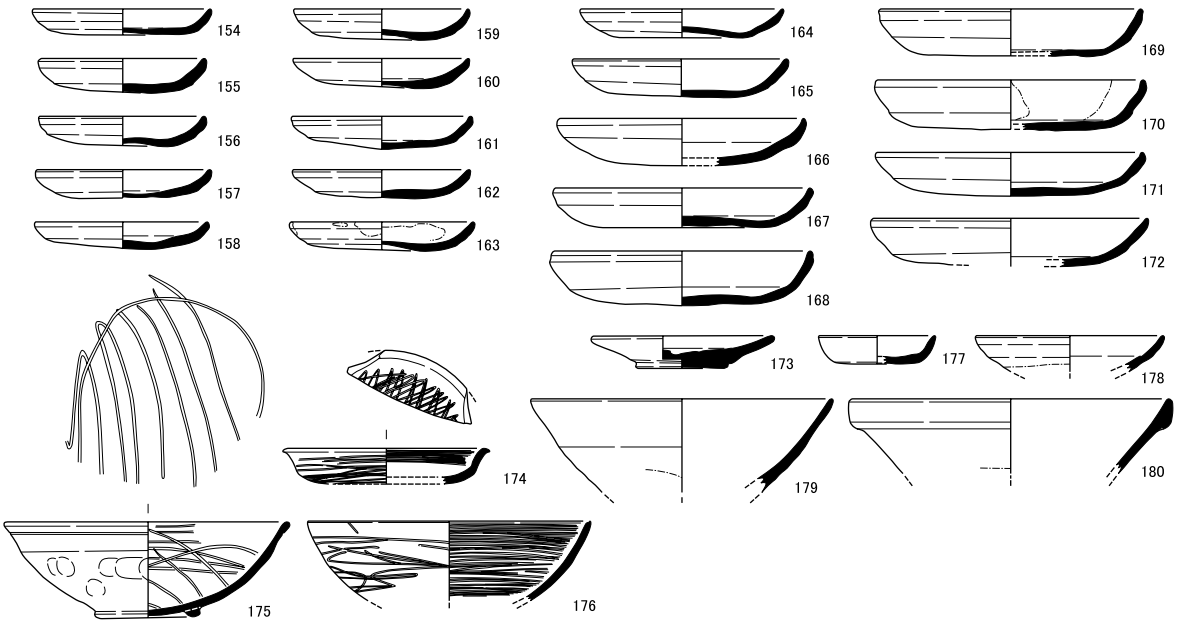


土器実測図３（１：４）

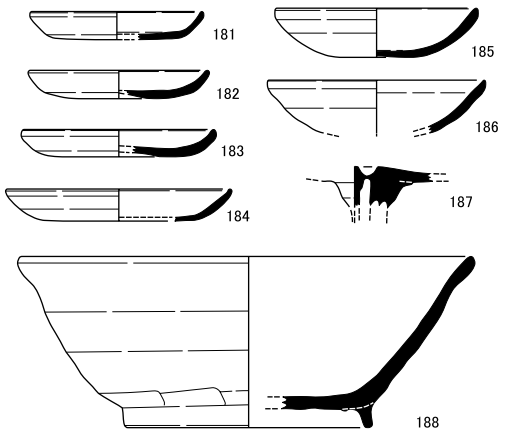
土坑2220・2230C



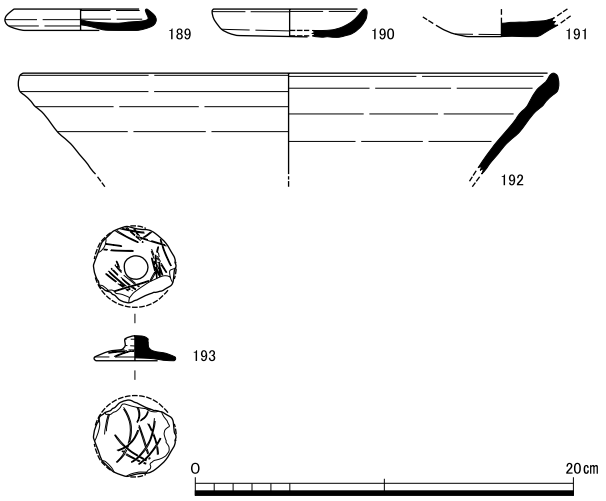
瓦溜2313



溝2230B北護岸

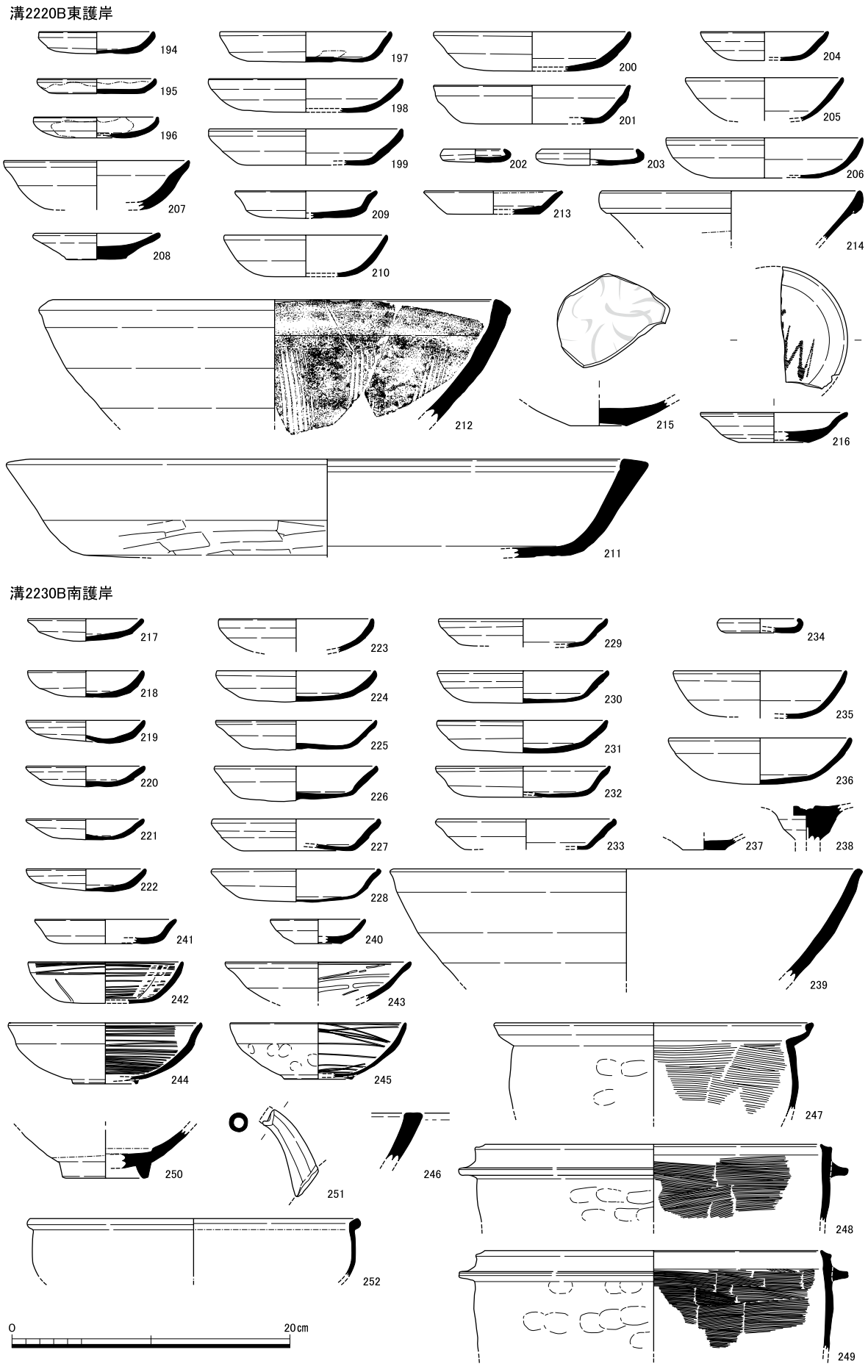


溝2220B西護岸



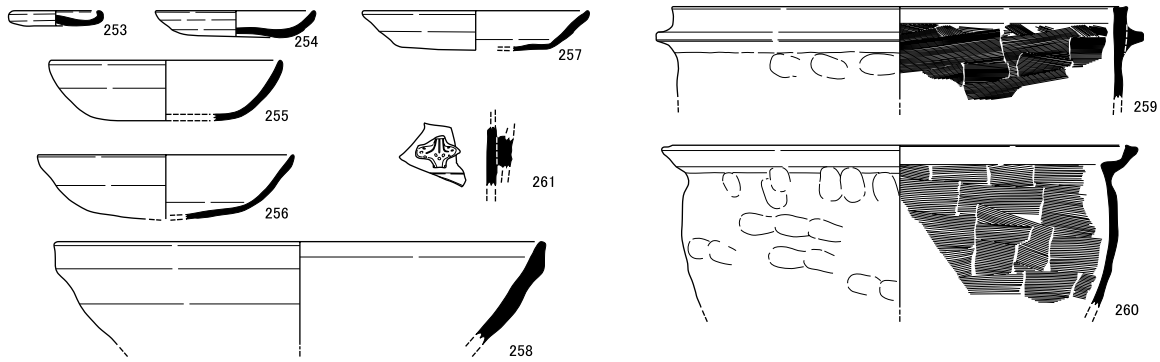
土器実測図４（１：４）

図版32 遺物

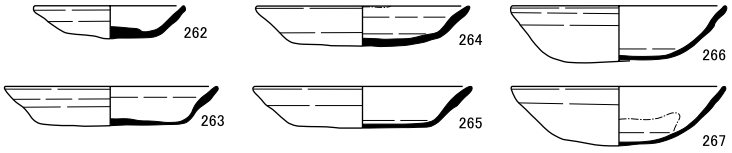


土器実測図５（１：４）

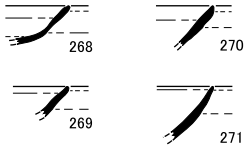
溝2220B東護岸補修



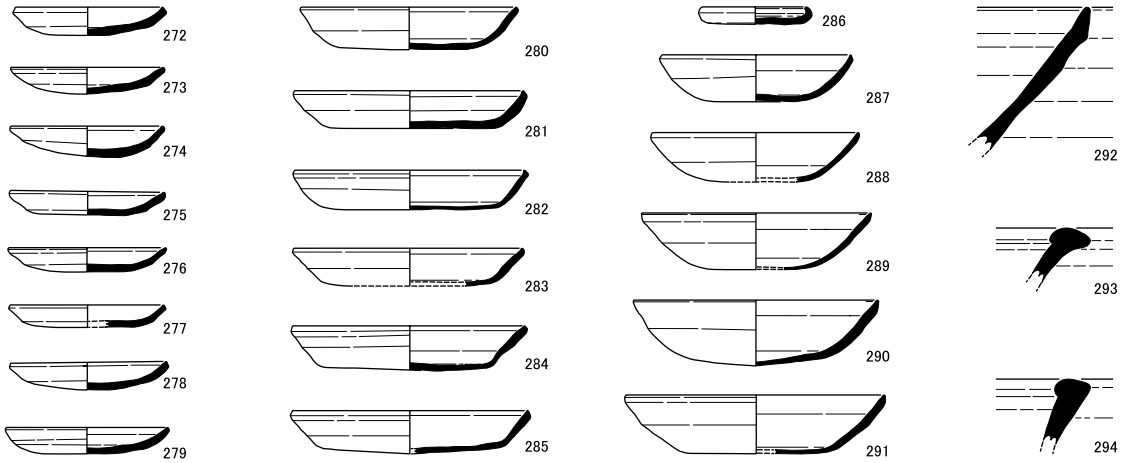
溝2240南護岸



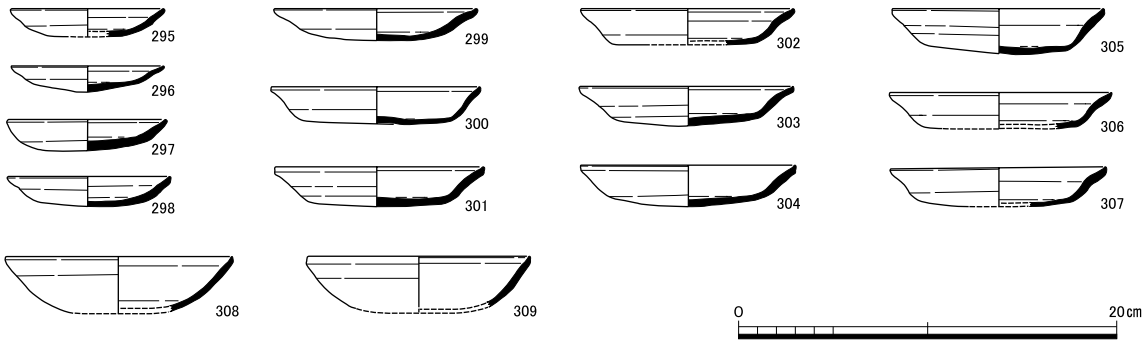
1区整地層



土坑1109



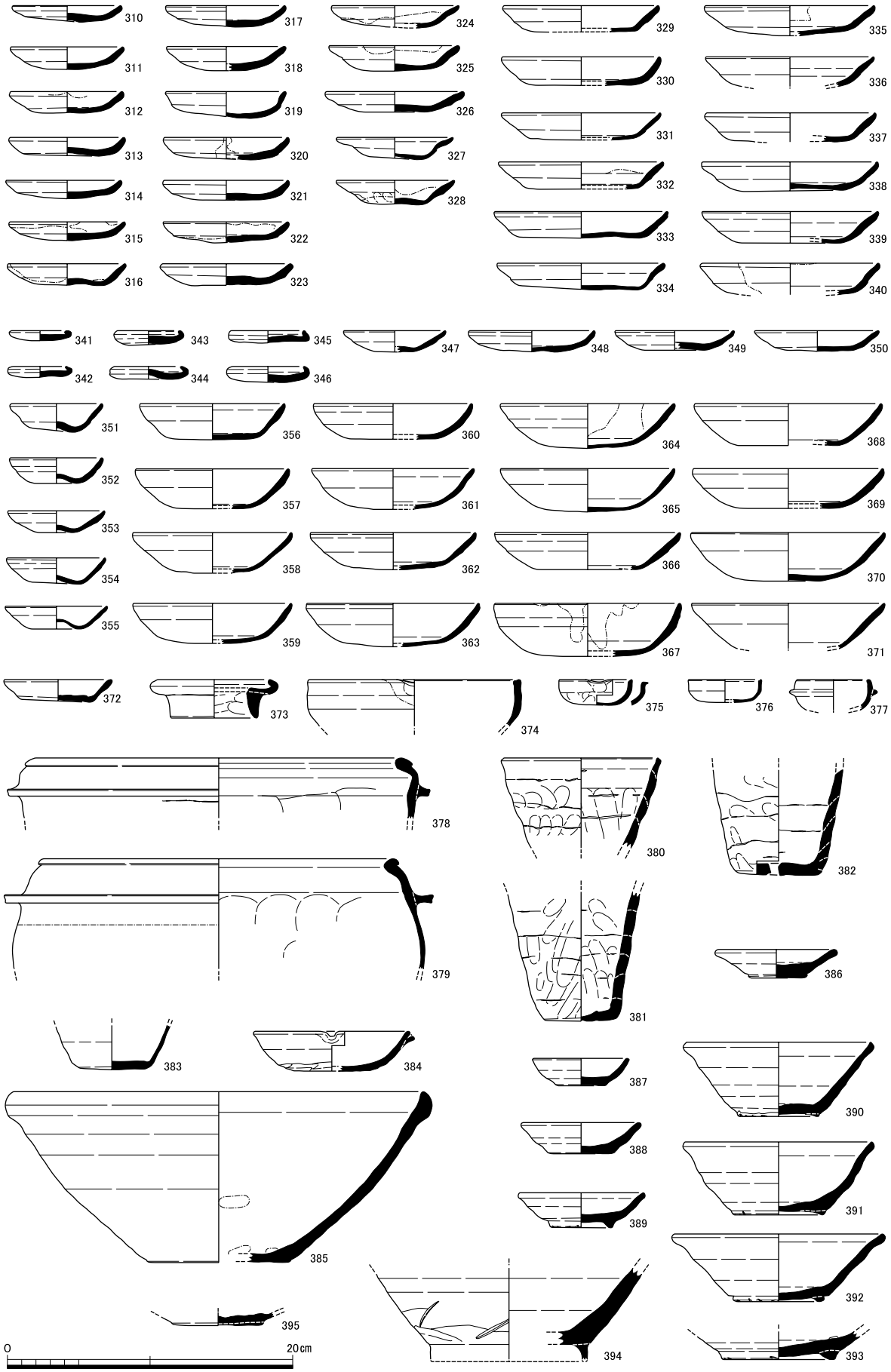
土坑1036



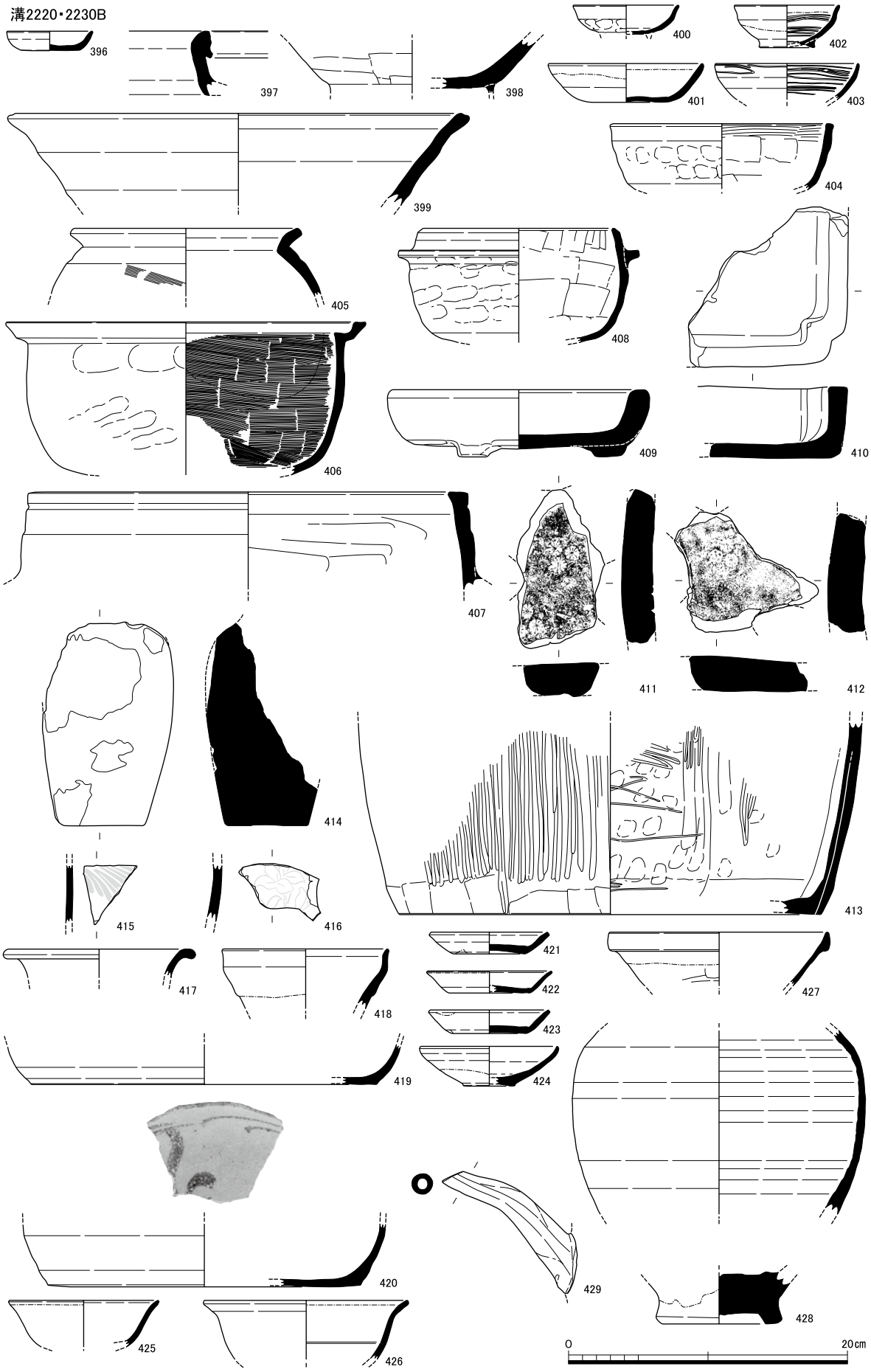
土器実測図６（１：４）

図版34 遺物

溝2220・2230B

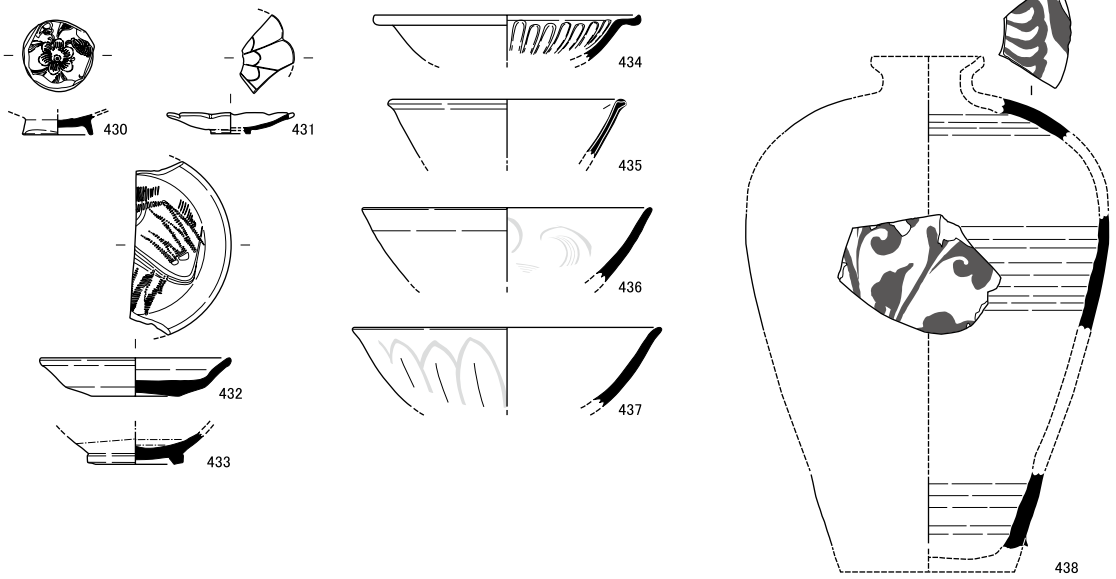


土器実測図７（１：４）

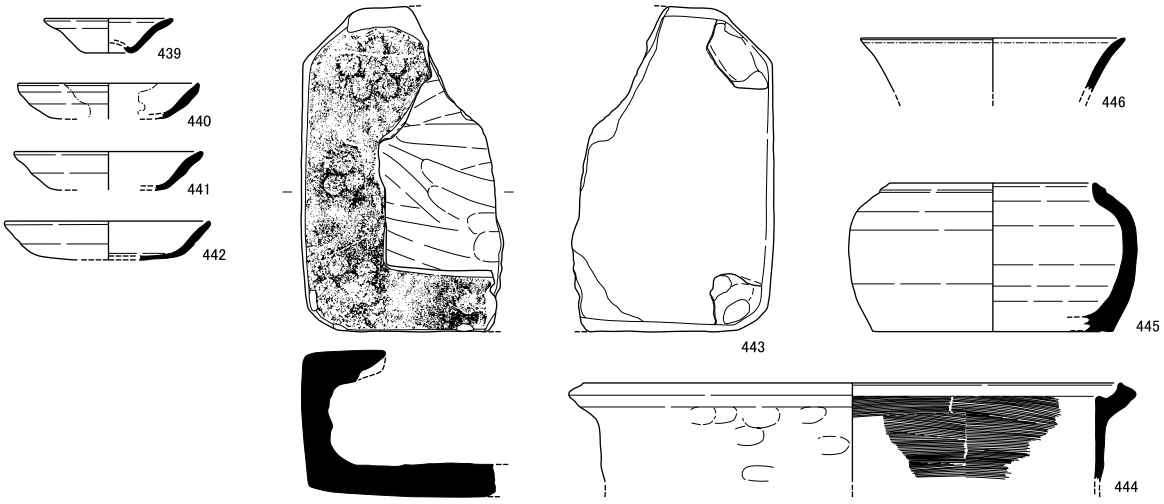

溝2220・2230B
396
397
398
399
400
401
402
403
404
405
406
407
408
409
410
411
412
413
414
415
416
417
418
419
420
421
422
423
424
425
426
427
428
429
0
20cm

土器実測図８（１：４）

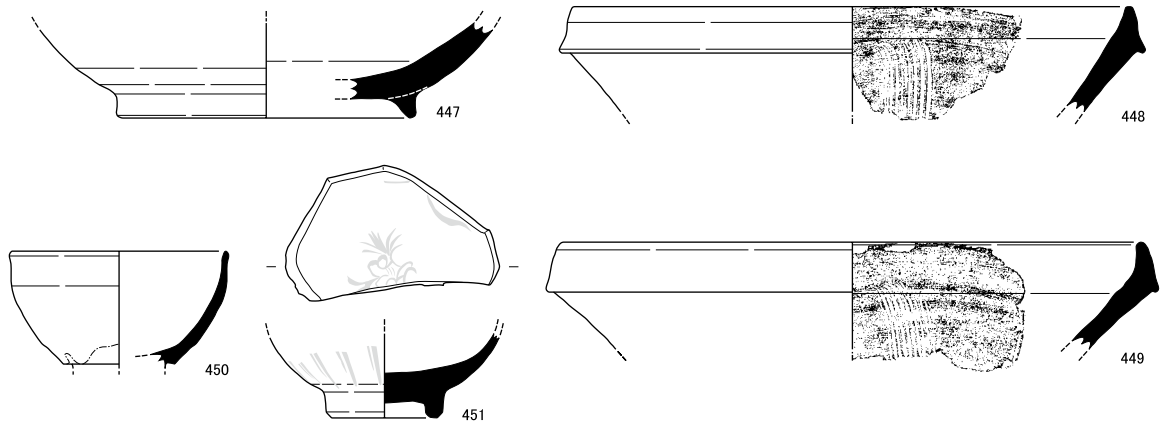
溝2220・2230B



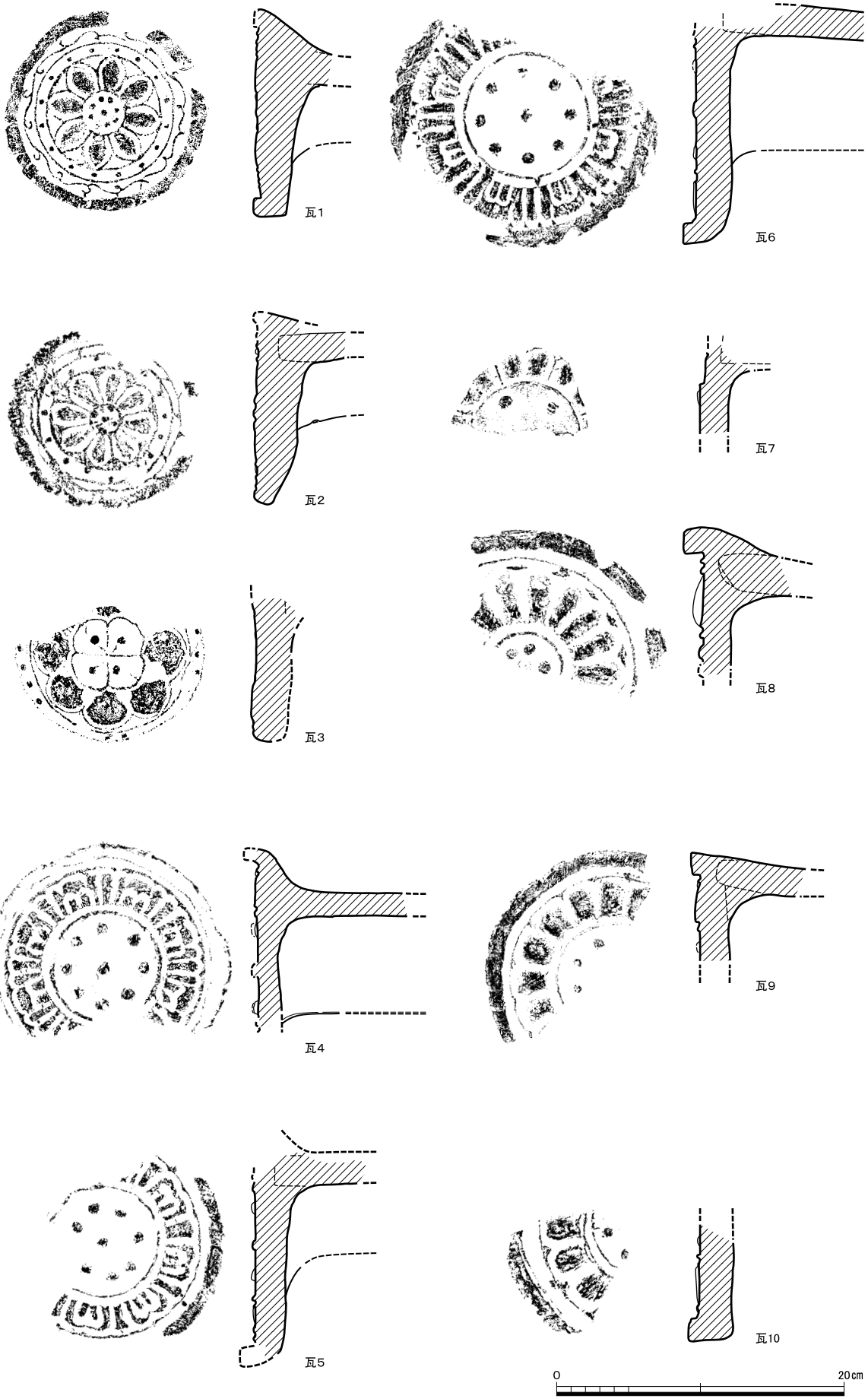
溝2220・2230A



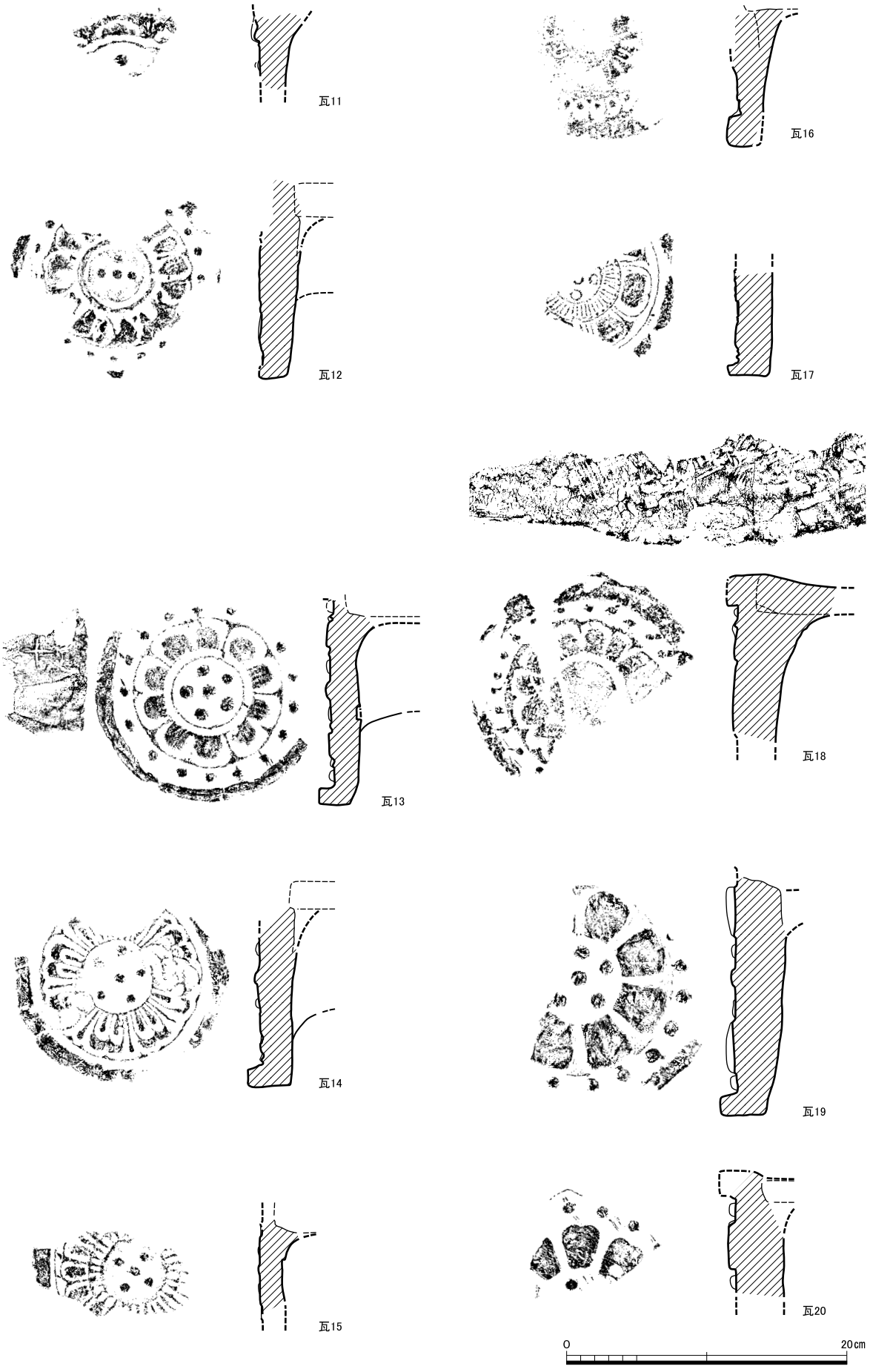
畦2185



土器実測図９（１：４）

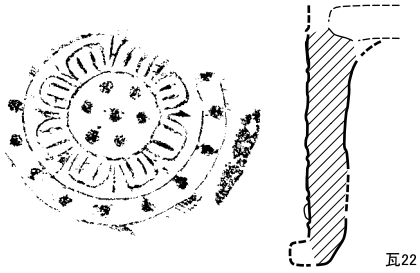


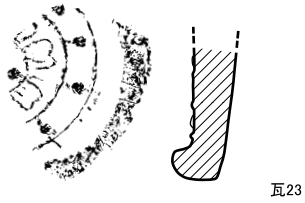
軒丸瓦拓影及び実測図１（１：４）

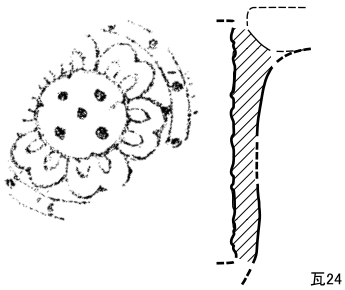


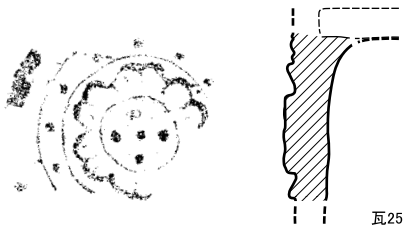
軒丸瓦拓影及び実測図２（１：４）

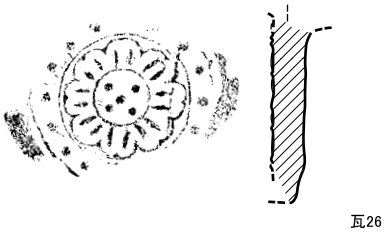
瓦21

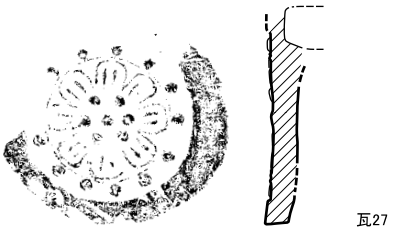

瓦22

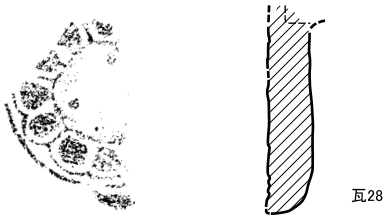

瓦23


瓦24

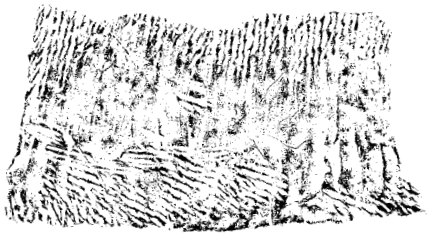

瓦25

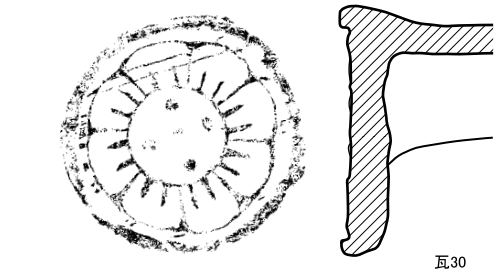

瓦26

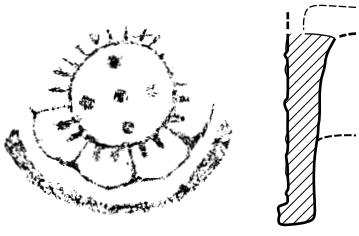

瓦27


瓦28

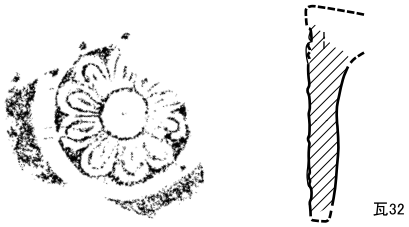
瓦29

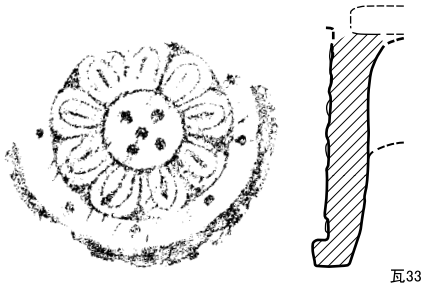



瓦30

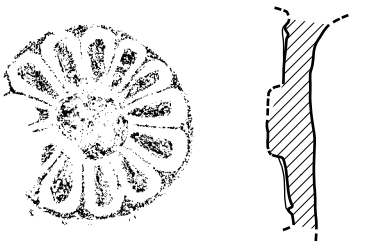

瓦31

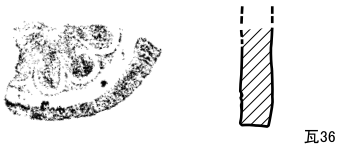
軒丸瓦拓影及び実測図３（１：４）

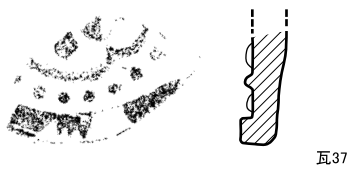

瓦32

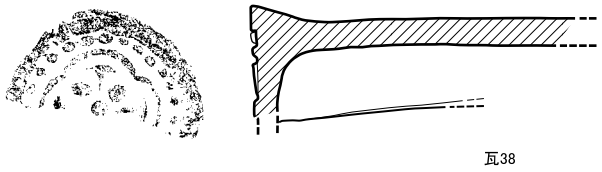

瓦33

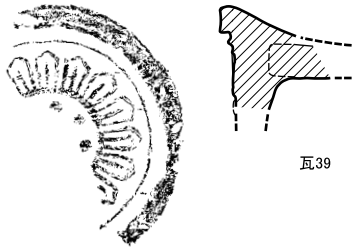
瓦34

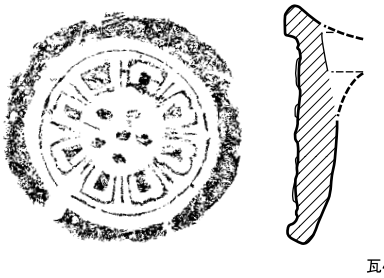

瓦35

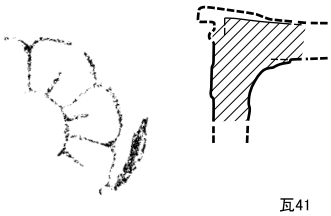

瓦36

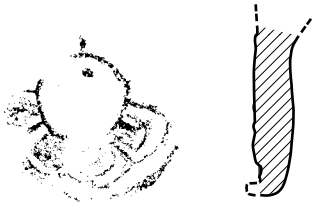

瓦37

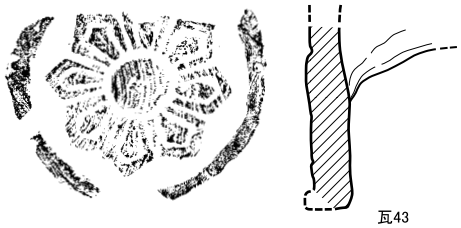

瓦38


瓦39


瓦40


瓦41


瓦42

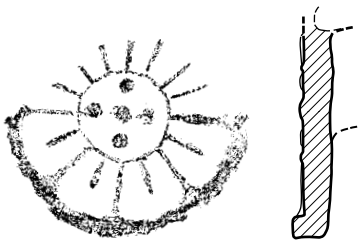

瓦43

軒丸瓦拓影及び実測図４（１：４）

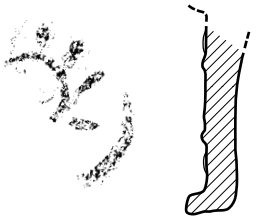
瓦44

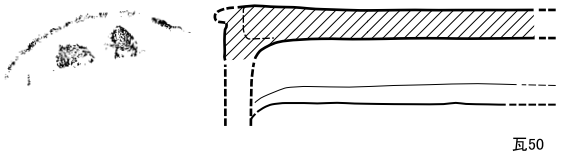
瓦45

瓦46

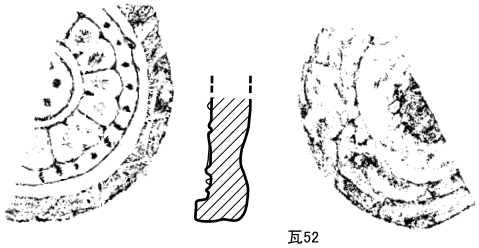

瓦47

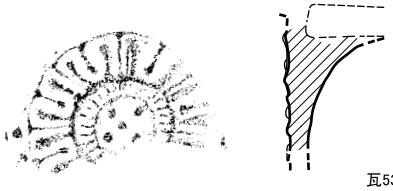
瓦48

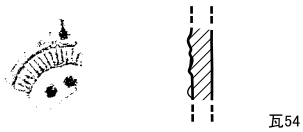

瓦49

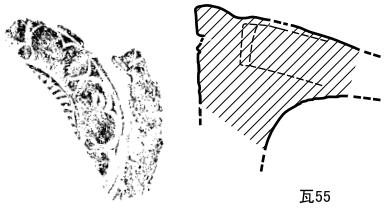

瓦50

瓦51


瓦52


瓦53

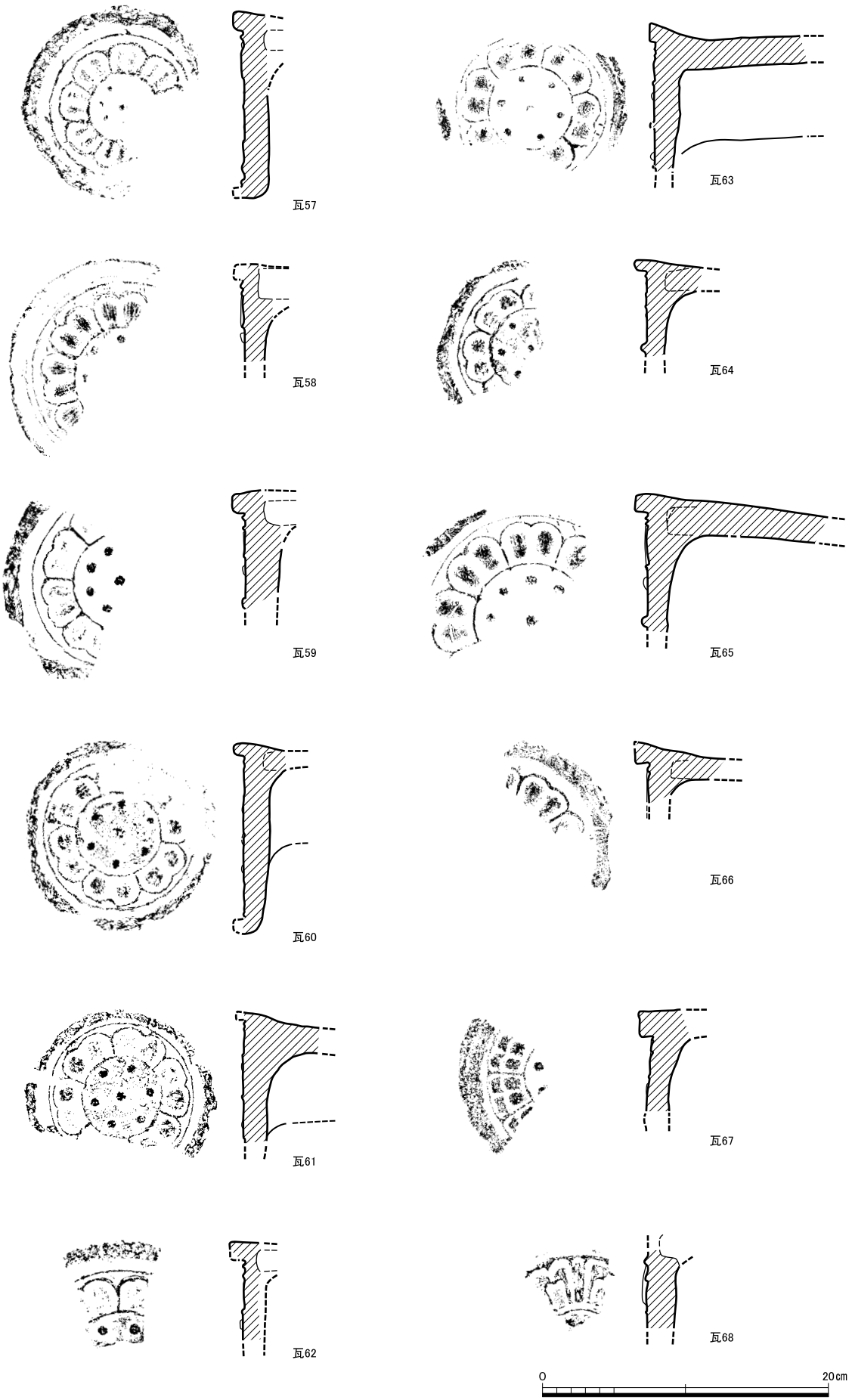

瓦54


瓦55

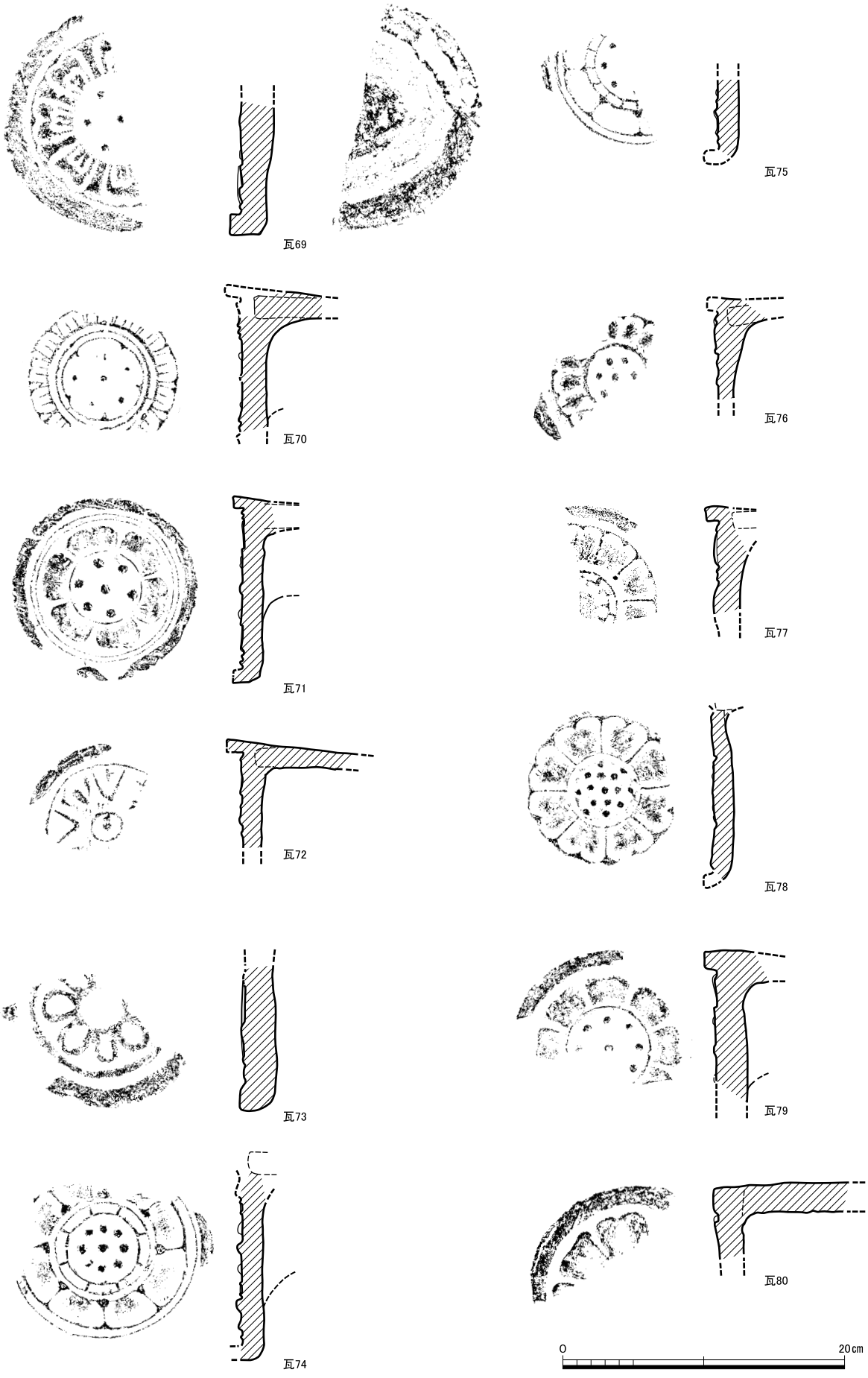
瓦56

軒丸瓦拓影及び実測図５（１：４）

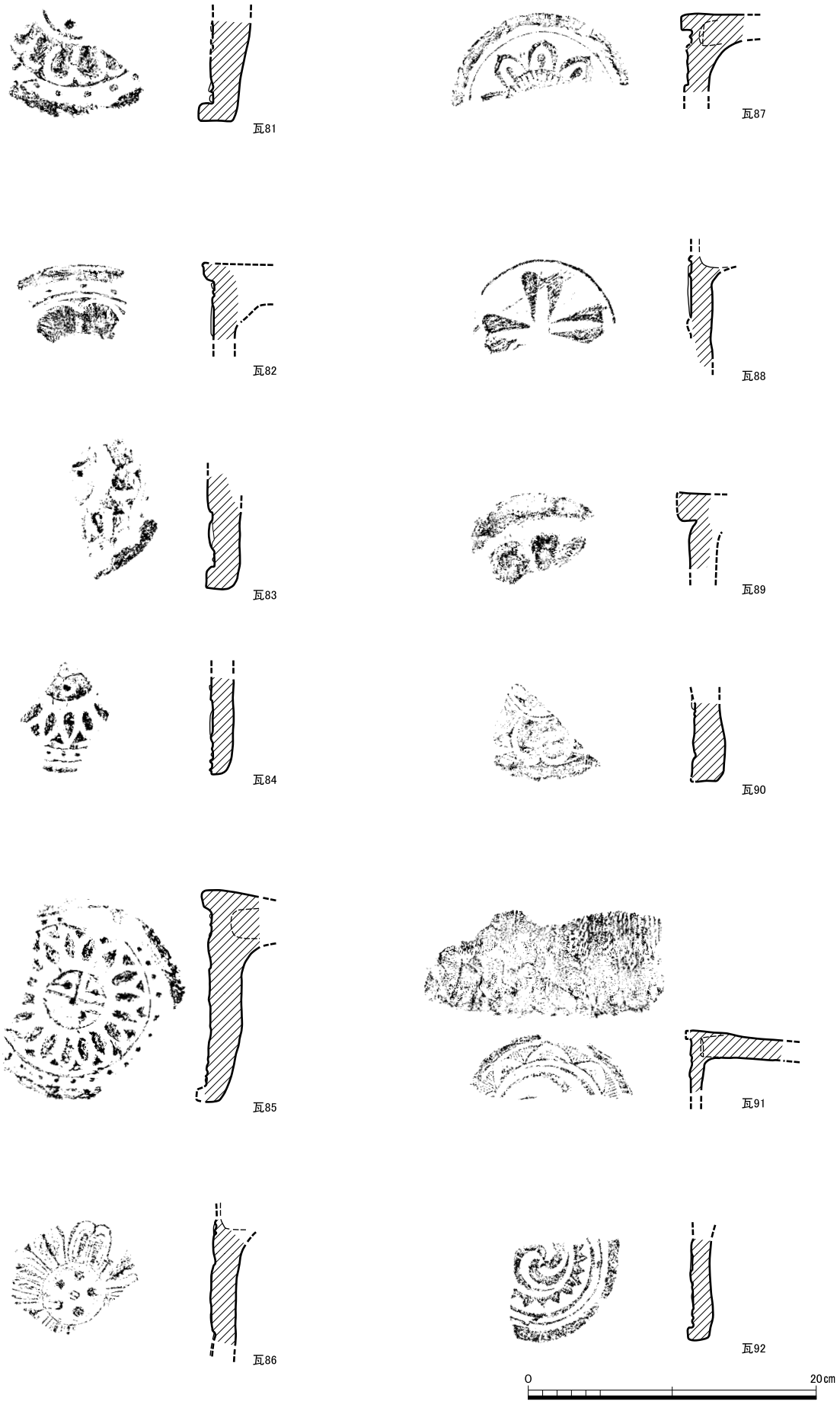
図版42　遺物



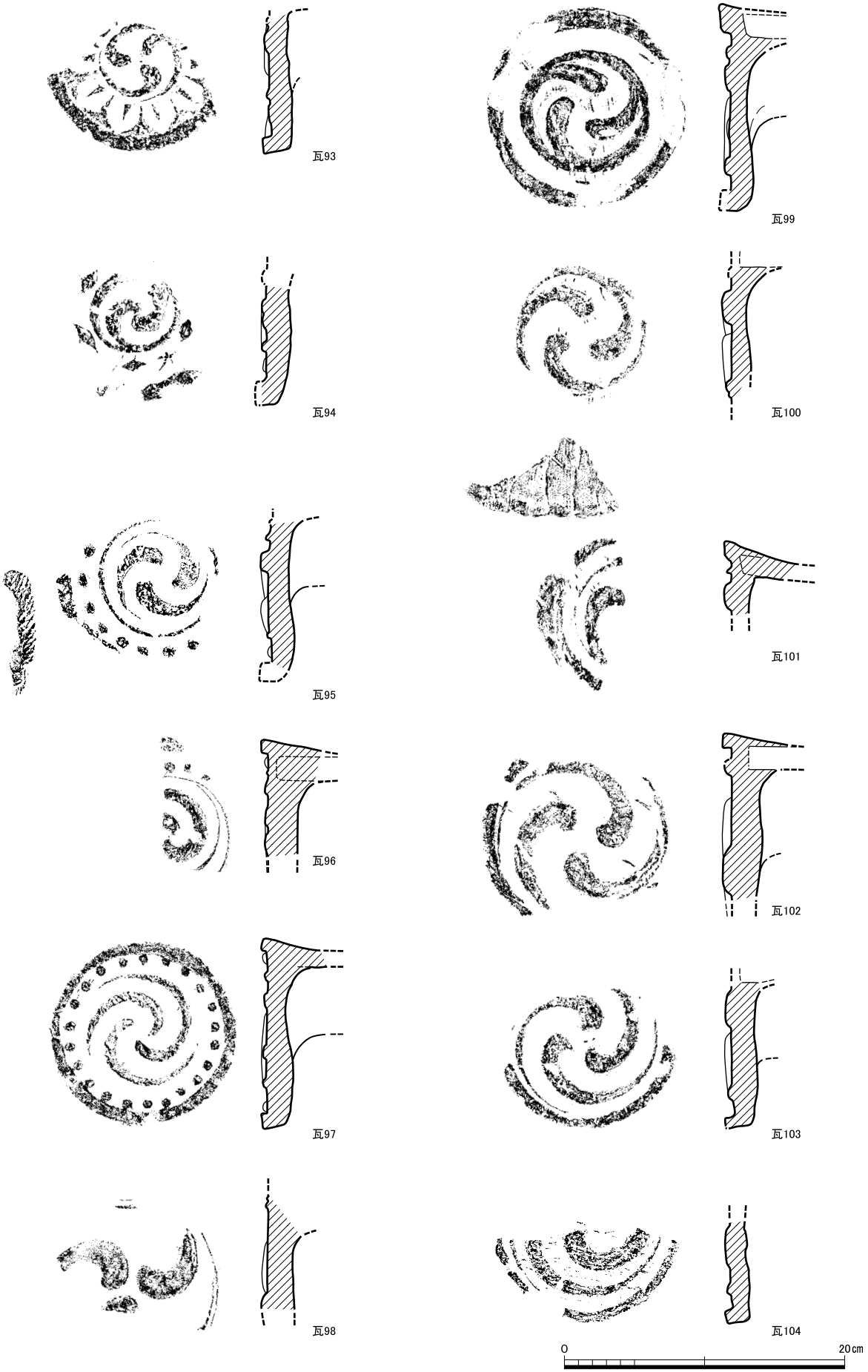
軒丸瓦拓影及び実測図６（１：４）



軒丸瓦拓影及び実測図７（１：４）

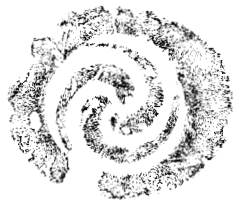


軒丸瓦拓影及び実測図８（１：４）



軒丸瓦拓影及び実測図９（１：４）

瓦105


瓦106

瓦107

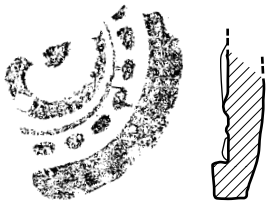
瓦108

瓦109

瓦110

瓦111

瓦112


瓦113

瓦114

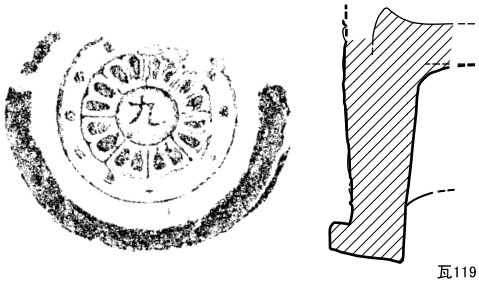
瓦115

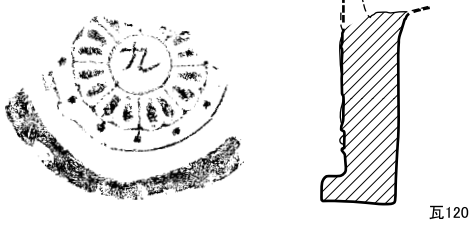
瓦116

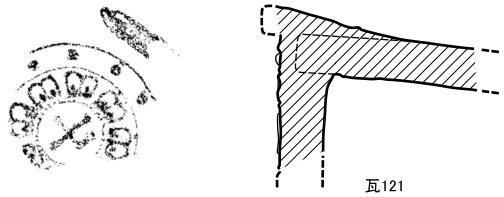
瓦117

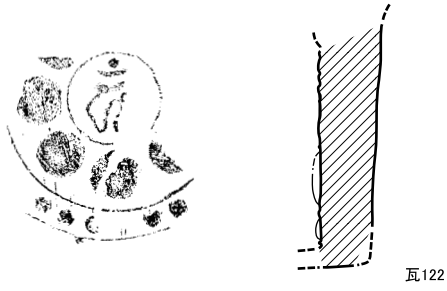
軒丸瓦拓影及び実測図10（１：４）

瓦118

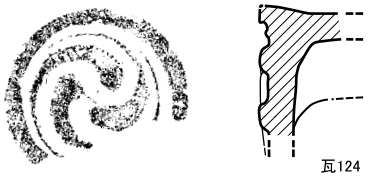

瓦119

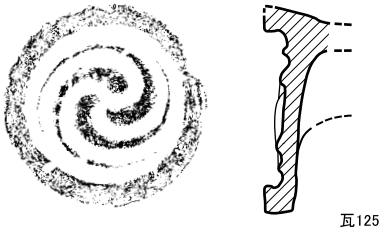

瓦120

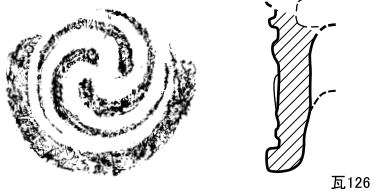

瓦121

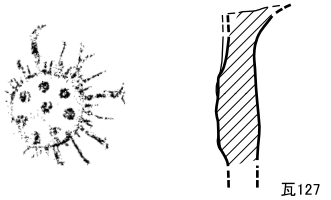

瓦122

瓦123

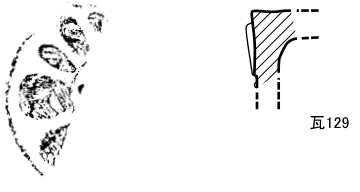

瓦124

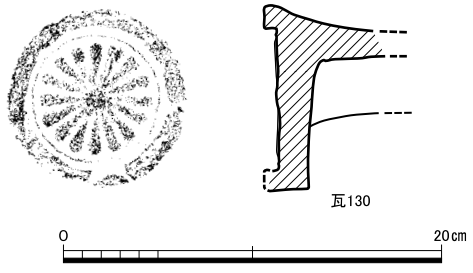

瓦125


瓦126


瓦127

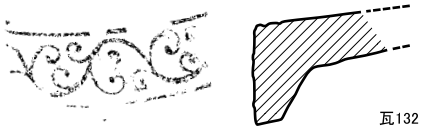
瓦128

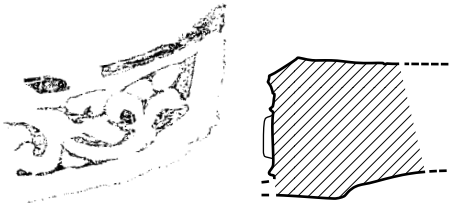

瓦129

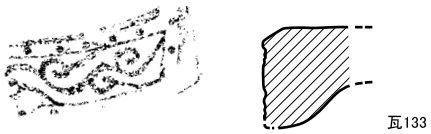

瓦130

軒丸瓦拓影及び実測図11（１：４）

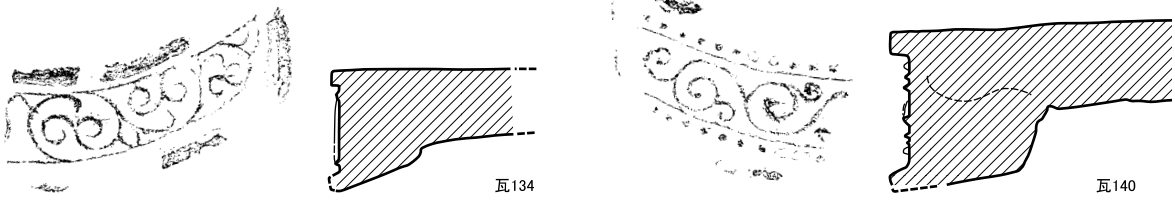
瓦131

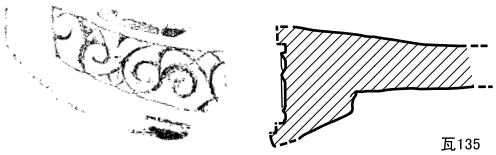

瓦132


瓦138

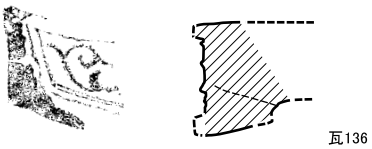

瓦133

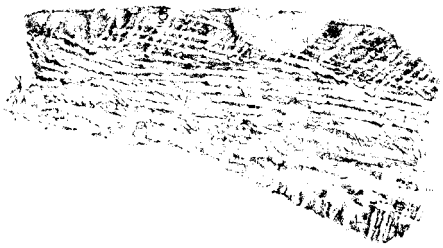
瓦139

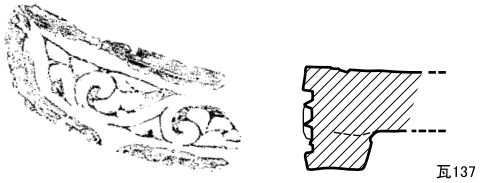

瓦134　瓦140

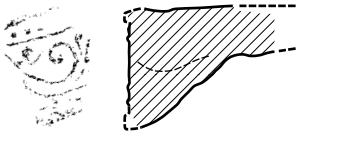

瓦135

瓦141

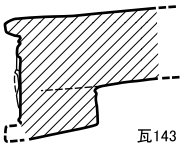

瓦136

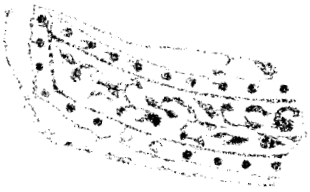
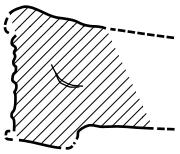


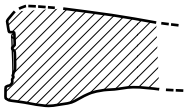

瓦137

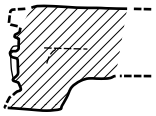

瓦142

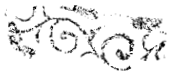
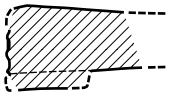
軒平瓦拓影及び実測図１（１：４）

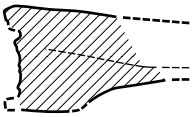

瓦143

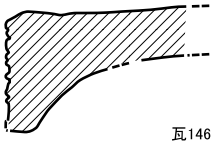


瓦149

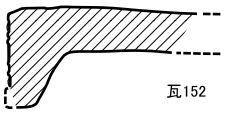

瓦144

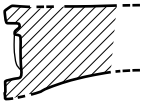

瓦150

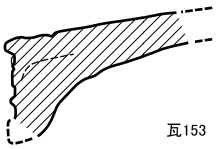


瓦145

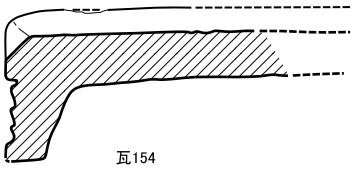

瓦151

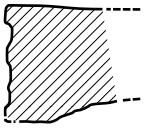

瓦146


瓦152

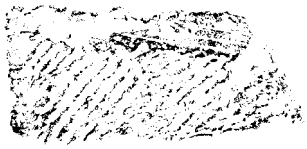

瓦147


瓦153

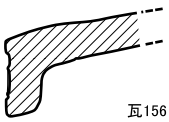

瓦154


瓦148

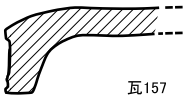
瓦155

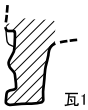


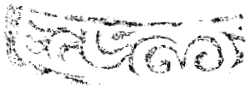
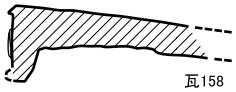
軒平瓦拓影及び実測図２（１：４）


瓦156

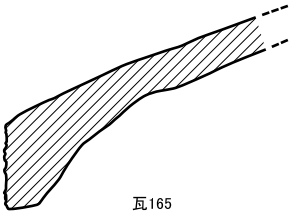
瓦162

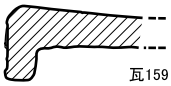

瓦157

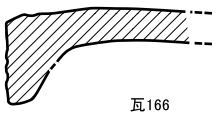

瓦163

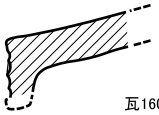


瓦158

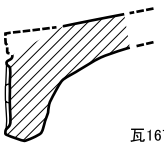
瓦164

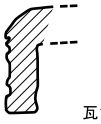

瓦165

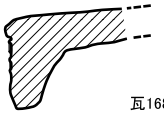

瓦159


瓦166

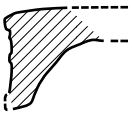

瓦160

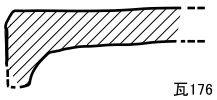

瓦167

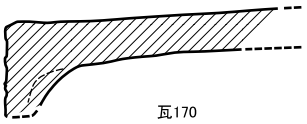

瓦161

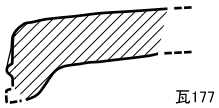

瓦168

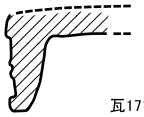
軒平瓦拓影及び実測図３（１：４）


瓦169

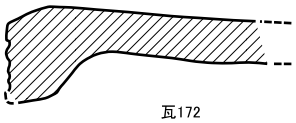

瓦176

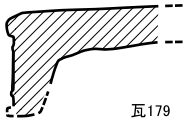

瓦170

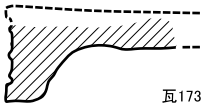

瓦177


瓦171

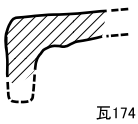
瓦178

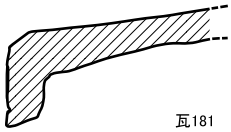

瓦172

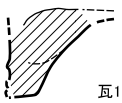

瓦179

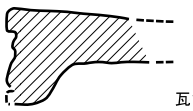

瓦173

瓦180

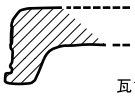

瓦174

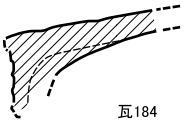

瓦181


瓦175


瓦182

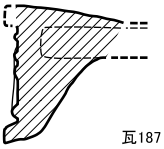
軒平瓦拓影及び実測図４（１：４）

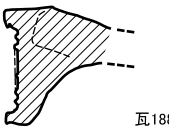

瓦183

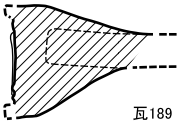

瓦184

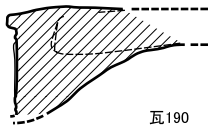
瓦185

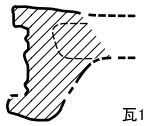
瓦186

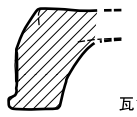

瓦187

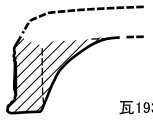

瓦188


瓦189

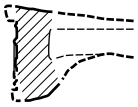

瓦190

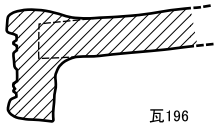

瓦191


瓦192

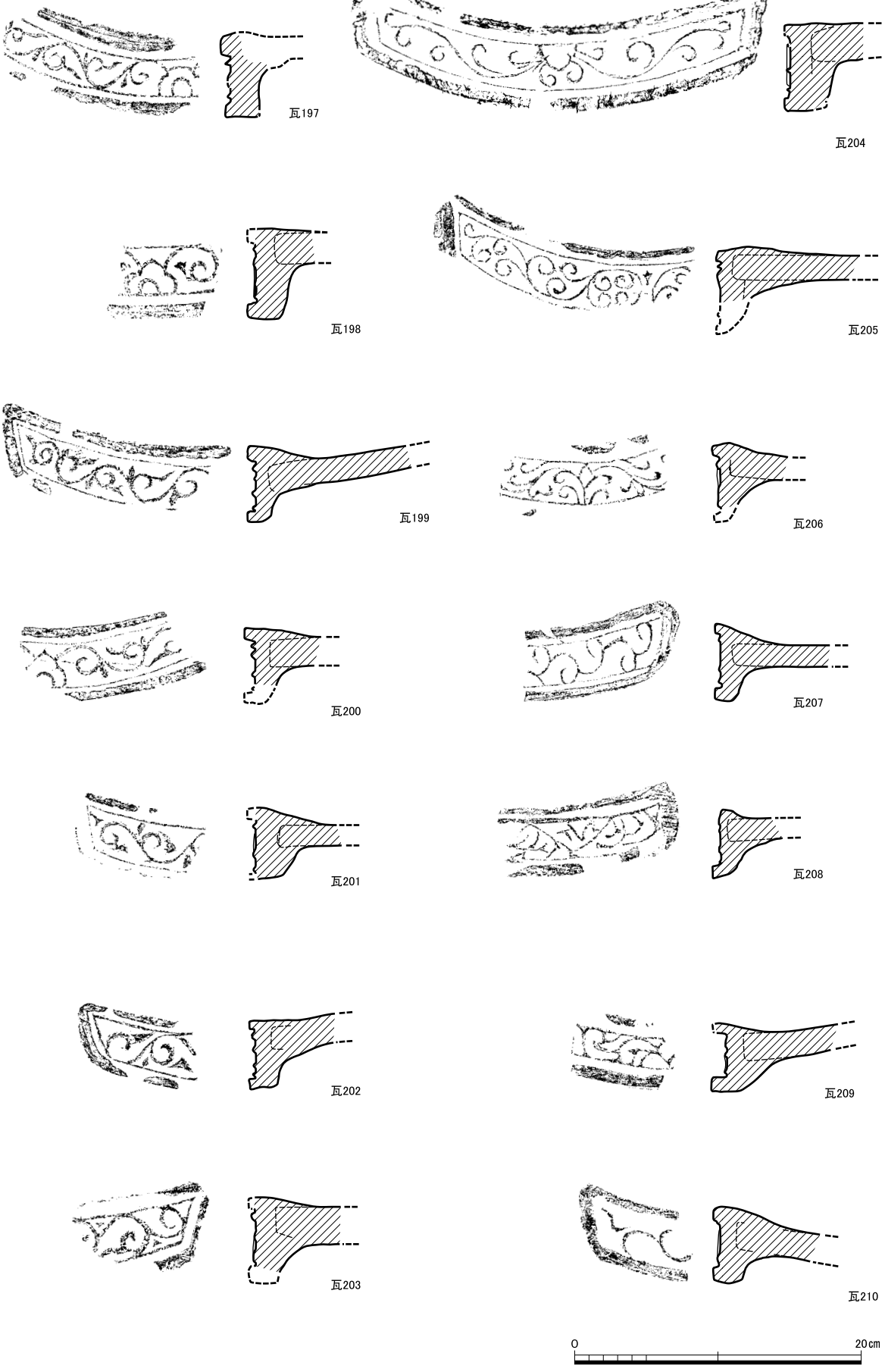

瓦193

瓦194

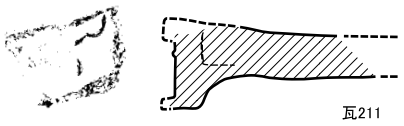

瓦195

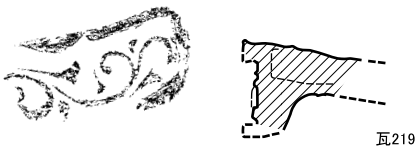

瓦196

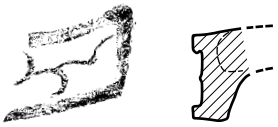
軒平瓦拓影及び実測図５（１：４）

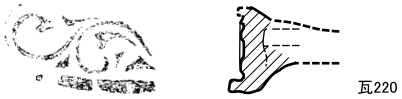


軒平瓦拓影及び実測図６（１：４）

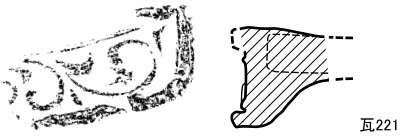

瓦211


瓦219


瓦212

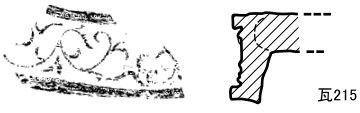

瓦220

瓦213


瓦221

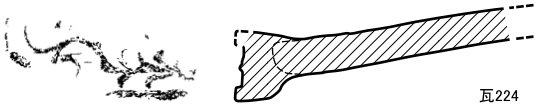
瓦214

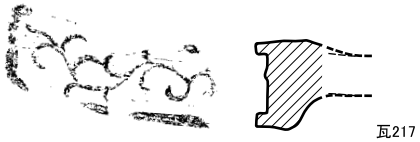
瓦222

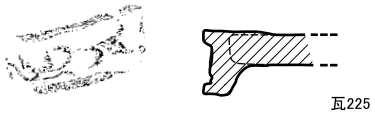

瓦215

瓦223

瓦216


瓦224


瓦217

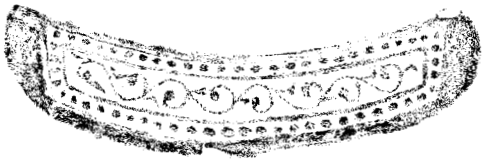
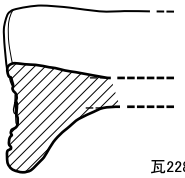

瓦225

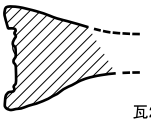
瓦218

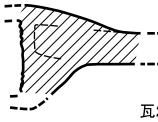
瓦226

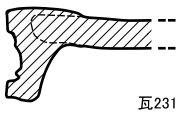
軒平瓦拓影及び実測図７（１：４）

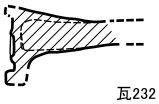
瓦227

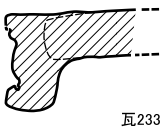


瓦228

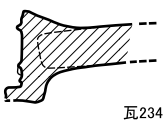

瓦229

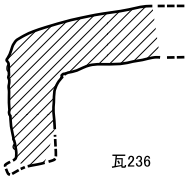

瓦230


瓦231

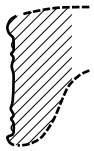

瓦232

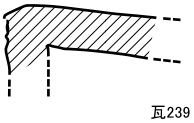

瓦233

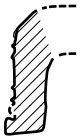

瓦234


瓦236

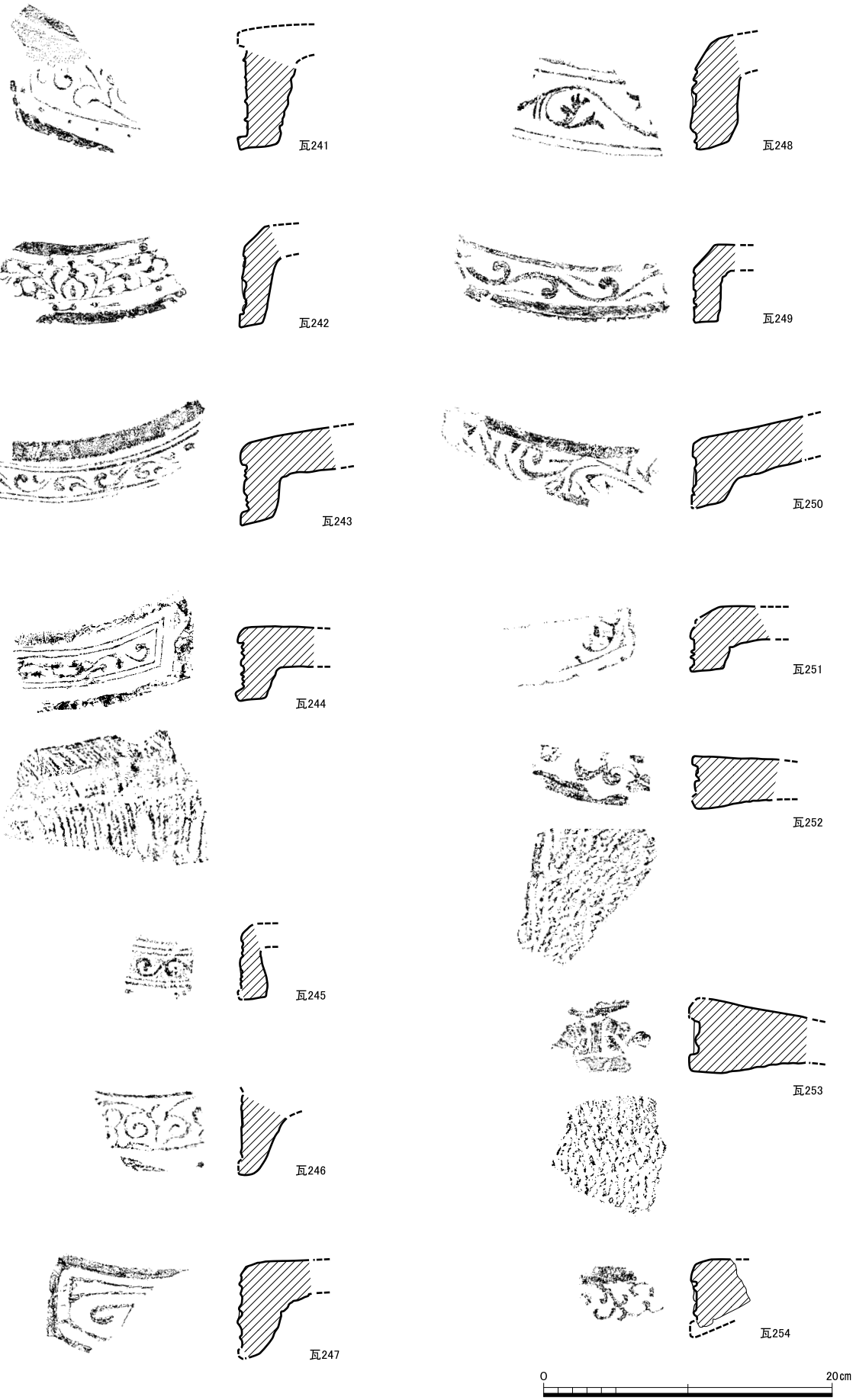
瓦237


瓦238


瓦239

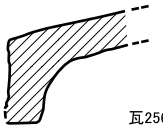

瓦240

軒平瓦拓影及び実測図８（１：４）

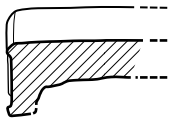


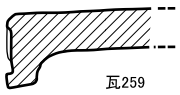
軒平瓦拓影及び実測図９（１：４）

瓦255

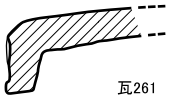

瓦256

瓦257

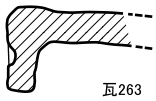

瓦258


瓦259

瓦260


瓦261

瓦262


瓦263

瓦264

瓦265

瓦266

瓦267

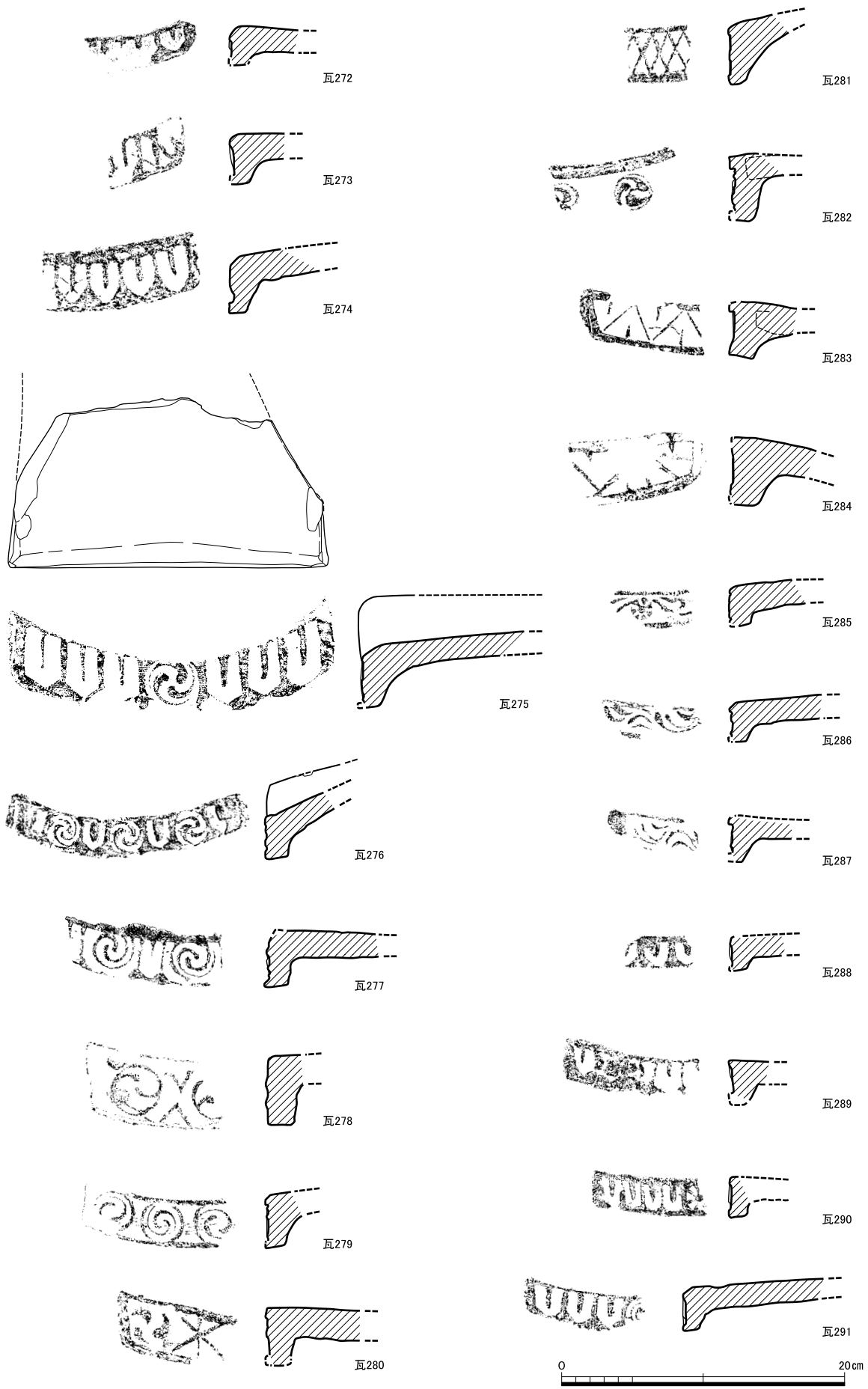
瓦268

瓦269

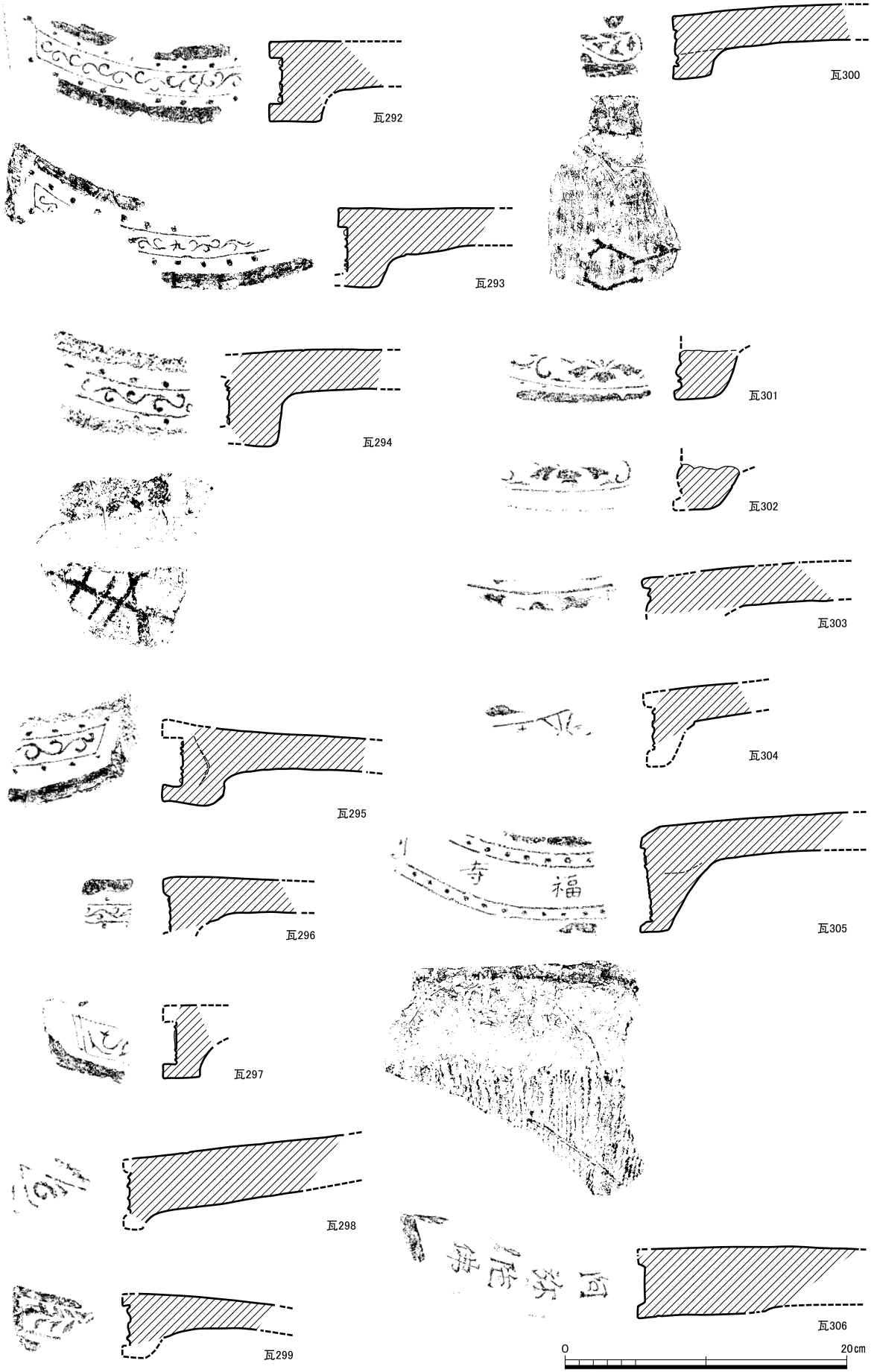
瓦270

瓦271

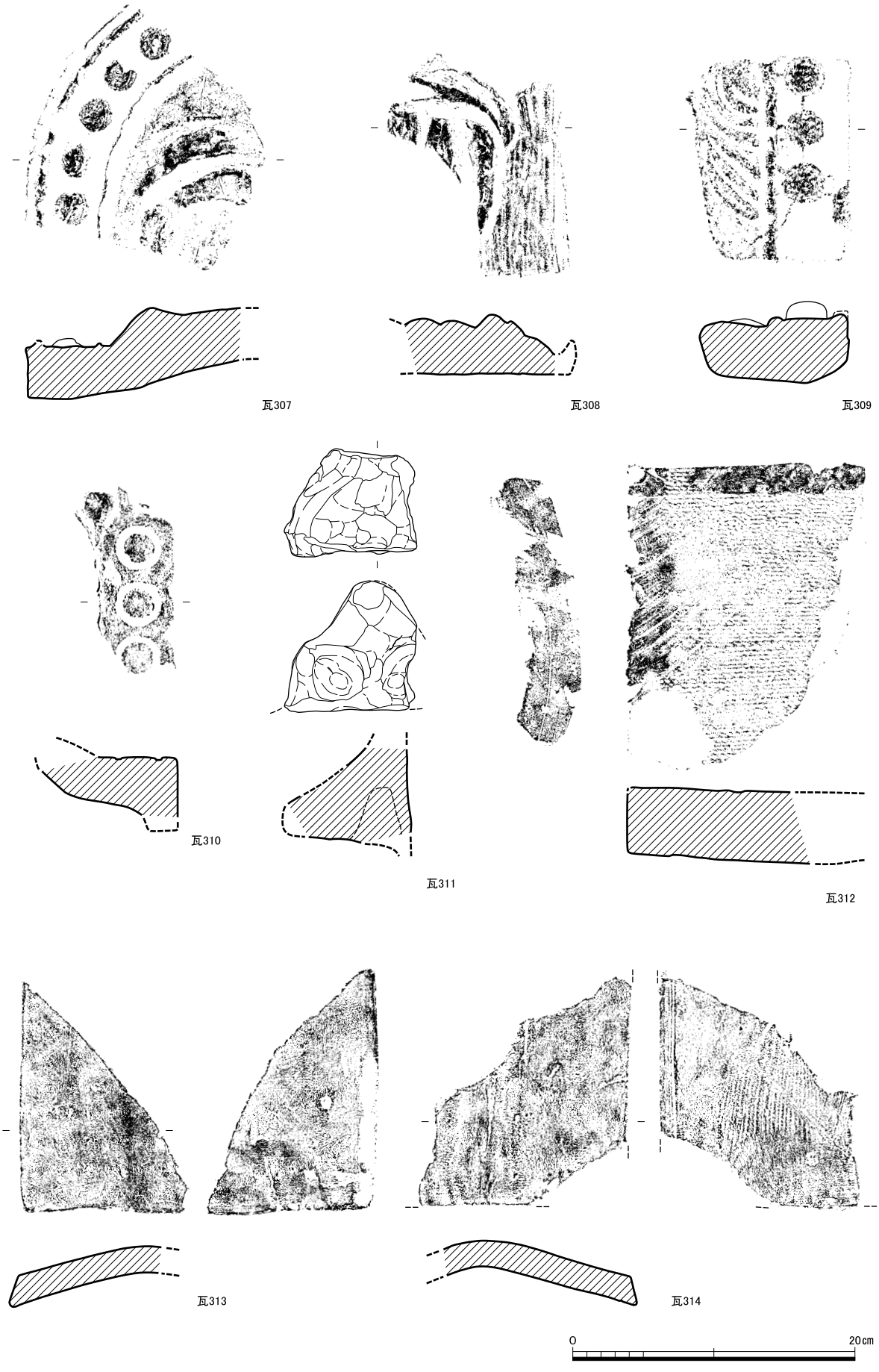
軒平瓦拓影及び実測図10（１：４）



軒平瓦拓影及び実測図11（１：４）



軒平瓦拓影及び実測図12（１：４）

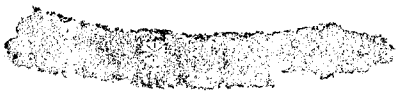


鬼瓦、道具瓦拓影及び実測図（１：４）

瓦315

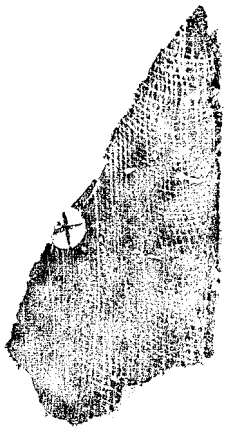
瓦316

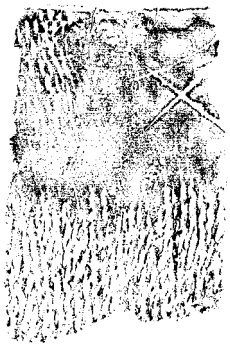
瓦317

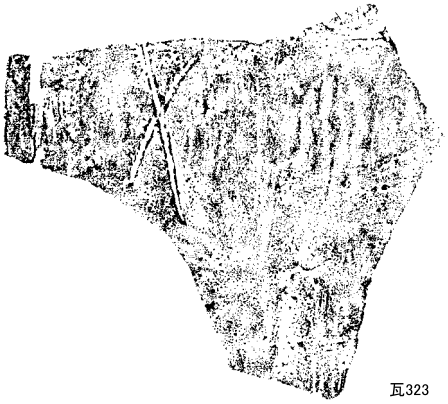

瓦318

瓦319

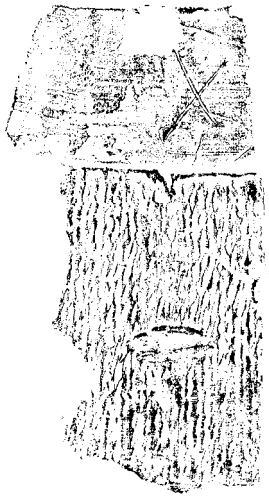
瓦320


瓦321

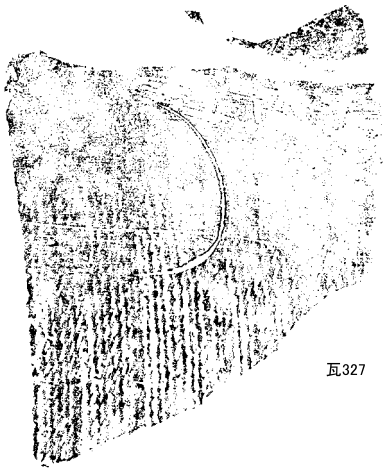

瓦322


瓦323

瓦324

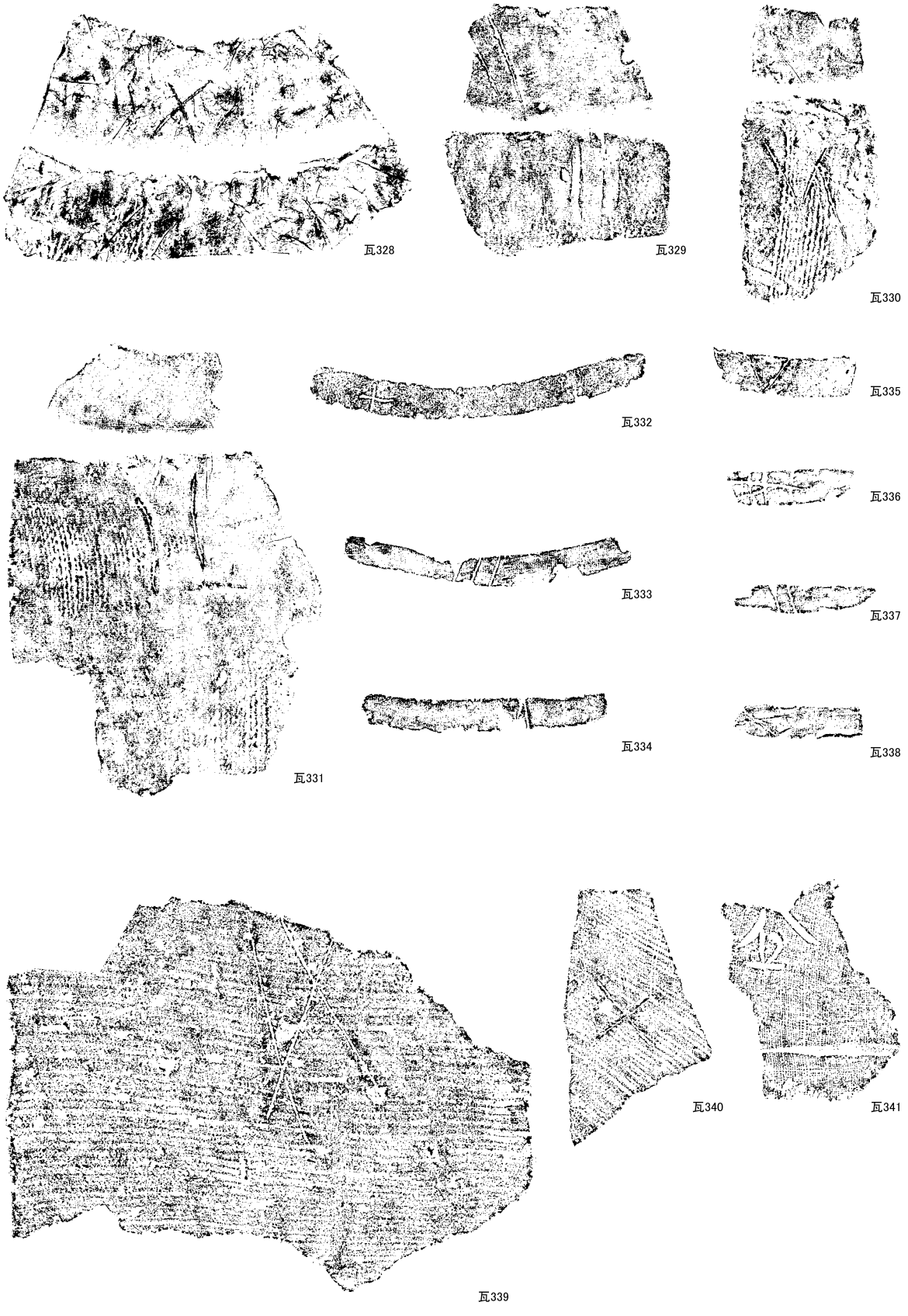

瓦325

瓦326

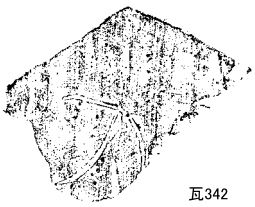

瓦327

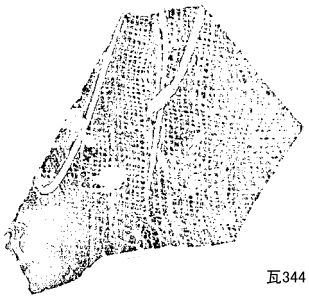
刻印押捺瓦拓影、ヘラ記号瓦拓影１（１：４）

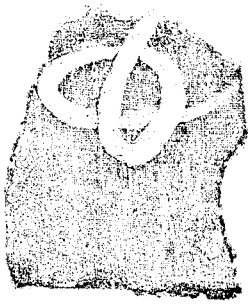
図版62　遺物

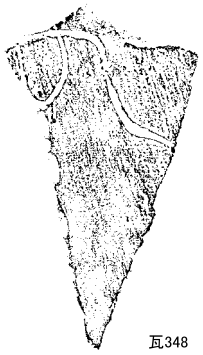


ヘラ記号瓦拓影２（１：４）

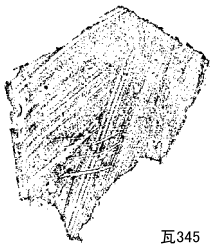

瓦342

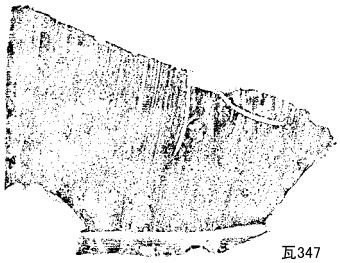

瓦344


瓦346

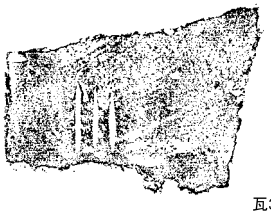

瓦348

瓦343


瓦345

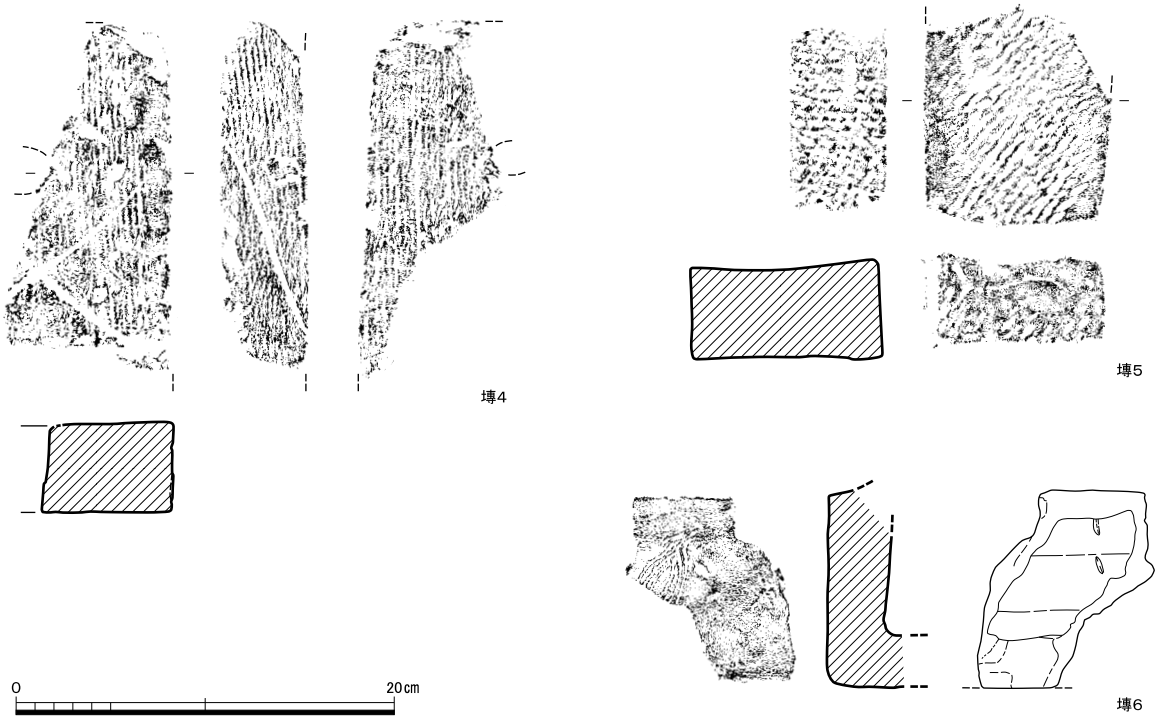

瓦347

瓦349

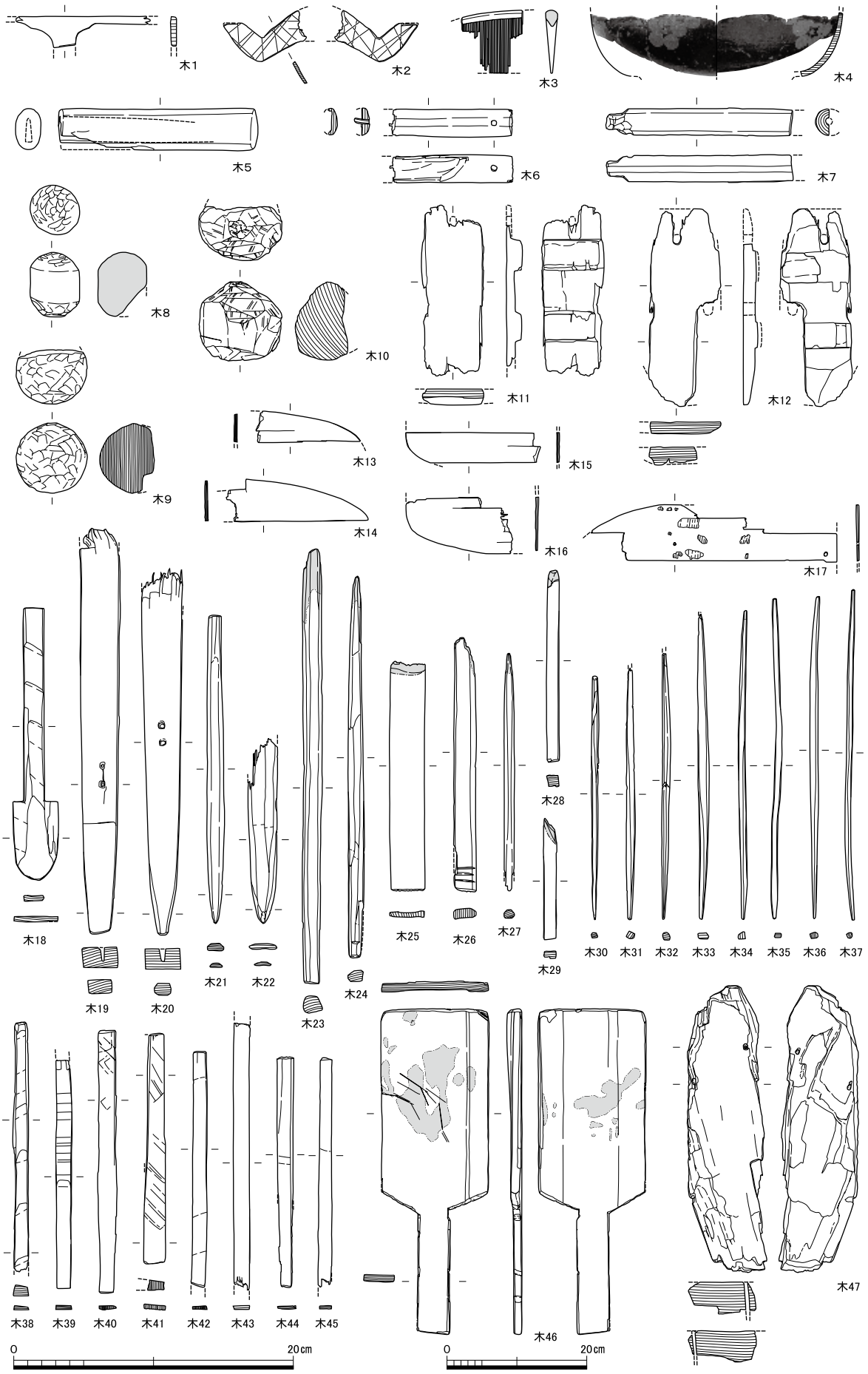

瓦350

瓦351

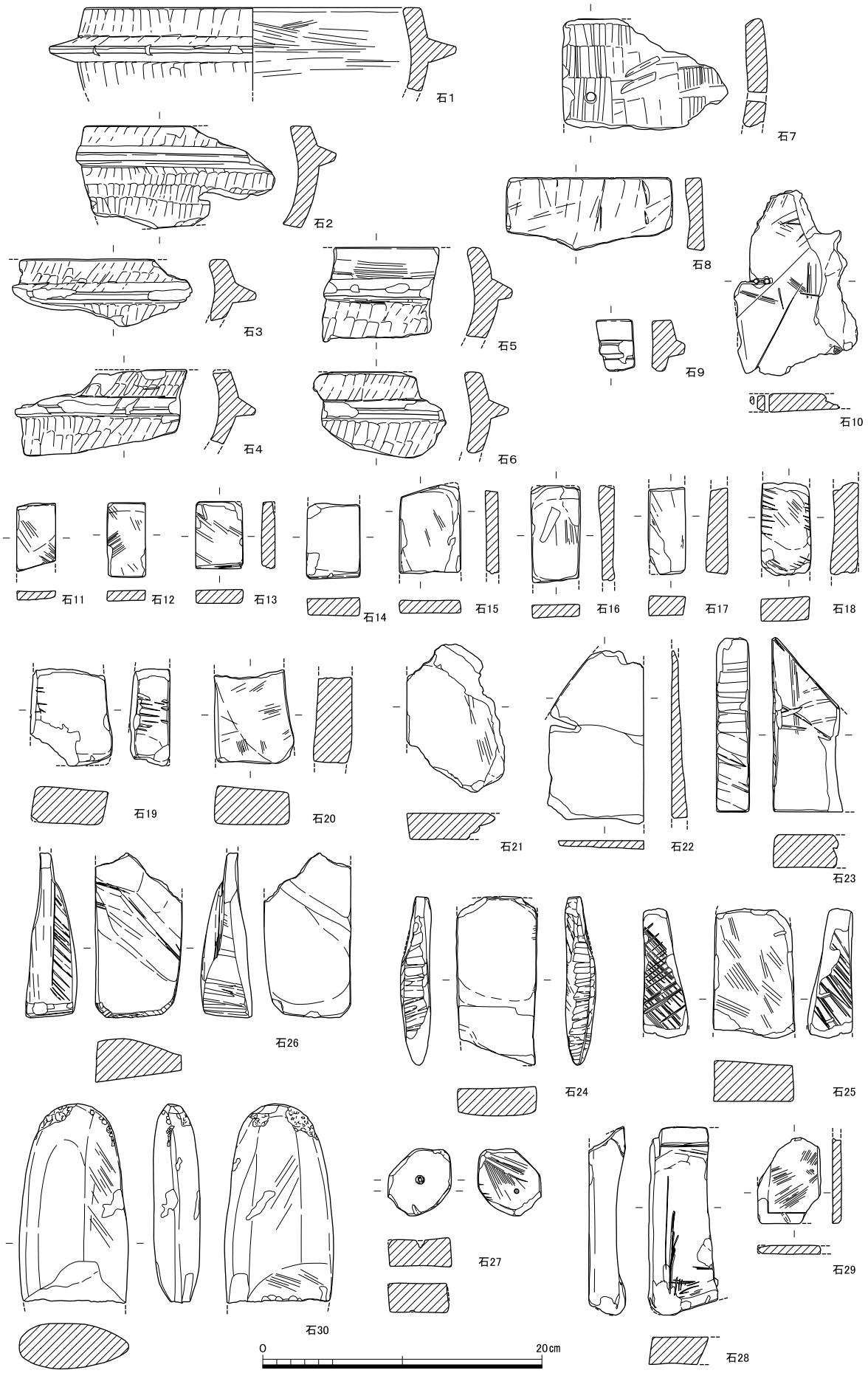
ヘラ記号瓦拓影３（１：４）



塼拓影及び実測図（１：４）



木製品実測図１（１：４、木46のみ１：８）


石1
石2
石3
石4
石5
石6
石7
石8
石9
石10
石11
石12
石13
石14
石15
石16
石17
石18
石19
石20
石21
石22
石23
石24
石25
石26
石27
石28
石29
石30
0
20cm

石製品実測図（１：４）

1　1区　Ⅰ期全景（南西から）

2　1区　Ⅱ期全景（東から）

3　1区　Ⅱ－2期東半（南西から）

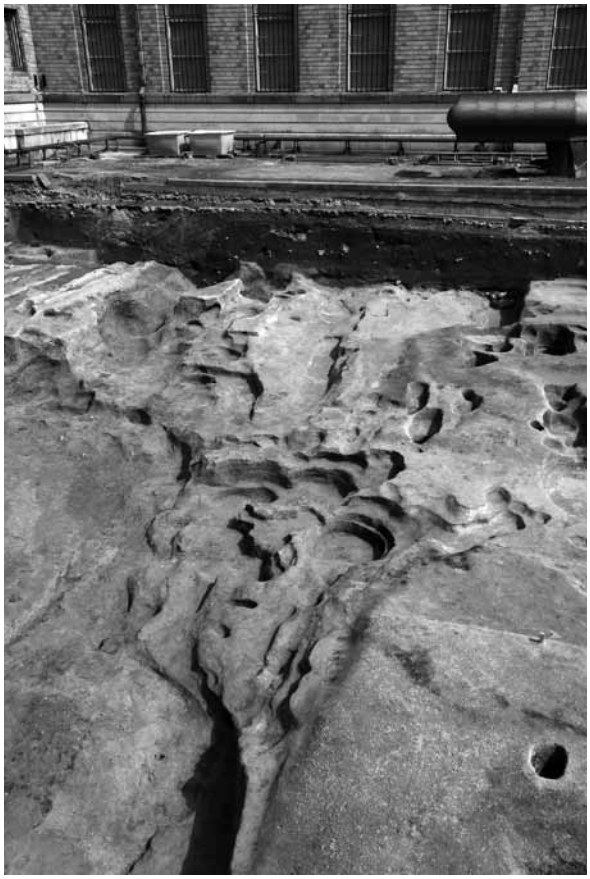
4　1区　Ⅱ－2期　土坑1109（東から）

1　２区　Ⅰ期全景（東から）

2　２区　Ⅰ期　溝2250土器出土状況（西から）

1　2区　Ⅱ－1期全景（南東から）

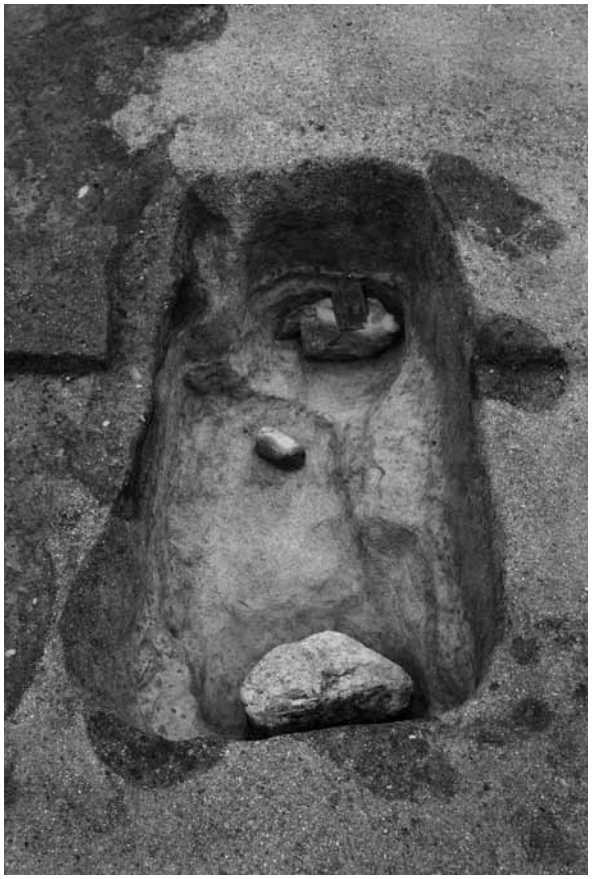
1　2区　Ⅱ－1期北半全景（東南東から）



1　２区　Ⅱ－１期　溝2230C南浸食状況（西から）

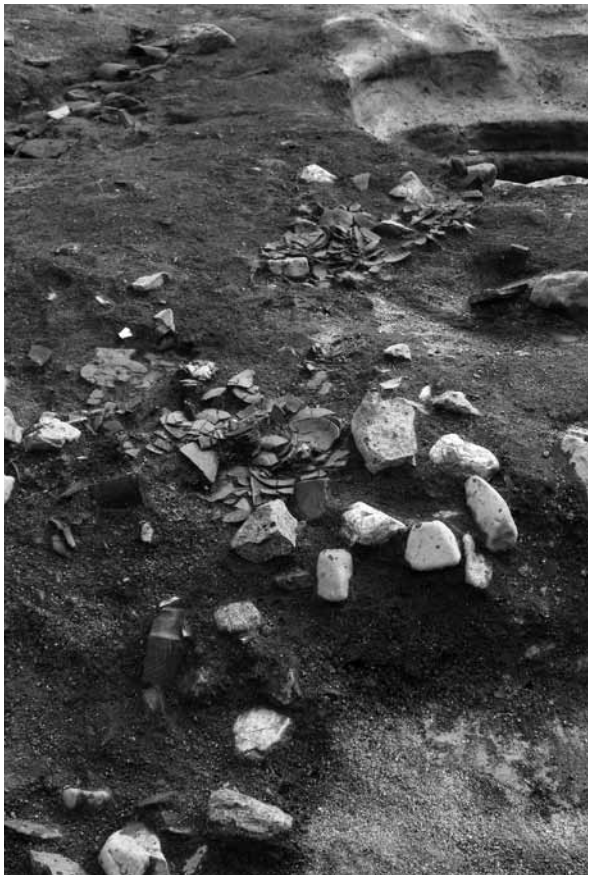
2　２区　Ⅱ－１期　土坑2233（東から）

3　土坑2233東張り出し分（北西から）



4　土坑2233掘り下げ状況（西から）

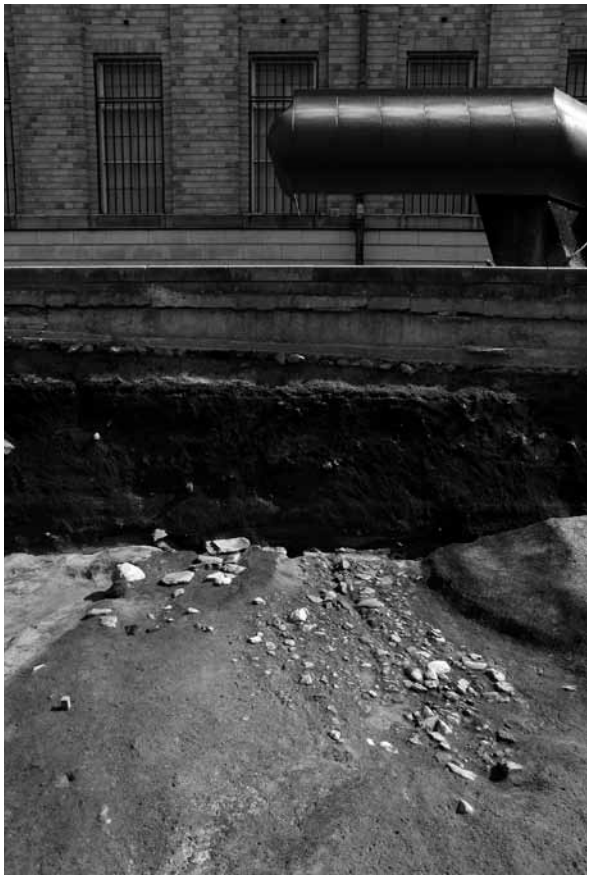
1　２区　Ⅱ－２期全景（南東から）



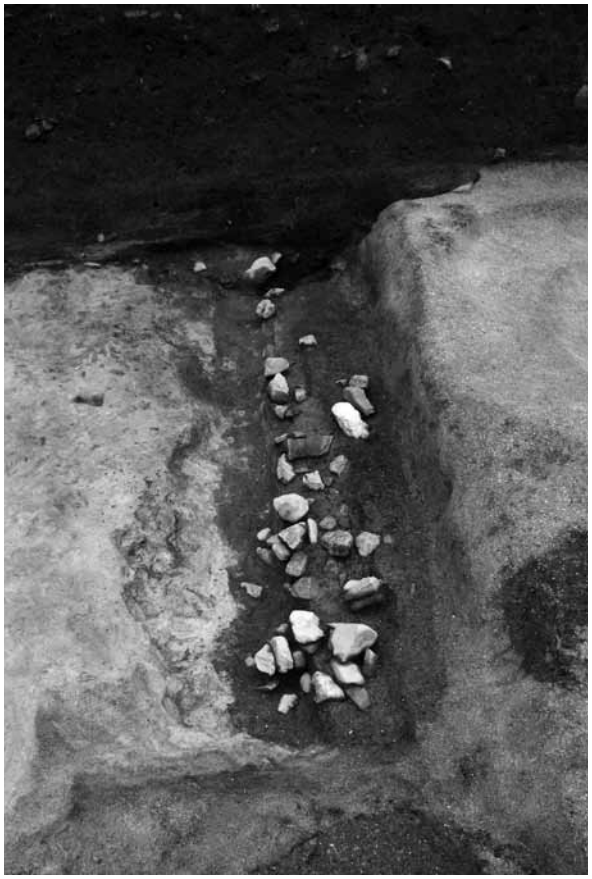
2　２区　Ⅱ－２期　溝2230B南護岸土器出土状況（北から）

3　２区　Ⅱ－２期　溝2306、瓦溜2313（東から）

1　２区　Ⅱ－２期　溝2240南護岸（西北西から）



2　溝2240南護岸下層（西から）



3　溝2240南護岸最下層（西から）

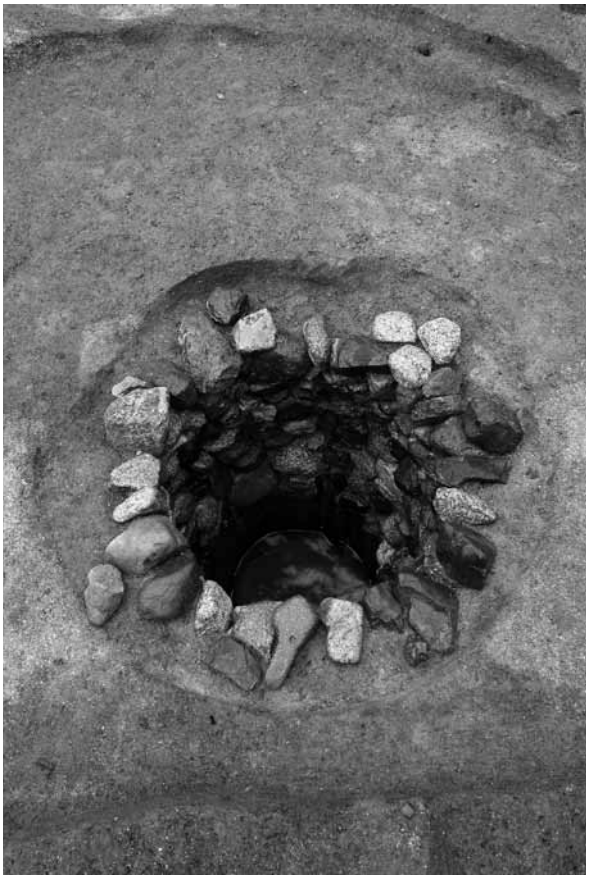
1　２区　Ⅱ－２期　溝2220A（北西から）

2　２区　溝2220断面（南から）

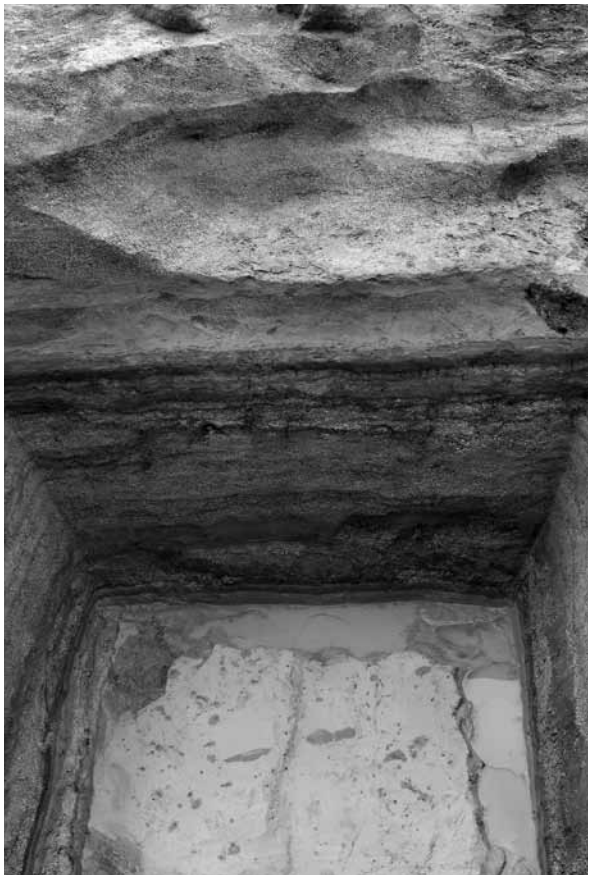
1　２区　Ⅲ期全景（南東から）

2　２区　Ⅲ期　畔2185、礫敷2088（南から）

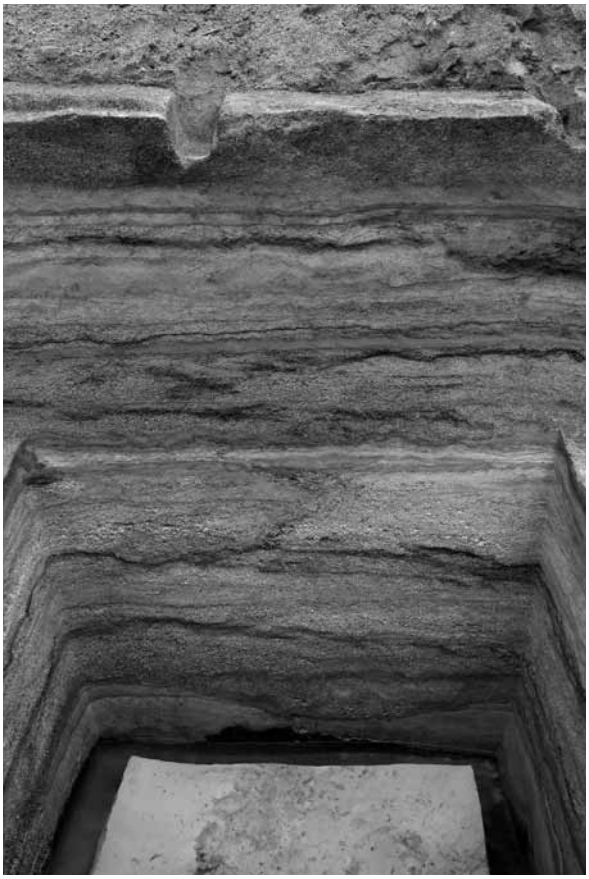
1　２区　Ⅲ期　井戸2084（東から）



2　２区　Ⅲ期　井戸2085（東から）

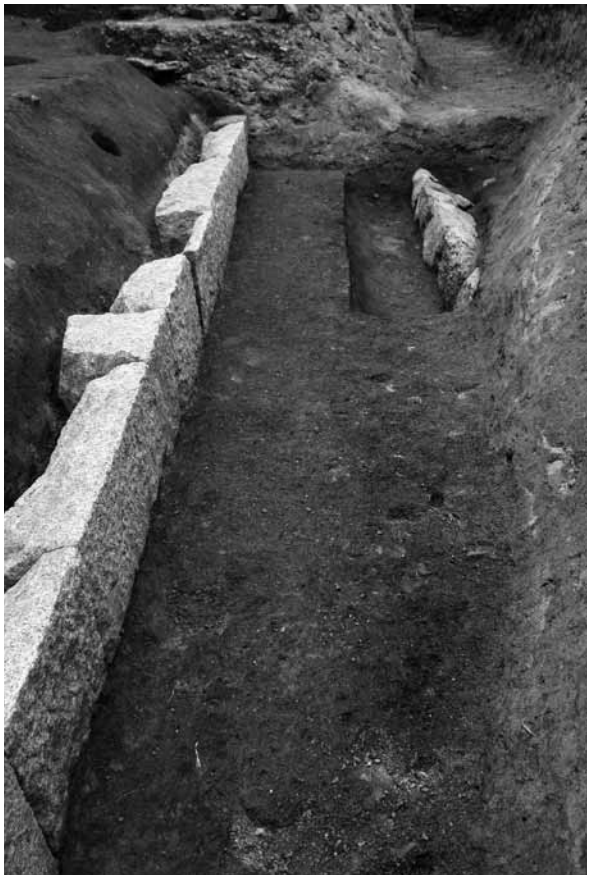


3　２区　下層確認トレンチ②（南から）



4　２区　下層確認トレンチ③（西から）

1　３区　Ⅲ期全景（北西から）



2　３区　Ⅲ期　溝3004・3005（西から）

3　３区　Ⅱ期全景（北西から）

1

2

14

10

11

24

28

34

35

溝2250、流路1126出土土器

41

50

42

54

46

55

49

59

65

75

72

76

77

89

90

土坑2231、土坑2314出土土器

98

99

100

104

105

108

110

112

113

115

116

117

土坑2316出土土器

157

159

162

164

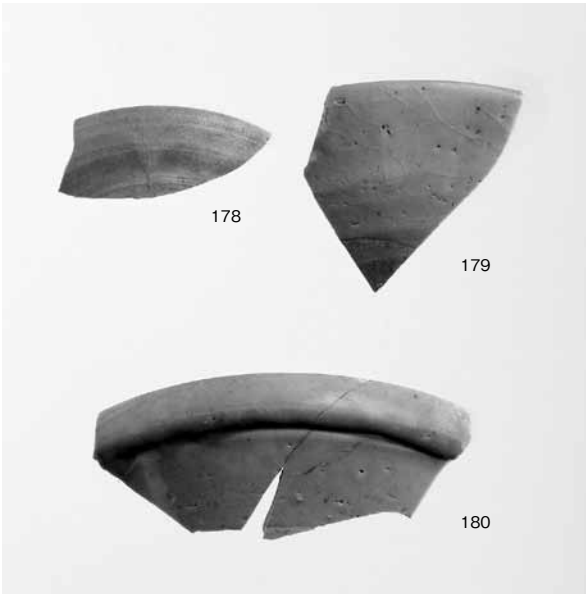
173

165

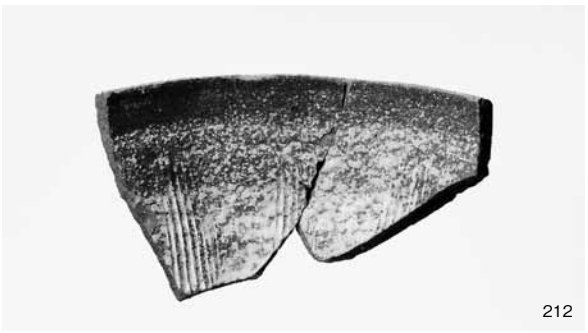
175

167

171


178
179
180

193


212

188

瓦溜2313、溝2230B北護岸、溝2220B西護岸、溝2220B東護岸出土土器

218

219

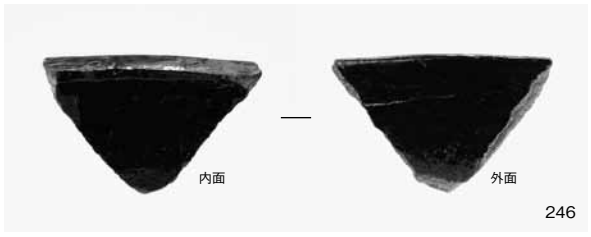
222

224

263

226

264

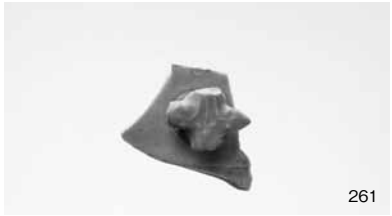


246

267

253

254


261

274

275

279

281

286

284

290

溝2230B南護岸、溝2220B東護岸補修、溝2240南護岸、土坑1109出土土器

319

322

328

333

338

343

345

346

350

354

375

359

370

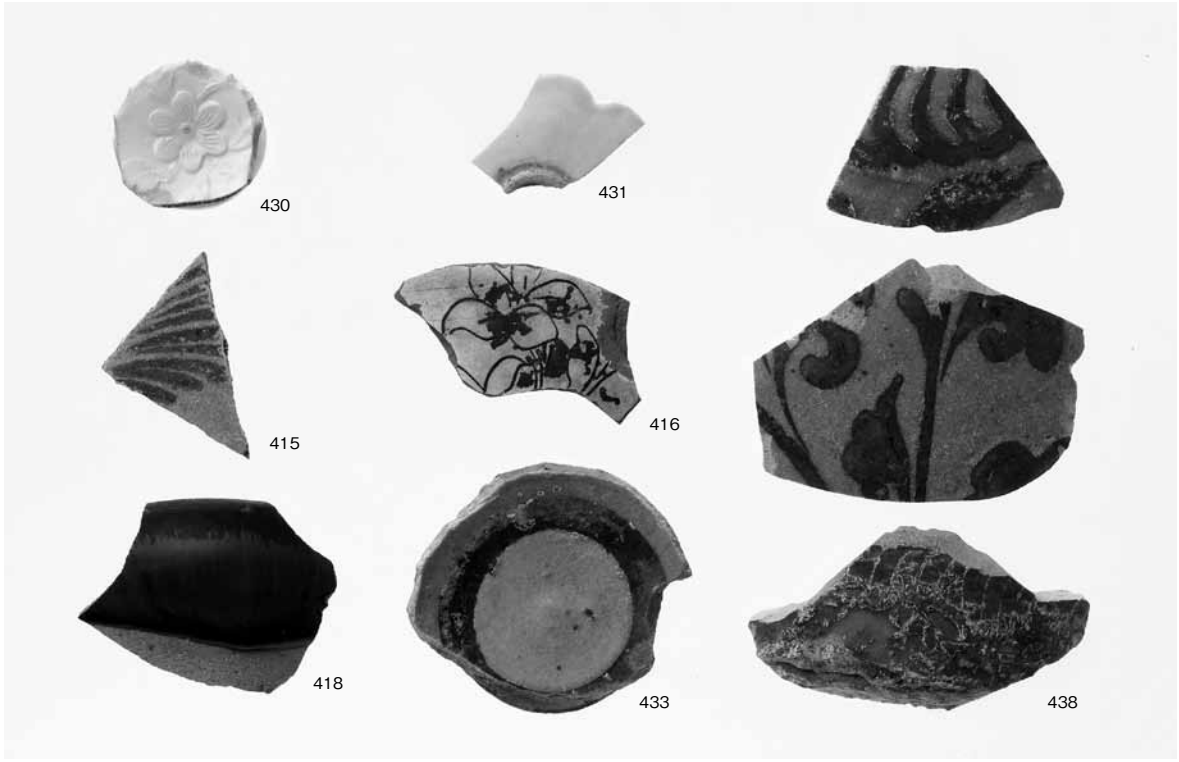
382

381

385

406

溝2220・2230B出土土器1



溝2220・2230B出土土器2、溝2220・2230A出土土器

瓦1

瓦8

瓦2

瓦14

瓦3

瓦15

瓦4

瓦16

瓦6

瓦18

軒丸瓦 1

瓦19

瓦35

瓦20

瓦41

瓦28

瓦47

瓦31

瓦55

瓦38

瓦69

軒丸瓦２

瓦85

瓦116

瓦94

瓦119

瓦72

瓦84

瓦121

瓦73

瓦86

瓦125

瓦76

瓦93

瓦130

軒丸瓦３

瓦131

瓦132

瓦141

瓦133

瓦143

瓦134

瓦166

瓦144

瓦171

瓦148

瓦189

瓦149

軒平瓦 1

瓦204

瓦151

瓦228

瓦283

瓦256

瓦285

瓦275

瓦276

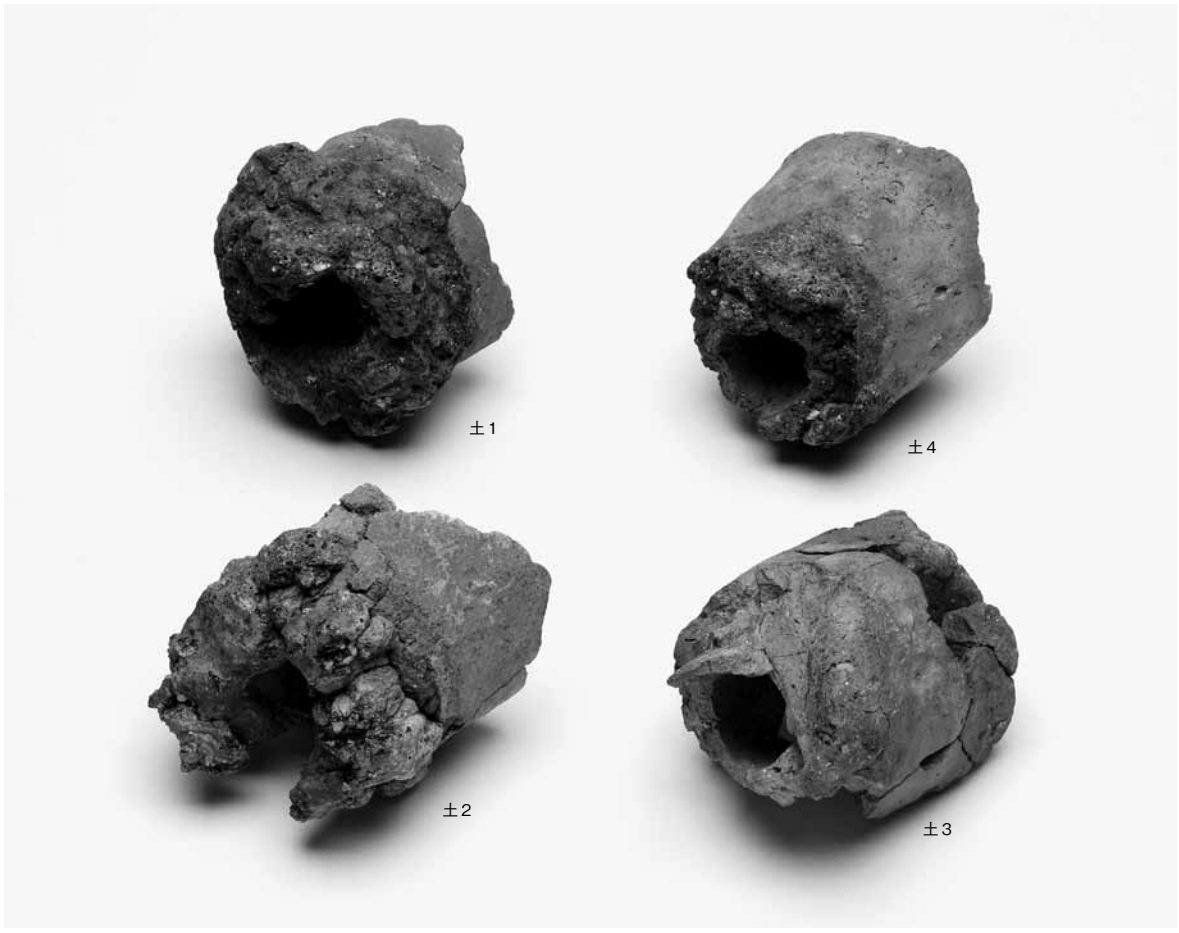
瓦305

瓦292

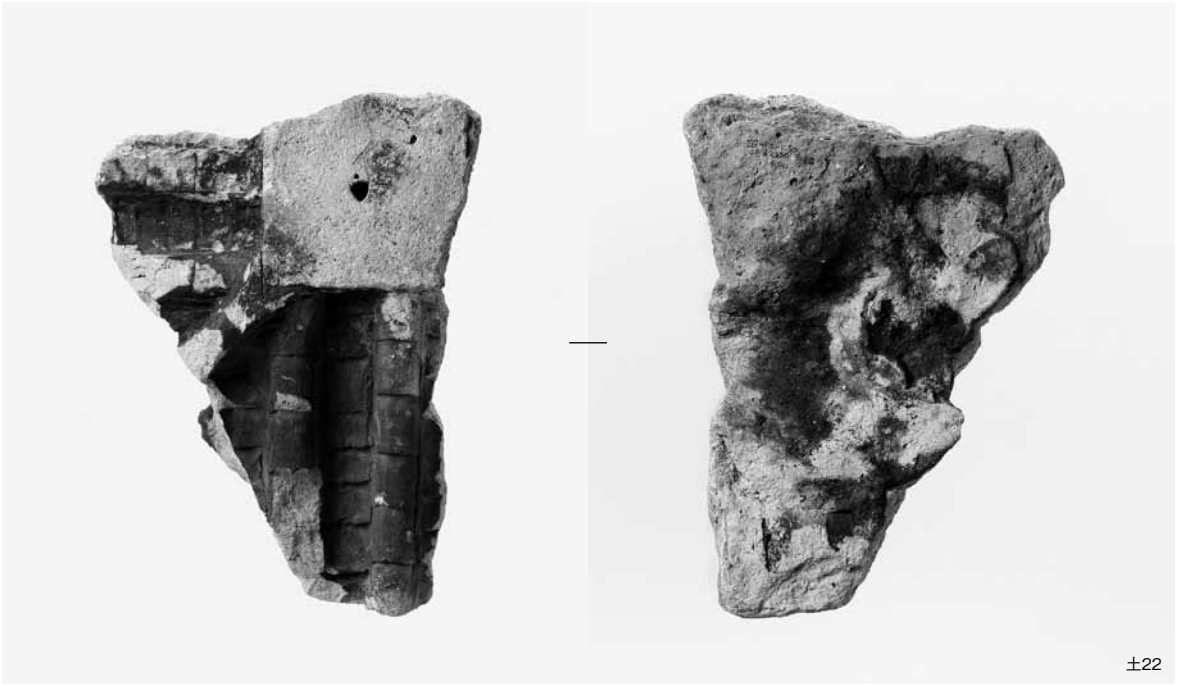
瓦307

瓦306

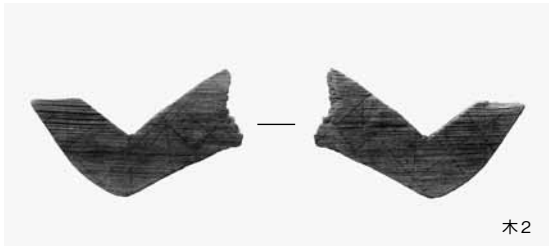
軒平瓦２、鬼瓦



土製品 1


土22

木1


木2

木6

木18

木21

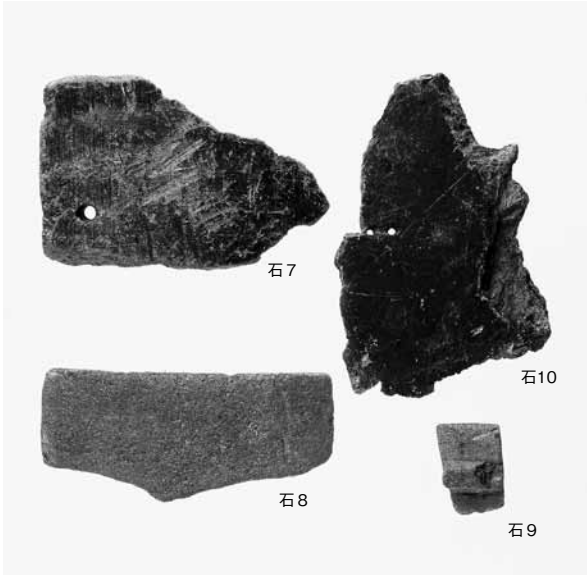
木22

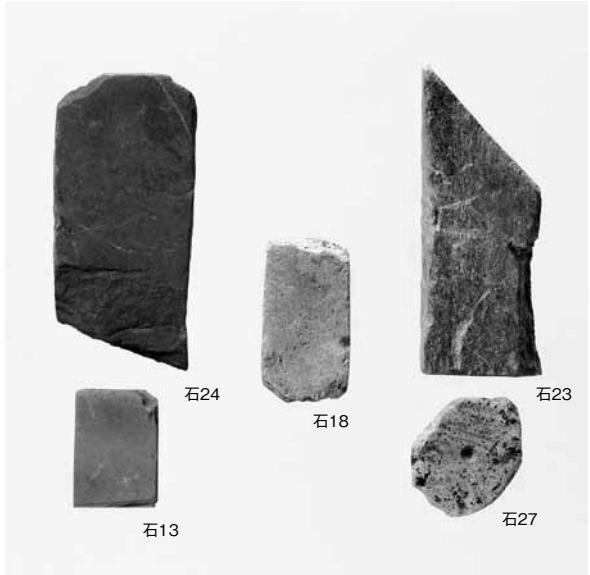
土製品２、木製品１

木46

木19

木20


石7
石10
石8
石9


石24
石18
石23
石13
石27

石29

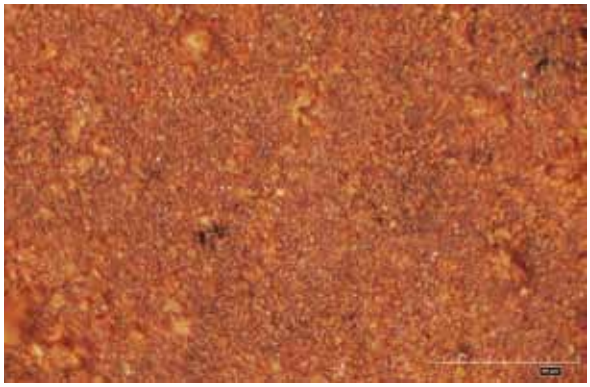
金1

木製品２、石製品、金属製品

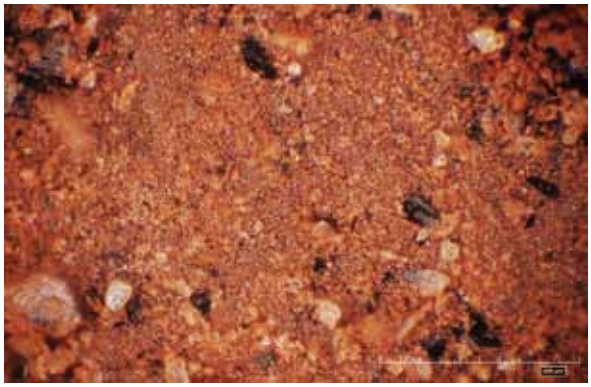
図版92　遺物

1　本試料群である赤色顔料の検出状況

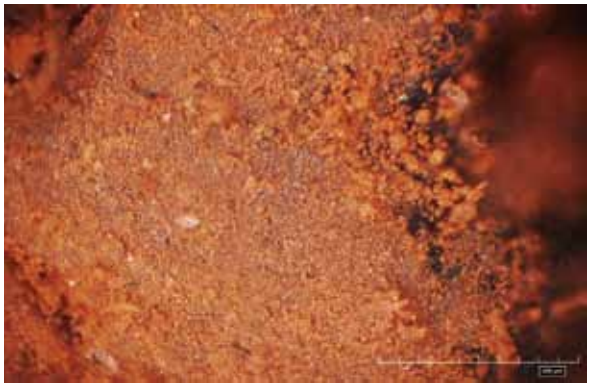
2　試料１の赤色顔料



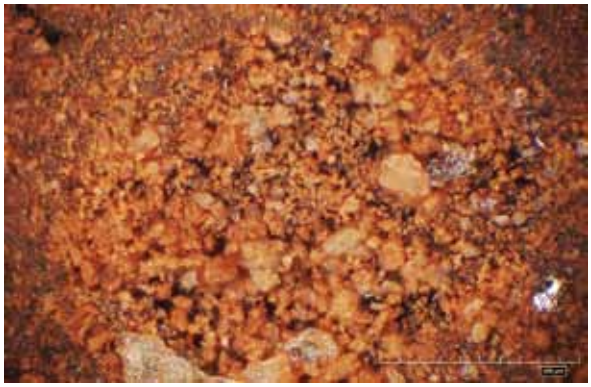
3　試料１の拡大観察



4　試料２の拡大観察

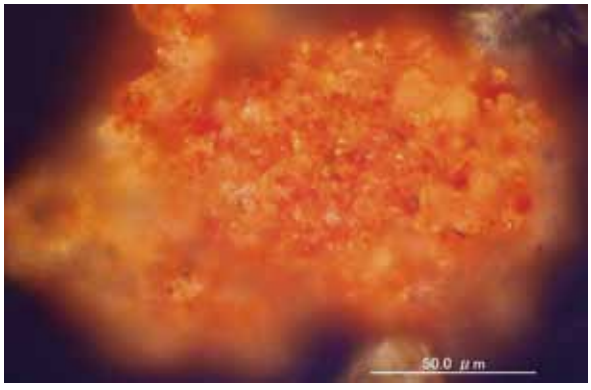


5　試料３の拡大観察



6　試料４の拡大観察

7　法勝寺塔跡出土軒平瓦に付着した赤色顔料



8　同試料の拡大観察

報　告　書　抄　録

ふ り が な	えんしょうじあと・じょうしょうじあと・しらかわがいくあと・おかざきいせき
書　　名	円勝寺跡・成勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡
シ リ ー ズ 名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告
シリーズ番号	２０１６－１７
編 著 者 名	柏田有香・李　銀眞・上村和直
編 集 機 関	公益財団法人　京都市埋蔵文化財研究所
所　在　地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1
発　行　所	公益財団法人　京都市埋蔵文化財研究所
発 行 年 月 日	西暦2017年12月28日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
円勝寺跡（えんしょうじあと） 成勝寺跡（じょうしょうじあと） 白河街区跡（しらかわがいくあと） 岡崎遺跡（おかざきいせき）	京都市左京区（きょうとしさきょうく） 岡崎円勝寺町（おかざきえんしょうじちょう）	26100	417-4 417-5 417 418	35度 00分 45秒	135度 46分 59秒	2016年10月 24日～2017 年３月31日	809.5㎡	美術館再整備事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
円勝寺跡 成勝寺跡 白河街区跡 岡崎遺跡	寺院跡 寺院跡 寺院跡 邸宅跡 集落跡	弥生時代 ～古墳時代	流路、溝	弥生土器、古式土師器、須恵器	円勝寺・成勝寺の南限と考えられる東西溝を検出した。
		平安時代	建物、柱穴、土坑、溝	土師器、須恵器、山茶椀、白色土器、瓦器、輸入陶磁器、瓦類、土製品、木製品、石製品、金属製品	
		鎌倉時代	土坑、溝、瓦溜	土師器、須恵器、山茶椀、瓦器、白色土器、焼締陶器、施釉陶器、輸入陶磁器、瓦類、土製品、木製品、石製品、金属製品	
		室町時代	土坑、溝、畔、礫敷、耕作溝	土師器、須恵器、瓦器、焼締陶器、施釉陶器、輸入陶磁器	
		江戸時代	柱列、井戸、溝、土坑、耕作溝	土師器、瓦器、焼締陶器、施釉陶器、磁器、輸入陶磁器、瓦類、土製品、金属製品、石製品	

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告　2016-17

円勝寺跡・成勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡

発行日　2017年12月28日

編　集
発　行　公益財団法人　京都市埋蔵文化財研究所

住　所　京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1
〒602-8435　℡ 075-415-0521
http://www.kyoto-arc.or.jp/

印　刷　三星商事印刷株式会社

住　所　京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町298番地
〒604-0093　℡ 075-256-0961